

【闇の眷属集合】安価で部下酷使して世界滅ぼす

だぶすと

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

突如として開始された魔族による侵攻。

光の眷属は力を合わせるもその邪悪な力に一步及ばず、人類は滅亡の危機に瀕していた。

故郷は焼かれ、愛する家族を失い、明日の食料にさえ見通しが立たない。そんな地獄のような日々にさえ人々が慣れようとしていた時

——奇跡は起きた。

人類最後の都に、異世界から来た勇者が現れたのだ——。

……

「——で、そこから人間は中央大陸を取り戻し、魔族を北の島へと追いやる事ができたのじゃ。このまま世界は平和になるじやろうて。ほっほっほ」

く世界情勢について——農村の爺さん

「参謀に昇進したから部下に働かせて魔王様に褒めてもらおう！」

く今後の戦略について——魔族の男

※魔王軍の参謀（主人公）が人間相手に奮戦する話です。

※コメディ作品です。シリアス調になる事もありますが、コメディの前フリなので気軽にお読み下さい。

目次

第一章

【闇の眷属集合】 安価で部下酷使して世界滅ぼす | 1

【闇の眷属集合】 四天王で根流し↓水の都攻略実況スレ | 32

【闇の眷属集合】 四天王で根流し↓水の都攻略実況スレ (2) | 56

56

【闇の眷属集合】 四天王で根流し↓水の都攻略実況スレ (3) | 77

77

幕間

千族のナトト | 98

叛逆者エリゼフィーナ | 101

土の精霊 | 104

【次なる混沌】 シイラ・ケイオス | 108

火竜イザリア | 112

聖女ラ・ピュリーセル・アルラ | 117

第二章

超簡単！人物紹介！（一章まで） | 124

【☆闇の眷属集まれっ！☆ミ】 安価で四天王使って本土防衛する w | 128

ww

【☆闇の眷属集まれっ！☆ミ】 安価で四天王使って本土防衛する w | 156

ww (2)

【闇の眷属集合】 四天王で本土防衛2 | 183

【闇の眷属集合】 四天王で本土防衛+城攻め実況スレ | 212

【闇の眷属集合】 四天王で本土防衛+城攻め実況スレ (2) | 233

魔界上陸作戦：司令室 | 254

魔界上陸作戦：前線

――|

266

【闇の眷属集合】四天王で本土防衛＋城攻め実況スレ（3）

|

277

幕間

妖精と妖精王

――|

310

火竜と聖女

――|

315

次なる混沌と土の精霊

――|

321

叛逆者と参謀

――|

330

第一章

【闇の眷属集合】安価で部下酷使して世界滅ぼす

1：どこかの闇の名無しさん
ワイはマジヤ

2：どこかの闇の名無しさん
誰やねん

3：どこかの闇の名無しさん
なんだこのおっさん!?(驚愕)

4：どこかの闇の名無しさん
どこの世界だよ

部下って事はもしかして隊長格だったりすんの？

5：どこかの闇の名無しさん
安価とかやめとけ

組織に迷惑かけるだけだぞ

6：どこかの闇の名無しさん
イツチのスペック晒して？

7：どこかの闇の名無しさん
別にいいじゃん

変な作戦になって失敗しても掲示板で共有されてサンプルになる
だけだし

8：どこかの闇の名無しさん

そのたった一つのサンプルのために平和な世界が一つ生まれてし
まうんですがそれは大丈夫なんですかね……

9：どこかの闇の名無しさん

最近増え過ぎだからな平和な世界

光の眷属イキリ過ぎてマジでうざいわ

10：どこかの闇の名無しさん
こつちが魔族ってだけで出会い頭にすぐ攻撃してくるからな
所詮光か闇かでしか物事を判断できない蛮族よ

11：どこかの闇の名無しさん
出会っていきなり差別かよ

ヒカリツパリらしいな

12：どこかの闇の名無しさん
でも人間が攻撃してこなかったらこつちが不意打ちするんやろ？

13：どこかの闇の名無しさん
当たり前やん

戦闘経験浅い奴はちよつと無害な小動物のフリしたらすぐ騙されるから草生えるで

14：どこかの闇の名無しさん

そうそう

そうやって捕まえた光の眷属を生きたまま擦りおろすのが最高に
気持ちいいんだよな

F o o → く

15：どこかの闇の名無しさん

ええ……

16：どこかの闇の名無しさん

そんな事してる時間があるなら一人でも多く殺せ定期

17：どこかの闇の名無しさん

模範的魔族

+ 8 3 8 3 3 1 5 点

1 8 : > > 1

ワイ

昨日魔王様の側近になった

作戦考えて実行していい立場

参謀ってやつやな

結構前から真面目に世界滅ぼす作戦考えてたんやけど、シヨツクな
事があつたんや

もうこれ以上は昇進もせんやろし部下に嫌われにいくで
今酒飲んどる

ワイはマジや

19：どこかの闇の名無しさん

大物すぎて草

20：どこかの闇の名無しさん

幹部クラスで草

21：どこかの闇の名無しさん

参謀様がクソスレ立ててるって考えるとジワる

22：どこかの闇の名無しさん

イッチ結構酔ってね？

明日の朝スレ見返して後悔しそう

23：どこかの闇の名無しさん

マジだマジだってそれやらない奴の言い草じゃん

24：どこかの闇の名無しさん

参謀様がスレ立ては草

(魔王軍の未来は) 駄目みたいですな

25：どこかの闇の名無しさん

魔王様うp

26：どこかの闇の名無しさん

何があつたか知らんが安価はやめとけ

もし俺と同じ世界だったら魔王様に報告するからな

27：どこかの闇の名無しさん

掲示板の相手と同じ世界とかどんな奇跡だよ

28：>>1

ずっと一緒に頑張ってきた幹部連中がおるんや

俗に言う四天王な

ワイはほんまにええ仲間やと思ってた

実際各々にプライベートで誘われて遊びに行った事もある

でも昨日聞いてもうたんや

ワイの昇進パーティ会場の裏でそいつらが集まってワイの話をし

てるのを

割と前から無理だったと

我慢して付き合っていたと

あまりにシヨックで怒りより先に悲しみが来てしまっ
てな
その日は部屋に帰ってから静かに泣いたんや

29：どこかの闇の名無しさん

しよーもなくて草

30：どこかの闇の名無しさん

お前それでも組織のナンバーツーカーかよ

31：どこかの闇の名無しさん

小学生で草

32：どこかの闇の名無しさん

いや普通にシヨックやろ

仲間がおるから頑張れたって事もあるやろうに

33：どこかの闇の名無しさん

上司の陰口とか怖くてよう言わんわ

バレたら殺されるやろ

34：どこかの闇の名無しさん

四天王うp

35：どこかの闇の名無しさん

上司に相談しろ

36：どこかの闇の名無しさん

魔王様に相談は草

37：どこかの闇の名無しさん

キツツいなあ

俺も上下関係には気をつけよ

38：どこかの闇の名無しさん

ナメた口きいた部下なんかボコボコにしたらええやん

39：どこかの闇の名無しさん

四天王ボコボコとか無理だろ

40：どこかの闇の名無しさん

部下が四天王とかいうパワーワード

41：どこかの闇の名無しさん

マジモンのエリートやんイツチ

42：どこかの闇の名無しさん

魔王様の側近が部下の陰口で泣いてるのマジで草

43：どこかの闇の名無しさん
だっさ

魔王軍抜けますね

44：どこかの闇の名無しさん

抜けても行くところないぞ

45：どこかの闇の名無しさん

闇の眷属は一蓮托生なんだよなあ

46：>>>1

うっさいわ

お前らもワイと同じ立場やったら絶対泣いてるからな

まあウジウジしててもしやーないし前向きに安価するで

もうあいつらには飯奢らんわ

安価のルール決めるからちよつと待っててくれや

47：どこかの闇の名無しさん

まあ部下に同じ事されたらワイなら泣く

48：どこかの闇の名無しさん

前向きに〜とか言いながら負の感情が抑えきれないの笑う

49：どこかの闇の名無しさん

飯奢ってくれるとかいい上司じゃん

50：どこかの闇の名無しさん

それな

うちの上司と代わってほしい

51：どこかの闇の名無しさん

ただの迷惑なんだよなあ

52：どこかの闇の名無しさん

呑みニケーション（笑）

面倒なだけだわ

53：どこかの闇の名無しさん

意見割れとるやん

54：どこかの闇の名無しさん

賛否両論で草

55：どこかの闇の名無しさん

これイツチが部下にウザ絡みしてた可能性ないか？

56：どこかの闇の名無しさん

どこの組織にもいるよな面倒な上司って

57：どこかの闇の名無しさん

やめてくれ

その考察は俺に効く（中間管理職）

58：どこかの闇の名無しさん

どうだろ

向こうから遊びに誘ってきてたみたいなこと言ってるけどな

59：どこかの闇の名無しさん

イツチの身の上話はええから安価はよ

ワイのナイスアイデアでイツチの世界滅ぼしたるわ

60：どこかの闇の名無しさん

一回ヒトカスの王都に魔族全員で特攻してみてほしい

61：どこかの闇の名無しさん

勇者さえいなけりや総攻撃で普通に制圧できそうだよな

光の眷属とか数多いだけのカス集団やし

62：どこかの闇の名無しさん

>>>61

絶対ヒトカス側も同じ事考えてるゾ

63：>>>1

ルール決めたで

レスアンカーの内容がこれに合致しない場合はすぐ下のレスか再

安価とるで

・四天王を主軸とする作戦であること

↓ただし特攻とか死ぬのはNG

・光の眷属を打ち滅ぼすのに効果的な作戦であること。少なくともそう見えること

↓魔王様にご納得いただくかんとそもそも作戦実行できないため

・魔王様関係の安価は全てNG

・作戦は長くて半月程度で完了するものとする

文言は「くを攻める」「くをくする」みたいに簡潔に頼む

肉付けは安価か相談しながらワイがやるわ

質問なかったら安価いくで

64：どこかの闇の名無しさん

NG多くなあ〜い？

65：どこかの闇の名無しさん

ルールとしては妥当やろ

世界の命運かかっとなねんぞ

66：どこかの闇の名無しさん

その大事な大事な世界の命運を安価で決めようとする参謀がいるらしい

67：どこかの闇の名無しさん

魔王様うp……（届かぬ願い）

68：どこかの闇の名無しさん

ええやん

はよう安価くれや

69：どこかの闇の名無しさん

勇者の詳細って分かってんの？

70：どこかの闇の名無しさん

そもそもイツチの世界に勇者いるのか

71：どこかの闇の名無しさん

ある程度歴史進んでるなら当然いるだろ

72：どこかの闇の名無しさん

作戦期間が半月とか短すぎて草

73：どこかの闇の名無しさん

半月で成果出すの無理だろ

74：どこかの闇の名無しさん

成果とかいらんやろ

イツチのストレス解消の方が大事

75：どこかの闇の名無しさん

イツチの堪忍袋が世界の命運握ってるの草

76：どこかの闇の名無しさん

四天王使い潰したら駄目なん？

77：どこかの闇の名無しさん

どうしてナメた口きいた部下を生かす必要なんかあるんですか(正論)

78：どこかの闇の名無しさん

ちよつと制裁甘くなあゝい？

自分をコケにした部下なんか死んで当然やろ

79：どこかの闇の名無しさん

魔王様と四天王うpしろ

80：>>1

作戦の期間が短いのは皆のアイデアを出来るだけ拾いたいからや

ワイ自身も色々試したい策あるしな

四天王生存はしやーない

あれでも最大戦力やから無駄に消費したら組織崩壊してまう

魔王様うpはマジで無理

尊敬してるお方やし、機嫌損ねたらワイが殺される

四天王の方は別にどうでもええから安価終わった後にでも画像上げたるわ

勇者は現時点で少なくとも三人はおるで

もうええか？

安価いくで(イクイク詐欺)

81：どこかの闇の名無しさん

あくイケよ(テンプレ)

82：どこかの闇の名無しさん

いつまでもイかない魔族の屑

83：どこかの闇の名無しさん
すぐにはイかない男優の鑑

84：どこかの闇の名無しさん
勇者三人で草

85：どこかの闇の名無しさん

(三人も勇者いるとか魔王軍は) もう終わりだあ！

86：どこかの闇の名無しさん

安価で敗戦処理すんのやめーや

87：どこかの闇の名無しさん
まだ分かん

勇者三人とか絶対神が無理してるだろ

88：どこかの闇の名無しさん
弱ってる人神殺そうや

今こそ邪神信仰の素晴らしさを見せつける時

89：どこかの闇の名無しさん
魔王様に手伝っていただくのは駄目なん？

最強のリソース余らすの勿体ないと前から思ってるんだが

90：どこかの闇の名無しさん
>>89

余ってる訳じゃない定期

91：どこかの闇の名無しさん
魔王様って色々お仕事されてて制約あるんじゃないかなかったっけ

92：どこかの闇の名無しさん
うpうpいつてるやつ安価とつたら殺す

93：どこかの闇の名無しさん
邪神様の結界だったっけ？

確か魔王城にあるんだよな

94：どこかの闇の名無しさん
>>93

なにそれ

ワイの世界もそうなん？

95：どこかの闇の名無しさん

魔王様の件初耳だわ

96：どこかの闇の名無しさん

四天王期待 a g e

97：どこかの闇の名無しさん

イツチの世界の四天王見てから寝るわ

98：>>1

確かに勇者多いし世界の九割は既に占領されとるけど、こつちには
火風土闇の大精霊がついてるで

亜人族（妖精とかエルフとか）も味方やし客観的に見ても五分五分

や

ワイの初仕事>>110

99：どこかの闇の名無しさん

安価の直前になって情報ぶっ込んでくんのやめろ

100：どこかの闇の名無しさん

精霊が魔王軍に味方してて草

101：どこかの闇の名無しさん

ヒトカスが精霊放置してる世界とかあるんだな

102：どこかの闇の名無しさん

放置は流石にないやろ

立地が悪くてコンタクト取れんかったんちやう

103：どこかの闇の名無しさん

そんなに文明進んでないんじゃないやねヒトカス

104：どこかの闇の名無しさん

イツチの自撮りうp

105：どこかの闇の名無しさん

他の精霊奪いに行く

106：どこかの闇の名無しさん

辺境の小さな町に四天王送り込んで潰していく

107：どこかの闇の名無しさん

敵の前線基地に強襲

108：どこかの闇の名無しさん

神殿の聖気全部抜く

109：どこかの闇の名無しさん

神殺す

110：どこかの闇の名無しさん

根流し

111：どこかの闇の名無しさん

勇者3匹もいらんだろ

殺そう

112：どこかの闇の名無しさん

四天王に農作業させる

113：どこかの闇の名無しさん

ヒトカスの農地全部焼く

114：どこかの闇の名無しさん

根流し草

115：どこかの闇の名無しさん

無能

116：どこかの闇の名無しさん

無能

117：どこかの闇の名無しさん

草

118：どこかの闇の名無しさん

やめなされやめなされ……惨い殺生はやめなされ……

119：どこかの闇の名無しさん

側近の初仕事かシヨボすぎる

120：どこかの闇の名無しさん

これクビやろ

121：どこかの闇の名無しさん

根つてなんだよ（哲学）

122：どこかの闇の名無しさん
これ川に毒流すって解釈でいいの？

123：どこかの闇の名無しさん
毒もみの事だぞ

124：どこかの闇の名無しさん

違法漁法やめろ

125：どこかの闇の名無しさん

立地によつてはこっち側にも被害ありそうなんだけど

126：どこかの闇の名無しさん

毒もみとは、主に歴史上における狩猟採集社会において用いられたんや。水の中に毒を撒き、魚を麻痺させたり水中の酸素含有量を減らすことで、魚を簡単に手で捕まえることが出来るようになるんや。

かつては世界中で行われており、その土地にある固有の有毒植物が使われていたんやが、魔界では主に瘴気が使われていた。川の中で瘴気の入った袋を揉んで毒の成分を出すので「毒もみ」と呼ぶ（魔界の瘴気に含まれる魔力には麻痺成分がある）。魔界では195100年施行の水産資源保護法第六条で、調査研究のため農林水産大臣の許可を得た場合を除いて禁止されている。

現代では主に南東大陸で青酸カリを撒く漁法が行われており、これは環境に著しい負荷を与え、特にサンゴ礁を破壊することで問題となっている。

127：どこかの闇の名無しさん

はえーサンガツ

128：どこかの闇の名無しさん

サンキューwiki魔民

129：どこかの闇の名無しさん

コピペ改変ガバガバ兄貴すぎ

130：どこかの闇の名無しさん

改変途中で飽きる魔族の鑑

131：どこかの闇の名無しさん

作戦が回りくどスギイ！

これもう（次の安価があるか）分かんねえな

132：どこかの闇の名無しさん
はい降格

133：どこかの闇の名無しさん
グツバイイツチ

フォーエバーイツチ

134：>>1

おおく根流しええやん

ワイこういう外堀埋めていく作戦好きやで

どうせ水の精霊は敵サイドやし、水の都の上流から垂れ流したるわ
あそこにいる聖女気取りのガキも気に入らんかったんや

135：どこかの闇の名無しさん
ええ……

136：どこかの闇の名無しさん
草

137：どこかの闇の名無しさん
根流しに好意的なの草

138：どこかの闇の名無しさん
まあ前任の側近とは違う個性的な所をアピールせなアカンしな

139：どこかの闇の名無しさん
個性的なところ（安価で丸投げ）

140：どこかの闇の名無しさん
個性とは

141：どこかの闇の名無しさん
これには魔王様も苦笑い

142：どこかの闇の名無しさん
こんなんで魔王様に承認してもらえんの？

143：どこかの闇の名無しさん
>>142

イツチがそれっぽく肉付けするでしょ
仮にも参謀なんだし頭は良いはず

144 : どこかの闇の名無しさん
聖女うp

145 : どこかの闇の名無しさん

これで効果あったらワイも根流しやるわ

146 : どこかの闇の名無しさん

いうて水ってヒトカスの生命線やぞ

とんでもない妨害受けそう

147 : どこかの闇の名無しさん

聖女おるとか重要拠点やん

148 : どこかの闇の名無しさん

バレないように毒を少しづつ濃くしていったら？

149 : どこかの闇の名無しさん

>>148

半月に収まらなくなるだろ

150 : どこかの闇の名無しさん

精霊いるなら浄化されんじゃねーの？

151 : どこかの闇の名無しさん

根流しをちゃんと議論してるこの状況に笑うわ

152 : >>1

軽く肉付けしてみたで

1) 炎の四天王に命令して、水の都上流の泉に自然物だけで作った
毒(精霊の浄化対策)を流す

← 2) 調査隊みたいなんが来るから一蹴

← 3) 勇者か聖女が出てくる(希望的観測)ので、炎の四天王に時間
稼ぎさせる

← 4) 防御スカスカになった水の都を幹部全員で強襲

5) 神殿の破壊か精霊の開放、若しくはその両方で作戦成功
なんか改善案あるか？

153:どこかの闇の名無しさん
それっぽい

154:どこかの闇の名無しさん
これは魔王軍参謀

155:どこかの闇の名無しさん
それっぽくて草生えた

156:どこかの闇の名無しさん
掌ドリルやめろ

157:どこかの闇の名無しさん
なんで根流し担当が炎の四天王なんだ

158:どこかの闇の名無しさん
四天王って属性別やったんか

159:どこかの闇の名無しさん
>>158

基本そうじゃね？
ウチも似た感じだわ

160:どこかの闇の名無しさん
自然物の毒って精霊で浄化できないの？

161:どこかの闇の名無しさん
何をもって毒とするかって話だからな

マンドラゴラとかも食ったら美味しいのにヒトカスが勝手に死ぬだけだし

162:どこかの闇の名無しさん
消化できんかっただけでマンドラゴラを邪悪認定してるのほんと

草だわ
やっぱ人間って蛮族なんスねえ

163:どこかの闇の名無しさん
これ炎の四天王死ぬやろ

164:どこかの闇の名無しさん

勇者と聖女が両方泉に来たらどうすんねん

165：どこかの闇の名無しさん

いきなり炎の四天王死にそう草

166：どこかの闇の名無しさん

大胆な謀殺は参謀の特権

167：どこかの闇の名無しさん

やっぱり陰口の恨みは凄いわね

168：どこかの闇の名無しさん

悪口を言われただけで部下を死地に送る魔族の鑑

169：どこかの闇の名無しさん

都攻めの時にもっと魔物とか使った方が成功率上がりそう

170：どこかの闇の名無しさん

もし勇者か聖女が単独でノコノコやって来たら都攻めするより四天王全員でリンチした方がよくね？

171：どこかの闇の名無しさん

>>170

ええな

勇者聖女の拷問実況しようや

172：どこかの闇の名無しさん

勇者も聖女も来なかったらどうすんの

173：どこかの闇の名無しさん

そんな時は根流し続ければええやん

瘴気も一緒に流してりやそのうち土地ごと死ぬやろ

174：どこかの闇の名無しさん

一旦無視されても他作戦と並行して続けられるのが大きいな

175：どこかの闇の名無しさん

毒は効果も安定してるしコスパにも優れてる

戦争も効率化の時代

176：どこかの闇の名無しさん

殺し合いにルールなんて無いしな

177：どこかの闇の名無しさん
軍用チャットはここですか？

178：>>1

根流しするのが炎の四天王なのは周りの魔物に合わせて準備してくるであろう光の眷属の水メタを逆にメタるためつてのと、単純に腕っぷしが一番強いからや。まあ闇の四天王にやらせてもええな

炎が心配されとるみたいやけど四天王殺すつもりは無いで

根流しで四天王死にましたとかワイが魔王様に殺されるわ

本拠地近くの魔物連れて行くのは良いアイデアやな

生態系はブツ壊れそうやけど作戦成功の戦果でお釣りがくるで

自然派のエルフは後でネチネチ言ってきそうやけど菓子折り持っ

て謝りに行けば大丈夫やろ

勇者・聖女が単独で釣れた時どうするかは悩ましいな

そのまま都攻めするか、炙り出した勇者聖女を処分するか

ちなりターン大きいのは都攻めやで

成功率高いのは勇者殺しかな

両方はリソース足りん

とりあえず一個ずつ安価するで

根流しさせる四天王>>215

179：どこかの闇の名無しさん

長文よめない(クソザコ思考力)

180：どこかの闇の名無しさん

めっちゃ早口で言ってそう

181：どこかの闇の名無しさん

低級魔族は3行以上読めないゾ(これ(池沼))

182：どこかの闇の名無しさん

急に安価始まって草

183：どこかの闇の名無しさん

柔軟な思考

+83831919点

184：どこかの闇の名無しさん

丸投げやめろ

185：どこかの闇の名無しさん
安価遠くね

186：どこかの闇の名無しさん
炎と闇以外の四天王の情報なくて草

187：どこかの闇の名無しさん
流れ早くなってるから安価遠くてもええやろ

188：どこかの闇の名無しさん
もしかして……イッチって有能!?

189：どこかの闇の名無しさん
無能が側近になれる訳ないんだよなあ

190：どこかの闇の名無しさん
言うほど有能か？

見てみるよこのスレ進行をよお
191：どこかの闇の名無しさん

>>188
なお部下からの信用はない模様

192：どこかの闇の名無しさん
やめてさしあげろ

193：どこかの闇の名無しさん
草

194：どこかの闇の名無しさん
死体蹴りやめーや

195：どこかの闇の名無しさん
安価スレの主としては無能もいとこなんだよなあ……

196：どこかの闇の名無しさん
エルフとか妖精の扱いが雑で草

197：どこかの闇の名無しさん
年中草食ってる亜人の扱いなんか適当でいいんだよ上等だろ

198：どこかの闇の名無しさん
フェアリーほんま糞やからな

ワイも現在進行形で幻術に足止め喰らつとるわ

199：どこかの闇の名無しさん

フエアカス死ね定期

200：どこかの闇の名無しさん

フエアカス死ね〜（気さくな挨拶）（呼吸音）

201：どこかの闇の名無しさん

妖精は標本にして塩酸プールに沈めなきや（使命感）

202：どこかの闇の名無しさん

妖精族への私怨ヤバくて草

203：どこかの闇の名無しさん

【羽虫】フエアリー族を標本にするスレ【害虫】

→

こっち行け

恨む気持ちは分かるけどイッチの世界では味方だぞ

204：どこかの闇の名無しさん

妖精族が味方とか想像しただけで腹立つわ

急に目の前に出てきたら反射的に殺してまう自信ある

205：どこかの闇の名無しさん

加速はええけど安価踏むなよ

206：どこかの闇の名無しさん

炎の四天王に一票入れとくわ

207：どこかの闇の名無しさん

イッチが最初を選んでんやから炎で間違いないやろ

208：どこかの闇の名無しさん

水の精霊が出て来たらどうすんだ

闇の四天王が安定だろ

209：どこかの闇の名無しさん

炎は根流し下手そうだから闇

210：どこかの闇の名無しさん

炎の四天王

211：どこかの闇の名無しさん

エルフうp

212：どこかの闇の名無しさん

炎と闇以外

213：どこかの闇の名無しさん

イツチ単独で根流し

214：どこかの闇の名無しさん

本人達に決めさせる

215：どこかの闇の名無しさん

一番最近飯奢ったやつ

216：どこかの闇の名無しさん

闇の眷属なんやから闇一択やろ

217：どこかの闇の名無しさん

炎でええやん

218：どこかの闇の名無しさん

出てきてない奴

219：どこかの闇の名無しさん

土か風

どうせ残りの四天王はこの2属性やろ

220：どこかの闇の名無しさん

魔王様

221：どこかの闇の名無しさん

なんやこれ

222：どこかの闇の名無しさん

誰か分からなくて草

223：どこかの闇の名無しさん

無能

224：どこかの闇の名無しさん

皆で一緒に飯食ってたらどうすんだ

225：どこかの闇の名無しさん

参謀様の傷を抉るのはやめてさしあげろ

226：どこかの闇の名無しさん
回想シーンやめろ
227：どこかの闇の名無しさん
草

228：どこかの闇の名無しさん
流れ早すぎイ！

229：どこかの闇の名無しさん
はえーよホセ

230：>>1
んーこれ誰やったつけ

会う機会の多い炎かな

ちなみに参謀になる前は皆ずっと忙しかったし複数人と同時に食
事した事は無いで

ワイの昇進パーティーで初めてあいつらが集まってるの見たかも
ということ根流しは炎の四天王にやらせるわ

次

勇者聖女が単独で釣れた場合にどうするか>>250

231：どこかの闇の名無しさん

記憶曖昧で草

232：どこかの闇の名無しさん

イツチの記憶力はボロボロ

233：どこかの闇の名無しさん

本当に炎の四天王で合ってるのかよ

234：どこかの闇の名無しさん

不正だ不正！魔王様うpしろ！

魔族は圧力に屈しない！

235：どこかの闇の名無しさん

結局他の四天王は何属性なんだ

236：どこかの闇の名無しさん

残りの四天王は？

237：どこかの闇の名無しさん

分からん

238：どこかの闇の名無しさん

謎を謎のままにする進行役の屑

239：どこかの闇の名無しさん

大胆な情報隠匿は参謀の特権

240：どこかの闇の名無しさん

イツチに何言っても無駄だぞ

リアルの実力はともかくスレ運用に関してはポンコツ臭がすごい

241：どこかの闇の名無しさん

飲酒無敵モードやめろ

242：どこかの闇の名無しさん

ワイらも酒飲んで対抗すればええやん

安価なら精霊捕獲

243：どこかの闇の名無しさん

聖女は殺したら増えるで

拷問して遊ぶんや

244：どこかの闇の名無しさん

都落としては男のロマン

なあ・・・そうだろ、松ツ!!

245：どこかの闇の名無しさん

聖女捕まえて達磨にしよう

246：どこかの闇の名無しさん

勇者に回復魔術かけながら足からスライスしていく

247：どこかの闇の名無しさん

イツチ男なん？

どこ住み？てか魔インやってる？ (笑)

248：どこかの闇の名無しさん

普通に都攻めやろ

真面目に考えろ

249：どこかの闇の名無しさん

聖女捕獲して薬漬け

- 250：どこかの闇の名無しさん
神殿潰す
- 251：どこかの闇の名無しさん
水の精霊うp
- 252：どこかの闇の名無しさん
都攻め都攻め都攻め都攻め
- 253：どこかの闇の名無しさん
勇者と聖カス殺す
- 254：どこかの闇の名無しさん
精霊開放やな
- 使える属性を制限できるのは後々デカイやろ
- 255：どこかの闇の名無しさん
都攻め
- そもそも落とせるか知らんけど
- 256：どこかの闇の名無しさん
やったぜ。
- 257：どこかの闇の名無しさん
これ都攻めか
- 258：どこかの闇の名無しさん
都攻めええやん
- 259：どこかの闇の名無しさん
残当
- 260：どこかの闇の名無しさん
ROM多すぎて草
- 261：どこかの闇の名無しさん
聖女の拷問実況はどこ……ここ……？
- 262：どこかの闇の名無しさん
勇者の刺し身が入ってないやん！勇者の刺し身が食べたかったか
らレスしたの！わかる？この罪の重さ
- 263：どこかの闇の名無しさん
自分の世界でやれ

264 : どこかの闇の名無しさん
いや当然だろ

精霊消せるのはデカいって

265 : どこかの闇の名無しさん
都攻めエ、ご期待下さい。

266 : どこかの闇の名無しさん

根流しが結構大きな戦になりそうで草

267 : どこかの闇の名無しさん

胸熱展開やね

268 : どこかの闇の名無しさん
精霊との交渉はどうすんの？

267 : どこかの闇の名無しさん
んなモンねーよ

268 : どこかの闇の名無しさん

交渉内容も安価でええやん

269 : どこかの闇の名無しさん

根流ししといて交渉もクソも無いだろ

270 : どこかの闇の名無しさん

毒撒いてから交渉始めるのはサイコパスすぎる

271 : どこかの闇の名無しさん

草

272 : どこかの闇の名無しさん

面の皮厚すぎて草

273 : >>1

ok

敵の編成に関わらず炎の四天王には単独で粘ってもらおう事にする

で

壁役にドラゴンでもつけとけば死なんやろ

都攻めのメンバーはワイと他の四天王+適当な精鋭や

一応水の大精霊には交渉してみるけど抵抗するようやったら殺す

で

明日魔王様に話持っていくから承認してもらえるように応援して
てくれや

立案おわり

お前ら今日は助かったわ

用済みじゃ失せろ

274：どこかの闇の名無しさん
草

275：どこかの闇の名無しさん

最後草

276：どこかの闇の名無しさん
うーんこの魔族

277：どこかの闇の名無しさん
清々しいまでの恩知らず

+83831143151919点

278：どこかの闇の名無しさん
草

279：どこかの闇の名無しさん

実況スレ立てろ

280：どこかの闇の名無しさん

四天王の画像は？

281：どこかの闇の名無しさん

精霊って死ぬとかあんの？

282：どこかの闇の名無しさん

四天王うpしてないやん

283：どこかの闇の名無しさん

男に二言は無いよなあ？

284：どこかの闇の名無しさん

炎の四天王にお供つけるのか

見殺しにしたらアカンのは面倒やな

285：どこかの闇の名無しさん

>>281

死ぬっていか不活性化だな

百年くらいは静かになるぞ

286：どこかの闇の名無しさん

イツチ男なん？

どこ住み？てか魔インやってる？（笑）

287：どこかの闇の名無しさん

度々出てくるサキュバスは何なんだよ

288：どこかの闇の名無しさん

サキュバスコピペすき

289：どこかの闇の名無しさん

四天王の画像は？

290：どこかの闇の名無しさん

逃げるな

291：どこかの闇の名無しさん

イツチの記憶力マジでボロボロやん

292：どこかの闇の名無しさん

お前ら四天王見たすぎやろ

293：どこかの闇の名無しさん

そうやで

一人くらいイケメンおるやろ

その方だけでいいから見せろ

294：どこかの闇の名無しさん

違うで

約束を守らないという姿勢そのものが許せんので

295：どこかの闇の名無しさん

どっちだよ

296：どこかの闇の名無しさん

本音と建前やめろ

297：どこかの闇の名無しさん

四天王がイケメンだろうが可愛い女の子だろうが歴戦の怪物に変
わりないんだよなあ

298：どこかの闇の名無しさん
イツチの部下がシケた面してたらなんか優越感あるやん
ワイのどこの四天王クツソ顔立ち整ってて最高やで
299：どこかの闇の名無しさん
ウチの幹部異形しかおらん
毎日が触手カーニバルや
300：どこかの闇の名無しさん
>>299
触手とか最高やん
ちなオーク
301：どこかの闇の名無しさん
触手すこすこのすこなんだ……w
ちなオーク
302：どこかの闇の名無しさん
君が管なら僕は穴だ……w
ちなオーク
303：どこかの闇の名無しさん
申し訳ないが性癖の闇鍋はNG
304：どこかの闇の名無しさん
オークに全ての業を背負わせるのやめろ
305：どこかの闇の名無しさん
はい訴訟
種族差別で300万な
震えて眠れ
306：>>1
画像貼るの忘れとったわ
これがこれから安価によって苦しめられていく四天王達の姿や
このキレイな瞳が荒んでいくのを楽しみにしてくれや
次は作戦前にもスレ立てるで
おやすみ

【画像】

「二人がけテーブルの向かいで甘味を前にして照れ笑いする女性」

「土産物屋で頭を悩ませている女性と、隅に写り込む小さな手」

「男性のものと思われる腕に抱きつき無表情でピースサインを向ける女性」

「魔王城らしき建物をバックに仁王立ちで誇らしげな女性」

307：どこかの闇の名無しさん

は？

308：どこかの闇の名無しさん

は？

309：どこかの闇の名無しさん

は？

310：どこかの闇の名無しさん

は？

311：どこかの闇の名無しさん

は？

312：どこかの闇の名無しさん

は？

313：どこかの闇の名無しさん

は？

314：どこかの闇の名無しさん

は？

315：どこかの闇の名無しさん

は？

316：どこかの闇の名無しさん

死ね

「ハア……ハア……ッ！」

最小限の明かりだけで照らされている広大な洞窟。

ある一定の深さを探るように掘られているそこは、魔王軍——闇の眷属にとつての重要施設だ。

「駄目……だ。も、もう……ッ……」

「お、おい！ 頑張れよ！ お前が倒れたら俺だって……」

粗悪なつるはしを無心で振るっていた痩せた男が、己の体重に耐え切れなくなつた膝を折る。連帯責任を恐れた隣の男はすぐに助け起こそうと手を引いたが、体中に傷を作り、少量の食事しか与えられない痩せた男は手を震わせるばかりで立ち上がる事ができない。

「おいッ！ うっせえぞ！ 何を騒いでやがるゴミ共オツツ!!」

「ひ……っ！」

許可されていない会話と動きをってしまった男達は、即座に監視の注意を引いた。

文字通り飛んできた魔族はひどく苛立った様子で、恐怖で顔を引きつらせている汚れた人間を刺すように睨みつける。その魔族が怒りに任せて吼える度に不可視の熱波が空気を焼き、滑らかに揺れ動く紅緋の長髪は見る者に劫火を幻視させた。

「てめえらの採掘が遅えから俺様がわざわざ見に来てやってんだろぅが！ イラつかせんじゃねエよカスがッ!!」

憤る魔族は八つ当たりするように床を踏み、腕を振るう。その動きに合わせて顕現した炎の刃が痩せた男の腕と脚を紙切れのように引き裂き、元より残り僅かだったその命を一瞬のうちに消費した。

「ッ!? あ、がッ！ あ、ああアアアアアアアアッ!!」

「ひえ……? ひ……うわああああああああ!!」

「死ねッ！ 死ねッ!! ゴミ以下の劣等種ツツ!! 単純作業もまともに出来ねエのかッ!! あゝあゝッ!!」

「アアアアアゝアゝアゝッ!!」

すぐ隣で発せられる断末魔を聞いて、恐慌した隣の男は反射的に逃げ出した。それは現実から目を背けるには良い行いだったが、数歩ほ

ど距離を取った後に炎に包まれて死んだ。

四肢を失ったまま動かなくなった男と、形すら残らず灰にされた男。それらを見て怒りをより一層強くした魔族は、感情のままに何度も地面を踏み抜いた。

「ああッ、クソッ！ クソッ！ ムカつく、ムカつく、ムカつくッ!!
あいつも、あいつも、あいつも、あいつも、あいつも、全員ッッ!!」

思い出したのはつい数日前の出来事。魔族は湧き上がる憤怒に任せ、感情のままに目の前の壁を殴りつける。その一撃でこの洞窟に閉じ込められている男達全員が一日かけても砕けないであろう硬さの岩盤が粉碎され、灼熱のエネルギーを叩き込まれた地層が融解して泡立ちながら噴出した。

採掘作業の進歩という点では差し引きでマイナスになったであろうその八つ当たりは決して褒められたものではなかったが、ここにそれを止められる立場の者はいなかった。

「れ、連絡！ 連絡！ 連絡っ！」

「あ……………チッ、さっさと要件だけ伝えろ」

反響していた爆音が収まり、周囲が溶岩の海になった頃になって、それを見計らったかのように洞窟内に魔族が飛び込んでくる。人間とは比べ物にならない強靱な肉体と、それを持ち上げるための大きな翼を持った男。彼は魔王軍の迅速な情報伝達を支えている伝令だった。

同族の来訪によって溢れる激情を多少抑えた魔族は、舌打ちをする
と伝令へと振り返る。

「参謀様より命令です！ 『作戦の打ち合わせを行うので魔王城に戻るように』と！」

「……………は？ 命令？ 俺様……………いや、俺にか？」

「はっ！ 名指しで仰られていたので間違いありません！ 招集書を預かっていますっ！」

「っ!? ツ、見せろ！」

苛立ちを動揺に変えた魔族は、先程までとは態度を一変させて狼狽にも似た反応を示した。差し出された紙をひったくると、それに食

入るようにして目を通す。余白の多い簡潔な文を何度も読み、その内容を脳内に反復させた。

「は、ハハ……そうか、そうか！ 俺様が……俺が選ばれたのか！ 他の女共じゃなく、この俺がっ！」

「お、おめでとうございます……？」

「お前はそのまま砦に行つてモデウスに伝えろ。『俺が死んだら参謀様に膝を付き、剣を捧げろ』とな」

「は……了解しました」

招集書には何が書かれていたのか。死を覚悟したような口振りでありながらも緩んだ表情を誤魔化すように口をモゴモゴと動かす彼女の様子は、普段の苛烈な様子からすれば随分としおらしく、大きな違和感がある。

——が、伝令は黙つて頷いた。与えられた命令を遂行する。それだけが長生きする方法だった。

「今すぐ出る。お前らはこれを片付けておけ。また見に来る」

魔族は大事そうに招集書を仕舞い込むと、入口で待機していた探掘場の監視員へと指示を出して歩き出す。

それを聞いた伝令は少し迷つたが、悩んだ末に訊ねる事にした。

「あの……会合は夜からだと聞いていたのですが、書面の内容では違つたのでしょうか……？」

今は昼前である。彼女の飛行能力であれば正午には魔王城に着いてしまうだろう。いくら上司からの呼び出しとはいえ、あまりにも早すぎる。直属上司——魔王軍参謀と会うのなら、事前に報告資料等の準備が必要なのではないだろうか。

魔界を取り巻く状況は厳しい。幹部同士の会合が少しでも有意義なものであつて欲しいという想いが、伝令に言葉を紡がせた。

「……………一旦砦に戻つて身体を清め、失礼のない服装に着替えてから出発する。お前は先に城に戻っておけ」

彼女は窮めて冷静な口調でそう言うと、ゆつたりと尻尾を揺らしながら洞窟を後にした。

【闇の眷属集合】 四天王で根流し↓水の都攻略実況スレ

1：どこかの闇の名無しさん
前に立てた安価スレ

「URL」
の続きやで

今から根流しするからスレ立てたけど、実際に光の眷属からの反応出るのは早くも数日後とってるからそれまでのんびり待つといてくれや

動きあつたらレスするで

ほな……

2：どこかの闇の名無しさん
誰だよ

3：どこかの闇の名無しさん
スレタイで笑わせるのやめろ
4：どこかの闇の名無しさん
状況が分からん

テンプレあるなら貼ってくれ
5：どこかの闇の名無しさん

あの時の部下に恵まれてる野郎やん
ハア~~~~ (クソデカ溜息)

6：どこかの闇の名無しさん
四天王で根流しってマジ?

手駒に対して策略が貧弱すぎるだろ
7：どこかの闇の名無しさん

お、参謀様やんけ
待ったで

8：どこかの闇の名無しさん
スレタイ滅茶苦茶で笑う

9：どこかの闇の名無しさん

おふぎけが足りている

10：どこかの闇の名無しさん

可愛い部下に恵まれても全員に嫌われてるイツチ

11：どこかの闇の名無しさん

お、部下寝取られた参謀様やんけ

12：どこかの闇の名無しさん

あの後スレでイツチが四天王寝取られた事になったのほんと草

13：どこかの闇の名無しさん

可愛い部下ってなに？

嫌な予感するからスレ閉じるわ

死ね

14：どこかの闇の名無しさん

>>>13

自衛のできる魔族の鑑

15：どこかの闇の名無しさん

>>>13

迅速対応で草

16：どこかの闇の名無しさん

童貞スタコラサツサで草

17：どこかの闇の名無しさん

前スレも読めない無能のためにワイがまとめたっただ

【前スレのあらすじ】

イツチが参謀に昇格。その祝賀パーティーで部下の四天王から煙たがられていた事が発覚し、部屋に帰ってから泣く（静かに）

←

イツチ、参謀の立場を利用して四天王にパワハラする事を思い立つ。酒に酔った状態でスレを立てる

←

安価によりイツチの初仕事根流しに決定。降格が危ぶまれるが、本人は意欲をみせる

←
それっぽく肉付けしてそれっぽい作戦が完成。うp要望に答えて
イツチが四天王の画像をアップし、スレ民のヘイトを集めてスレを去
る

18：どこかの闇の名無しさん
簡潔に83行でまとめろ

19：どこかの闇の名無しさん
参謀で草

20：どこかの闇の名無しさん
安価で作戦決めるのは流石に草

21：どこかの闇の名無しさん
四天王うp

22：どこかの闇の名無しさん
真面目に戦争していない

+8383315点
23：どこかの闇の名無しさん

笑えねーわ
世界平和になったら責任取れるのかよ

24：どこかの闇の名無しさん
イツチとんでもない大物じゃん

掲示板にいる魔族の中でも最高記録だろ
25：どこかの闇の名無しさん

魔族滅亡待ったなし
26：どこかの闇の名無しさん

>>>25
参謀が安価スレ立ててるような勢力とか滅亡して当然なんだよ

なあ……
26：どこかの闇の名無しさん

あらすじ一行目から滅茶苦茶で草
27：どこかの闇の名無しさん

∨部屋に帰ってから泣く

うーんこの豆腐メンタル

28：どこかの闇の名無しさん

その場で折檻しろや

部下になめられたら終わりやでイツチ

29：どこかの闇の名無しさん

>>>28

前スレでも100万回言われたねこれ

30：どこかの闇の名無しさん

テンプレ作らないと新スレ立つ度に言われそう

31：どこかの闇の名無しさん

まあイツチが情けないのは事実だし

32：どこかの闇の名無しさん

歴史は繰り返すんやなって(しみじみ)

33：どこかの闇の名無しさん

魔王様に承認もらえたようで良かったね

34：どこかの闇の名無しさん

それっぽい作戦の内容は？

35：どこかの闇の名無しさん

開戦あくしろよ

36：どこかの闇の名無しさん

根流しの詳細よこせや

37：どこかの闇の名無しさん

安価して？

38：どこかの闇の名無しさん

根流しするのはいいけど、肝心の四天王のやる気は大丈夫なん？

39：どこかの闇の名無しさん

>>>38

嫌いな上司からの命令とか真面目にやるわけないゾ

40：どこかの闇の名無しさん

四天王のやる気とか関係なくね

イツチの命は魔王様の命だぞ

41：どこかの闇の名無しさん
イツチ偉すぎて草

このスレは伸びる

42：どこかの闇の名無しさん

しつかりやらないと自分が死ぬだけだからな

特に炎の四天王

43：どこかの闇の名無しさん

【それっぽい作戦概要】

水の都の上流にある泉で根流しする（炎の四天王＋壁役のドラゴン？）

←

勇者か聖女が出てくる（多分）ので炎の四天王が足止め

←

水の都の防備が薄れたタイミングを見計らい強襲

メンバーは残りの四天王（闇、風？、土？）＋イツチ＋精鋭

←

我々の勝利である

44：どこかの闇の名無しさん

作戦ふわふわで草

45：どこかの闇の名無しさん

大本営発表やめろ

46：どこかの闇の名無しさん

希望的観測が多すぎる

47：どこかの闇の名無しさん

元々戦争なんて不確定要素の塊だから多少はね？

48：どこかの闇の名無しさん

四天王の詳細未だに分かってないのほんと草

49：どこかの闇の名無しさん

なんだこの作戦は！

（立案者） 開示だ開示！

50：どこかの闇の名無しさん

これを魔王様が承認されたという事実

51：どこかの闇の名無しさん

魔王様が承認なされたのなら最高の作戦に違いないな！（信仰は盲目）

52：どこかの闇の名無しさん

イツチも強襲メンバー入りしてるのな

53：どこかの闇の名無しさん

参謀様が戦ってるのとか見た事ないわ

強いん？

54：どこかの闇の名無しさん

ゆーても幹部やぞ

普通に最大戦力やろ

55：どこかの闇の名無しさん

なんで風と土は不確定なの？

56：どこかの闇の名無しさん

今北

57：どこかの闇の名無しさん

>>>55

イツチのとこの魔王軍が所持してる精霊が炎、闇、風、土

今のところ分かってる四天王が炎と闇だから、残りも当てはまるんじゃないかという予想

58：どこかの闇の名無しさん

四天王うp

59：どこかの闇の名無しさん

闇の眷属が精霊所持してて草

60：どこかの闇の名無しさん

光の眷属無能で草

61：どこかの闇の名無しさん

精霊って光カスじゃなくてこつちにつく事あるのか（困惑）

62：どこかの闇の名無しさん

>>>61

100万回いわれたねこれ
63：どこかの闇の名無しさん
エルフと妖精も味方なんだよなあ
64：どこかの闇の名無しさん
前スレで出た情報まとめようぜ
次からそれテンプレにして貼ればいい
65：どこかの闇の名無しさん
本来それイッチの仕事やろ
ワイは疲れるからパス（鉄の意思）
66：どこかの闇の名無しさん
しゃーない
コピペ六魔人と言われたワイが一肌脱いだるわ
刮目しろ
67：どこかの闇の名無しさん
>>66
よわそう
68：どこかの闇の名無しさん
よわい（確信）

521：>>1

やば

調査隊とか挟まずに一発目から勇者来たわ
急いで水の都に戻るで

他の四天王にも招集かけた

522：どこかの闇の名無しさん

お

523 : どこかの闇の名無しさん
ええ……

524 : どこかの闇の名無しさん
生きとつたんかワレ!

525 : どこかの闇の名無しさん
おせーよ

526 : どこかの闇の名無しさん
強襲メンバーのイツチがなんで泉にいるんだ

527 : どこかの闇の名無しさん
水遊びしてんじゃねーよハゲ

528 : どこかの闇の名無しさん
スレの雑談が一段落ついたタイミングで事態を動かす勇者の鑑

529 : どこかの闇の名無しさん
幸先悪くて草

530 : どこかの闇の名無しさん
出鼻挫かれてて草

531 : どこかの闇の名無しさん
(作戦の成否) 駄目みたいですな

532 : どこかの闇の名無しさん
相手の方が上手やんけ

533 : どこかの闇の名無しさん
作戦読まれとるやん

534 : どこかの闇の名無しさん
来たのが勇者一人なら殺しといたら?

535 : どこかの闇の名無しさん
>>510

酔漬けが一番なんだよなあ
536 : どこかの闇の名無しさん

勇者うp
537 : >>1

勇者は一人やけど仲間が七人おつた

勇者、神職、前衛3、後衛3のパーティ

都攻めの手札見せたくないから炎の四天王にはギリギリまで炎を使わんように指示した

ワイが泉におったのは来ると思ってた調査隊の様子を実況するためや

そろそろ都の近くに着くで

538：どこかの闇の名無しさん

ドキドキしてきた

539：どこかの闇の名無しさん

風呂入ってくるからちよつと待ってて

540：どこかの闇の名無しさん

勇者一人か

でも仲間が多いな

541：どこかの闇の名無しさん

雑魚なんかいくら数揃えても意味ないから大丈夫でしょ

全員が粒ぞろいだったら……ナオキです

542：どこかの闇の名無しさん

掲示板書き込みながら移動とかイッチ余裕やな

543：どこかの闇の名無しさん

側近様だぞ

俺らとは信仰心が違う

544：どこかの闇の名無しさん

敵多いけど炎の四天王置いてきて大丈夫か？

545：どこかの闇の名無しさん

>>>544

四天王死んでも都落とせばセーフ

546：どこかの闇の名無しさん

四天王一人と都市一つ交換って釣り合っていないだろ

547：どこかの闇の名無しさん

普通の都市ならそうだけど、イッチの世界の水の都には聖女と精霊がいるからね

幹部死んでも黒字でしょ

548：どこかの闇の名無しさん

勇者一人なら勝てるんじゃないね

知らんけど

549：どこかの闇の名無しさん

ドラゴンいるし平気でしょ

知らんけど

550：どこかの闇の名無しさん

無責任な発言

+8383点

551：>>1

着いた

【画像】

「景色を一望できる崖の上から水の都を見下ろした様子」

突入までは場を整えながら攻めるで

聖女の結界さえ破れたら一気になだれ込んで終わりや

取り敢えず近場にゴーレム寄せつつ上空から超質量ぶつけて結界

のキャパオーバー狙う

都が乗ってる大地ごと隆起させて水抜きもするで

552：どこかの闇の名無しさん

景色いいな

553：どこかの闇の名無しさん

よくそんな都合良い場所に崖あつたな

554：どこかの闇の名無しさん

ゴーレムみせて

555：どこかの闇の名無しさん

大地ごと隆起つて何だよ（哲学）

556：どこかの闇の名無しさん

サラッと滅茶苦茶な事書いてて草

557：どこかの闇の名無しさん

作戦が大規模すぎる

558 : どこかの闇の名無しさん
やっぱ四天王いると作戦のスケールが違うなあ（しみじみ）
559 : どこかの闇の名無しさん
そういう問題か？

やってること魔王様クラスやんけ

560 : どこかの闇の名無しさん

四天王は特化してるからな

魔王様はなんでもできるし

561 : どこかの闇の名無しさん

魔王様はグツと拳を握っただけで勇者殺せるからな

562 : どこかの闇の名無しさん

魔王様は三塁への送球で人類滅亡させられるんだよなあ……

563 : どこかの闇の名無しさん

>>562

サード守ってる味方を巻き込んで屠るのはNG

564 : どこかの闇の名無しさん

全盛期の魔王様伝説やめろ

565 : どこかの闇の名無しさん

魔王様伝説スレ消されてたの笑ったわ

深い光を感じる

657 : >>1

ちよつと結界硬すぎるな

聖女なめてたわ

【画像】

「大きく持ち上げられた水の都のすぐ上空で、巨大な漆黒の渦と光の壁が競り合っている様子」

ちなみに地形変えたのは土の精霊で、今待機してる崖も作っても
らった

四天王の中でも随一の便利屋や

質量弾は見たまんま闇の四天王の攻撃

なかなか結界破れんから焦ってるみたいやね (他人事)

658 : どこかの闇の名無しさん

マジで地形変わってて草

659 : どこかの闇の名無しさん

局地的に標高上がり過ぎで草

660 : どこかの闇の名無しさん

これにはゴレム部隊も苦笑い

661 : どこかの闇の名無しさん

精霊が四天王で草

662 : どこかの闇の名無しさん

水の都カラカラで草

663 : どこかの闇の名無しさん

水の都 (崖上)

664 : どこかの闇の名無しさん

あんなに標高上げてゴレム部隊どうすんだ

665 : どこかの闇の名無しさん

質量弾が禍々しすぎる

666 : どこかの闇の名無しさん

地平線ピカピカやん

667 : どこかの闇の名無しさん

異空間に来たみたいだ

テンション上がるなあ

668 : どこかの闇の名無しさん

これでも結界破れないのな

669 : どこかの闇の名無しさん

この規模の結界を聖女一人で持たせてんの？

ヤベー奴じゃん

- 670：どこかの闇の名無しさん
都持ち上げて座標まで変えてるのにな
どうやって術式維持してんだよ
- 671：どこかの闇の名無しさん
精霊に四天王任せてるのは流石に草
それアリなのか
- 672：どこかの闇の名無しさん
これマジ？
- 勇者に対して聖女が強すぎるだろ
- 673：どこかの闇の名無しさん
闇と光が合わさってうんたらかんたら
- 674：どこかの闇の名無しさん
悔しがってる闇の四天王うp
- 675：どこかの闇の名無しさん
精霊は草
- 676：どこかの闇の名無しさん
四天王の人選が独特すぎる
- 677：どこかの闇の名無しさん
精霊って具体的な指示とか聞いてくれるもんなのか？
- 678：どこかの闇の名無しさん
おめえ重いんだよ（情報）
- 679：どこかの闇の名無しさん
>>677
ワイ精霊と意思疎通できるで
近づいたら逃げられるけど
- 680：どこかの闇の名無しさん
って事は前スレで貼られた画像のどれかが土の精霊ってこと？
普通に人型なんだな
- 681：どこかの闇の名無しさん
土の精霊うp
- 682：どこかの闇の名無しさん

精霊つてパワースポットから連れ出していいものなのか

683：どこかの闇の名無しさん

じゃあ最後の四天王は何なんだよ

684：どこかの闇の名無しさん

最早根流しどうでもよくなつてて草

685：どこかの闇の名無しさん

せっかく安価で決めた根流しが蔑ろにされてる事に憤りを禁じ得ない

686：どこかの闇の名無しさん

>>>685

都から勇者を引き離せただろいい加減にしろ！

687：どこかの闇の名無しさん

根流しの威力が高いから勇者が釣れたんだぞ

688：どこかの闇の名無しさん

水の都に勇者までいたらヤバかったからな

689：どこかの闇の名無しさん

勇者戻ってきたらどうすんの？

まだ結界も破れてないけど

690：どこかの闇の名無しさん

>>>689

敗戦

691：どこかの闇の名無しさん

そこは炎の頑張りに賭けるしかないな

833：>>>1

ここまでやな

勇者戻ってきたら被害出そうやし、増援か知らんけど北の遠い空か

らなんか向かってきとるわ

あんま使いたくなくなかったけど最後の四天王に指示して結界解くで
ここからは電撃戦や

834：どこかの闇の名無しさん
雲行き怪しいなあ

835：どこかの闇の名無しさん
増援マジか

勇者おかわりじゃね？

836：どこかの闇の名無しさん

勇者、聖女、水の精霊に加えて更に勇者追加とかヤバすぎでしょw

w
w

837：どこかの闇の名無しさん
ラグナロクやめろ

838：どこかの闇の名無しさん
根流しから始まる最終決戦

839：どこかの闇の名無しさん
これ敗戦あるで

840：どこかの闇の名無しさん
四天王全ツツパしといて敗戦したら流石にクビやろ

841：どこかの闇の名無しさん
イツチも突入メンバーだからクビになるより戦死するのが先だぞ

842：どこかの闇の名無しさん
まだ何も状況変わってないからな

優勢には違いない
843：どこかの闇の名無しさん

ここからは電撃戦や（掲示板を見ながら）

844：どこかの闇の名無しさん
>>843

攻撃戦だ？（難聴）

845：どこかの闇の名無しさん
ついに最後の四天王か

やっぱ風かな

846：どこかの闇の名無しさん

情報を小出しにするエンターテイナーの鑑

847：どこかの闇の名無しさん

残ってる精霊の風だろ

晩飯賭けてもいいわ

848：どこかの闇の名無しさん

いうて風で結界破れるか？

849：どこかの闇の名無しさん

ブワーってするんでしょ(適当)

850：どこかの闇の名無しさん

次はどの四天王がどの画像の子なのかを紐付けしていこう

851：どこかの闇の名無しさん

結界解く手段あるなら最初からやっつけよ

852：どこかの闇の名無しさん

ほんとそれ

舐めプは負けフラグ

853：どこかの闇の名無しさん

部下使いたくなかったって何だよ

854：どこかの闇の名無しさん

まあイツチ嫌われてるからね

頼みにくいんでしょ

855：どこかの闇の名無しさん

小心者は辛いな、サム……

856：どこかの闇の名無しさん

北の空からなんか南下してきてるwww

857：どこかの闇の名無しさん

>>856

？

858：どこかの闇の名無しさん

>>856

?

859 : どこかの闇の名無しさん
増援って何だろ

空から来てるしヒトカスのペガサス隊かな

860 : どこかの闇の名無しさん

精霊に逃げられてるようなヒトカスが幻獣乗れるか？

ただの気球じゃね

861 : どこかの闇の名無しさん

気球 (笑)

飛行機だろ

862 : どこかの闇の名無しさん

飛行機ってなに？

飛行する機械？

863 : どこかの闇の名無しさん

そのまんまやん

864 : どこかの闇の名無しさん

ネーミングセンスゼロで草

865 : どこかの闇の名無しさん

名前の由来は知らん

光の眷属が言っただけ

矢みたいな棒にデカイ板つけて推進力与えると飛ぶらしい

てか飛んでた

866 : どこかの闇の名無しさん

いや翼で翔べよ

867 : どこかの闇の名無しさん

すまん、翼持っていない劣等種おる？

868 : どこかの闇の名無しさん

>>867

鳥カス死ね

869 : どこかの闇の名無しさん

魔術で飛んだらいいだけじゃん

ゴミ以下の代物

870：どこかの闇の名無しさん

魔力持っていないゴ布林飛ばして遊べるやん

空からバラ撒いたら面白そう

871：どこかの闇の名無しさん

食べ物で遊ぶな

872：どこかの闇の名無しさん

翼も魔力も無い雑魚が飛んだからって何になるんだよ

873：どこかの闇の名無しさん

増援としては意味無いよな

874：どこかの闇の名無しさん

仮眠とるわ

突入したら起こして

875：どこかの闇の名無しさん

聖女うp

「ここはもう、持たないでしょうね……」

水の都の中央に建つ大神殿。その最上層にある女神像の前で、細い両手を合わせているのは一人の少女。

聖女ラ・ピュリーセル・アルラ。突如空から落ちてきた破滅を受け止め、今も命を削り続けている今代の神の依代だ。

啓示の際には見る者全てを虜にするその美貌も今は苦痛に歪み、純

白の肌には青が滲んでいる。

「こんな事なら、一度だけでも町のケーキ屋に行っておけばよかった」
現状世界で最も強固であろう結界と拮抗し、まるで押し返せる気配の無い黒い渦を見上げて思う。

教会の仕事など置いておいて、気のままに外に出かけたかった。

年相応に遊び、出会い、一人の女として生を全うしたかった。

初めてできた同年代の友人——今も戦っている勇者達ともっと交流を深めたかった。

もつと、もつと、人として生きてみたかった。

「……っ」

誰もいない祭儀場で、聖女ラ・ピュリーセル・アルラは身を削る痛みに耐えながら、泣いた。

神の依代として崇められ、肉親すらも自分に跪くようになったあの日以来、初めて涙した。

うずくまり、やるせなさに頬を濡らす少女。しかし、その涙を拭う者は一人としていない。

『気にする事はありません。あなたはよくやってくれました。その想いは次の聖女へと引き継がれることでしょう』

「あ——」

思考に混じって声が響く。状況にそぐわない優しげな物言いで啓示を下すのは、彼女を聖女たらしめる上位の存在。

思考が纏まらない。次の聖女がいるから何も悩まなくて良いのだと、自分にやりたかった事など無いのだと、本心からそう思った。ひどく清らかなもので自意識が書き換えられていく歪な感覚。

自分がまた少し自分ではなくなったのだと、そしてそれは素晴らしいことなのだとして認識し、聖女ラ・ピュリーセル・アルラは喜びのあまり笑顔で涙を流した。

……厭だ厭だと首を振りながら。

「聖女様っ！ 聖女ラ・ピュリーセル・アルラ様！」

救いだ。

祈る少女はそう思った。

慌ただしく飛び込んで来たのは銀鎧を纏った大柄な騎士。足をもつれさせながら走り、祭儀場の半ばで膝を突いた彼が最後の話し相手となる事に少女は強く安堵した。自分はまだ人間であるのだと証明されたような気がした。

「魔族が……強力な魔族が結界の内側に侵入していますっ！ 勿論、都を包む結界は聖女様のお力により健在ではあるのですが……！」

「魔族が内部に……？ そんな、どうして……」

「敵は警備兵を蹴散らしながらこちらに向かってきています！ 狙いは、聖女様でほぼ間違いないかと……っ！」

「そんな……近い……いや、速い……！」

神の眼を通して正面を見る。気配を探る。

目の前で膝を突いているのは光の眷属。その奥——祭儀場の扉の向こうには、報告の通り既に二体の闇の眷属の姿があった。

敵にここまで接近されるまで気付かないなど本来有り得ない事だ。相手はとても素早く、そして魔力の隠匿に長けている。

「貴方、私の後ろに下がって！」

「……なッ、もうここまで!? ぐあッッ!?」

騎士が祭壇の方へと走り出すのと同時に、祭儀場の扉が吹き飛んだ。激流に流されるように飛来する巨大な金属板を、聖女は微弱な結界で逸らすようにして回避する。防御にリソースを割いた事により、上空の黒渦が地表へとまた少し近づく。

獣のように姿勢を低くして駆けていた騎士は、それでも後方から吹き付ける爆風に耐えきれず祭壇の方へと転がっていった。

聖女が顔を上げると、そこには二体の闇の眷属がいた。

片方は金の長髪を煌めかせる鎧姿の女。鋭い目つきで睨みつけてくるその手には、禍々しい黒の長剣が握られている。

もう片方は、美しい羽を持ち宙に浮いている——妖精。かつては人類の盟友として闇の眷属と戦っていたという幻想界の住人は、尖った歯を剥き出しにしながらニヤニヤと品定めをするように笑っている。

「貴様が今代の聖女だな？ 我が身可愛さに悪神に魂を売った卑しき人間め。その命、私が貰い受ける」

「いひ、いひひ……聖女、せいじよ。どんな怪物なのかと思っていたけど、意外と見た目は人間っぽいんだ。うひっ」

真つ直ぐに剣を構えて間合いを計りながら歩いてくる女の隣で、狂ったように乱雑に飛行して奇声と瘴気を撒き散らす妖精。どちらも発する魔力は膨大で、この地域に生息する魔物達とは比較にならない力を有している事は明らかだ。

勝てない。今なお頭上にある黒渦が無かったとしても、とても一人で立ち向かえる相手ではない。

だが、やることは同じだ。死期が早まりはしたが、増援が来るまでの時間を稼ぎ、愛する者と最期の時を過ごしている民を少しでも長く生かすために聖女は更に強く祈った。

「そこから先には行かせません。貴女達が私を殺せるのは、私が力尽き、あの黒い渦がここを飲み込んだその時です」

室内を分断するように結界を張り、闇の眷属を隔離する。恐らく魔王軍の切り札の一つであろう黒渦をも防いでいる強力な祈りと信仰。それと同質のものを壁のように展開し、聖女は出口を塞いだ事によって都全体を覆う結界と運命を共にした。二つの結界は力の出所が同じだ。どちらかが破壊される時、もう一方も消滅する。

思惑通りに事が進められなくなった魔族はどのような行動をとるだろうか。結界を突破しようと攻撃を加えてくるだけなら構わないが、二の矢三の矢があるならば警戒しなければならぬ。

しかし何か手を打つてくると思われた二体の魔族は、一瞬虚をつかれたように目を見合わせたものの、すぐに鎧の女は呆れたように眉を下げ、妖精は心底愉快そうに顔を歪めた。

「お前……まさか、本当にそう思っているのか？」

「ぶっ！ うはっ、いひひひひっ！ キヤハハハハハッ!!」

「……何が、可笑しいのですか？」

違和感が、何かを見逃している感覚が、あった。

何故かまともに思考ができず、聖女はただ思ったままを問いかけ

る。その声も、どこか水音のようなものが混じっていた。視界が霞んでいる。

「ハはーっ！ 決まってる、決まってる！ うはっ。だって——神の依代が、そんな滑稽な姿で大真面目に喋ってるんだもん！ ケツサク、ケツサク！ うへへっ！」

「なに、を……？」

聖女は妖精の視線に倣い、下を、自分の体を見る。

認識した瞬間——世界が一変した。

腹部から突き出ているのは銀の刃。既に真っ赤に塗れきつた法衣に、とつくに失われて低くなった体温。ごぼごぼと口から流れ出る音の正体は己の血。

空がチカチカと点滅を繰り返し、次の瞬間、巨大なガラスが割れるような音と共に都を囲っていた結界が失われた。

「な……ゴボツ、に……？」

「そう不思議なことではないが……」

背後から感じる強烈な気配に問いかける。少し前に祭儀場に飛び込んで来た男性が、すぐ後ろに立っていた。彼の動きに合わせて腹部の剣が扱られるが、既に痛みは無い。

「歩いて近づき、剣を刺しただけだ。さつき守ってもらったようだからな。その礼だ、受け取れ」

「いひひひ！ ひーひひひ！」

「ああ、操られたフリでもしながら刺した方が感動的だっただろうか？ そうだな……次は演出面も考えておこう」

「……………」

多くの疑問を抱えたまま、聖女ラ・ピュリーセル・アルラは血だまりへと崩れ落ちた。脳に十分な量の血を送ることができず、五感が閉じられていく。

人生の未練、後悔——そして神への不満。神から与えられたその全てに囚われる事なく目を閉じられた事は、彼女にとって幸運であっただろう。

「よし、早く参謀様の元に戻るぞ。……おい、いつまで私の幻像を出している、早く消せ。そもそも私の髪はもつと美しく鮮やかで……」

大柄な男が聖女の背を踏みつけ、長剣を引き抜きつつ言う。

彼はそのまま剣を無造作に放り投げると、取り出した薬瓶を聖女に叩きつけて割った。

「へえ？ いやあ、この幻影はなかなか出来が良いと思うんだけどねえ。ホラ、見て見て！」

『ううむ……土産が決まらん。おい、店主！ この店で最も高価な商品を順に持ってこい！』

『うむ、これだけあればどれか一つくらい気に入っていただけのだろう。……残金？ そんなものはない。あの方への土産より重要なものなどこの世に存在しない』

『この背荷物か？ 当然全て土産だが……ええい、止めるな！ これくらい苦もなく持ち運べるっ！ 全て献上してお褒めの言葉をいただくのだ！ 邪魔するのなら斬るッ！』

妖精が目を向けると、鎧姿の女性はある時の映像を再生するかのようにならその場で騒ぎ始めた。

あまりにも身に覚えのあるその姿に、大柄な男性は顔を真っ赤にして唾を飛ばす。

「なっなっ、なんだこれはっ!? 消せ！ 今すぐ消せ！ 早くっ！」

「きやははははっ！ わかったわかった！ 分かったからソイツにしっかりと薬をかけといてよ。主力級の生け捕りなんて他の脳筋共には絶対無理だもん。この女を献上すれば、きっと私達はいっぱい褒めていただける！ あ、頭を撫でてもらったりとか……うへ……うへへへへへ……！」

「頭を、だど……!? クソ、この時ばかりはその貧相な幼児体型が羨ましく思えるな……」

「ひひ、いひひひ……！」

妖精が軽く手を振ると鎧姿の女性は元から居なかったかのように

消え去り、聖なる祭儀場に立っているのは光の眷属と闇の眷属が一人ずつとなる。

空を覆う黒渦が無くなり、清々しい蒼天に迎えられた水の都。

神殿の外からは喧騒と地鳴りが止むことなく響き、遠方の山では天に向かって炎の渦が立ち昇っていた。

【闇の眷属集合】 四天王で根流し↓水の都攻略実況スレ (2)

1081: >>1

聖女やったわ

結界破壊して水の都に突入したら正規軍っぽいのがなんか来たからそつちは闇に任せた

土に運んでもらったゴーレム部隊も街にバラ撒いたで

阿鼻叫喚で笑える

【画像】

「いくつもの巨大な穴が放射状に空き、最早水の都として判別できなくなった街の様子」

精霊いそうな建物が見当たらんかったから適当に攻撃してたら街がもう滅茶苦茶や

こんなとこ制圧しても維持できんから別にええんやけど

1082: どころかの闇の名無しさん

はえーよ

1083: どころかの闇の名無しさん

ゴーレムワラワラで草

1084: どころかの闇の名無しさん

(聖女) やったわ。

1085: どころかの闇の名無しさん

やりましたわ！

1086: どころかの闇の名無しさん

はあくくたまりませんわ。

1087: どころかの闇の名無しさん

やったわ☆ 被害者: 変態糞聖女

1088: どころかの闇の名無しさん

マジで電撃戦で草

1089: どころかの闇の名無しさん

有能

1090：どこかの闇の名無しさん
すまん、部下に四天王持つてない奴おる？

1091：どこかの闇の名無しさん
どうやって聖女仕留めたんだ？

1092：どこかの闇の名無しさん
最初からやっつけ定期

1093：どこかの闇の名無しさん
有言実行

+838114点

1094：どこかの闇の名無しさん
闇の四天王扱い雑で草

1095：どこかの闇の名無しさん
残念でもないし当然

結界すら破れない四天王らしい最期と言える

1096：どこかの闇の名無しさん
なんか来たから闇に任せた（神算鬼謀）

1097：どこかの闇の名無しさん
なんか来たから闇に任せた（とりあえずビール）

1098：どこかの闇の名無しさん
>>1094
雑に使える奴がなんだかんだ一番早く昇進するぞ

1099：どこかの闇の名無しさん
雑に使える奴は早死にするんだよなあ

1100：どこかの闇の名無しさん
俺は雑に使われてるのに昇進しないけど？

1101：どこかの闇の名無しさん
重用されても早死にする定期

1102：どこかの闇の名無しさん
ゴレム運べるの強くね？

城壁簡単に割れるじゃん

1103 : どこかの闇の名無しさん
境界破壊のトリック教えて

1104 : どこかの闇の名無しさん
一人で境界割れるとか最後の四天王強すぎる

1105 : どこかの闇の名無しさん
境界の破り方教えろ

1106 : どこかの闇の名無しさん

「お前が泉で遊んでたせいで聖女は死んだんだぞ」って勇者煽りに
行ってほしい

1107 : どこかの闇の名無しさん

>>1106

ド畜生で草

1108 : どこかの闇の名無しさん

>>1106

めっちゃわかる

1109 : どこかの闇の名無しさん

いいねえ

次の安価決まったな

1110 : どこかの闇の名無しさん

確かに勇者の反応は見たい

1111 : どこかの闇の名無しさん

酒の肴に丁度良さそう

勇者煽る時は実況してくれ

1112 : >>1

泉から火柱上がつとるな

炎の四天王が能力使い始めたらしい

ステゴロで勇者と仲間抑えるのは難しかったみたいやね

まあ聖女始末するまで勇者を隔離できたから十分な活躍や

霊殿っぽい施設見つけたから向かうで

精霊解体ショーの始まりや

1113 : どこかの闇の名無しさん

炎がんばえく

1114：どこかの闇の名無しさん

炎の四天王やるやん

ワイの部隊に入れたってもええで

1115：どこかの闇の名無しさん

>>1114

お前の上司になるだけだぞ

1116：どこかの闇の名無しさん

なお上司の陰口を叩く模様

1117：どこかの闇の名無しさん

魔王軍の信頼関係はボロボロ

1118：どこかの闇の名無しさん

水の精霊うp

1119：どこかの闇の名無しさん

意外と早く堕ちたなあ（都）

1120：どこかの闇の名無しさん

霊殿には結界とか無いの？

1121：どこかの闇の名無しさん

無いんじゃね

あつても聖女死んだし余裕だろ

1122：どこかの闇の名無しさん

都全体の結界が強力だった分中は無防備そう

1123：どこかの闇の名無しさん

精霊と話ついたら炎の四天王に合流して勇者ボコボコにして欲し

い

1259：>>1

霊殿の屋根吹き飛ばして押し入ったら水の精霊が拘束されてて草

【画像】

「半透明の女性が鎖に巻かれて巨大な水槽に沈められている様子」
拘束具ごと持って帰ろうかとも思ったけど無理そう
ちやちやつと開放して交渉は土の四天王に任せるで

1260：どこかの闇の名無しさん
なんやこれ

1261：どこかの闇の名無しさん
エツツツツツツ……？

1262：どこかの闇の名無しさん
大事な部分が隠れとるやん（激怒）
女の縛り方も知らんのか光カスは

1263：どこかの闇の名無しさん

【悲報】ヒトカス、無能だった

1264：どこかの闇の名無しさん
ポージングが無能過ぎる

1265：どこかの闇の名無しさん
精霊捕まってる草

1266：どこかの闇の名無しさん
ヒトカスに捕まる精霊の屑

1267：どこかの闇の名無しさん
はえくすつごい

これが光の眷属のやり方なんすねえ
1268：どこかの闇の名無しさん

光カスさあ……この水槽はなんだい？
1269：どこかの闇の名無しさん

自然すら制御しようとする生物の屑
1270：どこかの闇の名無しさん

これには亜人族も苦笑い
1271：どこかの闇の名無しさん

こんな事してるからエルフとフェアリーが敵に回るんだよ

1272：どこかの闇の名無しさん
魔道具で精霊を捕らえた光の眷属

VS

安価で根流しした闇の眷属

ファイ!

1273：どこかの闇の名無しさん

>>1272

どっちも屑で草

1274：どこかの闇の名無しさん

どっこいどっこいですね

どっこいどっこい

1275：どこかの闇の名無しさん

>>1272

同点のまま延長12回までいきそう

1276：どこかの闇の名無しさん

根流しの毒は自然物で作ったんだから精霊的にセーフ判定でしょ

魔族の勝ち

1277：どこかの闇の名無しさん

魔族は動機が悪いよ動機がー

1278：どこかの闇の名無しさん

一応精霊に交渉するのか

成功するとは思えんが

1279：どこかの闇の名無しさん

土の精霊の責任重大だな

1280：どこかの闇の名無しさん

交渉失敗してもそれをダシに折檻したらええやん

1281：どこかの闇の名無しさん

四天王の折檻実況スレは絶対に立てろ

取り合えず結界破れなかった闇と交渉失敗した土には辱めを与え

んとな

1282：どこかの闇の名無しさん

>>1281

交渉失敗する前提なの草

1283:どこかの闇の名無しさん

>>1282

残念だが当然

魔王軍らしい最後と言える

1284:どこかの闇の名無しさん

交渉の様子うp

1285:どこかの闇の名無しさん

精霊が二体並んでるとか見た事ないわ

かなりレアな絵面じゃね

1286:どこかの闇の名無しさん

精霊見せたるか?

1287:どこかの闇の名無しさん

>>1286

みせて

1288:どこかの闇の名無しさん

>>1287

ここにはない

1289:>>1

すまん、交渉決裂したわ

水槽から出して話聞いたら光の眷属には呆れた様子やったけど、水の精霊が住めそうな土地が中央大陸にしか無いみたいで魔界に引越すのは無理らしい

じゃあせめてヒトカスに利用されるの止めろって言ったけど、同じような魔道具使われたら抵抗すんのは難しいってさ

平行線やからサクツと殺したった

1290:どこかの闇の名無しさん

草

1291:どこかの闇の名無しさん

急転直下で草

- 1292 : どこかの闇の名無しさん
温度差で風邪ひきそう
- 1293 : どこかの闇の名無しさん
精霊が一行で始末されてるの草
- 1294 : どこかの闇の名無しさん
人間に捕まって利用されるか魔族に殺されるかの二択で草
- 1295 : どこかの闇の名無しさん
救いがなさすぎる
- 1296 : どこかの闇の名無しさん
しゃーない
- 最大限譲歩はした
- 1297 : どこかの闇の名無しさん
生まれてきたのが悪い
- 1298 : どこかの闇の名無しさん
まあ精霊の生き死になんて誤差だよ誤差！
- 1299 : どこかの闇の名無しさん
>>1298
- 精霊は星そのものなんですすがそれは……
- 1300 : どこかの闇の名無しさん
精霊サクツとやれるのが異常だわ
- 1301 : どこかの闇の名無しさん
霊殿にいるのってイツチと土の精霊だけだよな？
- 戦闘力ヤバすぎる
- 1302 : どこかの闇の名無しさん
属性の相性も悪そうなのにな
- 1303 : どこかの闇の名無しさん
解放してやった後だし抵抗されなかつた可能性もある
- 1304 : どこかの闇の名無しさん
水の精霊ちゃんの勇姿を報告しろ
- 1305 : どこかの闇の名無しさん
死体うp

ちなオーク

1306：どこかの闇の名無しさん

聖女の死体も頼む

ちなオーク

1307：どこかの闇の名無しさん

申し訳ないがオークの成りすましは種族問題に発展しかねないの
でNG

1308：>>1

死んだ本人は清々としてたで

始末するけどええか？って聞いた時も「いいけど最後に闇の眷属の
力を試してみたい」とかドヤ顔で抜かしてたし

ちようど聖女捕まえてきた四天王と合流したから皆で囲んでボコ
したら涙目で消えてったわ

やることやったからボチボチ都から引き上げて炎のとこ行くで

撤収や

1309：どこかの闇の名無しさん

は？

1310：どこかの闇の名無しさん

聖女で草

1311：どこかの闇の名無しさん

聖女？

1312：どこかの闇の名無しさん

聖女鹵獲したん？

1313：どこかの闇の名無しさん

あーもっかい言ってくれ（難聴）

1314：どこかの闇の名無しさん

唐突な三人目に草

1315：どこかの闇の名無しさん

精霊集団リンチされてて草

1316：どこかの闇の名無しさん

聖カス生きてて草

1 3 1 7 : どころかの闇の名無しさん
もう滅茶苦茶や

1 3 1 8 : どころかの闇の名無しさん
何気ない返答に爆弾仕込むのやめろ
1 3 1 9 : どころかの闇の名無しさん
いっぱいいっぱい Beautiful (情報量)

1 3 2 0 : どころかの闇の名無しさん
聖カス拷問実況の時間だあああああ!!

1 3 2 1 : どころかの闇の名無しさん
聖女拷問安価はよ

1 3 2 2 : どころかの闇の名無しさん
聖女う p

1 3 2 3 : どころかの闇の名無しさん
敵の最大戦力捕まえてくるとか最後の四天王が有能すぎる

1 3 2 4 : どころかの闇の名無しさん
強すぎて謝謝

大正義魔王軍
1 3 2 5 : どころかの闇の名無しさん

あかん優勝してまう
1 3 2 6 : どころかの闇の名無しさん

勝ったな
風呂入ってくる

1 3 2 7 : どころかの闇の名無しさん
Vやねん! 四天王ーズ

1 3 2 8 : >>>1
増援きた

勇者が一人
なにこいつ

1 3 2 9 : どころかの闇の名無しさん
流れ変わったな

1 3 3 0 : どころかの闇の名無しさん

チャンネル変えた

1331：どこかの闇の名無しさん

風呂沸いてなかったわ

1332：どこかの闇の名無しさん

お茶の間ヒエヒエで草

1333：どこかの闇の名無しさん

唐突な川柳やめろ

1334：どこかの闇の名無しさん

イツチ焦つてて草

1335：どこかの闇の名無しさん

いやこれが勇者に対する正しい反応だろ

1336：どこかの闇の名無しさん

聖女取り返しに来た？

1337：どこかの闇の名無しさん

北から空飛んで来てたのは勇者だったか

1338：どこかの闇の名無しさん

泉にいた八人組の方かもしれん

1339：どこかの闇の名無しさん

炎の四天王が勇者取り逃したんじゃね

1340：どこかの闇の名無しさん

イツチの反応的に初見の勇者やろ

幻獣とか飛行機とか言われてたやつ

1341：どこかの闇の名無しさん

勇者二人相手にするのはまずいですよ！

1342：どこかの闇の名無しさん

勇者がなんだ実害はないぞ

1343：どこかの闇の名無しさん

実害しかねーだろダボ

1344：どこかの闇の名無しさん

うーんこの怪獣大戦争

1345：どこかの闇の名無しさん

狙いはやっぱ聖女か

1346：どこかの闇の名無しさん

聖女は、ボクが、守るんだああああッ!! w

1347：どこかの闇の名無しさん

少年漫画やめろ

1348：どこかの闇の名無しさん

>>1346

ステレオタイプの悪役きらい

1349：どこかの闇の名無しさん

どうやって聖女の居場所分かったんだろ

1350：どこかの闇の名無しさん

悪質なストーリーカーでしょ

1351：どこかの闇の名無しさん

いや襲撃されてる街で敵がワラワラ集まったら何かあるって思

うやろ

1352：どこかの闇の名無しさん

幹部集まってる所に一人で突っ込んでくるか普通

1353：どこかの闇の名無しさん

よっぽと自信あるんじゃね

初見殺しの魔道具持ってた

1354：どこかの闇の名無しさん

勝算あるならヤベーな

密集してるから自爆されてもこつちが不利になる

1355：どこかの闇の名無しさん

結構まずい？

イッチ死んだらこのスレ終わりだぞ

1356：どこかの闇の名無しさん

それは困るわ

地味に最近の楽しみなのに

1357：どこかの闇の名無しさん

魔王軍の中核が一箇所に集まってるからな

全滅したら即終戦レベルの被害だろ

雷鳴と閃光——そして衝撃。

超上空から瞬きよりも速く落ちてきたそれは、周辺の全てを吹き飛ばしながら現れた。

舞い散る土煙の中から出てきたのは光の眷属。同じく莫大な力を持つている者にのみ存在を判別できる、勇ましく尋常ならざる魂を持つ存在——勇者。

魔王軍の幹部達を前にしながらも、全く迷いのない足取りでただ一点を目指して歩く。それを見る魔族達は殺気を剥き出しにして魔力を増幅させているものの、言葉を必要としない方法で伝達される指示に従い攻撃は加えずに待機していた。

「……」

つい先程まで霊殿だった場所を一人の人間がただ歩く。その姿は一言で言って異常だった。

黒の髪に濁った瞳、意思を感じない視線運び。華奢な体軀から放たれる圧倒的な存在感は、見る者全てに「ここが世界の中心とさえ思わせる力を持っている。

小さな感情の揺れさえ見て取れないその目は正面を見ているようで見えていない。まるで遥か上空から戦場を見下ろしているかのよう。な足取りで、死角に寝かされていた聖女の前にまで勇者は迷いなく歩を進めた。

そして、勇者は一輪の花を取り出して聖女へと手向けた。土産物か、はたまた吊い品か。

とはいえ、倒れ伏す少女は当然ながらそれを受け取る事が出来な

い。

「……？」

そこから数泊置いて、勇者が初めて感情らしきものを見せた。表情こそ変えなかったものの、首を傾げ、しきりに腰の道具袋を漁る様子からは疑問や困惑が伺える。

「……」

暫くして勇者が取り出したのは一枚の紙片。大きな丸印が捺されているそれは、一見して完了済みの依頼票のようだった。聖女から何か依頼を受けていたのだろうか。

勇者は聖女の側に膝を突くと、依頼票のようなものを見せつけるように彼女の目の前に設置した。

しかし、状況は何も変わらない。

「……」

一呼吸ほどの時間を経て、勇者は依頼票のようなものを回収して立ち上がった。そして、静かに一度息を吐いた。

どこか納得したような、たったひとつの答えに行き着いたような、一切の迷いを感じさせない満点の無表情。その漆黒の瞳で見据えるは輝かしい未来か、それとも虚無か。

勇者は掴んだ紙を掲げ、まるで天に見せつけるかのようにしながら——ついに声を発した。

「はい」

あまりにも短く前後関係の無い言葉。しかし、最大の警戒を要する言葉。

ここまでの奇行に加え、虚空に向けて返事を始めた勇者の姿は端的に言って不気味そのもの。「あ、気が触れた変人だ」と断じたくなる状況だが、それは違う。彼女は勇者なのだ。

——神の啓示。

極僅かの寵愛者にしか意思を届けないと言われる、人神による言葉。神託。

この勇者が神の指示により動いているとすれば、ここまで行ってきた数々の不可解な行動にも筋が通る。納得できる。

魔族達が息を呑む。本能が警鐘を鳴らす。体内で増幅させ続けている魔力が空気を伝って出ていくのではないかと思うほどにまで膨れ上がり、全身を駆け巡る。

単独行動時ならとうに攻撃を加えているだろう危険な相手を目の前にして、それでも魔王軍の幹部達は動かなかった。大地を司る精霊が、黒き魔剣に従える人間が、現実を塗り潰す幻想の妖精が、自分を律して上司の指示を待っている。

勇者は紙を掲げたまま暫く停止し、続けて言葉を発した。

「依頼を完了する」

勇者は手に持った紙を確認する。

依頼票のようなそれは、まだそこにあった。

「納品する」

勇者は手に持った紙を確認する。

依頼票のようなそれは、まだそこにあった。

「クエストを完了する」

勇者は手に持った紙を確認する。

依頼票のようなそれは、まだそこにあった。

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

沈黙。

淡々と奇行を繰り返す勇者、引きずり回されて髪も法衣も傷だらけになった聖女、勇者を警戒しつつも攻撃せず見守っている魔王軍の四天王。世界の歴史を動かすための大駒が一堂に会しているながら、場を沈黙が支配する。

恐らく歴史上一度も発生していないであろう奇怪な光景。それを作り出した勇者本人すら沈黙している。一体どうしろというのか。

皆が皆、迷っていた。分からない。この世に正解など無いと言うが、全くその通りだった。

「すてる」

「はい」

そして、勇者はついに紙を破り捨てた。

望む結果が得られなかったであろうにも拘わらず、機嫌を損ねたようには見えない。彼女はただ少し方針を変えただけだ。虚無としか形容しようがなかった勇者の瞳に殺意の火が灯るのを見て、魔族の男はそう読み取った。

「そうび」

「聖剣■■■■」

勇者が闘志を擡げさせるのと同時に、何も無い空間から現れた大剣がその手に滑り込んでくる。白く美しい刃を持った、見る者の目を焼かんと強い輝きを放つ大剣。闇の眷属を魂から滅するに足る神聖を帯びているそれは猛獣と呼ぶには優しすぎる一振り。暴れ馬を思わせるその剣は、雄叫び代わりに光り輝き、この世にある邪悪の全てを消し去ろうと舌なめずりをしている。

「もういい。よく耐えた」

勇者が大剣を肩に担いだと同時に、魔族の男は魔道具を通して同族へと指示を出す。

「た——」

勇者の行動宣言に割り込むようにして、遠方から高速で飛来した漆黒の渦が周囲の地形ごとその体を押し潰し、圧縮された勇者が黒いシミとなってクレーターの中心を染めた。

一瞬の出来事だった。

こうして、黒髪の勇者は命を落とした。

確実に。

一度は。

◆か？

◆ますか？

◆コンテニューしますか？

【はい】

【いいえ】

儂くも聞き入れられる願い。
訪れる奇跡の瞬間。

たった今死んだはずの勇者が、黄金のヴェールを纏って再び霊殿へ

と舞い降りる。

「なんだ、これは……」

鎧姿の女性は、あまりの衝撃によるめきながらただ疑問を口にした。

「……」

勇ましき者。聖なる使者。理不尽の権化にして神の傀儡——正義の化身。

何度も現れて良いはずがない、単独で戦局を覆し得るあまりにも強力な駒。

それが目の前で復活した。

彼女はつい先程まで自分だった地面の汚れに目もくれず、標的を探すように首を回してある一点で動きを止めた。視線の先は、掌に魔道具を浮かべている大柄な魔族の男。見るからに司令塔であるその男に挑むように大剣の切っ先を向け、敵を切り裂かんと勇者は前傾姿勢をとる。このまま何もしなければ、瞬く間すら必要としない内に魔族の男は首を取られてしまおうだろう。

「……！」

それを止めるべく動いたのは、茶色の髪で片目を隠した幼さの残る少女——土の精霊。この瞬間まで練り上げてきた莫大な魔力を星に還すと、この大地そのものが勇者を打ち据えるべく意思を持って動き出した。

巨大な岩槍が勇者の体内に直接芽吹き、内部から体を引き裂く。退廃の風が吹き荒んで肉片を磨り潰し、金砂の刃が残った肉と骨を寸断する。

それは、決して戦術レベルで扱って良いものではない強過ぎる力。敵視された時点でこの星での存在を許されない圧倒的な暴力。

「！」

指向性を持った大地のエネルギーが勇者を襲い、一瞬にして人としての形を奪う。一瞬の内に数々の攻撃を受けた勇者の全身が赤茶色の塵と化したその時、復活した際に纏っていた金のヴェールが破裂するように輝きを四方に撒き散らした。

【変わり身の金光衣】

眩い光の中から現れたのは——無傷の勇者。

不死さえ思わせるその三度目の姿に、魔族達は思わず絶句した。

その隙に勇者は標的を男から少女へと変更し、剣を掲げて魔術を使用する。

【ウォータⅢ】

茶髪の少女の周囲に家屋ほどの大きさを持つ水球がいくつも出現し、即座に破裂する。

一帯をその飛沫で覆う聖水は不可避なもの。闇の眷属に力を貸す悪しき精霊の表面を溶かすように浸水し、その体組織を破壊した。

「……」

虚を突かれて無防備のまま攻撃を受けてしまった少女は、破損した体の表面を岩肌へと変化させてそれを剥がすように分離させる。脱皮のように体を自浄した精霊は、その身を一回り小さくしながらも目立った損傷無くそこに立っていた。

【ファイアⅢ】

その様子を見て即座に追撃が加えられる。

球状の結界が茶髪の少女を包むように出現し、内部に小さく灯った炎が次の瞬間には爆発。結界が灼熱の爆風で満たされる。外部へと拡散しようとする熱を内側に反射し続ける超高熱の球体は、やがて全体の温度が下がるにつれてその色を薄れさせていく。

ようやく結界の内部が確認できるようになった時、溶岩溜まりの中にあつたのは鉄紺の岩石。その石塊が内側から割れて開くと、中からは再び無傷の少女が現れた。

二度も不意を突かれる程ここにいる魔族達は甘くない。魔術に詠唱が伴うのであれば、防御する事は可能だ。

「……？」

「……」

聞き慣れない呪文——【ウォータⅢ】と【ファイアⅢ】。

その身に受けた魔術に何を感じたか、茶髪の少女は訝しむように首を傾げる。

一方で勇者は無表情のまま。二度の術を行使してなお相手に傷一つつけられていないこの状況でさえ、勇者に動揺は見られない。ここまでの攻撃において、最初からおおよその結果を知っていたかのような様子で相手の状態を観察している。

「水と火……精霊がないから、か」

魔族の男が独り言ちる。

違和感の原因は、発現した魔術の威力だ。

ウオータとファイア。聞き覚えの無い短い詠唱から繰り出された超常現象は、名だたる魔術師と比べても遜色ない力を持っていたが、つまりそれは勇者でなくとも行使できるような、常識内に留まった破壊力だったという事に他ならない。彼女が隠しもせず垂れ流している膨大な魔力と神聖からすれば違和感を覚えるほどの威力の低さ。その原因は、恐らく精霊に協力を得られていない事——この星との不和だ。水の精霊の最大個体はつい先程消滅したし、炎の精霊は前々から魔王軍に協力している。

例えばここで勇者が土属性の魔術を詠唱したとしても、大地そのものである土の精霊と対峙しているこの場では魔術の発現すら困難だろう。

まさにそれを試していたのだろうか。勇者はどこか納得したような態度で魔術の痕跡を眺めた後、再び聖なる大剣を掲げた。

「[サンダーⅢ]」

三度目にして、ついに勇者の手に大自然の輝きが灯る。彼女に与している雷の精霊が、星の持つ力を彼女へと分け与える。

短い詠唱が終わると同時に立ち昇る魔力の奔流。精霊に強力を得られている分、先程までとは桁違いの力を持ったそれが顕現して都ごと消滅させてしまう前に——強く大地が咆哮した。

まるで星が割れるような大地震。強烈に突き上げられた地表は直前まで地上にあった全てを跳ね上げ、地殻を破壊しながら星を揺らす。

空へと跳ね上げられた勇者は体勢を崩して魔術を中断し、即座に聖剣を後ろに振り抜いて迫る凶刃を払い除けた。

「……チツ……い」

背後から迫っていた鎧姿の女性は剣を返されて舌打ちするも、その一合ですぐに飛び退いて距離を離す。連携攻撃の指示を受け、自らの手で首を取ろうと勇んでいたが、戦果を求めてギラついた欲望を瞳に浮かばせながらも追撃せず素直に引いた。

「たたかう」

勇者が体を捻りながら聖剣を振り上げると、追撃するべく上空から迫っていた魔族の男に一度で16回の斬撃が加えられる。対象を刻むごとにその体内に蓄積されていく聖なる力は、丁度16回目に内部から破裂して不浄なる存在を世界から消し去った。

空中で塵と化した魔族の男を見送り、勇者が次の標的へと視線を移そうとした時——彼女の世界は反転する。

「……!!」

下から首を捕まれ、浮いた状態から無理矢理地面に叩きつけられる。背中に強烈な衝撃を受け、肺が機能しなくなる。

一瞬ブラックアウトした視界が戻ると、勇者の目の前には細切れにした筈の魔族の男の顔があった。その豪腕で握り込まれた首は今にも折れそうに軋み、膝で乗られている胸からは何本もの骨が折れる音が響く。

「っ………通った………通ったッ！ 無いつ！ こいつ無いつ！ 耐性ッ！ イッひひひッ!! ……ハア」

遠くで妖精が飛び回り、騒いでいる。

今や人類の敵となった幻想界の住人は、男が切り刻まれた時にはこの世の終わりかのような表情をしていたが、一転して勇者が地に落ちたと見るや八重歯をのぞかせて笑いだした。

勇者は呪文を唱えようと口を開くが、胸に膝を立てられて呼吸すら困難な状況ではうめき声すら出てこない。

聖剣を振るおうと腕に力を込めるも、即座に茶髪の少女が作り出した金沙によって肩ごと切断される。

沈みゆく意識の中で彼女が最後に見たのは、自分の体から突き出る岩槍と、再び空から落ちてくる禍々しい漆黒の渦だった。

【闇の眷属集合】 四天王で根流し↓水の都攻略実況スレ (3)

1692: >>1

勇者始末したで

全然喋らんし殺しても復活するし気味の悪い奴やったわ

今は根流ししてた泉に向けて撤収中

炎の四天王が使ってる技からしてまだ余力ありそうやから、こつち側の残存戦力の回収を優先して皆でゾロゾロ移動してるで

ちな撤退中の魔王軍

【画像】

「幅広にえぐり取られた道の上を数十体のゴーレムが走ってきている様子」

1693: どころかの闇の名無しさん

だから触手と別に脚が付いてるのは邪道だって言ってるんじゃないやねーか

1694: どころかの闇の名無しさん

>>1693

お話にならなくて草

人型の特性と触手を併せ持つてる異物感に興奮するんだろうが

1695: どころかの闇の名無しさん

お

1696: どころかの闇の名無しさん

(帰って) きたわね。

1697: どころかの闇の名無しさん

生きとつたんかワレエ!

1698: どころかの闇の名無しさん

やったぜ。 被害者: 変態糞勇者

1699: どころかの闇の名無しさん

生きてるやん

1700：どこかの闇の名無しさん
イツチピンピンで草

1701：どこかの闇の名無しさん
あーあ

死んだと思ったんだけどな

1702：どこかの闇の名無しさん
大穴狙い厨さまあああ

1703：どこかの闇の名無しさん
ゴーレムトコトコで草

1704：どこかの闇の名無しさん
おっそいおっそいゴーレムの殿はこちら（笑）

1705：どこかの闇の名無しさん
ほら言った通りやんけ

逆張りキツズは酒でも奢れや

1706：どこかの闇の名無しさん
はい賭けは俺の勝ち！

何で負けたか明日まで考えといて下さい
そしたら何かが見えてくるはずです

ほな、いただきます（配当金）
1707：どこかの闇の名無しさん

オツズ1・0倍だぞ
1708：どこかの闇の名無しさん

幹部が三人いて勇者なんかには負けるわけないんだよなあ（勇者への
投票券を破り捨てながら）

1709：どこかの闇の名無しさん
都に連れていった精鋭ってゴーレムだけだったのか（呆れ）

1710：どこかの闇の名無しさん
これマジ？

作戦規模に対して動員が少なすぎるだろ
1711：どこかの闇の名無しさん

都攻めの軍にしては小規模すぎるの笑うわ

1712 : どこかの闇の名無しさん
開幕四天王ぶっぱが作戦の肝だからな
1713 : どこかの闇の名無しさん
やっぱ四天王で一点集中する作戦って有効そうだな
うちじや本土防衛がキツすぎて無理だけど
1714 : どこかの闇の名無しさん
>>1713
自爆系の魔道具で複数抜かれるリスクは大きいけどな
実行に移すにしてもタイミングが難しそう
1715 : どこかの闇の名無しさん
勇者が復活したってどういう事？
1716 : どこかの闇の名無しさん
炎の四天王まだ余裕そうなの草
1717 : どこかの闇の名無しさん
さすがに炎強いな
実力トップなんだっけ？
1718 : どこかの闇の名無しさん
まあイツチが真っ先に名前挙げたくらいだしな
実力派なんですよ
1719 : どこかの闇の名無しさん
泉に来た勇者が弱いだけかもしれん
1720 : どこかの闇の名無しさん
聖女も勇者も精霊も始末できたし完璧じゃないの
1721 : どこかの闇の名無しさん
やっぱり中野君の根流しを……最高やな！
1722 : どこかの闇の名無しさん
や根N1
1723 : どこかの闇の名無しさん
根流し要素はどこ……ここ……？
1724 : どこかの闇の名無しさん
聖女捕まえたのも根流し

勇者殺したのも根流し

精霊殺したのも根流し

歴史書にはそう記しておくんやで

1725：どこかの闇の名無しさん

事実は机上で作られる（至言）

1726：どこかの闇の名無しさん

うん、おいしい！（歴史改竄）

1727：どこかの闇の名無しさん

勇者の死体みせて

1728：どこかの闇の名無しさん

勇者どんな感じだったの？男？

1729：どこかの闇の名無しさん

3対1だった割に勇者の始末にえらい時間かかったな

1730：どこかの闇の名無しさん

やっぱ厄介な魔道具でも持ってたか

1731：どこかの闇の名無しさん

どうやって殺したのか教えて

1732：どこかの闇の名無しさん

勇者復活したって何だろ

その場で転生でもしたのかな

1733：どこかの闇の名無しさん

復活とかそれこそ魔道具とかじゃねーの

1734：どこかの闇の名無しさん

神の加護（笑）でしょ

あのインチキパワー

1735：どこかの闇の名無しさん

復活と転生はまた違うだろ

そーいや転生したばかりの勇者ってどうなってるの？胎児？

1736：どこかの闇の名無しさん

赤ん坊の姿で虚無から現れたってこの前掲示板で見た

1737：どこかの闇の名無しさん

うわキモ

1738：どこかの闇の名無しさん

生命の神秘やめろ

1739：どこかの闇の名無しさん

生への冒涇だろ

1740：どこかの闇の名無しさん

神の悪戯なんだよなあ

1741：どこかの闇の名無しさん

潰しても潰しても勇者がリポップするの想像して草生えた

1742：>>1

勇者の様子なあ……かなり謎やったで

まずいきなり落ちてきて、床に転がしてた聖女に近づいて白い花を頭に寄せたんや。で、依頼票みたいな紙を取り出してから「依頼を完了する」って何度か言って、何も起こらんからその紙を破いて聖剣っぽい大剣を召喚

すぐに闇に指示してプチッと潰したんやけど、金のオーラみたいなんを纏って空中から再登場。今度は土が肉片にしたけど、金のオーラが弾け飛んで無傷で復活。不死身かと思っただけで正直焦った

手番渡してしまっただけで、敵の【ウォータIII】とかいう魔術が土にクリーンヒットして軽傷。続く【ファイアIII】とかいう魔術は防御が間に合っただけで無傷

最期にヤバそうな雷系魔術使ってきたから土の地震で発生潰して全員でボコつたら何故か死体が棺桶になって消えた

今こうやって書いてても意味不明すぎてちよつと吐き気がするわ

ワイももう歳かな

1743：どこかの闇の名無しさん

「勇者の様子」まで読んだ

1744：どこかの闇の名無しさん

だから長文は読めないっていつてんだろ（憤怒）

1745：どこかの闇の名無しさん

なんて？

1746：どこかの闇の名無しさん
草
1747：どこかの闇の名無しさん
諦めるアル（解読）
1748：どこかの闇の名無しさん
寝る前に頭使わせるのやめて
1749：どこかの闇の名無しさん
〽何故か死体が棺桶になって消えた
?????
1750：どこかの闇の名無しさん
全く意味不明で草
1751：どこかの闇の名無しさん
うわ……って思いながら読んでたら最後に草生えた
1752：どこかの闇の名無しさん
そもそも一行目から分かん
1753：どこかの闇の名無しさん
勇者「依頼を完了する！依頼を完了する！」
聖女「は？」
勇者「依頼主がアスぺ。報酬は豚の餌」
1754：どこかの闇の名無しさん
>>1753
お得なクーポンマガジンやめろ
1755：どこかの闇の名無しさん
ただの危ない奴やん
1756：どこかの闇の名無しさん
他に何か言っただけだったのか
1757：どこかの闇の名無しさん
ウォータってなんだよ
1758：どこかの闇の名無しさん
ファイアとかいう謎のクソ雑魚魔術
1759：どこかの闇の名無しさん

聞いたことない魔術だな

新種の様式なら魔術研究スレに持っていていた方がいいぞ

1760：どこかの闇の名無しさん

魔術が弱かったっていうか土の精霊が固かったただけじゃね

1761：どこかの闇の名無しさん

勇者って生き返るもんなの？

1762：どこかの闇の名無しさん

復活するとか聞いたことないな

1763：どこかの闇の名無しさん

この前殺したけど復活せんかったで

1764：どこかの闇の名無しさん

どっかのスレで見た気がする

あんま覚えてないけど

1765：どこかの闇の名無しさん

>>1763

英雄おつて草

1766：どこかの闇の名無しさん

お！勇者殺しウー！

1767：どこかの闇の名無しさん

>>1761

俺の世界にはそういう魔道具あるぞ

死ぬほど貴重だし制約も多いけど

1768：どこかの闇の名無しさん

イツチの言い方だと復活するのに大した代償払ってなさそうけど

な

1769：どこかの闇の名無しさん

最後に棺桶になるのが生き返る代償じゃね

1770：どこかの闇の名無しさん

いうほど棺桶になるのデメリットか？

死んだ後なんてどうでもいいだろ

1771：どこかの闇の名無しさん

そもそも棺桶には勇者の死体が入ってるのか？

勇者が棺桶そのものになったのか？

1772：どこかの闇の名無しさん

棺桶の中身が知りたくて――。

1773：どこかの闇の名無しさん

>>1772

申し訳ないが勇者チップスは売上不振で赤字の原因になるのでN

G

1774：どこかの闇の名無しさん

なぜ棺桶なんだ

1775：どこかの闇の名無しさん

普通に気味悪いわ

品性を疑う

1776：どこかの闇の名無しさん

棺桶ほんと意味不明で草

1777：どこかの闇の名無しさん

勇者がそういう種族だったんじゃないやね

リッチやゴーストなら有り得る

1778：どこかの闇の名無しさん

>>1777

人間じゃないパターンか

前例ありますねえ！

1779：どこかの闇の名無しさん

合計二回復活してるから一回目は加護として二回目は種族特性か

な

1780：どこかの闇の名無しさん

情報が足りんな

消えたつてのが嫌な感じだ

1781：どこかの闇の名無しさん

また復活したりして

1782：どこかの闇の名無しさん

次出てきたらどうするか安価しようや

1783：どこかの闇の名無しさん

いや同個体で復活とかありえんだろ

勇者つて成長早いのに何度でも復活できたら経験積み放題でチートじゃん

1784：どこかの闇の名無しさん

もしそうならいつかは絶対に勝てなくなるな

何年後になるかは知らんが

1785：どこかの闇の名無しさん

勝ち目ないやん

1786：どこかの闇の名無しさん

魔族ゆつくりと滅亡していつてて草

1787：どこかの闇の名無しさん

なにこれ怖い話？

1788：どこかの闇の名無しさん

なんか敗戦確定してて草

1789：どこかの闇の名無しさん

(平和な世界は) こうして私たちの元に届けられる。

1790：どこかの闇の名無しさん

勇者がどれだけ強くなってもそのうち寿命で死ぬでしょ

1791：><1

勇者は他になんも言ってなかったで

結局最後まで会話らしい会話せんかった

攻撃受けた土の精霊がピンピンしてたのは、相性もあるやろうけど

単純に所持してる精霊の有無やと思ってる

例えば「ウォーターⅢ」は水の魔術やったけど、水の精霊殺す前に使われてたら結構な被害出てたと思うわ

直前に始末してたからギリギリセーフ

もうすぐ泉つくで

少し前から静かになってるから戦闘は終わってるっぽい

1792：どこかの闇の名無しさん

- ふーん不気味じゃん
- 1793：どこかの闇の名無しさん
- 勇者なんかホラーやな
- 1794：どこかの闇の名無しさん
- 普通に気持ち悪いと思う
- 1795：どこかの闇の名無しさん
- 棺桶入ってるし人間としては真つ当な最期だな
- 1796：どこかの闇の名無しさん
- 人間じゃない説が有力でしょ
- 1797：どこかの闇の名無しさん
- 勇者無口過ぎィ！
- 1798：どこかの闇の名無しさん
- ただの陰キヤ
- 1799：どこかの闇の名無しさん
- 友達おらんやろこいつ
- 1800：どこかの闇の名無しさん
- 聖女が倒れてるのに声もかけないのが完全にサイコパス
- 1801：どこかの闇の名無しさん
- >>1800
- そのくせ頼まれ事っぽい花は渡そうとしてるの笑えるわ
- 1802：どこかの闇の名無しさん
- まあ勇者つて根暗な奴多いしな
- 1803：どこかの闇の名無しさん
- 炎の四天王ちゃんうp
- 1804：どこかの闇の名無しさん
- 一方そのころ泉の勇者は……
- 1805：どこかの闇の名無しさん
- 結果論だけど霊殿見つけられたの結構ギリギリだったのな
- 1806：どこかの闇の名無しさん
- 水の精霊始末するの間に合つてよかつたね
- 1807：どこかの闇の名無しさん

勇者と精霊同時に相手してたら危なかったな

1808：どこかの闇の名無しさん

イツチが掲示板見てなきやもつと余裕あった定期

1809：どこかの闇の名無しさん

掲示板見てたせいで合流遅れて被害出そうになつてんの草

1810：どこかの闇の名無しさん

>>1809

うーんこの参謀

1811：どこかの闇の名無しさん

これは無能ですわ

1812：どこかの闇の名無しさん

イツチの評価が全く安定しなくて草生える

1813：どこかの闇の名無しさん

そうか精霊いないから魔術の威力低いのか

イツチの世界って何体か精霊所持してるから魔術対策が楽そうではないなあ

1814：どこかの闇の名無しさん

その分勇者は多いけどな

1815：どこかの闇の名無しさん

勇者の数と精霊の所持数には相関性があつた……？

1816：>>1

あの勇者の事は次出てきてから考える事にするわ

見つけ次第すぐ殺すくらいしか現状できることないからな

泉に着いて炎と合流したで

勇者は取り逃したみたいやけど、その仲間は神職含めて全員死亡や話聞いたら、最後に神職の糞アマが命懸けで勇者を転送したらしいちなみにお供のドラゴンがボロ布みたいになつてるけど辛うじて生きとるで

数的不利に陥らんように炎がすっかりダメージコントロールしてたみたいやね

まあこの怪我じゃ回復しても二度と動き回れんやろうけどな

ちよつと四天王が喧嘩してるから止めてくるわ

1817：どこかの闇の名無しさん

勇者に逃げられてて草

1818：どこかの闇の名無しさん

仲間は全滅か

1819：どこかの闇の名無しさん

いけるやん！

1820：どこかの闇の名無しさん

やっぱり炎の四天王ちゃんがナンバーワン！

1821：どこかの闇の名無しさん

喧嘩で草

1822：どこかの闇の名無しさん

なにやってだ

1823：どこかの闇の名無しさん

勇者の死体がない

やりなおし

1824：どこかの闇の名無しさん

勇者取り逃しちやイカンでしょ

1825：どこかの闇の名無しさん

いや勇者込みの敵パーティーに2対8でほぼ完勝してるのはヤベー

だろ

1826：どこかの闇の名無しさん

これは四捨五入して無能かな

1827：どこかの闇の名無しさん

評価厳し過ぎて草

1828：どこかの闇の名無しさん

お前らイツチと四天王の目の前でそれ言っつてこいよ

1829：どこかの闇の名無しさん

>>1828

申し訳ないが戦時中に自殺を勧めるのはNG

1830：どこかの闇の名無しさん

自殺関与・同意殺人罪やめろ

1831：どこかの闇の名無しさん

ドラゴン生きてんのか

1832：どこかの闇の名無しさん

ドラゴン強過ぎて草

1833：どこかの闇の名無しさん

壁を使い潰さない炎の四天王、有能

1834：どこかの闇の名無しさん

翼でも斬られたか？

ドラゴン貴重なものにもったいねえ

1835：どこかの闇の名無しさん

四天王の喧嘩に巻き込まれてドラゴン死にそう

1836：どこかの闇の名無しさん

四天王同士の喧嘩とか地形変わるだろ

1837：どこかの闇の名無しさん

折檻はよ

1838：どこかの闇の名無しさん

炎と闇の折檻実況スレ早くしてくれ！もう待ちきれないよ！

1839：どこかの闇の名無しさん

交渉失敗した土も折檻しろ

1840：どこかの闇の名無しさん

ついでに聖女持ってきた四天王も折檻すればいいだろ

1841：どこかの闇の名無しさん

応募者全員サービスやめろ

1842：どこかの闇の名無しさん

パワハラにも程がある

100点

1843：どこかの闇の名無しさん

キャットファイトいいゾ〜これ

1844：どこかの闇の名無しさん

>>1843

特殊性癖やめろ

1845：どこかの闇の名無しさん

>>1844

は？キヤットフアイトは一般性癖だぞ

1846：どこかの闇の名無しさん

んなわけねーだろカス

1847：どこかの闇の名無しさん

痛そうなのは抜けない

1848：どこかの闇の名無しさん

勇者パーティの死体うp

1849：どこかの闇の名無しさん

陰キヤは放っておいていいのか

現状最大の不安要素だろ

1850：どこかの闇の名無しさん

>>1849

杞憂でしょ

生前の状態のまま復活できるわけがない

1851：どこかの闇の名無しさん

仮に陰キヤが復活できるとして対策あるか？

どこで復活するか分からない以上後手に回るしかないだろ

1852：どこかの闇の名無しさん

棺桶勇者の呼び名が陰キヤで定着してるの草

1853：>>1

喧嘩止めてきた

勇者取り逃した件で闇が炎を煽って、それにキレた炎が闇をブン

殴ったのが発端

吹っ飛んだ闇の四天王が泉で水切りしてたのには草生えたけど、殴
打の威力が低かったり闇が反応遅れたりしてるのを見ると二人とも
かなり消耗してるみたいやね

闇の言う通り勇者に逃げられたのは事実やけど、炎はワイの指示通
りに動いてただけやし任務自体は完遂してるから責めるような所は

無いで

でも炎が能力使って闇に追撃しようとしたからそれはブン殴って止めたわ

喧嘩両成敗や

場も落ち着いたし魔王城に撤収するで

疲れましたよ今日はず

このまま光の眷属の追撃が無かったら魔界に戻って魔王様に戦勝報告する時まで実況はお休みや

1854 : どこかの闇の名無しさん

おつ〜う

1855 : どこかの闇の名無しさん

草

1856 : どこかの闇の名無しさん

おつかれ

1857 : どこかの闇の名無しさん

やっぱり小学生やんけ

1858 : どこかの闇の名無しさん

ガキの喧嘩で草

1859 : どこかの闇の名無しさん

男女平等パンチやめろ

1860 : どこかの闇の名無しさん

こいつらお互い殴りすぎやろ

1861 : どこかの闇の名無しさん

責めるような所はないで(ボコー

1862 : どこかの闇の名無しさん

うーんこの幹部連中

1863 : どこかの闇の名無しさん

魔王軍の上層部はもうボロボロ

1864 : どこかの闇の名無しさん

こんな四天王に堕とされる都があるらしい

1865 : どこかの闇の名無しさん

>>1864

どこの寒村やろなあ

1866:どこの闇の名無しさん

一丸となつて戦つても劣勢を覆せないウチの軍が情けなくなつてくるからやめろ

1867:どこの闇の名無しさん

これももう根流しがMVPでいいだろ

1868:どこの闇の名無しさん

やっぱ大事なのは個々の強さなんやなつて

1869:どこの闇の名無しさん

イッチとこの四天王は我も強そうだけどな

1870:どこの闇の名無しさん

>>1869

そのメンツを一つに纏めて従わせられるイッチは有能と言えるのでは？

ボブは訝しんだ

1871:どこの闇の名無しさん

イッチ意外とコミュ力高かったりして

1872:どこの闇の名無しさん

>>1871

部下に陰口言われて挙げ句の果てに寝取られるような奴が？

1873:どこの闇の名無しさん

草

1874:どこの闇の名無しさん

辛辣すぎて草

1875:どこの闇の名無しさん

寝取られた事にされてるのほんと草

1876:どこの闇の名無しさん

本当にコミュ力高かったら部下殴つて止めねーだろ

1877:どこの闇の名無しさん

コミュ力(物理)

1878：どこかの闇の名無しさん
体罰は教育の基本だからね、仕方ないね

1879：どこかの闇の名無しさん

死んだら懲罰、死ななきや体罰っていう格言もあるし

1880：どこかの闇の名無しさん

暴力！暴力！暴力！

1881：どこかの闇の名無しさん

よっしゃ寝るわ

1882：どこかの闇の名無しさん

取り敢えず一段落か

結構長い時間やってたな

1883：どこかの闇の名無しさん

イツチの自撮りうp

1884：どこかの闇の名無しさん

戦争なんてそんなもんだろ

当事者達からすれば一瞬よ

1885：どこかの闇の名無しさん

わかるわ

殺し合いしてたらすぐ時間経つよな

1886：どこかの闇の名無しさん

俺も寝るかな

明日早いし

1887：どこかの闇の名無しさん

よし、じゃあイツチも行つたしキヤットファイトについて詰めよう
ぜ

1888：どこかの闇の名無しさん

>>>1887

申し訳ないが参謀様のスレを私的利用するのはNG

1889：どこかの闇の名無しさん

性癖についての話題なのでセーフ

1890：どこかの闇の名無しさん

語っていい性癖は触手だけって決まっただろ

1891: どこかの闇の名無しさん

蒸し返すな

1892: どこかの闇の名無しさん

キャットファイトとか何がいいのか分からん

所詮おっさん世代の文化だろ

1893: どこかの闇の名無しさん

は？

1894: どこかの闇の名無しさん

あーあ言っちゃまったな禁句を

1895: どこかの闇の名無しさん

>>1892

やってしまいましたなあ

1896: どこかの闇の名無しさん

おっさんワラワラで草

1897: どこかの闇の名無しさん

数で解決しようとするのやめーや

1898: どこかの闇の名無しさん

おっさん達は帰って、どうぞ

1899: どこかの闇の名無しさん

うっせーぞガキ共が

団塊世代は前線で頑張るとんねんど

キャットファイトくらい自由にさせろや

1900: どこかの闇の名無しさん

する側なのか(困惑)

1901: どこかの闇の名無しさん

当事者ネキおって草

「以上だ。下がれ」

「はっ」

深く頭を下げ、男は立ち上がって退室する。

執務室に向かい歩き、回廊を進むその頭に浮かぶのは先程挟むに挟めなかつた疑問だ。

(部下への報酬、海岸防衛の後任選定……そして立案)

敬愛する王から受けた命令を脳内で一つ一つ復唱していた男は、それが終わるとふと立ち止まった。

(……これは休暇なのか……?)

普通に一月近くは要しそうな仕事量である。それを休暇と言い切るには、男は少々常識的過ぎた。

正直な所、普通に金品が欲しかった。過去に受け取ってきた数々の金銀財宝は確かに身に着けたり消費したりはしていないものの、決して不要だった訳ではない。それらは上司や同僚と力を合わせて作戦を成功させたという思い出が一つ一つに詰まった品々なのだ。金庫に厳重に保管し、酒を飲みながら眺めて愉しむのだ。それが、今回は仕事にすり替わってしまった。

上司とは悪い仲ではない。苦言を呈するくらいは可能だが、今回は間が悪かった。久々に大規模な作戦が成功し、王があれば嬉しそうに顔で話をしていたのだ、どうにも口を挟むのは憚られた。

ならば、考えるべくは貰った仕事の進め方だ。既に状況は次へと進んでいる。今件は竜に噛まれたとでも思っただけで水に流し、気持ちを切り替えるべきである。

所要時間が不透明な部下への報奨は真つ先に済ませるべきだろう。用意に時間のかかる品を要求されたのならその間に別の仕事ができるし、彼女達が王への口利きを望むのなら自分が城にいる今済ませなければ非効率だ。全員がまだ近場にいる内にさっさと召集をかけてしまうのが良いだろう。

(あいつらに報酬を渡してから自領に帰らせ、海岸防衛の後任となりえる人材を探させる。そして余った時間で次の策を決める……うむ)

男は一通り考えをまとめると、執務室に向けて回廊を再び歩きはじ

めた。

幾千年もの間続いている光の眷属と闇の眷属の戦争。

ここ数百年は防戦一方だった闇の眷属の強襲により、戦況は大きく揺れ、予想のつかない方向へと静かに傾いていく。

世界をも跨ぐ巨大な運命の器から零れ落ちるのは、上位の観察者が動かす駒達か、それとも遊戯盤の上で生まれた登場人物達か。

第一章

(了)

幕間

チ族のナトト

「でしたら、私の知り合いに丁度良い者がおります。他の四天王に声をかけられるまでもないかと」

「……本当か？」

男が最初に面談する事にしたのは、どこに出かけるでもなく魔王城の中庭で暇そうにしていた妖精だった。

紫の髪をサイドアップにし、同じく紫のワンピース（小児用）を着こなす様は幼子にしか見えないが、歴とした魔王軍幹部のうちの一人である。

真剣な表情で膝に手を置くその姿は高い立場を持つ者として真つ当なものだが、妖精特有の小さな体と美しい羽がそのイメージを一つに絞らせない。本人は至って真面目に努めているが、隠しきれない可憐さと活潑さはまさに人々が想像するフェアリーそのものだ。

希望する褒美は何かと尋ねて言われるがままに叶えてやると、暫く頬を染めて顔を蕩けさせていた彼女だったが、男が一服した後には海岸防衛の話を持ち出した頃には普段の調子を取り戻して即座に解決策を提示してみせた。

しかし面談の一人目、しかも当日のうちに目当ての人材が見つかるとは思ってもいなかった男は、部下の言葉をつい質してしまう。

疑ってしまうのは発言者の人脈の乏しさ故だ。この世界における彼女の知り合いなど、同じ四天王でペアを組ませている人間くらいなものだと思っていた。近場にいる魔族はおろか、稀に現世へと遊びにやって来る妖精とすらも親しげに話している姿を見たことがないのだ。こうも都合よく条件に合致する知り合いがいるとは誰が予想できようか。

「はい。その者も私と同じく妖精なのですが、実力は確かです。現在は幻想界にいますが、呼べばすぐに来るでしょう」

「なるほど、幻想界の妖精か。……確かに幻術は防衛戦に適している

し、妖精には優秀な戦士が多い印象がある。お前のように「へっ……!? う、うひ……」

思わぬ流れ弾を受けた妖精はびっくりと体を跳ねさせ、視線をぐるぐると回して狼狽する。

水の都での戦いにおいては特に大きな活躍をしていた彼女である。上司として、褒美以外に言葉でもそれを労っておく必要があった。「ではその者と一度会ってみる事としよう。すぐに来ると言っていたが、早くていつ頃になりそうだ?」

「ヒ……は、はい。一週間ほど時間を頂ければ十分かと。お急ぎなら……今日の夜には引っ張って来る事が可能ですが」

「……いや、一週間後でもいい。フェアリーに対してこちらは協力を仰ぐ立場だからな。初めから心象を悪くしては纏まる話も纏まらない」

幻想界の礼節については謎が多いが、話に拳がっている相手は海岸防衛を任せられる程の実力者とのことである。予定もあれば立場もあるだろう。当日中に呼び寄せるなど誰がどう考えても非常識だ。

しかし急げと指示したのなら、目の前の妖精は魔王側近からの指示である事を笠に着た強引な手段で先方を連れてくるだろう。前例はないが、そういった凶行に出かねない危うさを常日頃から感じ取れる部下であった。

「私達は今や貴方様と運命を共にする存在。気を使われる事はないと思いますが……そう仰るのであれば従いましょう」

「頼むぞ。丁重に饗し、絶対に粗相の無いように」

「お任せください。首を引っ張ってでも……いえ、穩便に連れて参ります」

「……行け」

「はっー!」

妖精は元気よく返事をする。と霞むようにその身を薄れさせ、最後には光の粒子となって消えた。元の世界へと旅立ったのだろう。

男はグラスに残った茶を呷ると、正していた腕と脚を組んで唸る。

「……と、任せはしたが、念のため他の者にも人員を探させて……いや、良くないな」

幻想界は狂気と混沌の地だと聞く。更には足を踏み入れると二度と帰ることができないとも噂されており、一度訪問を誘われた事はあつるものの男はそれを適当な理由をつけて断つていた。その判断が命を預けて共に戦う仲間として正しいものだったのか、未だ答えは出ていない。

上に立つ者として、部下を信じられないのは致命的だ。頼んだ以上はじつと報告を待つべきである。そもそも、相手は作戦を失敗した事のない優秀な人材なのだから保険を掛ける行為自体ほぼ無意味と言つていい。不要な準備に時間を浪費し、本当に必要な事柄が抜けてしまうのが悪い癖だとその昔上司にも言われていた。

「座して待つ、か……………ガラじゃないな」

男は暫くの間目を閉じて佇んでいたが、やがて耐え切れなくなったように瞼を上げて独り言ちる。自嘲気味に肩をすくめて魔道具を取り出すと、次の面談相手を探すよう配下の魔族に呼びかけていった。

叛逆者エリゼフィーナ

「こちらが水の都に潜入していた際に入手した物品です。十分に時間をかけて全力で選定致しました。お気に召される物があれば良いのですが……」

「……ああ」

宝石、調度品、アクセサリ、焼き菓子、絵画、食器——数々の品が執務室の机に並べられ、その光景を見た男は瞳から光を失わせつつも首肯した。

目の前でソファから乗り出すようにして座っているのは、先程面会した妖精と組ませている人間の女性。艶やかな金の長髪が顔にかかる事も厭わず、前傾姿勢のままじつとこちらの反応を待っている。

今はいつもの重鎧ではなく革鎧を着用しているが、城下町の換金所で発見されたという彼女は直前まで重鎧を着込んで武装していたらしい。上司と面談するにあたって軽装に着替えたようだが、それでも鎧を着込んでいるのは人間という種族の臆病さ故だろうか。

「これは……聖女か」

毎回土産と称して献上される大量の物品を眺めていると、ふと最近見たばかりの顔が目についた。手紙サイズの小さな上質紙に一人の少女が描かれている。どこか神聖さが漂う不吉な品だ。

「はい、教会公認の肖像画です。使用用途は不明ですが、都の民達はこれを有り難がつて買い求めておりました」

「それはなんとも……悪趣味な話だな」

「はい。しかし踏み絵には丁度良いかと。奴隷にでも踏ませましょうか」

「いや、いい。これは資料室にでも回しておこう」

採掘所等で労働させている奴隷達は確かに人間だが、虐げられながら日々を過ごしている彼らにも希望は必要だ。たとえそれが既に穢れていたとしても、縋るものがある方が精神的に安定し扱いやすくなる。根本的に脆弱であるために反乱の危険も無い。

例外として、目の前の女性だけは人間——光の眷属であるまま魔界

で高い立場を持っているが、離叛した際には自動的に死に至るよう自らに呪いまでかけているその忠誠心は確かなものである。わざわざ聖女の絵を踏ませる必要もない。

それに、聖女は近日中に代替わりする可能性が高く、この肖像画が踏み絵として利用できる期間も長くないだろう。

「水の都の物は二度と手に入らない貴重品だ。これらは有難く頂いておこう」

「はっ。恩義に僅かでも報いられた事、心より感謝します」

男が並べられた土産物の受け取りを了承すると、鎧姿の女性は平伏して感謝を述べた。

毎度の事にはなるが、寄贈した側が頭を下げているというのはやや違和感を覚える光景だ。この調子で物品を受け取っているのは私室の他に倉庫を買わなければならなくなるため、男は貢物を止めても良いと前々から伝えているのだが、どうにも相手にとっては重要な事柄らしく言っても聞かない。最近は言うのも面倒になってきたので黙って好きにさせていた。

モチベーションの保ち方は人それぞれだ。いくら上司といえど口出しできる領域ではないし、すべきでもない。与えた任務を完遂してさえくれるのなら、他は勝手にしてくれて一向に構わない。そのためなら倉庫の一つや二つ軽いものである。

男は軽く手を振って部下に頭を上げさせると、ソファに座り直した。

「それで……伝令からも聞いているだろうが、前作戦の成功に伴ってお前達には褒美を与える事になった。いつもは各自適当に尋ねていたが、今回は魔王様のご命令だ。お前達が何を求めたかは記録するし、受け取りの拒否も許さん。その上で何か希望はあるか？」

「はっ……でしたら、換金可能な金品を賜りたく存じます」

言うところ、何故か女性はやや俯いて体を強張らせた。

その直球の要求には好感が持てる。何しろ、男も上司との面会では同じものを欲していたのだ。

「金品か。記録の为一応聞いておくが、何に使うつもりだ？」

「ぎ……いえ、私腹を肥やすために、です」

「ふむ……なるほど」

魔族としては模範解答とも言える返答に、男は思わず腕を組んで唸る。人間とは欲深い生き物だと言うが、まさにその通りだということだろうか。

女性は額に汗を滲ませ、緊張した面持ちで上司の反応を窺っている。その姿は、どこか分の悪い賭けに出る勝負師を思わせた。

「分かった。用意しよう」

「……！　ありがとうございます！」

彼女は与えている任務（と組ませている相手）の都合上、普段から強いストレスを受けている。更には今後も厳しい命令を下す事がほぼ確定しており、いずれは人間の器では耐え切れなくなる日が来るだろう。そんな彼女が最後まで精力的に活動するために金品が必要だというのであれば、魔王様も文句は言うまい。

結局資金の使い方については霞がかつたままだが、この場合ズレた答えでも全く問題ない。男は部下のプライベートを知りたいのではなく、報告書を完成させたいだけなのだから。

渡した金でどうか豪華な屋敷でも建てて、任務の無い時くらいはゆっくりと体を休めて欲しいものである。

部下が十分な休息をとっている姿を想像し、男は納得したように腕を組んで頷いた。

後日。別の作戦にて、与えた褒美を全て使って購入された大量の土産物が献上される事になるのだが、それはまた別のお話。

土の精霊

「……」
「……」
「……」
「……」
「……」
「……」
「……」

別日。

山奥に建つ小さな一軒家に、闇の眷属と精霊の姿があった。

一人は魔族の男。仕事を詰め込んで早く終わらせ、少しでも休暇を取ろうと画策している魔王軍の参謀だ。

もう一人は茶色の髪で片目を隠した少女。肉付きの良い褐色の肌を白い装束で隠し、無表情で自らの指先を凝視している。

更にもう一人は茶色の髪で片目を隠した少女。肉付きの良い褐色の肌を白い装束で隠し、無表情で手を動かしている。

更にもう一人は茶色の髪で片目を隠した少女。肉付きの良い褐色の肌を白い装束で隠し、無表情で男の反応を窺っている。

更にもう一人は茶色の髪で片目を隠した少女。肉付きの良い褐色の肌を白い装束で隠し、無表情で腕に力を込めている。

更にもう一人は茶色の髪で片目を隠した少女。肉付きの良い褐色の肌を白い装束で隠し、無表情で首を捻っている。

「……」
「……」
「……」
「……」
「……」
「……」
「……」

原初、世界を創造した神がいた。

その神が愛したのは光の眷属であり、神に創造された世界そのものである精霊もまた、その本質は光の眷属に寄り添うことにある。今は

闇の眷属に協力している土の精霊だが、その為にはある制約を背負う必要があった。

『感じる。闇の、力』『神から、仕組みから外れた歯車』『魔族の子、認識せよ。大地の、星の息吹を』『地脈の終点、ここが始点。私が輪廻』『肩、凝ってる。仕事、減らすべき』

「いや、同時に言われても理解が……いや、肩……肩か？　これは筋肉だ」

脳内に五つの声が響く。これは幻聴や妄想などではなく、現在気まぐれで五つに身体を増やしている土の精霊による念話のようなものだった。揉まれている肩、両腕、両足から直接脳内に思念が流し込まれている。低級魔族なら恐らく発狂しているだろう情報量に確かな熱を感じながら、魔族の男は椅子に背を預けたまま相手の言葉を訂正した。

昨夜、魔王城近隣の森で見つけた土の精霊は、執務室に呼び出してから褒美を尋ねると妙な事を口にした。精霊として、闇の眷属に同調するために魔力を分けて欲しいという内容はいつも通りだったものの、今回はその手段としてマッサージを用いる事を申し出たのだ。

魔力は直接触れ合う事でより効率よく伝達させられる。中でも精霊に対しては触れ合う面積が多いほど魔力の伝達効率が良くなるらしい（本人談）。これまでもこういった機会を設ける度に彼女は山のように大きくなったたり部屋を埋め尽くすほど増えたりと実験的な行動を繰り返していた。此度の振る舞いもまた、より効率的な魔力の補給手段を探つての事なのだろう。

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「う……」

触れられている場所から体内の魔力が吸い上げられていく。それが土の精霊を通して地脈を通り、闇の力が地上を染める。まるで自ら

の血潮が星を巡っているような錯覚に、男は目を閉じて酔いしれた。「ふう。しかしこの……マツサージか？　こういった事は一体どこで覚えてくるんだ？」

『星。数多の星に関わりを持つ』『思念体としてのみの時は既に終わりを迎えている』『私が私である事は、今や一つの事象となった』『闇の眷属と、その伝承。手段』『雑誌に書いてあった』

「……意外だな」

精霊が読書をしている姿など全く想像ができない。男は遠慮がちに撫でられる肩にこそばゆさを覚えつつ、精霊が本屋に出入りしている姿を想像して難しい顔になった。

精霊達はどこか観測者のような目線で世界を見ている。人間によつて水の都に捕らえられていた水の精霊も、自分を捕らえた光の眷属の事でさえ特に興味を持っていない様子だった。星と共に存在してきた彼らにとって、光の眷属と闇の眷属の行いなど小さく興味の湧かないものなのだろう。長すぎる命と輪廻の中、一々記憶してはキリがないのかもしれない。協力しているとは言うが、力を分け与えているだけなのだし。

しかし、こと土の精霊に関しては文化と変化に興味を持つ傾向があった。なにせ本屋で雑誌を読んで情報を集めているのだ、世俗的であると言つてもいいかもしれない。へそを曲げられても困るので言わないが。

『我々は知る必要がある』『事象の究明は即ち神への叛逆。進め、魔族の子よ』『知る、欲求。上位の存在としての施し』『この身震わせるのは、思念ではなく心だというのか？　星が心を持つに至った要因である事を誇れ』『どう、気持ちいい？』

肩を触っていた一人が、腕に体を押し付けるようにして男の顔を覗き込み問いかける。

どこか自信のある表情から、本人的には満足のいく出来であるようだ。

その様子を見て男は暫く考えた後、ゆっくりと頷いた。

「ああ、心地いい。……が、施術という観点で見ると鍛錬が必要

だろうな……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……いや、心なしか体が軽くなったような気がする……」

『我々は星を司る者。そこには意図は介入しない』『鳴弦の地に落ちた躍動は、やがて永遠の命を持つに至る。注意せよ』『言魂は全てを傷つけうる。魔族の子よ、戯れは慎むべき』『戯れ言でも深く傷を負う事はある。知り、自覚せよ』『なら、いい』

苦言付きで感想を述べるとショックを受けたように硬直してしまった彼女だったが、失敗を悟った男が焦ってフオーロすると再び饒舌(?)になった。無理におだてるつもりはないが、多少は効果もあるのだから今の言葉は決して嘘ではない。わざわざ相手の気分を害することも無いだろう。

そもそも今回は部下への褒美として来ているのだから、相手の気分を害してしまつては本末転倒である。部下のメンタルコントロールも上司の務め。今は甘んじてメリハリの無いマツサージを受けよう。

強く揉むために本気を出されても困るのだ。男も肉体を鍛えてはいるが、星と競えるほどの質量は持っていない。もし今の状況で本気で揉むよう頼んだならば、潰れた果実のようにされて終わりである。

やけに得意気になって体を触り始めた精霊に好きにさせてやりながら、男は脳内で次の予定を立て始めた。

【次なる混沌】 シイラ・ケイオス

「——そこで言ってやったのだ、『おぬしの角など飾る気にもならん』とな！」

「そこでトレントか」

「そこでトレントだ」

話におチがついた事で満足そうに頷き、空にしたグラスをテーブルに置いたのは銀の長髪と赤黒い角を持つ女性。見るからに上機嫌な笑顔を酩酊によって紅く染めている彼女は、少女然とした体軀を目一杯伸ばして次の酒瓶を手に取り、生み出した小さな黒渦にその先端を差し入れる。元より無かったかのように静かにトップを失ったポトルは、続けてグラスへと傾けられた。

その隣で話を聞いているのは魔王軍の参謀。今は彼も普段の態度を崩し、どこか無遠慮な言葉遣いとなっていた。

「よし。じゃあもうお前への褒美は適当な角でいいか」

「たわけ。なにがよしだ。命を賭けた褒美が角で。おぬしはそれで嬉しいのか？ ん？」

「ないよりはマシ……かもしれない」

「この大嘘つきめ」

女性は言葉に反して柔らかく笑い、彼女の小さな体とは不釣り合いに落ち着いた魅力を感じさせる。

そんな様子を尻目にして、男は苦い表情でグラスを見つめていた。

「お前が望む褒美は自分の像、だったか……羨ましい事だな」

「なんじゃ、唐突に湿っぽくなりおって」

実質的に報酬が無くなってしまった事にすっかり見切りをつけていたつもり参謀の男だったが、酒を飲み、気安く接する事ができる相手と話していると若干の未練が顔を擡もたげてくる。

あの時——謁見の間で一言でも口を挟んで意思を伝えていれば、今頃自分も何か物品が貰えていただろうに、と思わずにはいらなかった。

隣の男からぽつりと漏れ出た声を拾い、気分良く笑っていた女性は

表情を一転させ、責めるようにじりと目を細める。どこか陰気な空気を纏っている男に向き直り、気分を害されたお返しとばかりに溜息混じりにその肩を叩いた。

「おぬしの像なら魔王城に飾られておるではないか。われは最近開拓した領地に像が無いからそれを褒美として求めただけだぞ？　魔王軍の幹部として、末端にもキチンと威光を示さねばならんからな！」
「それは分かっている。……何でもいいんだ。像じゃなくても。作戦の褒美として、形に残るものを賜りたかったのが本音だ」

「あー……後で魔王様に口添えしてやろうか？」

「いや、あの時の魔王様の笑顔は何事にも代えがたい。近年はずっと気を張っておられたからな。元より悔いはない……」

「どつちなんじゃ……相変わらず魔王様が絡むとはつきりせん奴じやなあ。そりやあ確かに？　魔王様は同性のわれから見ても魅力的なお方ではあるが？　ふむ……そうじゃ！」

小柄な女性は唇に指を当てて悩むようにした後、何か面白い事を思いついたように口角を上げて椅子から立ち上がった。身を伸ばし、四肢を見せつけるように足先から角までを美しく揃えてポーズングをする。

その姿、まさに男を狂わせる魔性の女——とはいかず、せいぜい発育の良い子ども程度のものであった。

「ほれ、われも魔王様と同じ王の器たる混沌の一族じゃぞ？　その持て余した情欲、われの魅力ある肢体で満足させるがよい！」

「魅力ある……肢体……？」

「は???　オイ、その反応は何じゃ??　今日という今日は……このっ！　怒るぞっ!？」

「やめっ……すまんすまん、俺が悪かった！」

気分を害したか、女性は男の背後に回って上着を引っ張る、という王の器たる混沌の一族に相応しい威厳のある対応を見せた。

立場上、生地が傷めばその服はもう二度と着られない。下らない理由で世話人の仕事を増やす訳にもいかず、その地味な攻撃に男はたまたまらず白旗を上げる。

謝罪を引き出せたことで多少は冷静になったか、女性は溜息を吐いてから椅子に座り直した。

「はあ………飲み直すか。追加の酒を運ばせるぞ?」

「いや、悪いが今日はここまでだ。今ある分で最後にする」

「あーん? ……おぬし、最近何かあったか? 昔に比べて近頃付き合いが悪くなった気がするんだが?」

聞き返して男に振り返った女性は、相手のどこか難しい表情を見ると眉を顰め、暫く考えた後に前々から覚えていた違和感を口にした。

指摘を受けた男はぴくりと眉を動かしたが、すぐに戻して誤魔化すようにグラスに口をつける。

「気のせいだろう」

「前の視察の時も飯を奢ってくれなかったよな? 情報部の連中を連れておったから上司として立ててやろうと思ったのに!」

「一人だけ昇進したからな。プレッシャーを感じる事もあるんだ」

「ふむー?」

男が肩を竦めて説明すると、女性は理解したのかしなかったのか首を傾げる。元々深追いするつもりはなかったのか、彼女はグラスをちろりと舐めるとすぐに言及を取りやめた。

「まあ、あまり問い詰めても仕方ないか。今日はそういう事にしよう。おぬしも、急に前任の席が空いたのは大変じゃったろうし」

「今の立場も悪い事ばかりじゃない。お前達を顎で使えるしな」

「ハッ。それだけ言えれば十分じゃ」

女性は男の冗談を受けて笑うと、勢いよく酒を呷ってグラスを空にする。

残る酒瓶は開栓済みの物を合わせても三本だ。この二人で飲むにはあまりに心許ない数ではあるが、先ほど開けたボトルを掴んだ女性はその残量を気にした様子も無く自分のグラスへと豪快に注いだ。

「では酒がある内に次の話をするぞ! 次はウチの部隊にいるドライアドの話だ!」

「またトレントか……」

「阿呆め。まあ黙って聞くがよい」

一々茶々を入れてくる男を即座に制し、女性はテーブルに肘をつきつつ得意気に小話を始めた。

火竜イザリア

魔界の中心にある魔王城——その城下町。

東通りにある甘味の有名店に、現在休暇（連勤）中の参謀とその部下の姿があつた。

「本当にこれでよかつたのか？」

「はい。参謀様にお手数をお掛けするのは大変心苦しく思うのですが……」

「構わん。魔王様からの命だと言つただらう。お前は前作戦で十分な活躍をしているのだ、何でも好きなことを言うがいい」

「何でも……？ ……いえ、ご配慮頂き感謝致します」

店内最奥に用意されている密談用の個室。そこで男と対面しているのは、燃えるような紅緋の長髪と美しい尾を持つ女性。普段は部下を威圧している鋭い目つきも今は穏和に色を変え、その身に宿す熱量も低く落ち着いている。

劣勢でいながらも前線を保ち続けている闇の眷属達。彼らが未だ大きな勢力として存続できている理由の一つが、突出した力を持つ上位魔族の存在であり、魔王軍の幹部は魔族にとっての希望そのものだ。

つい最近は最大規模の敵拠点まで落とすという現代の英雄達。そんな軍の重鎮が二人も同時に訪れた甘味処は一時騒然となった。暫くすると店内は当たり前のように自然と貸し切り状態となり、今は厨房側の通路から従業員が一人顔を出しているだけだ。

個室内は扉によって物理的に姿が隠れているだけでなく魔道具によつて音までもが遮断されており、注文するには面倒なものの密会には都合の良い環境だった。

「では、希望通りここで魔石採掘場の定例会を始める。……確かに時期ではあつたが、まさか褒美のついでに済ませる事になるとはな」

「参謀様の時間をお借りする以上、少しでも効率的に事を済ませた方が良いかと思つた次第です」

「その気遣いに感謝する。最近は時間のかかる仕事も多くてな」

男が溜息をつきながらそう言うと、女性は窺うように男の顔を覗き込んで眉間に皺を寄せる。

「それは……もしやあの貧相な女が原因でしょうか？ 参謀様に対していつまでも馴れ馴れしい……始末するのであれば、俺にお声掛け頂ければ微力ながらお役に立てるか？」

「貧相な……？ ……ああ、シイラの事か。いや、あいつはあれでいいんだ。軍役は俺より長いし、昔は随分と世話になった。今更形だけ敬われてもしつくりこない」

「ですが……いえ、解りました」

「まあ気持ちは分かる。俺も逆の立場なら文句を言っているだろう。だから、これは俺の我儘だと思ってくれていい」

「そんな……分かりました。参謀様がそう言われるのであれば、俺からは何もありません。失礼しました」

「構わん、そろそろ本題に入るぞ。まずは採掘量から確認する」
「はっ」

女性は深く下げていた頭を上げると、脇に置いていた鞆から報告資料を取り出して机に並べていった。

……

「おい、店員！ 注文だ！」

静かに緊張感の漂っていた店内は、勢いよく引かれた扉の音と女性の声により再び慌ただしくなった。

「この本にあるものがあるだけ全部だ！ ……は？ あー、先に珈琲と紅茶。……あ”あ”っ!? もう何でもいいからさっさと持ってこいっ！ 早くしろッ！」

女性は店員の言葉を半端に遮った後、厚みのあるメニュー本を付き返してピシヤリと扉を閉める。

男は部下のそんな態度にもすっかり慣れてるようで、特に気にし

た様子もなく水の入ったグラスを傾けてから提出された資料を鞆に仕舞い込んだ。彼としては、どちらかと言えば彼女の言葉遣いよりもその注文量の方が気になっていた。普段このように簡単な会議を行う際は互いに一品しか頼んでいなかったからだ。

「……そんなに食えるのか？」

「はい。店舗の面積から食料庫の大きさは予想できます。いつもは遠慮しておりましたが、今回は軍の予算から費用が出るとの話ですので、全て注文する事にしました」

「そうか……まあ、好きに頼んでくれ」

彼女は勇者を敗走させ、更にそのパーティを全滅させた先の戦での功労者である。今後も同様に活躍してもらうためにも多くの褒美を与えてやるべきだと男は考えていたが、甘味処の会計ではどれだけ注文しても金額はたかが知れている。

他の者もそうだが、魔王軍の幹部達は皆やや無欲であるように思う。戦いばかりで感覚がズレてしまうのは仕方がないが、各地方のトップである彼女達くらいは贅沢な生活をして民を安心させて欲しいものだと言は常々思っていた。

……が、彼もその上司にしてみれば同じ穴の貉である。皆が皆、激戦の中でまともな神経を擦り減らしていた。

どこか浮ついた様子で尻尾を揺らしている部下の姿を眺めながら男が待っていると、机の隅に置いていた魔道具が淡く光りを放ち始める。それは意思伝達に特化した非常に特殊かつ貴重な通信器具であり、現状その能力を十全に發揮できる人材は他に見つかっていない。

扉に付いた覗き穴から外を見ると、男が率いてる情報部隊の隊員が立っていた。

「どうやら報告のようだ。開けるぞ」

「……………はい」

男の言葉に返事をした女性は、どこか気落ちした様子で眉と尻尾を下げる。

扉を開けると情報部隊の魔族は即座に跪き、緊急の報せである事を告げた。

「会議中に申し訳ありません。緊急の連絡です」
「……」

目線だけで相手を殺せそうな鋭い眼光を四天王が飛ばす中、情報部隊の魔族は落ち着いた様子を見せる。怒りで拳を震わせ、今にも吠えそうに牙を？く火竜に焼かれるよりも、信頼する上司に無様を晒す方が耐え難い屈辱であるからだ。

「哨戒部隊より、敵城塞マーレ・カーネに動きがあると一報がありました。今は巡回を中止させ、部隊ごと限界距離で待機させています」

「そうか……ご苦労。部隊はそれでいい。マーレ・カーネ……動いたか。思っていたよりも早いな」

「俺が出ましようか」

「いや、いい。前回の哨戒記録は二日前だ。すぐに大規模な軍が出て来る事はないだろう。砲撃があるならシイラに出てもらいたい所だが、お前達はまだ万全ではないからな。エルフか風の精霊にでも頭を下げに行くか……」

「……」

報告を受け、男は顎に手をやりながら思索する。赤髪の女性は荒れる心境を節々から垣間見せながらも、その思考を邪魔してはならないと情報部隊の魔族を威嚇する事のみに注力した。

やがて整理がついたか、魔王軍の参謀は顔を上げて二人の部下に考えを告げる。

「……一先ず魔王様にご報告する。ビアンラルド、お前も付いて来い。情報部隊の隊長として直接証言してもらう」

「はっ」

「……………は」

「半端な形になって悪いな。今日の事は後日時間をとってやり直そう」

「っ!? ……よ、よろしくお願い致します……?」

「ではな」

男が荷物を纏めて立ち上がると炎の四天王は絶望の表情を浮かべたが、後日埋め合わせをする事を伝えられると次は狼狽にも似た反応

を示し、最後には平服した。

そんな部下の様子に申し訳なく思いつつも退店した男は、情報部隊の魔族を脇に抱えて膝を曲げ、魔王城へと跳ぶ。激しい衝撃が石畳と部下に加わるが、どちらも壊れずに形を保っていた。

「やっと仕事の目処が見ついた所でこれか……ままならんな」

「心中お察し致します」

抱えられた魔族は抵抗にならないよう体を絡ませると、上司を慮り悲痛な表情でその顔を見上げる。

風を切り、弾丸の速度で愚痴を溢す男の顔は、どこか少し老けて見えたという。

……
……

参謀と情報隊員が去った店内。

一人甘味処に取り残された女性は、呆けた顔で延々と運ばれてくる料理を食べ尽くし、自費で会計をして自領へと帰っていった。

聖女ラ・ピュリーセル・アルラ

『この場所では、最早光の眷属は導けません』

「……」

『次代の聖女に託すのです』

「……や……」

『その命を、宿命のために絶つのです』

「……いや……」

『その命を、宿命のために絶つのです』

「嫌あつツ!!」

魔王城——この世界に残り少なくなった邪神の領域。その地下深
くの小部屋で、聖女は叫び、うずくま蹲った。

捕らえられてから何日が経っただろうか。気が付いた時には既に
薄暗く湿度の高い部屋の中で壁に繋がれ、腕には魔力を制御する魔道
具が取り付けられていた。

最後に見た光景は水の都に施した結界が破られる様子だ。こうし
て自分が捕らえられている事からすると、恐らく都は落ちてしまった
のだろう。勇者は無事だろうか。魔族は今も大陸で侵攻を続けてい
るのだろうか。

覚醒した直後こそそういった多くの疑問が頭に浮かんでいたもの
の、すぐにその思考は、意思是、別の存在から干渉を受ける事となっ
た。

『もう猶予はありません。闇が、世に再び満ちようとしています』

光を司り、人を導く女神。人類を救済するため、時代と共に光の眷
属に寄り添う慈悲深い上位思念。依代が邪神の元に捕らえられた事
により間接的に世に干渉する手段を失った彼女は、諭し、命じ、意思
をも上書きして少女に自害を強要しようとする。

聖女という強力な矛と盾を失った人類は今、非常に危険な状態にあ
る。速やかに次代の聖女を選定するべきというその理屈は実に合理的
だ。

『その命を、宿命のために絶つのです』

「……や、め」

『その命を、宿命のために絶つのです』

「う……」

『その命を、宿命のために絶つのです』

「……」

聖女ラ・ピュリーセル・アルラは人間である。人の親を持ち、人の友を持つ。魔族を打ち滅ぼして平和な世界を作りたいという人間的な感覚も当然持っている。そのためには速やかに自害し、人類領で次代の聖女を降臨させるべきだという考えにも既に至っている。実際に対峙したからこそ断言できるが、このまま捕らえられていても脱走の機会は絶対に訪れないだろう。今の魔王軍は想像した以上に慎重で、徹底的だ。このまま自分が生きていけば、今後ずっと光の眷属は大駒を一つ失った状態で戦わなければならない。

だが、彼女の人としての未練が、無念が、やるせなさが、死への恐怖が。そして、歴代の聖女の中でも随一の強力な意思と精神力が、神による強制的な記憶と思考の書き換えを拒み、神の言葉を拒み、自ら導き出した考えをも拒んでいた。

「やめて……やめ、て……」

脳内に反響する声が自意識を奪おうとするのを、必死に首を振って抵抗する。気でも狂えれば楽なのだろうが、この強い精神力ではそうする事もできない。

あとどれだけこうしていれば良いのか。ただ何もなければだけの静かな部屋が、永遠に続く地獄となって少女の精神を責め蝕んでいた。

「嫌……私、は……」

聖女は震える手を握り込み、神ではなく運命に祈る。

まだ十代半ばの、一人の少女がそこにはいた。

民を守り、敵の攻撃で命を落とすのなら未だしも、壁に囲まれた部屋で武器も無しに自ら死に至るなど、まともな神経を保ったまま実行できるものではない。まして、聖女の体は一般人よりもよほど強靱なのだ。

女神はその常識的な部分に干渉しようとしているが、少女の強すぎ

る精神力をあと一步のところ突破する事ができない。皮肉にも、アルラが歴代最高の素体である事が人類にとつての足枷として作用していた。

『さあ、命を神に返す時です』

『自ら……ち、人……』

『……………』

』

ふと、声が遠のいた。

「な、に……う？」

思考を侵し続けていた神の啓示がぱたりと聞こえなくなる。

魔界に捕らわれ、体の自由を奪われ、更に神との接続が不確かになったという状況。こうして追い込まれた今、不思議と少女が抱いたのは緊張ではなく安堵だった。

「そこまでだ。聖女よ」

地下室の扉が開け放たれ、低い声が部屋に入ってくる。

涙で濡れた顔を上げ、赤く腫れた目を向けると、そこには大柄な魔族の男が立っていた。

「何を企んでいるのかは知らんが、そうしていくら神託を得たとしてもこの場で貴様に出来ることなど何も無い。尤も、その神託も今阻害させてもらったがな」

上向きに尖った魔道具を掌に浮かべながら、男が靴音を響かせて接近する。

あまりにも強い闇の気配と、体から滲み出る底知れない魔力。水の都で遭遇した魔族も強力だったが、この男はそれに輪をかけて闇が濃い。神の目を通して力を確認するまでもない紛れもない強者。表情

はどこか疲れたようでありながらも、その一挙手一投足には全くの隙が無い。

捕らえられ、凶悪な魔族に接近されているという危機的状況でありながら、何よりも少女を揺さぶったのは「神託を阻害した」という言葉だった。

アルラは無意識に涙を拭き、崩れた身姿を正す。

「あなたは……？」

表も裏もなく、少女は疑問に思ったままを男に問うた。今、彼女の思考と言動に干渉しようとする者はいない。本来、そのような者がいてはならない。

「教えてやる義理は無い。俺はお前の意思確認に来ただけだ」

「私の、意思……」

「そうだ。『お前の考え』を聞きに来た」

少女はその言葉に戸惑いを覚えた。

不思議な言葉だった。聞き覚えのない言葉。忘れていた言葉。

そして――。

「……っ……!!?」

ふいに、少女は幻視した。今まで視界を覆っていた激しい光と神秘が、音を立てて崩れていく光景を。目の前に広がる、光と闇の両方が存在する正しく認識された世界を。

神に縛られない、波風の立たない、透き通った思考。たった今生まれたばかりのような、真つ白で自由な心境に彼女は打ち震えた。ずっと纏わりついていた柵しがらみから解放され、清々しさにも似た名の知らない感情を得る。世界は、こんなにも複雑な色で作られていたのか。

きつと民は、自分以外の人々は、このような景色の中で生きていたのだろうか。

だとすれば、それはなんと素晴らしい事なのだろうか。

だとすれば、世界はなんと美しく――理不尽なのだろうか。

「……お前、本当に聖女か？」

「わたし、は……」

男は涙を流す少女に戸惑い、尋ねる。

彼女の前評判とは異なる赤子のような反応に、部下が間違った人間を捕らえてきてしまったのではないかと冷や汗を流しつつも魔族は平静を装った。目を瞬き、力を宿した眼光で見定めれば、確かにその神聖さは損なわれていない。目の前の光の眷属は間違いなく聖女——人類の切り札だ。

「……確かに聖女、だな……まあいい。お前に訊く事は一つだ。実験に協力するか、しないか」

「実験……？」

「詳細は伏せるが、研究部の奴らはお前を使って調べたい事が山ほどあるらしい。どちらにせよ実験に使うのは同じだが、自主的に動いてもらった方が幅が広がるのでな」

「わ、私に、魔族に協力しろと……？」

少女は混乱した。本来有り得ない、想定外の状況と問いかけ。

聖女は人間だ。少なくとも、彼女はずっとそうであろうとしてきた。魔族は敵であり、憎むべき相手であり、宿敵なのだ。今まで何人もの知り合いが魔族によって殺されている。そんな彼らの利となる行いなど、一人の人間としてできるものではない。

「それは……できません。そんな……」

「……まあ、そうだろうな。だが俺はそれを聞きに来たんだ。もう用は無い。今後どうなっても恨むなよ」

魔族の男は聖女の返答を興味無さげに紙に書き取ると、背を向けて扉に向けて歩き始めた。

『……』

『……さい。——闇の……強い……』

『その者……その者の闇を、今すぐに払わなければなりません』

「……ひっ……」

魔族が遠ざかるにつれ、再び少女の脳内に声が響く。

神聖で、正しく、清らかな声。それは、たった今生まれ変わった彼女を再び地獄に落とすには十分な絶望だった。

視界の中で光と混在していた闇が塗りつぶされ、ただ眩しく神聖なだけの正しい世界へと戻っていく。これまで人生の大半を過ごしていたはずのその場所では、今や恐怖と不安しか感じ取る事ができない。

「ま、まって……待って下さいー!」

「……………なんだ」

「えつと……………その……………」

少女は継るように手を伸ばし、男を引き留める。本当の自分を教えてくれた人。自分を生まれ変わらせてくれた人。咄嗟の行動だった。

男は振り向き、訝しむように魔道具と拳を構えて問う。聖女には十分な拘束が施されている。何ができるとも思わないが、神の啓示は何を差し置いても警戒しなくてはならないものだ。

「……………実験の内容を、教えて下さい」

「……………どういう事だ。内容次第では協力するだけでも? 興味本位で聞かれても教える訳なからう」

「し、しますっ。協力を……………しますから……………っ」

「……………」

男からすれば明らかに虚偽の発言である。床に手をつき、涙目で訴えかける聖女を睨みつけながら拳を振るわせて怒りを露わにする。恐らく神の啓示によって得た悪知恵を働かせ、小さな逆転の目に賭けているだろう脆弱な人間に、参謀は抱いている悪感情を隠しもせず檻を叩いて脅しをかけた。

目の前の聖女には何度も苦汁を飲まされてきた。魔王軍が彼女と直接交戦した記録は無いが、戦略的に非常に面倒な駒であったのは確かであり、間接的に多くの同族の命がこの少女に奪われている。印象は最悪と言えた。

「お前……………何を企んでいる? ふざけているなら今すぐ拷問にかけてやってもいいんだぞ。それ以上余計な事を言うなら、先ずはその舌を引き抜いてやる」

「ほ、本当です。協力……しますからっ！ 行かないで……」
「……………一体何だっ言うんだ……」

懇願し、床に頭をつける少女の姿に、男はうんざりした表情で溜息を吐いた。

どう見ても様子がおかしい聖女を放っておく訳にもいかない。彼女は一見して普通の人間だが、これから行われる実験は世界の命運がかかっている一大プロジェクトである。どんな小さな変化も見逃す訳にはいかなかった。気は進まないが、一旦話を聞き、上司と研究部に報告が必要だろう。

ズルズルと延びていく労働時間に虚無感を覚えつつ、男は紙とペンを取り出して聖女の檻の前にしゃがみ込んだ。

第二章

超簡単！人物紹介！（一章まで）

【人物】

◆参謀（魔王側近）

掲示板で安価をとって作戦を立てようとするヤベーやつ。

仕事熱心だがプライベートはマイペース極まりなく、掲示板では頻繁にスレ民を呆れさせている。

主人公。

◆炎の四天王

口が悪く手も早い火竜。竜族の中ではやんごとなき身分だったりする。

火力面だけなら四天王でも最強格で、作戦の主軸として活躍する。

昔は素行が悪かったが、最近では真面目に仕事に取り組むようになった。甘党。

◆闇の四天王

老獪な合法ロリ。魔王様と同じ混沌の一族。

参謀とは気安い間柄で、酒の席では互いに軽口ばかり叩くため話が進まなくなる。

次期魔王候補でもあるが、その万能さ故に雑に仕事を振られがち。

◆土の四天王

大地を司る精霊。星そのもの。

体のサイズや数が自在であり、その日の気分によって大きくなったり増えたりする事がある。

魔界のパワースポットに領地を持っているが、精霊に民が導ける訳もなく領民はゼロ。

◆人の四天王

光の眷属でありながら人神に背いた人間。人類にとってのA級戦犯。

自身が光の眷属である事を利用した搦手で敵の心臓部に切り込む

戦法を得意とする。作戦の危険度が非常に高いため、手当として給金が高い。

演劇鑑賞とショッピングが趣味。上司に土産者を買いまくる様子は推し活OLのごとし。

◆幻の四天王

幻想界に住む妖精。

幼児レベルのコミュニケーション能力しか持たないフェアリー達の中では精神年齢が高く、普通に会話が成立する。

特徴的な笑い声で周囲を不安にさせるが、最近他の幹部からはスルーされるようになった。

◆魔王様

魔族の王であり象徴。

城内で歪なクツションをお持ちになりお歩きになられるお姿が散見される。

魔族が信仰する神『邪神様』と交信なさっており、日々様々な職務を全うされている。

◆聖女

今代の聖女。元農村の娘。

神に選ばれた事で生活が一変し、彼女の言うところの「人間らしい生活」が出来なくなる。

友人と都のケーキ屋に行くのが夢だったが、ついぞその夢が叶う事はなかった。

◆勇者（陰キャ）

水の都に攻め入った魔王軍の前に現れた少女。

聞いたことのない魔術を使い幹部達を困惑させるも、三度目の致命時に体ごと消滅し生死不明となる。

口数が極端に少なかったため掲示板で不名誉なあだ名を付けられた。

サブクエストは全部消化するタイプ。

◆勇者（泉）

水の都の上流にある泉を調査しにきた青年。

待ち構えていた炎の四天王と交戦し、仲間を全て失った。
聖女の数少ない友人。

◆水の精霊

水を司る精霊。星そのもの。

水の都に捕らえられていた所を魔族によつて解放されたが、魔界の
水源が気に入らなかつたため交渉決裂。

魔王軍幹部から袋叩きにされ涙目で消滅した。

◆ドラゴン（壁）

水の都上流の泉にて、炎の四天王と共に勇者達を迎え撃つた個体。
勇者の仲間を一人討ち取るという大きな戦果を挙げたが、最後は数
の暴力の前に屈した。

◆ゴレム

水の都作戦に動員された精鋭部隊。

金属製の人形のように見えるが、そういう生き物。有性生殖。

◆モデウス

炎の四天王の副官。竜族の戦士。

上官が戦死した際は参謀に剣を捧げるよう言われている。
最近合コンで失敗した。

◆ビアンラルド

参謀直属の情報部隊の隊長。柔軟で力強い翼が自慢。

戦士としても優秀だが、翼に傷がつくと本業に差し支えるため基本
的に戦闘は行わない。

いつも上司のオーバークを心配している。

【地理】

◆中央大陸

中央にある大陸。単に大陸とも呼ばれる。

とにかく大きく、星にある陸地の大半はこれ。

魔族（闇の眷属）は魔界に追いやられたが、魔物（いわゆるモンス
ター）は中央大陸にも普通に生息しているので冒険者ギルドとかあ
る。

◆魔界

魔族の領土のこと。

今は中央大陸の北にある島々のみ。

◆水の都

大陸の北東にあつた美しい都。

聖女の力により強固に守られていた。

【ここまでのあらすじ】

人類と魔族は長きに亘つて争いを続けていました。

どちらが優勢となる時代もありましたが、お互いに持ち直して中々勝負がつきませんでした。

ある時、魔族は悪ノリで水の都を襲撃しました。

水の精霊は消滅し、勇者は仲間を失い、聖女は魔族に捕らえられてしまいましたとき。めでたしめでたし。

【☆闇の眷属集まれっ！☆ミ】安価で四天王使って本
土防衛する W W W W

1 : どころかの闇の名無しさん
やるで

前回までのあらすじ

・根流しで水の都を落とした

2 : どころかの闇の名無しさん

参謀様やんけ

3 : どころかの闇の名無しさん

前回から大分開いたな

4 : どころかの闇の名無しさん

もう始まつてる！（立案）

5 : どころかの闇の名無しさん

スレタイのテンションで草

6 : どころかの闇の名無しさん

防衛は草

7 : どころかの闇の名無しさん

お、（新スレ）立ってんじやーん！

8 : どころかの闇の名無しさん

魔王様への戦勝報告スレぶりか

9 : どころかの闇の名無しさん

ちよつと前に立ってた魔王様実況スレほんとすき

10 : どころかの闇の名無しさん

前スレは四天王の詳細開示されたり情報盛り沢山で wiki が充
実してよかった

11 : どころかの闇の名無しさん

戦勝報告スレが魔王様うpだらけになってたの笑った

12 : どころかの闇の名無しさん

イツチが魔王様良い匂いするとか言うのが悪い

羨ましすぎて発狂するかと思つたわ

13：どこかの闇の名無しさん
今回もそこそこ酔ってんな

14：どこかの闇の名無しさん
スレタイでなんとなく飲酒量わかるの草

15：どこかの闇の名無しさん
魔王様実況スレとかあったのか
教えてくれよ

16：どこかの闇の名無しさん
前スレのリンク貼つちくり

17：どこかの闇の名無しさん
戦勝報告スレ落ちたんだっけ？

18：どこかの闇の名無しさん
今回防衛戦なん？

19：どこかの闇の名無しさん
光の眷属に攻め込まれてるの笑う

20：どこかの闇の名無しさん
スレ立ててる場合じゃないんだよなあ……

21：どこかの闇の名無しさん
魔王様って良い匂いなのか(驚愕)

22：どこかの闇の名無しさん
魔王様の匂い嗅いだのはギルティすぎ

23：どこかの闇の名無しさん
ほんと羨ましい

イツチは死んで、どうぞ
24：どこかの闇の名無しさん

戦勝報告時のウキウキ魔王様ほんとすこ
25：どこかの闇の名無しさん

ウキウキ魔王様実況スレは今後も絶対に立てろ
26：どこかの闇の名無しさん

魔王様ちゃんたそ

- 27：どこかの闇の名無しさん
>>26
は？
- 28：どこかの闇の名無しさん
>>26
は？
- 29：どこかの闇の名無しさん
>>26
はい不敬
- 30：どこかの闇の名無しさん
>>26
ナイフでメツタ刺しにして殺す
- 31：どこかの闇の名無しさん
お、どっかの参謀様やんけ
- あれからワイも作戦考えたで
- 32：どこかの闇の名無しさん
初見だけど根流しと都落としの関連性が謎すぎる
- 33：どこかの闇の名無しさん
根流しの有用性が全世界に知れ渡った神スレだった
- 34：どこかの闇の名無しさん
>>32
こども日照りが続く仕事する気にならないからな
- 35：どこかの闇の名無しさん
魔界むかし話『イワナ・リヴァイアサンの怪』やめろ
- 36：どこかの闇の名無しさん
他スレで度々話題になつてたのここか
- 37：どこかの闇の名無しさん
リアルタイムで参加できるのはツイてるな
- 遊撃ならまだしも防衛戦で安価するのは流石に頭おかC
- 38：どこかの闇の名無しさん
イツチ辞職して？

39：どこかの闇の名無しさん

こいつクビになつたりしないのか

40：どこかの闇の名無しさん

根流しの戦果があるから暫くは安泰だぞ

41：どこかの闇の名無しさん

初見もいるみたいだし誰かテンプレ貼ってくれ

42：どこかの闇の名無しさん

作戦立てるって時に酒飲んでんじゃねーよハゲ

43：どこかの闇の名無しさん

立案時に酒飲むのやめーや

前回上手く行ったのはたまたまだぞ

44：どこかの闇の名無しさん

そもそも安価で立案するのがヤバイ定期

45：どこかの闇の名無しさん

終わりよければ全てよしだぞ

46：どこかの闇の名無しさん

まだ何も終わってないんだよなあ

47：どこかの闇の名無しさん

前回のあらずじ入れて若干分かりやすくしようとしてるのが笑える

48：どこかの闇の名無しさん

イツチも成長している証拠

49：どこかの闇の名無しさん

スレ運用に関してはこれ以上ないくらいポンコツなんだよなあ

……

50：どこかの闇の名無しさん

実家の爺ちゃんと同じ臭いを感じるわ

魔道具の使い方とか下手なんだよなあ

51：どこかの闇の名無しさん

イツチ爺説

52：どこかの闇の名無しさん

幹部とか普通に千歳超えのジジイだろ

53：どこかの闇の名無しさん

1000歳でジジイとかガキは黙ってる

54：どこかの闇の名無しさん

思考力に余裕あるやつ誰かテンプレ貼ってくれ

ワイは疲れるからパス

55：どこかの闇の名無しさん

イッチに不名誉な属性が付与されていくの草生える

56：どこかの闇の名無しさん

可愛い部下がいる時点で掲示板での風当たりが強くなるのは多少はね？

57：どこかの闇の名無しさん

>>56

なお煙たがられている模様

58：どこかの闇の名無しさん

可愛い部下ってなに？

嫌な予感するからスレ閉じるわ

死ね

59：どこかの闇の名無しさん

>>58

対応迅速で草

60：どこかの闇の名無しさん

>>58

童貞スタコラサツサで草

61：どこかの闇の名無しさん

>>58—60

テンプレやめろ

62：どこかの闇の名無しさん

童貞君テンプレにするのは草

63：どこかの闇の名無しさん

申し訳ないが安易なテンプレ化はスレの衰退を招くのでNG

64 : どころかの闇の名無しさん
四天王う p

65 : どころかの闇の名無しさん
何でもいいから誰か概要貼ってくれや

66 : どころかの闇の名無しさん
安価はよ

67 : どころかの闇の名無しさん
前スレへのリンクとこれまでの概要みせたらか？

68 : どころかの闇の名無しさん
みせて

69 : どころかの闇の名無しさん
みせて

70 : どころかの闇の名無しさん
>>68

ここにはない
71 : どころかの闇の名無しさん

死ね
72 : どころかの闇の名無しさん

思考力の化物と恐れられるワイがテンプレ貼ったるわ
崇め奉れカス共

73 : どころかの闇の名無しさん
魔王様う p

74 : どころかの闇の名無しさん
魔王様う p

...

362 : >>1

そろそろええか？

今回の概要説明するで
酒瓶一本空いてもうたわ

363 : どこかの闇の名無しさん
草

364 : どこかの闇の名無しさん
草

365 : どこかの闇の名無しさん
イツチノコノコ現れて草

366 : どこかの闇の名無しさん
おせーよ

367 : どこかの闇の名無しさん
厚顔無恥で草

368 : どこかの闇の名無しさん
大体概要は把握した

369 : どこかの闇の名無しさん
人間を四天王にしてるイカれた参謀が帰って来たぞ

370 : どこかの闇の名無しさん
お前の人選おかしいよ……

371 : どこかの闇の名無しさん
幹部にフェアリーがいるのも大概でしょ

372 : どこかの闇の名無しさん
羽虫ほんときらい

373 : どこかの闇の名無しさん
こつちが待たせてたみたいになつてるの草

374 : どこかの闇の名無しさん
あのさあ……

375 : どこかの闇の名無しさん
お酒ゴクゴクで草

376 : どこかの闇の名無しさん
イツチが前スレのリンクすら貼らないから説明に時間かかってる

んだぞ（全ギレ）

377：どこかの闇の名無しさん

人カスが四天王なのほんと狂ってると思う

378：どこかの闇の名無しさん

前スレもその情報出た時かなり荒れたからな

379：どこかの闇の名無しさん

酒飲んでんじゃねーよハゲ

380：どこかの闇の名無しさん

やめたらこの仕事？

381：どこかの闇の名無しさん

こんなのが参謀じゃ辞めたくくなりますよ〜眷っ属う〜

382：どこかの闇の名無しさん

どうすつかなく俺もなく（前線基地勤務）

383：どこかの闇の名無しさん

>>>382

はい死刑

384：どこかの闇の名無しさん

敵前逃亡は死ゾ

385：>>>1

発端は偵察部隊からの報告や

ワイの世界では光の眷属と魔王軍は海越しに睨み合っとなるんやが、
その中でも特に陸同士の距離が近い場所があつて、その向かいに光の
眷属は魔術砲台と造船所付きのデカイ城塞を建てとるんや

そこに相手が戦力を集中させてきてるのが分かつて、それをどうす
るかを決めたい

大雑把に言うとか攻めるか守るかやな

船は今のところ砲艦と輸送船が多いわ

あと当たり前やけど四天王を任命なさってるのはワイやなくて魔
王様な

実際人間も妖精も有能やからその鑑識眼は確かと言える

386：どこかの闇の名無しさん

草

387：どこかの闇の名無しさん

>>369―371

はい魔王様不敬罪

388：どこかの闇の名無しさん

普通に考えたら四天王の人選ってイツチじゃなくて魔王様だよな
なんか流れおかしいと思ってたわ

389：どこかの闇の名無しさん

草

390：どこかの闇の名無しさん

さつき四天王叩いてた奴らヤバくて草

391：どこかの闇の名無しさん

これは死刑

392：どこかの闇の名無しさん

光の眷属が四天王とか天才か？

人間って寿命短くて適応力高いから適任だよな！

393：どこかの闇の名無しさん

何人か終わってて草

394：どこかの闇の名無しさん

【超朗報】人間さん、有能だった

395：どこかの闇の名無しさん

妖精ってよく見たらかわいいよな

幻術も見てる間に死ねるから麻酔みたいなモンだし

396：どこかの闇の名無しさん

フェアリーって凄いや

もし味方ならとつても頼もしいだろうなあ

397：どこかの闇の名無しさん

中和しようとするな

398：どこかの闇の名無しさん

何人か焦ってて草

399：どこかの闇の名無しさん

やっぱ魔王様って最高だわ
400：どこかの闇の名無しさん
レスの削除依頼出してくるわ
401：どこかの闇の名無しさん
もう無理だぞ
402：どこかの闇の名無しさん
手のひらサイクロンやめろ
403：どこかの闇の名無しさん
伝統芸能
404：どこかの闇の名無しさん
手遅れなんだよなあ
405：どこかの闇の名無しさん
酒が美味すぎる
406：どこかの闇の名無しさん
うーんこのスレ民
407：どこかの闇の名無しさん
スレごと消されたらどうすんだよ
408：どこかの闇の名無しさん
叩く対象を間違えるからこうなる
409：どこかの闇の名無しさん
参謀様も本来叩いていい相手じゃないんですけどね
410：どこかの闇の名無しさん
しゃーない
切り替えていく
411：どこかの闇の名無しさん
安価はよ
412：どこかの闇の名無しさん
魔王様うp
413：どこかの闇の名無しさん
海戦だぞさつさと考えろ
414：どこかの闇の名無しさん

もう考え終わつたで

後は安価取るだけや

415:どこかの闇の名無しさん

エルフろうpが先だろ

416:どこかの闇の名無しさん

今度の舞台は海！(15秒CM)

417:どこかの闇の名無しさん

輸送船って事は普通に上陸狙いやん

418:どこかの闇の名無しさん

また総力戦か壊れるなあ

419:どこかの闇の名無しさん

地味に海沿いに城塞建てられてるの笑うわ

420:どこかの闇の名無しさん

うーんこの戦況

421:どこかの闇の名無しさん

城寄せられてるの笑える

建設中何してたんだよ

422:どこかの闇の名無しさん

人間に押し込まれてる闇の眷属がいるらしい

423:どこかの闇の名無しさん

残ってる魔界って北の諸島だけなんだろう？

上陸されたら実質敗戦じゃん

424:どこかの闇の名無しさん

もう大体(戦争)終わつとるやん

425:どこかの闇の名無しさん

これ半分劣勢だろ

426:どこかの闇の名無しさん

>>425

完全に劣勢なんだよなあ

427:どこかの闇の名無しさん

あそこまでやって劣勢なの草

428：どこかの闇の名無しさん
もう終わりだあ！（レ）

429：どこかの闇の名無しさん
光の眷属は船出して何しに来るんだろ
普通に侵略？

430：どこかの闇の名無しさん
聖女捕まったから動き出したんじゃね

431：どこかの闇の名無しさん
聖カス生きてるのバレてるん？

432：どこかの闇の名無しさん
水の都で生き残りがいたのか
爪が甘いとか何というか

433：どこかの闇の名無しさん
都落として生存者ゼロとか無理ゾ

434：どこかの闇の名無しさん
教会の人間だったら聖女の生死なんて簡単に分かるんじゃね
胡散臭い神パワーで（笑）

435：どこかの闇の名無しさん
そーいや捕らえた聖カスってどうなったの？

436：どこかの闇の名無しさん
>>435
研究所行き

437：どこかの闇の名無しさん
聖女の拷問できなかつたのは痛いですねこれは痛い……

438：どこかの闇の名無しさん
聖女って魔界に連れてきてもまだ聖女なん？

神に見捨てられたら普通の人間に戻るとかどっかのスレで見たことあるけど

439：どこかの闇の名無しさん

>>438

それ知ってるわ

両腕切ったら神気が無くなったってやつだろ

440：どこかの闇の名無しさん

腕が本体説はマジで笑った

やっぱ聖女なんて人間じゃねえわ

441：どこかの闇の名無しさん

あそこの世界応援してたんだけどな

結局魔王様一点突破されて負けたのは草通り越して震えた

442：どこかの闇の名無しさん

>>438

その辺を研究所で実験するんじゃない？

聖女を聖女のまま魔界に連れ帰れたのってかなりのレアケースや

ろ

443：どこかの闇の名無しさん

初じゃね

444：どこかの闇の名無しさん

なんで神は聖カスそのままにしてんの？

さっさと捨てたらええやん

常套手段やろ

445：どこかの闇の名無しさん

糞の神もたまには魔界観光したいんでしょ（適当）

446：どこかの闇の名無しさん

その辺の条件とか色々確定したら俺らの戦いも少しは楽になるか

もな

447：どこかの闇の名無しさん

研究員がんばえ

448：どこかの闇の名無しさん

研究するのはいいけど攻めすぎたら危ないぞ

踏み込み過ぎてうっかり聖女じゃなくなったら全部が水の泡やん

449：どこかの闇の名無しさん

神が憑いてなきや聖女もただの人間だしな

利用価値ゼロ

450：どこかの闇の名無しさん
オークの餌くらいにはなるだろ？
殺すつもりでやっちなえやっちなえ
451：どこかの闇の名無しさん
またオーク軽視か壊れるなあ
452：どこかの闇の名無しさん
オークが何でもいけると思うなよ
元聖女とか普通に無理だわ
453：どこかの闇の名無しさん
俺はいけます（半ギレ）
454：どこかの闇の名無しさん
聖女うp
455：どこかの闇の名無しさん
人カスは何で今進軍すんだ？
タイミング悪すぎじゃね
456：どこかの闇の名無しさん
水の精霊も死んだし状況良くないよな
457：どこかの闇の名無しさん
こつちが消耗してるの分かってるんだろ
458：どこかの闇の名無しさん
精霊の件より聖カス捕まってる方がヤバいって判断なんじゃね
459：どこかの闇の名無しさん
聖女は救出するか消すかされそう
460：どこかの闇の名無しさん
なんで殺す必要があるんだよ
461：どこかの闇の名無しさん
聖カス同族に狙われてて草
462：どこかの闇の名無しさん
光の眷属が聖女消す意味が分からん
今の状況こそが人神の狙いかもしれないのに
463：どこかの闇の名無しさん

魔界観光の邪魔したら怒られるよな

464：どこかの闇の名無しさん

神の意思なんて眷属には分からんからなあ

唯一代弁できそうな聖女が捕まっててクソの役にも立たんし

光の眷属としては難しい状況なんやろ

465：どこかの闇の名無しさん

よく分からん状況になったから取り敢えずリセットしようとして
んじゃね

466：どこかの闇の名無しさん

次代の聖女がすぐに孵卵するとも限らないんだけどな

467：どこかの闇の名無しさん

魔界で汚れた聖女なんて返ってきても汚物扱いやろ
もう死んだ事にされてそう

468：どこかの闇の名無しさん

残念でもないし当然

聖カスらしい最後といえる

469：どこかの闇の名無しさん

はえ〜

やっぱ光の眷属って屑なんすねえ

470：どこかの闇の名無しさん

それに比べて闇の眷属は真つ当て良い勢力だなあ！

471：どこかの闇の名無しさん

ほんそれ

472：どこかの闇の名無しさん

や闇N1

473：どこかの闇の名無しさん

水の都潰して聖カス攫ったの棚に上げてて草

474：どこかの闇の名無しさん

魔王軍はパワハラで毎日兵が死んでるんですがそれは大丈夫なん
ですかね……

475：どこかの闇の名無しさん

誤差だよ誤差！

476：どこかの闇の名無しさん

目くそ鼻くそなんだよなあ

477：どこかの闇の名無しさん

どっこいどっこいですね

どっこいどっこい

478：どこかの闇の名無しさん

なんにせよ水の精霊いなくなったこのタイミングで海戦仕掛けるのは人カ斯的に失敗だわ

479：どこかの闇の名無しさん

何が目的だとしても水の精霊が復活するまでは守りに徹するべきだよな

480：どこかの闇の名無しさん

内輪揉めして連携取れてない可能性もある

481：どこかの闇の名無しさん

>>480

まして光の眷属は優勢だしな

領土が増えると空中分解するのがヒトカスの特徴

482：どこかの闇の名無しさん

なお魔王軍も内部分裂が激しい模様

483：どこかの闇の名無しさん

なお四天王は参謀の陰口を叩く模様

484：どこかの闇の名無しさん

なお参謀は魔王様の御前で掲示板を見る模様

485：どこかの闇の名無しさん

敵の進行すら始まってないこの状況でどれだけ考えても無駄じゃね？

486：どこかの闇の名無しさん

考察する事にこそ意味があるってそれ一番言われてるから

487：どこかの闇の名無しさん

頭脳労働から逃げるな

488：どこかの闇の名無しさん

今の勇者が強いから老衰させたくないのかもしれない
精霊復活するまで待つたら寿命で死ぬし

489：どこかの闇の名無しさん

>>488

それはあるかも

陰キヤがかなり異端見みたいだし

490：どこかの闇の名無しさん

思い当たる節が多すぎる

491：どこかの闇の名無しさん

ヒトカス一派も一枚岩じゃないからな

492：どこかの闇の名無しさん

>>491

AHA!

493：>1

あのクツソ忌々しい城塞の建築中ワイは別の仕事してたんや

聞いた話では築城の邪魔しても聖女の結界に阻まれたらしい。建設されたんは五十年くらい前で割と最近。ワイが参謀にすらなつてなかつた頃やな

た
あの時は前任の参謀がおつたし、ワイも今の四天王達とは同僚やつた

その中でワイだけ出世したんやで

ちなみに聖女は研究所にブチ込んだけど、数日に一回くらいはワイの執務室に置いとく事になった(半ギレ)

魔界に来てから神の啓示がうるさすぎて寝れんらしい

ワイが神の啓示を阻害できるからやけど、耳栓代わりにされてムカつくわ

た
一回めんどいから研究所に放置してたら発狂寸前になって笑つた

次の日魔王様から直接注意されてビビったけど

494：どこかの闇の名無しさん

唐突な自分語り

495：どこかの闇の名無しさん

昇進自慢やめろ

496：どこかの闇の名無しさん

聖カス発狂で草

497：どこかの闇の名無しさん

魔王様に怒られてて草

498：どこかの闇の名無しさん

前任者無能

499：どこかの闇の名無しさん

【朗報】 人神、目覚まし時計になる

500：どこかの闇の名無しさん

隙あらば自分語り

501：どこかの闇の名無しさん

聖女馴染んでて草

502：どこかの闇の名無しさん

聖カス発狂やっただぜ。

503：どこかの闇の名無しさん

イッチがしょーもない悪戯してるの草

504：どこかの闇の名無しさん

子供じゃないんだからさあ……

505：どこかの闇の名無しさん

城塞建ってるの聖女のせいだよ

506：どこかの闇の名無しさん

やっぱ聖女って糞だわ

507：どこかの闇の名無しさん

クソクソアンドクソ

聖カスは飯抜きでええやろもう

508：どこかの闇の名無しさん

罰として発狂させたままにしとこうや

509：どこかの闇の名無しさん

責任取って城塞に特攻させる

510：どこかの闇の名無しさん

こんな拷問されても文句言えんやろ聖カス

511：どこかの闇の名無しさん

発狂した聖女うp

512：どこかの闇の名無しさん

城塞建ったのが五十年前なんやから邪魔してきたのは先代の聖女じゃね

今代の聖女まだ若いんだろ？

513：どこかの闇の名無しさん

聖カス死ね

514：どこかの闇の名無しさん

>>512

連帯責任は基本

515：どこかの闇の名無しさん

先代がないんだから責任は今代に持ち越さるだろうが

516：どこかの闇の名無しさん

関係ない今代聖女への責任追及路線すこ

517：どこかの闇の名無しさん

出来て間もないならさっさと城塞潰した方がよくね

今後マウント取られ続けるぞ

518：どこかの闇の名無しさん

こつちも船出して攻めようや

海戦は魔族のロマン

519：どこかの闇の名無しさん

四天王とは同僚やったんか

イツチ優秀やん

520：どこかの闇の名無しさん

海戦なあ

経験ないからよく分からんわ

521：どこかの闇の名無しさん

そもそも海とか見たことない（内陸育ち並感）

522：どこかの闇の名無しさん

イツチ四天王と元同僚やったのに嫌われてんの？
相当やな

523：どこかの闇の名無しさん

出世した途端に嫌な感じになる奴いるよな

クソ上司の出来上がり

524：どこかの闇の名無しさん

そのクソ上司にもクソ上司がいるんだよなあ（負のスパイラル）（推理の絆）

525：どこかの闇の名無しさん

海戦とか磯臭くて嫌ですわあゝ

やっぱり魔界のお嬢様は優雅に攻城戦ですわよ

526：どこかの闇の名無しさん

そうわよ（便乗）

527：どこかの闇の名無しさん

やっぱり攻城には攻城塔が最高ですわゝ

528：どこかの闇の名無しさん

わたくしのグループが開発した破城槌も負けておりませんことよ？

529：どこかの闇の名無しさん

魔術砲台って何ですか？

セバス、調べてきなさいっ！

530：どこかの闇の名無しさん

貴族は黙って重砲ですわよ！オーホホホ！

531：どこかの闇の名無しさん

魔界貴族きらい

532：どこかの闇の名無しさん

魔界お嬢様部やめろ

533：どこかの闇の名無しさん

魔貴族は死んで、どうぞ

534：どこかの闇の名無しさん
嫌われすぎで草

535：どこかの闇の名無しさん
ここのお嬢様めっちゃ文明レベル低そう

536：どこかの闇の名無しさん

お嬢様ごとに文明レベルに差があるの草生える

537：どこかの闇の名無しさん

魔術の魔の字も知らなさそう

538：どこかの闇の名無しさん

未だに精霊の存在否定してそう

539：どこかの闇の名無しさん

K（攻城戦）！ B（物理兵器）！ S（勝利）！ って感じで（古代カ
ンブリア紀）

540：どこかの闇の名無しさん

防衛は当然として城塞は潰さなきゃマズくね？

541：どこかの闇の名無しさん

安価はよ

542：>>1

魔術砲台ってのは魔力をチャージしてから砲台に刻まれてる術式
でブワーってするやつやで

撃ってくる時はそこそこ連続で撃ってくるんやけど、その威力がも
う滅茶苦茶なんや

まともに着弾させたら土地ごと吹っ飛ぶで

聖女もおらん筈やのにそこそこ強力な結界まで張られとるし、新型
なだけあって結構謎の多い城塞や

その大量の魔力がどっからきてるのか分からん

ちなみにこれな

【画像】

「海越しに見える大城塞の上部に巨大な砲台が設置されており、こ
ちらを向いている様子」

543：どこかの闇の名無しさん

城塞立派で草

544：どこかの闇の名無しさん

ドーン建設してギューンチャージしてブワー攻撃するのやめろ

545：どこかの闇の名無しさん

ちよつと魔界訛り出てんよ〜（指摘）

546：どこかの闇の名無しさん

城上部の半分くらい砲台で草

547：どこかの闇の名無しさん

デカ過ぎんだろ……

548：どこかの闇の名無しさん

明らかに合成っぽい砲台で草

549：どこかの闇の名無しさん

建設期間何年だよ

550：どこかの闇の名無しさん

うちの魔王城くらい大きくて草

551：どこかの闇の名無しさん

これが聖女の忘れ形見か

552：どこかの闇の名無しさん

聖カスは責任持って破壊してこいよな

553：どこかの闇の名無しさん

やっぱ聖カスは何やっても駄目だな

554：どこかの闇の名無しさん

だから先代だっつってんだろ

555：どこかの闇の名無しさん

今代の聖女がとぼっちりで叩かれるのすき

556：どこかの闇の名無しさん

魔術飛ばすための大砲ってこと？

わざわざチャージする必要ある？

557：どこかの闇の名無しさん

攻撃力1の魔術が2つ飛んでくるより攻撃力2の魔術が1つ飛んできた方が強いやろ？

そういう事や

558：どこかの闇の名無しさん

どういうことだよ

559：どこかの闇の名無しさん

状況による

560：どこかの闇の名無しさん

チャージ時の損失もあるだろ

561：どこかの闇の名無しさん

そんなに高威力の砲撃をどうやって連射してんだ

どうやっても魔力が足りんだろ

562：どこかの闇の名無しさん

勇者でも駐留してんのかも

563：どこかの闇の名無しさん

結界も張ってるんだろ？

勇者居たとしても一人じゃ足りなくね

564：どこかの闇の名無しさん

陰キヤは死んだから、残ってる勇者は泉にいた奴ともう一人か

565：どこかの闇の名無しさん

なんかうさんくさい神パワーでしょ

566：どこかの闇の名無しさん

勇者の謎パワーほんときらい

567：>>1

陰キヤは水の都で初めて発見された勇者やから、それとは別にあと三人の勇者が確認されとるで

・泉に来た奴

・やる気無し

・イキリ

・陰キヤ（生死不明）

の計四人や

城塞に勇者がいる可能性はワイも考えたけど、実は建設されてから一回も勇者の姿が確認されてないんや

常に見張ってる訳でも無いんやが、貴重な魔道具まで持たせとる哨戒部隊の目を半世紀掻い潜れるとはとても思えん。ワイは勇者自体おらんと睨んどる

っていうか中に勇者おるなら一回くらい援軍として出てくるやろ？近隣地域で結構ドンパチやってたで

あと言い忘れてたけど、今までワイが海岸防衛も兼任してたんやが今回で後任に引き継ぐ事になったんや

後任者はもう目処が立ってるから、今回の防衛戦で新体制のテストもついでにやっつけてしまうつもりやで

568：どこかの闇の名無しさん

勇者四人とか草

569：どこかの闇の名無しさん

勇者ばつかじやねーかよお前ん家イ！

570：どこかの闇の名無しさん

もしかしてイツチの世界の人神ってかなり力強い？

571：どこかの闇の名無しさん

流石に陰キヤは死んでるだろ

572：どこかの闇の名無しさん

陰キヤの死体は確認できてない定期

573：どこかの闇の名無しさん

他の勇者の名前も雑で草

574：どこかの闇の名無しさん

重要な局面でついでに色々済ませようとするのやめろ

575：どこかの闇の名無しさん

他の勇者うp

576：どこかの闇の名無しさん

イツチって兼任で参謀やってたのかよ

577：どこかの闇の名無しさん

後任って誰なん？

578：どこかの闇の名無しさん

勇者並べた時に陰キヤの名前が浮いてないの笑う

579：どこかの闇の名無しさん
はえく参謀つて前線指揮官と兼任できるような簡単な仕事だった
んスねえく(煽り)

580：どこかの闇の名無しさん
まあ掲示板で安価とるだけの役職だし

581：どこかの闇の名無しさん

イツチのせいで全世界の参謀の評価が下がってるの草

582：どこかの闇の名無しさん

風評被害やめーや

583：どこかの闇の名無しさん

聖カスより陰キヤの調査して欲しいわ

他の世界に同じような奴出てきたら倒すの無理やん

584：どこかの闇の名無しさん

ぶっちゃけ聖女よりタチ悪いよな

585：どこかの闇の名無しさん

いや(討伐するのが)無理か分かんないだろ！

586：どこかの闇の名無しさん

(敵の動向が)見えねえってのは恐えなあ、(勝利を)期待してんじや
ねえよ

587：どこかの闇の名無しさん

なんだつててめえらはそう勇者に対して根性がねえんだ？

588：どこかの闇の名無しさん

>>587

ひじょくくに反抗的な態度素晴らしいですな

589：どこかの闇の名無しさん

(恐怖心は)生きてる証拠だよ

590：どこかの闇の名無しさん

>>587

あつたまきた……(怒髪天)

591：どこかの闇の名無しさん

グリスリー調教師やめろ

592：どこかの闇の名無しさん
前線の指揮官なのに魔王城勤務？
妙だな……

593：どこかの闇の名無しさん
イッチ忙しそうやね

594：どこかの闇の名無しさん
後任者うp

595：どこかの闇の名無しさん
普通に城塞に五人目の勇者いるんじやね

596：どこかの闇の名無しさん
勇者引き籠もり説に一票

597：どこかの闇の名無しさん
陰キヤの次は引き籠もりかあ

勇者のお里が知れますわ

598：どこかの闇の名無しさん
城塞建つてから半世紀やぞ

仮に居たとしても人間の寿命からすれば老いぼれやろ

599：どこかの闇の名無しさん
五十年も引き籠もるとか魔界貴族でもやらねーぞ

600：どこかの闇の名無しさん
いや魔貴族はそれぐらいやる
あいつらただの穀潰しやし

601：どこかの闇の名無しさん
あら、聞き捨てならない書き込みがありますわね？

602：どこかの闇の名無しさん
>>600

家名を言いなさい
一族皆殺しにしますわよ

603：どこかの闇の名無しさん
税を重くして差し上げますわあゝ

604：どこかの闇の名無しさん

横暴すぎて草

605：どこかの闇の名無しさん

冗談でも怖い

606：どこかの闇の名無しさん

お嬢様部はマジでやめろ

607：どこかの闇の名無しさん

引きこもってた勇者が城内で子供作ったんじゃね

それなら寿命の問題は無視できる

608：どこかの闇の名無しさん

>>607

勇者の子は別に勇者じゃない定期

609：どこかの闇の名無しさん

勇者の貴重な産卵シーン

610：どこかの闇の名無しさん

きたない

611：どこかの闇の名無しさん

男の可能性もあるだろ

612：どこかの闇の名無しさん

勇者は男でも出産する可能性があるぞ

613：どこかの闇の名無しさん

(この) 上(なく下) 品だなあ

614：どこかの闇の名無しさん

勇者って卵生なん？普通に人間だと思ってたわ

615：どこかの闇の名無しさん

>>614

騙されるな

そもそも勇者には生殖機能が無いぞ

616：どこかの闇の名無しさん

勇者は挿し木で増やせるんだぞ

617：どこかの闇の名無しさん

夏場に常温で保存してたら繁殖して臭うらしい

618：どこかの闇の名無しさん
はえく勇者つてすつごい不思議な生き物……

619：どこかの闇の名無しさん
勇者の生態がメチャクチャになつてく流れすき

620：どこかの闇の名無しさん

生態どころか名前すら滅茶苦茶になつてる陰キヤとかいう男

621：どこかの闇の名無しさん
他に呼び名無いし

622：どこかの闇の名無しさん

他の勇者も大概やろ

623：どこかの闇の名無しさん

陰キヤは女だぞ

イツチが戦勝報告スレで言つてた

624：どこかの闇の名無しさん

>>623

「ウキウキ魔王様実況スレ」な

二度と間違えるな

625：どこかの闇の名無しさん

はい不敬

626：どこかの闇の名無しさん

>>624

通報した

震えて眠れ

627：どこかの闇の名無しさん

不敬の基準が厳しくなってるの草

【☆闇の眷属集まれっ！☆ミ】安価で四天王使って本土防衛するwww(2)

628:>>1

ま、どんだけ考えても確定できない部分は保険掛けつつやるしかないわ

割り切って立案すんで

こっちの出方としては単純に受けるか、こっちからも何か仕掛けるかって感じや

受けるだけなら人員に余裕あるし、向かって来る船団を全滅させてからじつくり城塞の調査する事もできるで

何か仕掛けるならいつそ防衛戦と同時やな。混乱に乗じて一気にやった方が成功率も高い気がするわ。チンタラやってて援軍に勇者でも来たら攻め切れなくなるからな

安価は例によって魔王様関係は全てNG

こっちも割と消耗してるから前回みたいなパワープレイじゃなくてインテリな作戦を一つ頼むわ

どうするか

>>675

629:どこかの闇の名無しさん
イクイク詐欺しろ

630:どこかの闇の名無しさん
なんでも良いから城塞は破壊しろ

631:どこかの闇の名無しさん
どうするか(適当)

632:どこかの闇の名無しさん
安価内容アバウト過ぎて草

633:どこかの闇の名無しさん
重要な所でフワフワするのやめーや

634:どこかの闇の名無しさん

普通に敵の侵攻受け止め切ってからカウンターでええやん
勝率を考えろ

635：どこかの闇の名無しさん
カウンターつつつても光の眷属も出兵してるからには何か策があるんやろ？

後手に回るのは怖くないか

636：どこかの闇の名無しさん
魔族の特性からしても短期決戦が常道だろ

守ってるだけじゃ援軍が来て相手の攻めが切れないぞ

637：どこかの闇の名無しさん
イツチの世界は相当な劣勢だしな

質の差はともかく数の差がヤバすぎる

638：どこかの闇の名無しさん
総力戦になったら消耗して負ける

魔族は黙って侵略あるのみ

639：どこかの闇の名無しさん
人神がさつきと人カスに全軍特攻させないの何でなん？

640：どこかの闇の名無しさん

>>>639

人カスは神に言われてもすぐには動かんし

641：どこかの闇の名無しさん
見える範囲が平和になったらすぐ保守的になるからな

滅亡寸前でもない限り一致団結なんてしないぞ

642：どこかの闇の名無しさん
仮に人間が全軍特攻してきたらどうすんの？

前例ある？

643：どこかの闇の名無しさん
そのための瘴気。あとそのための邪神様？

K（神降臨）！B（暴力）！S（世界滅亡）！

K（神降臨）！B（暴力）！S（世界滅亡）！って感じで
644：どこかの闇の名無しさん

やっぱ邪神様って最高だわ

645：どこかの闇の名無しさん

や邪N1

646：どこかの闇の名無しさん

だからこそ勇者は俺たち眷属で抑えないといけないんだゾ

647：どこかの闇の名無しさん

見えない所で仕事なされてる魔王様もちゃんと崇めろ

648：どこかの闇の名無しさん

ウチの魔王様めっちゃ前線で見るとだけど

649：どこかの闇の名無しさん

俺実は魔王様見たことない（小声）

650：どこかの闇の名無しさん

掲示板で見た

651：どこかの闇の名無しさん

肖像画で見た

652：どこかの闇の名無しさん

城塞が今まで放置できてるなら今回も攻めずに放っておいたら良

くね？

聖カスの研究が先だろ

653：どこかの闇の名無しさん

わざと上陸させてから野戦しようや

654：どこかの闇の名無しさん

海戦なら海獣で攻めたら楽勝やん

655：どこかの闇の名無しさん

ついに攻城兵器の出番ですわね！

656：どこかの闇の名無しさん

我が財閥のバリスタが火を噴きますことよ！

657：どこかの闇の名無しさん

真面目に考えろ（リマインド）

658：どこかの闇の名無しさん

上陸させてどうすんだ

659 : どこかの闇の名無しさん

>>653

わざわざ魔界に人カス入れる必要ないだろ
邪神様に怒られそう

660 : どこかの闇の名無しさん

上陸させてから無力化すれば奴隷にできるやん

海に捨てるよりお得意

661 : どこかの闇の名無しさん

非戦闘員ならともかく侵攻してくる奴なんか覚悟キマっちゃって
るだろ

隙あらば自殺するから奴隷として役に立たないぞ

662 : どこかの闇の名無しさん

奴隷とか言ってる場合か？

敵に城建てられてるんだが

663 : どこかの闇の名無しさん

城塞がなんだ実害はないぞ

664 : どこかの闇の名無しさん

実害しかねーだろ

665 : どこかの闇の名無しさん

五十年放置されてるんだよなあ

666 : どこかの闇の名無しさん

城塞落とせ

667 : どこかの闇の名無しさん

こつちも船だそう

668 : どこかの闇の名無しさん

船なんて出さなくても空飛ばせば良くね

669 : どこかの闇の名無しさん

防戦して研究

670 : どこかの闇の名無しさん

城塞落とす

671 : どこかの闇の名無しさん

イツチの自室うp

672：どこかの闇の名無しさん

城塞破壊する

673：どこかの闇の名無しさん

本土で防衛

674：どこかの闇の名無しさん

根流し

675：どこかの闇の名無しさん

魔王様うp

676：どこかの闇の名無しさん

普通に城攻めたら良いやん

聖女捕った今ならやれるやろ

677：どこかの闇の名無しさん

研究に全リソース吐いて欲しい

678：どこかの闇の名無しさん

攻めるしかねーだろアホ共

負ける気か？

679：どこかの闇の名無しさん

守って聖女の様子でも実況しようや

680：どこかの闇の名無しさん

全然関係ない敵拠点落とす

681：どこかの闇の名無しさん

海岸から敵城塞が見える状況なんて許せる訳ないよなあ？

682：どこかの闇の名無しさん

侵略してこそその魔族

683：どこかの闇の名無しさん

草

684：どこかの闇の名無しさん

城塞に四天王ぶっぱすれば墜とせるやろ

685：どこかの闇の名無しさん

無能

686 : どこかの闇の名無しさん
やったぜ。

687 : どこかの闇の名無しさん
は？

688 : どこかの闇の名無しさん
真面目にやれ

689 : どこかの闇の名無しさん
これ再安価？

690 : どこかの闇の名無しさん
草

691 : どこかの闇の名無しさん
よくやった

魔王様うp
692 : どこかの闇の名無しさん

残念だが安価失敗時は下だぞ
1スレ目でイツチが言ってたし

693 : どこかの闇の名無しさん
はい魔王様うp

694 : どこかの闇の名無しさん
豚ア！

695 : どこかの闇の名無しさん
正直そろそろ取るだろうとは思ってた

696 : どこかの闇の名無しさん
赤豚ア!!

697 : どこかの闇の名無しさん
だから真面目にやれって言ってるじゃねーか (憤怒)

698 : どこかの闇の名無しさん
安価下なら攻めやん

やったわ☆
699 : どこかの闇の名無しさん

城攻めでも良いけど魔王様は普通にうpして欲しい

700：どこかの闇の名無しさん
攻城戦しますよ〜するする…：ヌツ！

701：どこかの闇の名無しさん
普通に土の精霊突っ込んだら崩せそう

702：どこかの闇の名無しさん
海越しの攻城戦って全く想像つかんわ

703：どこかの闇の名無しさん
こっちも砲台建てれば良いやん

704：>>1
魔王様うpはしないつつってんだろ殺すぞ

ホンマに尊敬できるお方なんや

お前らも間近で魔王様の働きっぷりを拝見すればそういう浅慮な
書き込みはできんくなるで

あと良い匂いするし

安価失敗時は下のレスか再安価や。今回は下レスで成立するから
城攻めやな

四天王の回復待ちながら聖女弄くり回しても良かったけど、まあ魔
族は侵略してナンボやし安価通り攻めるで

次はどうやって攻めるかやな

敵の脅威度を詳しく知らんスレ民には具体的な立案は難しいと思
うが、考えるだけ考えてみてくれや

言い忘れてたけど、水の都で精霊が捕まってたのを考慮して土の精
霊を先鋒として出すのはNGとするで

あと人の四天王と幻の四天王は城塞の調査に出してるから使えん
どうやって攻めるか

>>835
ちよつとトイレ行くから安価遠めにしとくで

705：どこかの闇の名無しさん
は？

706：どこかの闇の名無しさん
魔王様は？

707 : どこかの闇の名無しさん
魔王様の匂いを具体的に報告しろ
708 : どこかの闇の名無しさん
は？
709 : どこかの闇の名無しさん
尊敬しててもうpはしろ
710 : どこかの闇の名無しさん
魔王様うpして？（殺意）
711 : どこかの闇の名無しさん
トイレうp
712 : どこかの闇の名無しさん
安価遠すぎて草
713 : どこかの闇の名無しさん
じゃあ四天王うp
714 : どこかの闇の名無しさん
不満タラタラで草
715 : どこかの闇の名無しさん
浅慮な書き込み（魔王様の匂い報告）
716 : どこかの闇の名無しさん
一番書き込みが浅慮な参謀様に言われてもね……
717 : どこかの闇の名無しさん
魔王様うpは無しって公言されてたからな
潔く諦めろ
718 : どこかの闇の名無しさん
でも魔王様見たい……見たくない？
719 : どこかの闇の名無しさん
見たいですねえ！（血涙）
720 : どこかの闇の名無しさん
だめです
721 : どこかの闇の名無しさん
フェアリーの事を幻の四天王って言うの何なん

妖精の四天王でええやん
722：どこかの闇の名無しさん
土の精霊無しでどうやって城攻めすんだよ
723：どこかの闇の名無しさん
精霊捕まえる魔道具とか複数あつたりすんの？
724：どこかの闇の名無しさん
万が一を考えてでしよ
725：どこかの闇の名無しさん
>>721
イッチのネーミングセンスやろ
726：どこかの闇の名無しさん
>>721
他のフェアリーと区別するためやろ
種族名にしたら被るやん
727：どこかの闇の名無しさん
城攻めは四天王パツとやってドーンすればええねん
728：どこかの闇の名無しさん
先鋒として使える四天王が炎と闇だけなの草
729：どこかの闇の名無しさん
本土防衛をケチるな
730：どこかの闇の名無しさん
人数は水の都の時と大して変わってなくね
731：どこかの闇の名無しさん
四天王二人つてだけで本来なら十分多いだろ
732：どこかの闇の名無しさん
今回はイッチの後任もいるからな
むしろ手数は増えてると言える
733：どこかの闇の名無しさん
じゃあやっぱ根流しだな
734：どこかの闇の名無しさん
それはない

735：どこかの闇の名無しさん
じゃあつてなんだよ

736：どこかの闇の名無しさん
根流し万能説やめろ

737：どこかの闇の名無しさん

攻城戦に根流しは無理がある

738：どこかの闇の名無しさん

敵に勇者か聖女がいれば根流しで駆除できるんだけど今回はいな
いからな

739：どこかの闇の名無しさん

でも根を流したら水の都落ちたんだし城塞もいけるんじゃね

740：どこかの闇の名無しさん

やっぱり魔界伝統の根流しを……最高やな！

741：どこかの闇の名無しさん

嘘だゾ絶対再安価になるゾ

742：どこかの闇の名無しさん

マジで根流しの歴史改竄されてて草

743：どこかの闇の名無しさん

お前らは早く根流しの夢から醒めろ

744：どこかの闇の名無しさん

時間かかるから再安価路線はやめろ

明日早いんじゃ

745：どこかの闇の名無しさん

勇者いないなら普通に正面突破すればいいんじゃねーの？

Power is GOD

746：どこかの闇の名無しさん

勇者の在否は確定してないぞ

747：どこかの闇の名無しさん

それ言い出したら何も出来なくなる

748：どこかの闇の名無しさん

正面から四天王突っ込むだけで落とせるなら五十年も放置してな

いよなあ？

749：どこかの闇の名無しさん
そうだよ

絶対砲台と結界以外にも武装あるわ

ヘイト企業イツチは城塞の情報を開示しろ！

750：どこかの闇の名無しさん

一回遠くに上陸してから野戦すれば良い

あのタイプの砲台って真後ろには攻撃できないだろ

751：どこかの闇の名無しさん

海沿いなんだし上陸して裏とって補給線断ったら勝ちじゃね

752：どこかの闇の名無しさん

そういう戦いじゃないだろ

周り全部敵地なんだから悠長な事やってたら増援来るぞ

753：どこかの闇の名無しさん

勇者のフットワーク軽そうだしな

754：どこかの闇の名無しさん

尻軽なのは陰キャだけじゃね

単身で幹部の前に出てくる行動力よ

755：どこかの闇の名無しさん

せつかち過ぎる

756：どこかの闇の名無しさん

ホモはせつかち

757：どこかの闇の名無しさん

陰キャはホモだった……？

758：どこかの闇の名無しさん

あら

759：どこかの闇の名無しさん

いいですわゾ

760：どこかの闇の名無しさん

百合豚は帰って、どうぞ

761：どこかの闇の名無しさん

>>760

は？殺すぞ

NLなんて今日日流行んねえんだよボケが

762：どこかの闇の名無しさん

性癖談義になると一瞬で殺伐とするのすき

763：どこかの闇の名無しさん

陰キヤもだけど、泉に來た勇者も到着かなり早かったじゃん

764：どこかの闇の名無しさん

なんか厄介な魔道具でも持ってんじやねーの光カス

離れた場所の状況が分かるとか

765：どこかの闇の名無しさん

確かに

勇者多いのは分かるが、それにしても援軍が早い気がする

766：どこかの闇の名無しさん

こっち側にスパイでもいたりして

767：どこかの闇の名無しさん

間→諜←つてのはやった事ある？

768：どこかの闇の名無しさん

水の都には聖カスがいたんだし勇者が近くに張ってても普通じゃね？

769：どこかの闇の名無しさん

間諜いるとしたら怪しいのは人の四天王でしょ

※この書き込みは魔王様のご判断を否定するものではありません。

770：どこかの闇の名無しさん

イツチやろ

771：どこかの闇の名無しさん

イツチだったらヤバすぎる

772：どこかの闇の名無しさん

参謀がスパイはマジで終わってるのでNG

773：どこかの闇の名無しさん

光の眷属が掲示板見てる説

774：どこかの闇の名無しさん
その話やめろ

775：どこかの闇の名無しさん

>>773

出たな異端者

論理的に説明してみろや

776：どこかの闇の名無しさん

悪魔の証明させられるぞ

相手するだけ無駄

777：どこかの闇の名無しさん

どうやって光の眷属が邪神様ネットワークに接続するんだよ

778：どこかの闇の名無しさん

それももう半分闇の眷属だろ

779：どこかの闇の名無しさん

完全に闇の眷属でしかありえないんだよなあ……

780：どこかの闇の名無しさん

それ以前に掲示板で同じ世界の奴とカチ合った前例が無いってそ

れ一番言われてるから

781：どこかの闇の名無しさん

じゃあもうスパイしかないじゃん

782：どこかの闇の名無しさん

だから魔道具だろって

783：どこかの闇の名無しさん

ワイの世界では主要な都市同士はリアルタイムで通信できるよう

になつとるで

イッチの世界よりちよつと進んでると思う

784：どこかの闇の名無しさん

文明レベルマウントやめろ

785：どこかの闇の名無しさん

さつき隣の都市にお手紙を出したワイ、低みの見物

786：どこかの闇の名無しさん

>>785

郵便制度があるだけマシ

787：どこかの闇の名無しさん

お嬢様部は狼煙あげて連絡取り合ってそう

788：どこかの闇の名無しさん

お嬢様部はまず火の使い方が分からないから

789：どこかの闇の名無しさん

話逸れすぎやろ

790：どこかの闇の名無しさん

安価遠いし多少はね？

791：どこかの闇の名無しさん

お嬢様馬鹿にすんな

最近山火事の火を取っておく事を覚えたんだぞ

792：どこかの闇の名無しさん

お嬢様は最近石斧を使った狩りを覚えたぞ

793：どこかの闇の名無しさん

イッチのトイレ長すぎん？

794：どこかの闇の名無しさん

絶対もう戻ってて酒飲んでるわ

前科あるし

795：どこかの闇の名無しさん

もし安価取れたらワイも酒飲むわ（早朝勤務）

796：どこかの闇の名無しさん

はよ寝ろ

797：どこかの闇の名無しさん

絶対後悔するからやめとけ

798：どこかの闇の名無しさん

今回こそスナイプ決めたるわ

799：どこかの闇の名無しさん

そろそろだぞ

800：どこかの闇の名無しさん

魔王様うpでグダるのだけは絶対にやめろ
801:どこかの闇の名無しさん
なんとしても魔王様うpさせろ
802:どこかの闇の名無しさん
二つの思惑が交錯するの草
803:どこかの闇の名無しさん
お前らがいくら騒いでも魔王様がうpされる事は無いんじやぞ
実に空虚じやありませんか？
804:どこかの闇の名無しさん
やめやめろ
805:どこかの闇の名無しさん
うp要望するなら四天王で妥協しろ
806:どこかの闇の名無しさん
四天王の画像はもうあるじゃん
次は後任者をうpしてもらってwikiを充実させるんだ
807:どこかの闇の名無しさん
妥協先が四天王なの草
リアルではそういうの絶対言うなよ
808:どこかの闇の名無しさん
俺が安価取ってやるから安心しろよ
野戦！野戦！野戦！（素振り）
809:どこかの闇の名無しさん
根流し！根流し！（素振り）
810:どこかの闇の名無しさん
真面目にやれ
811:どこかの闇の名無しさん
野戦はまだマトモな気がする
812:どこかの闇の名無しさん
魔王様うp以外ならイチが適当に肉付けしてくれるから大丈夫
813:どこかの闇の名無しさん
最終的に魔王様に承認いただく必要あるしな

変な作戦にはなりようがない

814：どこかの闇の名無しさん
それもそうか

魔王様うp！魔王様うp！魔王様うp！（素振り）

815：どこかの闇の名無しさん
死ね

816：どこかの闇の名無しさん
明日遅刻したら責任取れよ

817：どこかの闇の名無しさん
お前はさつきと寝ろ

818：どこかの闇の名無しさん
裏取り上陸サポーターになって野戦、しよう！（直球）

819：どこかの闇の名無しさん
船に聖女載せて体当たりしようや

820：どこかの闇の名無しさん
急に流れ遅くなるの草

安価狙いすぎやろ
821：どこかの闇の名無しさん
しゃーない加速したる

822：どこかの闇の名無しさん
加速したる

823：どこかの闇の名無しさん
加速したる

824：どこかの闇の名無しさん
精霊で城塞ごと海に落とす

825：どこかの闇の名無しさん
船団の軍船を乗っ取って城塞のドックに入る

826：どこかの闇の名無しさん
加速したる

827：どこかの闇の名無しさん
地震の津波で押し流す

- 828：どこかの闇の名無しさん
炎で海を干上がらせる
- 829：どこかの闇の名無しさん
魔王様うp
- 830：どこかの闇の名無しさん
砲台に幻術かける
- 831：どこかの闇の名無しさん
魔王様にご出陣願おうや
- 832：どこかの闇の名無しさん
聖カスに爆弾仕掛けてから返す
- 833：どこかの闇の名無しさん
舌戦で敵将を城塞から引きずり出す
- 834：どこかの闇の名無しさん
攻め込むように見せかけて待機して勇者を狩る
- 835：どこかの闇の名無しさん
戦の花形は遠投投石機ですわよ！
- 836：どこかの闇の名無しさん
攻城戦には攻城兵器と大昔から決まっているわ！
じいや、雲梯を持ちなさい！
- 837：どこかの闇の名無しさん
まじつ？砲台など竹束で防いでしまえばよろしい
- 838：どこかの闇の名無しさん
城なんて破城槌でコツンとやればイチコロですことよ
- 839：どこかの闇の名無しさん
海獣をドック入りさせる
- 840：どこかの闇の名無しさん
聖女囀にして敵指揮官釣る
- 841：どこかの闇の名無しさん
海中トンネル掘る
- 842：どこかの闇の名無しさん
城塞の地下を削り取る

843 : どころかの闇の名無しさん
はえーよ

844 : どころかの闇の名無しさん

【悲報】ホセ、早すぎる

845 : どころかの闇の名無しさん
草

846 : どころかの闇の名無しさん

フアーw w w w w

847 : どころかの闇の名無しさん

お嬢様部で草

848 : どころかの闇の名無しさん

草

849 : どころかの闇の名無しさん

あのさあ……

850 : どころかの闇の名無しさん

途中から静かになったと思ったらこれだよ (呆れ)

851 : どころかの闇の名無しさん

魔界貴族ほんときらい

死ね (直球)

852 : どころかの闇の名無しさん

ですわゾですわゾ言ってるガバガバ自称お嬢様に負けた奴ら w w

w w

853 : どころかの闇の名無しさん

これ再安価じゃねーの

854 : どころかの闇の名無しさん

なんだこのおばさん!?! (驚愕)

855 : どころかの闇の名無しさん

さっさと廃部にしろ

856 : どころかの闇の名無しさん

ブーイングの嵐で草

857 : どころかの闇の名無しさん

歯磨いてたらとんでもない事になってて草

858 : どこかの闇の名無しさん
やらかしてんなあ

859 : どこかの闇の名無しさん
これどうなんの

860 : どこかの闇の名無しさん
イツチはよ

861 : どこかの闇の名無しさん
他にも結構ヤバめな作戦あるぞ

全体的に反省しろ

862 : どこかの闇の名無しさん
舌戦はアホすぎる

863 : どこかの闇の名無しさん
雲梯が一番ヤバいわ

勝つ気ないやん

864 : どこかの闇の名無しさん
ポセイドンが安価に参加してるのすき

865 : どこかの闇の名無しさん
聖女返すのすき

実際にやって欲しい

866 : どこかの闇の名無しさん
聖カス手放したら研究どうすんだよ

867 : どこかの闇の名無しさん
面白けりやいいだろ

868 : どこかの闇の名無しさん
そうだよ

869 : どこかの闇の名無しさん
魔族は快樂主義

870 : どこかの闇の名無しさん

>>867

これは模範的魔族

871：どこかの闇の名無しさん
あまりに短絡的過ぎる
872：どこかの闇の名無しさん
そもそも聖カスって返品できるん？
873：どこかの闇の名無しさん
サイズキツくて合わなかったって言えば返せるぞ
874：どこかの闇の名無しさん
ちゃんとレシート保管してあるか？
875：どこかの闇の名無しさん
聖女のどこがサイズ合わなかったんですかねえ（ゲス顔）

…

1228：どこかの闇の名無しさん
全然イッチ帰ってこなくて草
1229：どこかの闇の名無しさん
いつまでトイレ行ってるんだ
1230：どこかの闇の名無しさん
これで寝てたらマジで笑う
1231：どこかの闇の名無しさん
いや寝てるだろ
1232：どこかの闇の名無しさん
もう酒取り上げろよ
1233：どこかの闇の名無しさん
イッチスヤスヤで草
1234：どこかの闇の名無しさん
今オツズどうなってる？
1235：どこかの闇の名無しさん
逆に起きてたら説明つかねーわ

1 2 3 6 : どこかの闇の名無しさん

魔王城が広すぎる説

1 2 3 7 : どこかの闇の名無しさん

トイレの途中で会った知り合いと話し込んでんじやね

1 2 3 8 : どこかの闇の名無しさん

魔王様の前で掲示板に書き込むような思考力お化けが知り合いと話す程度で頭いっぱいになると思うか？

1 2 3 9 : どこかの闇の名無しさん

でも酒飲んでるしなあ

1 2 4 0 : どこかの闇の名無しさん

話しててそのまま忘れたんでしょ

1 2 4 1 : どこかの闇の名無しさん

寝てる方に明日のおやつ賭けるわ

1 2 4 2 : どこかの闇の名無しさん

おイツチ様が寝てる方に使用人の首を賭けますわよ！

1 2 4 3 : どこかの闇の名無しさん

お前の首を賭けろ

1 2 4 4 : どこかの闇の名無しさん

>>>1 2 4 2

お前が死ね

1 2 4 5 : どこかの闇の名無しさん

マジで忘れてるなら記憶力ヤベーよな

1 2 4 6 : どこかの闇の名無しさん

参謀なんだし頭は切れる筈なんだけどなあ

1 2 4 7 : どこかの闇の名無しさん

立てたスレを一時間で忘れた男

1 2 4 8 : どこかの闇の名無しさん

投石機から逃げ出した男

1 2 4 9 : どこかの闇の名無しさん

トイレで一晩中排泄し続けた男

1 2 5 0 : どこかの闇の名無しさん

部下に悪口で泣かされた男

1251：どこかの闇の名無しさん

部下を寝取られた男

1252：どこかの闇の名無しさん

水遊びして作戦を遅らせた男

1253：どこかの闇の名無しさん

擁護0人

1254：どこかの闇の名無しさん

スレを重ねる毎に蔑称が増えるの好き

1255：どこかの闇の名無しさん

二つ名が不名誉すぎて草

1256：どこかの闇の名無しさん

一晩中排泄したら流石に幹部でも脱水症状で死ぬやろ……

1257：どこかの闇の名無しさん

>>1256

死なないぞ

排泄物はHOP—UPしてるからな

1258：どこかの闇の名無しさん

まあ幹部自体物理法則を無視してる側面もあるから

1259：どこかの闇の名無しさん

>>1258

違う

1260：どこかの闇の名無しさん

>>1258

違う

1261：どこかの闇の名無しさん

>>1258

違う

1262：どこかの闇の名無しさん

なんか嫌な人ばかりだ

…

2269 : どこかの闇の名無しさん
だから触手は細い方がいいつつつてんじゃねーか分かんねえ奴だ
な

2270 : どこかの闇の名無しさん
お話にならなくて草

太さに包容力を感じるんだろうがカス

2271 : どこかの闇の名無しさん

もう朝だぞ

2272 : どこかの闇の名無しさん

お前からまだやってんのか

2273 : どこかの闇の名無しさん

おはよう

ちよつと光の眷属ブチ殺してくるわ

2274 : どこかの闇の名無しさん

全くスレに進展なくて笑える

2275 : どこかの闇の名無しさん

イツチ結局帰ってこなくて草

夜の空には青い星が輝いていた。

「ほ、ほんとっ?! いくー! 私が行くわっ!」

「ヒヒヒ！ やっぱりやっぱり、そう言うと思っただ！」

幻想界。高貴な一族のみが住むことを許される広大な森林群——
ブリヤン・ボア。

その中でも特に強い幻想と童心を蓄えているのは、天と地を実際に結ぶ巨大な樹木。幻想の民の中でも一定数しか実態を捉える事のできないその大樹は世界の中心であるとされ、そのまま『幻想樹』と呼ばれている。

樹の中腹に作られた、本来ただ一人しか立ち入る事のできないはずの一室。今宵、そこには妖精の王とその友人がいた。

「それでそれで？ いつくらいに来られそう？ 明日とか？」

「あのね……そんなに早く行ける訳ないでしょ!？」

美しく透き通った羽を広げ、くるくると回りながら王に問うのは紫のワンピースを揺らす少女。上司からの命を受け、その期待に答えるべく帰郷している魔王軍の四天王だ。

そんな姿を見て目を吊り上げているのはブロンドの長髪に小さな花冠を乗せた少女。妖精にしてはやや長身の彼女は、自分の前でも普段の調子を崩さない友人の振る舞いに内心で溜息を吐きつつ、腰に手を当てて出来の悪い子供を叱るように声を張る。

「妖精王にだって引き継ぎくらいあるんだから！ あんたも知ってるでしょ!？」

「引継ぎ？ へえ、引継ぎ……ああそっか！ 前回無かったから忘れてたっ！」

「笑い事じゃないっての！ そんな事だから勘当されんのよっ！ この妖精殺し！ イ族の恥！ 五枚羽！ 色ボケ妖精！」

「ヒヒ……言い過ぎィ！」

旧友の明け透けな言動がよほど腹に据え兼ねたか、妖精の王はプリプリと頬を膨らませつつ目の前の少女をありつたけの蔑称で罵る。

その辛辣な発言にショックを受けた風あとずさに後退ってみせた紫髪の妖精はしかし、心底楽しそうに笑いながら小さな手をぱたぱたと動かし

た。
「それに、私はもうイ族じゃなくてチ族のナトトだよ。チ族チ族。み

んなに頭を下げなきや駄目なんだ！ あは！」

「……それだつて私は認めてないからね。王が認めてないんだもの、無効よ無効っ！」

「そお？ ま、私はどっちでもいいけどね。こっちの決まり事なんて、今はもう全くもって興味ない！ これからは現界であの方の役に立って、いっぱい褒めて貰うんだア………ぐひ……うへっ！ ……うへへへへへへ………！」

「ぎ、キモッ………！」

妄想の世界にトリップする友人を見て、そのあまりの気味悪さに今度は妖精王が後退る番となった。

あの恩人に褒めて貰えるのは確かに素晴らしい体験だろうが、こうも変態的な姿を見せてしまったのは相手もドン引きだろう。目の前の妖精が一人で勝手に気味悪がられるだけならまだ良いが、不快過ぎて除名されるとなれば話が大きく変わってくる。そんな人材を輩出してしまった幻想界そのものの品格を疑われかねない。

「……ま、今回は私が行くんだから問題は無いか。全く、最初からそうしておけば良かったわ」

「へへえ？ 私に負けた癖によく言う、よく言う！ よく言った！」

「うるっさいわねえ！ あんたがもう少しまともな妖精なら私が勝ってたわよ！ 槍も、弓も、笛も！ 私の方が上手かったじゃない！」

嘲るような物言いに憤った妖精の王は、声を荒げつつ虚空から武器を取り出し、叩きつけるようにテーブルに並べていく。夜の花で作られた細槍、朝の花で作られた剛弓、世界樹から産み落とされた戦笛。雑に扱われてはいるものの、それらは間違いなく超自然によつて齎もたらされた奇跡であり、こと幻想の世界では持ち主の勝利を約束する強力な品々だ。

「エヘー！ 私なんかには武術で勝つても自慢になりやしないって！ でも？ でもでもでもー？ 結局選ばれたのは私！ 妖精王になったのはネネイ！ それが現実ッ！ ざんねんでした〜！ ……プッ！ アハハ！」

「……とっつっても腹が立ったわ。この作戦で活躍して、あんたと成

り代わってやるから覚悟しときなさい」

「ぶへ。頼もしい頼もしい。うまくやっつてご褒美いっぱい貰えるといねえ！」

「べ、別に私は褒美なんて……その、例えば何よ？ あんたはいつも何を貰ってるわけ？」

「え、私？」

腕を組んで顔を逸らし、何でもない風を装いつつ問いかける妖精王。しかし、声を上擦らせている様子からは強い興味が見て取れる。

一回り小さな妖精はその質問を予測していなかったのか、三日月のように歪めていた口を戻して目を数度瞬いた。

「……」

「……え？ なに？ なんなの？ あんた、まさか変なもの要求したりしてないでしょうね……？」

「……頭を、撫でて貰ったり……？ へ、へへっ……」

「はあっ!? ツ……他には!?」

「……羽を、梳いて貰ったり？ したりした……かな？ うへ、うへへへへ……!」

「なっ……なんっ……!? ??? な、馬鹿なの？ 恩人に何させてんのよっ!?!」

「ひ、ひひひ……ほ、ホラ、羽を梳くのなんて現界じゃ深い意味のない行為だから！ ただのスキンシップだから！ 私、こっちの仕来りしきたりなんてもう忘れちゃった！ 何も知らないっ!! この話はここまですっ!」

「な……何も無知知らない相手シチュに……!? へ、変態ツ！ 変態ツ！ 変態ツ！」

「アツハハ！」

顔を真っ赤に染め、毛を逆立てながら激しく罵る妖精王。そんな彼女を指差して、魔王軍の幹部は心からの笑顔で笑い転げた。

久しく経験していなかった友人との心休まる時間。こちらの世界では誰もが当然のように過ごしている幸せなひと時。

しかしその微睡のような温もりに足を取られる事なく、妖精は再び

現界——戦の地へと舞い戻る。ただ勝利のために。今度は友人を誘って。

夜の空には青い星が輝いていた。

【闇の眷属集合】 四天王で本土防衛2

1：どこかの闇の名無しさん
前スレ

「リンク」
の続きやで

昨日はすまんな

安価の結果、敵城塞に対し投石機で攻撃を仕掛ける事になったで
色々言いたい事はあるが、取り敢えず先にスレ立てとくわ

2：どこかの闇の名無しさん
始まったな

3：どこかの闇の名無しさん
性懲りもなく現れて草

4：どこかの闇の名無しさん
今日の性癖暴露会場ここか

5：どこかの闇の名無しさん
それほど悪いと思つてなさそうで草

6：どこかの闇の名無しさん
色々言いたい事はあるが（不満気）

7：どこかの闇の名無しさん
言いたい事があるのはこっち定期

8：どこかの闇の名無しさん
どんな顔してスレ立ててんだろ

9：どこかの闇の名無しさん
半笑いで鼻ほじりながらスレ立ててそう

10：どこかの闇の名無しさん
参謀様オツスオツス

11：どこかの闇の名無しさん
投石機は再安価じゃないのか（呆れ）

12：どこかの闇の名無しさん
マジで投石するつもりで草

13：どこかの闇の名無しさん
投石機が刺されれば城なんて楽勝ですわよ
今回でそれを証明して見せますわ

14：どこかの闇の名無しさん

>>>13

証明するのはお前じゃない定期

15：どこかの闇の名無しさん

失敗したらお嬢様部は廃部にしろ

16：>>>1

まず昨晚ワイが離席した件やけど、部屋に戻る途中で例の後任者が
顔合わせに来たから対応してたんや

急遽場を設けたり魔王様にお声がけしたり大変やったでホンマ

17：どこかの闇の名無しさん

ほんとお？

18：どこかの闇の名無しさん

ぜってー嘘だわ

19：どこかの闇の名無しさん

【悲報】 イツチ、寝てなかった

20：どこかの闇の名無しさん

また大穴で草

21：どこかの闇の名無しさん

寝てないのかよ

22：どこかの闇の名無しさん

寝てる方に賭けたんだが？

金返せ

23：どこかの闇の名無しさん

優先したのか……？ 俺ら以外の奴を……

24：どこかの闇の名無しさん

お前に優先されるのは、俺だと思ってた

25：どこかの闇の名無しさん

今夜は、安価したくない

26：どこかの闇の名無しさん
安価はもう終わったんだよなあ……

27：どこかの闇の名無しさん
現実より掲示板優先する奴なんかおらんやろ……

28：どこかの闇の名無しさん
おっそうだな

29：どこかの闇の名無しさん

魔王様より掲示板優先した参謀がいるんだよなあ

30：どこかの闇の名無しさん
後任者うp

31：どこかの闇の名無しさん

わざわざ魔王様に会わせるって事はもしかして後任者はお偉いさん？

32：どこかの闇の名無しさん

魔王側近より上なんていねーだろ

33：どこかの闇の名無しさん

イツチ自ら対応してる所からしてある程度地位のある奴なんじゃね

34：どこかの闇の名無しさん

力のある貴族とかかも

35：どこかの闇の名無しさん

高名な貴族ならありえるのか？

それにしても大事になったっぽいけど

36：どこかの闇の名無しさん

次の前線指揮官やぞ

誰であっても魔王様はご確認されるやろ

37：どこかの闇の名無しさん

お嬢様部だったら笑うわ

38：どこかの闇の名無しさん

もしお嬢様部なら安価の責任を取らせろ

39：><1

前々スレあたりから邪推してる奴がおるけど、ワイが前回の戦勝報告スレで魔王様のご様子を実況したのはお前らに魔王様の素晴らしさを説いてやるためであって、決してその場を蔑ろにしていた訳やないから誤解しないように

顔合わせが大事になったのはその後任者が妖精王やからや

幻想界という一世界の王である事を考えるとその立場は魔王様と同等とも取れるからな

ワイも膝突いてペコペコしてたで

やめろって言われたけど

40：どこかの闇の名無しさん

弁明見苦しいぞ

41：どこかの闇の名無しさん
草

42：どこかの闇の名無しさん

妖精王草

43：どこかの闇の名無しさん

どんな理由があろうと魔王様の御前で掲示板に書き込んだのは事実なのでは？

44：どこかの闇の名無しさん

†悔い改めて†

45：どこかの闇の名無しさん

妖精王ってなに？

46：どこかの闇の名無しさん

まーたこれだよ

47：どこかの闇の名無しさん

クソみたいに大物で草

48：どこかの闇の名無しさん

感覚麻痺してきた

49：どこかの闇の名無しさん

フェアカスが前線指揮官なのか……（呆れ）

50：どこかの闇の名無しさん

羽虫って王政なん？

51：どこかの闇の名無しさん

王が外に出てきてて草

52：どこかの闇の名無しさん

幻想界はもう滅茶苦茶

53：どこかの闇の名無しさん

王が別世界の前線に配属されるとはたまげたなあ

54：どこかの闇の名無しさん

あいつらそれでいいのか

たまげたなあ

55：どこかの闇の名無しさん

たまげるな

56：どこかの闇の名無しさん

勝手にたまげてろ

57：どこかの闇の名無しさん

他のフェアカスもよく許したな

58：どこかの闇の名無しさん

定期的に爆弾投下するのやめろ

59：どこかの闇の名無しさん

世界主を引っ張ってこれるのヤバすぎでしょ

60：どこかの闇の名無しさん

一部のフェアリーが魔王軍に協力してるんじゃないやなくて幻想界が丸

ごと味方だったのか（困惑）

61：どこかの闇の名無しさん

世界一つ味方とか、これももう戦争勝ったようなモンやろ

劣勢？あつ………（察し）

62：どこかの闇の名無しさん

>>>61

羽虫がどれだけでも大して役に立たない事が証明されてしまっ

たな

63：どこかの闇の名無しさん

やっぱり魔族がナンバーワン！

64：どこかの闇の名無しさん

亜人研究スレの連中が湧いてきそう

65：どこかの闇の名無しさん

いつになくスレが興味深い内容になってる

66：どこかの闇の名無しさん

イツチの弁明誰も聞いてなくて草

67：どこかの闇の名無しさん

漢イツチ、妖精王に話題性を譲る

68：>>1

ご本人曰く、次の妖精王やりたい奴を募ったら何人か手を上げたんやけど、幻想樹（こつちで言う邪神様みたいな存在？）が難色示したから代替わりは保留にしたらしい

でも引き継ぎ自体は済ませたから離れても問題ないって言っとつた（謎）

かなり不安な発言やけど、まあ別世界の流儀にこつちの常識で口出しすんのも失礼な事やし魔王様もまあええかって反応やったわ

最終どうするかは作戦の内容次第で決めようと思う

69：どこかの闇の名無しさん

適当やな

70：どこかの闇の名無しさん

ガバガバすぎる

71：どこかの闇の名無しさん

模範的フェアリー

72：どこかの闇の名無しさん

飽きたら持ち場から消えそう

73：どこかの闇の名無しさん

絶対蒸発するわ

74：どこかの闇の名無しさん

あまりにも雑

75：どこかの闇の名無しさん

王っていつでも所詮は妖精だからな
おつむはお察し

76：どこかの闇の名無しさん
これには魔王様も苦笑い

77：どこかの闇の名無しさん
魔王様の反応で草

78：どこかの闇の名無しさん
樹が神代わりとかシケた世界やな

79：どこかの闇の名無しさん
幻想樹燃やして遊ぼうや

80：どこかの闇の名無しさん
幻想樹伐採して？

81：どこかの闇の名無しさん
＜＞79―80

世界丸ごと敵に回していくスタイル嫌いじゃないよ
82：＜＞1

兎も角、これで防衛線に関してはある程度安心できたわ
妖精王はあつちの世界から部下呼び出せるからな

正直ワイが兼任してた時と比べて格段に層に厚みが出たで
問題は攻城戦や

投石機使うのははまだ良いとして、使える手駒が少ないのが厳しい
ガツチリ固められて消耗戦になったら攻めきれんかも知れん

ちよつと考えるで
83：どこかの闇の名無しさん

投石機はいいのか（呆れ）
84：どこかの闇の名無しさん

投石機よくて草
85：どこかの闇の名無しさん

これにはお嬢様もニツコリ
86：どこかの闇の名無しさん

【悲報】投石機、許される

87：どこかの闇の名無しさん

『まだ』良いという言い方から不満が読み取れるの草

88：どこかの闇の名無しさん

(不満なのは) 当たり前だよなあ？

89：どこかの闇の名無しさん

おイツ子様は熱意が伝わったようですねによりですわ！

90：どこかの闇の名無しさん

後ほど自家自慢の遠投投石機の設計図を差し上げますわよ

91：どこかの闇の名無しさん

正直攻城兵器はロマンある

92：どこかの闇の名無しさん

ロマンで戦争は勝てない件

93：どこかの闇の名無しさん

イツチが投石機で城落とせない前提で悩んでるの笑う

94：どこかの闇の名無しさん

ほんまや草

95：どこかの闇の名無しさん

落とせる訳ないんだよなあ

96：どこかの闇の名無しさん

投石機で攻撃します！って内容だけで魔王様から承認貰える訳な

いよな

別の手も用意しないと

97：どこかの闇の名無しさん

いうて手駒とか簡単に増やせるモンやないしなあ

98：どこかの闇の名無しさん

またドラゴン使おうや

前回もいい感じやったし

99：どこかの闇の名無しさん

こんな短いスパンでドラゴン使い潰してたら後々ヤバくならない

？

100：どこかの闇の名無しさん

水の都で壁にしたドラゴンは死んでない定期

101：どこかの闇の名無しさん

ドラゴンなんて二百年くらい待てば新しいの育ってるやろ

102：どこかの闇の名無しさん

光カスが二百年も待ってくれる訳ねーだろ

103：どこかの闇の名無しさん

妖精王うp

104：どこかの闇の名無しさん

前回と違ってこつちが最初から消耗してるのがキツイわ

105：どこかの闇の名無しさん

まあ魔力なんてすぐ回復するもんじゃないし

106：どこかの闇の名無しさん

>>105

魔力量雑魚のワイ、毎日魔力が全快してしまう

107：どこかの闇の名無しさん

少ねえ

普通三日はかかるだろ

108：どこかの闇の名無しさん

三日とかどんだけだよ

109：どこかの闇の名無しさん

魔力多いだけの雑魚ってこの話題になるとすぐシュバって来るよ

な

110：どこかの闇の名無しさん

魔力量に自信ニキおるやん

111：どこかの闇の名無しさん

普通三日はかかるだろ（メガネクイツ

112：どこかの闇の名無しさん

なお四天王の魔力は未だに全快しない模様

113：どこかの闇の名無しさん

深く考えずに投石機で援護しながら炎と闇突っ込んだら駄目なん

？

114：どこかの闇の名無しさん
あつちからの砲撃はどうすんだよ
115：どこかの闇の名無しさん
全戦力を城攻めに使うのは怖すぎる
116：どこかの闇の名無しさん
妖精達が本当に敵軍抑え込めるのかも怪しいしな
バックアップは必要

117：どこかの闇の名無しさん
波状攻撃されるのが嫌なら一気に全軍釣り出してやればええやん
まとめて焼き払えば魔力消費も抑えられるやろ

118：どこかの闇の名無しさん
どうやって釣り出すんだよ

119：どこかの闇の名無しさん
全軍一気に出てこれたら普通に力負けしそう

120：どこかの闇の名無しさん
いや城一つ程度の総力戦なら勝てるやろ
幹部舐め過ぎ

121：どこかの闇の名無しさん
今回は勇者もいないし楽勝でしょ

122：どこかの闇の名無しさん

>>118

聖女を囮にしておびき出せばいい

123：どこかの闇の名無しさん

そもそも城塞建ってるのが聖カスのせいやし囮にするのは有りや

な

124：どこかの闇の名無しさん

聖カスへの責任追求路線すき

125：どこかの闇の名無しさん

聖女の研究する気なくて草

126：どこかの闇の名無しさん

爆弾仕込んでクーリングオフや

まだ間に合う

127：どこかの闇の名無しさん

もう開封済みだから返品できないぞ

128：どこかの闇の名無しさん

ちゃんと聖女研究しろ

そして情報共有しろ

129：どこかの闇の名無しさん

ガンガン腕とか脚を切り取る際どい実験して、

女神から捨てられて聖女じゃなくなつてから囮に使えばいい

聖女かと思つて助けたら爆弾仕込まれたただの人間つて寸法や

130：どこかの闇の名無しさん

天才おるやん

131：どこかの闇の名無しさん

畜生すぎて草

132：どこかの闇の名無しさん

>>129

これは模範的魔族

133：どこかの闇の名無しさん

切つてよし、実験してよし、返品して良しの三方良しやね

134：どこかの闇の名無しさん

一粒で三度美味しくて草

135：どこかの闇の名無しさん

感動した

136：どこかの闇の名無しさん

妹の病気が治つた

137：>>1

盛り上がつてる所悪いが、聖女を囮兼爆弾にするのは無しや

持つてるだけで有利な駒なんやし長期的に見ても研究に使うのが

正解やろ

そもそもあいつに関してはワイに裁量権無いで

とはいえ敗戦したら本末転倒やし、大きく不利な展開になつたら躊

踏わずに使うつもりや

ドラゴンは炎の四天王が管理しとるから一匹くらいなら都合つくと思うけど、

希少生物なのは間違いないから戦況に応じて後から投入する感じにしようかなと考えると

光の眷属を釣り出すのはアリやな

城塞の待機戦力を減らしつつこっちの魔力消耗を抑えられるのは
お得意

やらせるなら炎かな

138：どこかの闇の名無しさん

は？

139：どこかの闇の名無しさん

は？

140：どこかの闇の名無しさん

聖カス爆破実況は？

141：どこかの闇の名無しさん

哀れな聖女を研究所から開放しろ

142：どこかの闇の名無しさん

は？

143：どこかの闇の名無しさん

聖カスにも人権はあるんだぞ

144：どこかの闇の名無しさん

聖カスさつき帰りたいって言ってたよ

145：どこかの闇の名無しさん

聖女を人類に返還するべき

146：どこかの闇の名無しさん

今だ！非道な実験を繰り返す研究所を占拠しろ！

147：どこかの闇の名無しさん

もう我慢ならねえ

これ以上聖女を辱めようって言うのなら俺が代わりに実験台になつてやるぜ！

- 148：どこかの闇の名無しさん
急に人権派団体が現れて草
- 149：どこかの闇の名無しさん
人権ゴロで草
- 150：どこかの闇の名無しさん
フオアグラ工場やめろ
- 151：どこかの闇の名無しさん
人権派団体（爆破テロリスト）
- 152：どこかの闇の名無しさん
聖女爆破したい奴ばっかで草
- 153：どこかの闇の名無しさん
僕はじつくり虐待派です（半ギレ）
- 154：どこかの闇の名無しさん
実験か爆死かの二択かあ
- 155：どこかの闇の名無しさん
どっちに転んでも死ぬのすき
- 156：どこかの闇の名無しさん
人間なんて放っておいても寿命で死ぬからええやん
- 157：どこかの闇の名無しさん
魔族も寿命で死ぬ定期
- 158：どこかの闇の名無しさん
また炎の四天王に重大な仕事やらせようとしてて笑う
- 159：どこかの闇の名無しさん
炎酷使いいづくこれ
- 160：どこかの闇の名無しさん
これ半分パワハラだろ
- 161：どこかの闇の名無しさん
>>160
- 当初の目的達成してるやん
- 162：どこかの闇の名無しさん
なにかと炎の四天王出てくるよな

163：どこかの闇の名無しさん
炎うp

164：どこかの闇の名無しさん
闇は？

165：どこかの闇の名無しさん
参謀から一言も言及されない闇の四天王とかいう幹部

166：どこかの闇の名無しさん
前回の作戦でもイマイチ役に立ってなかったしな

167：どこかの闇の名無しさん
いや前回は闇がメインだっただろ

168：どこかの闇の名無しさん
結界破つたり正規軍相手にしたり勇者潰したりしてただろ！いい
加減にしろ！

169：どこかの闇の名無しさん

お、待てい！（江戸っ子）
炎と喧嘩もしてたゾ

170：どこかの闇の名無しさん
闇は活躍の様子が画像で貼られた唯一の四天王なんだよなあ……

171：どこかの闇の名無しさん
や、闇は魔族の象徴だから……

172：どこかの闇の名無しさん
イツチが真っ先に名前出すのが炎

イツチが真っ先に面倒事投げるのが闇
173：どこかの闇の名無しさん

幹部の扱いが雑過ぎる
174：どこかの闇の名無しさん

闇の四天王とイツチ不仲説あるよな
175：>>1

軽く役割決めてみたで

・海岸防衛 ↓ 妖精王

ワイの後任者として一任するで

失敗時のリスクが一番高い所やから、元々の海岸防衛部隊とドラゴンも編成に入れておく

直接会ったから言えるけど正直ここは心配してないで

・敵の陽動、炙り出し ↓ 炎

敵から十分見える位置で長時間かけて魔力を練って貰って囷にするで

もしスルーされるようならそのまま城塞を攻撃して戦局良しや

もし城塞の結界が強力で炎の四天王が攻撃しても破れんようやつたらもう全軍撤退するで

囷になつてる間の護衛は炎の副官達になんとかしてもらおう

・砲撃等の防御 ↓ 闇

炎が集中攻撃されるやろうからカバーさせるで

余力があれば釣り出した大軍の処理も頼むつもりやが、まあ前作戦で一番消耗してるしキツイやろな

・遠投投石機 ↓ 土

際限なく質量弾を用意できる強みがあるで

投石機自体を本人の素材から作ることで性能向上もできそうや

・全体指揮、戦況監視 ↓ ワイ

単独で少し離れた位置に上陸して敵の増援を警戒するで

勇者が一番の懸念事項やからせめて早めに情報を掴むのが目的や
足止めは可能ならやる

・海岸線の警邏 ↓ 情報部隊

無いと思うが、全く別の敵部隊が魔界の他地域に攻めて来た時は城塞攻略を諦めて防戦に専念するで

この展開になると厳しい

その他は臨機応変や

全てのイレギュラーは指揮でカバーするで

城攻めの駒が足りんかったら妖精王を前線に上げるで

全体の旗色悪かったら聖女出すで

上陸されたら近隣の貴族働かせるで

最悪は魔王様に頼むで（万事解決）

他なんかあるか？

176：どこかの闇の名無しさん
長文やめろ

177：どこかの闇の名無しさん
三行以上読めない種族もいるんですよ（憤怒）

178：どこかの闇の名無しさん
それっぽい作戦で草

179：どこかの闇の名無しさん
またイツチがそれっぽい作戦立ててる

180：どこかの闇の名無しさん
妖精王を前線に上げるで（妖精激怒）

181：どこかの闇の名無しさん
近隣の貴族働かせるで（お嬢様激怒）

182：どこかの闇の名無しさん
最後のへん適当になってて草

183：どこかの闇の名無しさん
魔王様をジョーカー扱いするのマジでやめろ

184：どこかの闇の名無しさん
また怒られそう

185：どこかの闇の名無しさん
イツチ前線から離れてて草

186：どこかの闇の名無しさん
指揮する気なくて草

187：どこかの闇の名無しさん
精霊の扱い雑ウー！

188：どこかの闇の名無しさん
確かにそれっぽい

189：どこかの闇の名無しさん
それっぽさだけで参謀になった男

190：どこかの闇の名無しさん
序盤、中盤、終盤。隙がないと思うよ

191：どこかの闇の名無しさん
やっぱ土の精霊ってそういう感じなのか

192：どこかの闇の名無しさん

「本人を素材にする」とかいうパワーワード

193：どこかの闇の名無しさん

部下を建材扱いする上司がいるらしい

194：どこかの闇の名無しさん

そら（精霊は自然そのものだから）そう（いう扱いになる）よ

195：どこかの闇の名無しさん

いや土の四天王って大精霊やる？

適当に扱うな

196：どこかの闇の名無しさん

土の四天王うp

197：どこかの闇の名無しさん

炎の四天王が実際に攻撃するんだったら言葉の意味的には陽動
じゃなくね？

198：どこかの闇の名無しさん

陽動っていうか脅迫に近いよな

199：どこかの闇の名無しさん

陽動（メイン火力）

200：どこかの闇の名無しさん

炎の攻撃だけで結界割れるんか？

201：どこかの闇の名無しさん

それなら結界大したことなくね

202：どこかの闇の名無しさん

結界破れるようになるまで長時間準備するって事やろ

それを敵の目の前で堂々とやるから陽動になるんや

203：どこかの闇の名無しさん

光の眷属が陽動見てから実際に軍を動かすまでにも結構時間あり
そうだしな

204：どこかの闇の名無しさん

そもそも炎は四天王最強やぞ

それで突破できんかったら敗戦確定やん

205：どこかの闇の名無しさん

闇の四天王が聖女の結界と良い勝負してたからな

それより弱いと思われる城塞の結界を炎の四天王が破れないわけがない

206：どこかの闇の名無しさん

炎の護衛は本人の部下だけ？

大丈夫なのかよ

207：どこかの闇の名無しさん

魔力練ってる途中で妨害受けたらどうなんの？

不発？

208：どこかの闇の名無しさん

>>207

使おうとしてる術による

209：どこかの闇の名無しさん

普通に部下が守り切れず妨害される方に来月の給料全額賭けるわ

210：どこかの闇の名無しさん

妨害されても投石機がありますわよ？

211：どこかの闇の名無しさん

幹部の中で誰が最初に死ぬか賭けようや

212：どこかの闇の名無しさん

イツチ死にそう

213：どこかの闇の名無しさん

ダントツで炎やろ

214：どこかの闇の名無しさん

勇者と当たる確率が一番高いくせに単独のイツチじゃね

215：どこかの闇の名無しさん

地味にイツチが無茶してるの笑えるわ

216：どこかの闇の名無しさん

単独行動に自信ニキ

217：どこかの闇の名無しさん
ちよww参謀がTEKICHIに!?!ww
218：どこかの闇の名無しさん
参謀が単独で裏取りしてるの草なんだよなあ
219：どこかの闇の名無しさん
指揮官死んだら終わりなの理解してなさそう
220：どこかの闇の名無しさん
敵の増援が来なけりや暇なんやし大丈夫やろ
221：どこかの闇の名無しさん
常に最悪を想定しろよ
222：どこかの闇の名無しさん
イッチ上陸してて部下に指示出せるのか？
223：どこかの闇の名無しさん
結局聖女は？
マジで使わんの？
224：どこかの闇の名無しさん
尊敬してるとか言いながら毎回魔王様使おうとする姿勢すき
225：どこかの闇の名無しさん
そろそろ邪神様に怒られる
226：どこかの闇の名無しさん
そんなくらい逼迫してる状況なんじゃないの
227：どこかの闇の名無しさん
イッチは大局的に言えば光の眷属とは互角って言ってたけど眉唾
ものだよな
228：どこかの闇の名無しさん
妖精王うp
229：どこかの闇の名無しさん
これ攻め切れるか？
戦力節約し過ぎじゃね
230：どこかの闇の名無しさん
増やそうにも手が足りねーだろ

231：どこかの闇の名無しさん

・魔術砲台の無力化

・城の駐屯軍の炙り出し

・援軍の警戒

・投石

幹部の半分以上が城攻めに加わってるんですが……

232：どこかの闇の名無しさん

これで無理なら金輪際その城塞は落とせないレベル

233：どこかの闇の名無しさん

イレギュラー起こって撤退させられるのが実質的な敗戦やな

こつちが消耗しただけで終わるパターン

234：どこかの闇の名無しさん

どうしてイレギュラーは発生するんだろう？

235：どこかの闇の名無しさん

>>234

掲示板の性質、安価の失敗。俺達魔族の高度な情報処理能力の、いわばツケだな

236：どこかの闇の名無しさん

保険がもう少し欲しい所

237：どこかの闇の名無しさん

保険なら聖女と貴族がおるやん

238：どこかの闇の名無しさん

魔王様もいらっしやるぞ

いかんのか？

239：どこかの闇の名無しさん

(魔王様はカウントしちゃ) いかんでしょ

240：>>1

ワイが単独で待機するのはかなり危ないと自覚はしとるで

でも他に適任者がおらんのや

ちなみに今回はワイが前線から大きく離れるから一部の部下に信用の魔道具を持たせるつもりやで

貴重品やからリスク考えると怖いけど、今回はやむなしやな
保険要員は確かにもつと欲しい

エルフと他の精霊にも軽く声だけかけとこかな

一部地域に戦力集め過ぎるのもリスクいやが、そこは情報収集でカバーするで

取り敢えず一旦これで魔王様に話持って行ってみるわ

防衛が主軸やし突飛な作戦にはなつてない筈や

没になったらまた安価スレ立てるで

ほな……

241：どこかの闇の名無しさん

ほな……

242：どこかの闇の名無しさん

なんか終わって草

243：どこかの闇の名無しさん

ほな……（辞世の句）

244：どこかの闇の名無しさん

去つていつて草

245：どこかの闇の名無しさん

エルフうp

246：どこかの闇の名無しさん

他の精霊つて事は残ってる風か

247：どこかの闇の名無しさん

エルフうp

248：どこかの闇の名無しさん

エルフうp

249：どこかの闇の名無しさん

精霊は炎と闇もいるだろ

250：どこかの闇の名無しさん

まず精霊に軽く声かけしようとしてるのが異常だわ

251：どこかの闇の名無しさん

そういう存在じゃないよな

252：どこかの闇の名無しさん

ワイ将、一軍を率いて精霊に交渉するも過半数を殺され無事死亡
なお貢物の魔道具はきっちり奪われた模様

253：どこかの闇の名無しさん

死体が喋った

254：どこかの闇の名無しさん

>>252

將軍様は成仏して、どうぞ

255：どこかの闇の名無しさん

精霊は交渉するものじゃなくて捕まえるものだって光の眷属が
言ってたゾ

256：どこかの闇の名無しさん

ちよつと前に精霊への貢物は魔道具が最適だって書き込みを鵜呑
みにして死んだ奴いたよな

257：どこかの闇の名無しさん

だから饅頭が良いって言ったのに

258：どこかの闇の名無しさん

精霊って飲み食いすんの？

259：どこかの闇の名無しさん

イツチもういない？

雑談していい？

260：どこかの闇の名無しさん

エルフoup

261：どこかの闇の名無しさん

今回はサクサク立案だったな

262：どこかの闇の名無しさん

現実から目を背けるな

263：どこかの闇の名無しさん

昨日から丸二日かかっているんだよなあ

264：どこかの闇の名無しさん

今回は防衛戦だからな

前回よりシンプルな作戦になるのは当然

265：どこかの闇の名無しさん

言うほどシンプルか？

266：どこかの闇の名無しさん

シンプル（投石）

267：どこかの闇の名無しさん

水の都の方がシンプルに力押しだった気がするわ

268：どこかの闇の名無しさん

水の都は四天王ドーン！四天王ドーン！四天王ドーン！で終わっ
たからな

269：どこかの闇の名無しさん

スレの趣旨がそうだからね、仕方ないね

270：どこかの闇の名無しさん

エルフラup

271：どこかの闇の名無しさん

投石機的设计図を送りたいのですが、おイツチ様はどこにいらっ
しやるのかしら？

272：どこかの闇の名無しさん

もういないぞ

273：どこかの闇の名無しさん

お嬢様まだ起きてるのかよ

274：どこかの闇の名無しさん

お嬢様部はあくまでお嬢様部であつてお嬢様ではない（真理）

275：どこかの闇の名無しさん

適当に画像貼つとけば明日にでも見るんじゃないやね

276：どこかの闇の名無しさん

イツチ忘れてそう

277：どこかの闇の名無しさん

絶対見ないわ

278：どこかの闇の名無しさん

エルフラupは？

279 : どこかの闇の名無しさん
エルフエルフうるせーよ
280 : どこかの闇の名無しさん
エルフしつこくて草
281 : どこかの闇の名無しさん
エルフより四天王の画像の方が見たい
282 : どこかの闇の名無しさん
エルフは基本にして至高
なあ……そうだろ、松ツ!!
283 : どこかの闇の名無しさん
角の無い種族はちよつと無理かな……
284 : どこかの闇の名無しさん
脚が二本しかない種族とか笑つちやうんすよね
285 : どこかの闇の名無しさん
私は誰でもいいです（ラビ並感）
286 : どこかの闇の名無しさん
でもさ、エルフは見たいだろ？
287 : どこかの闇の名無しさん
別に……
288 : どこかの闇の名無しさん
あんなヒョロガリに興奮する奴なんておらんやろ
筋骨隆々としたギガント族の肉体こそが至高
289 : どこかの闇の名無しさん
翼すら持つてない劣等種なんて性的な目で見れないわ
290 : どこかの闇の名無しさん
は？
291 : どこかの闇の名無しさん
これは戦争不可避
292 : どこかの闇の名無しさん
申し訳ないが新たな火種を撒くのはNG
293 : どこかの闇の名無しさん

ユビキタス性癪バトル社会やめろ

中央大陸の北端に建つ大城塞『マーレ・カーネ』闇を払うもの。

巨大な砲を上部に備えたその建造物は、闇の眷属が身を潜める最後の土地——魔界を切り崩す足掛かりとして建設された侵略拠点だ。

「ネレイド様！ 件の精霊術師殿をお連れしました！」

「通してくれ。そうか、ついに来てくれたか……！」

近く大規模な攻撃を行おうというタイミング。日夜準備に追われていた指揮官は、作戦における懸念事項の一つが取り除かれた事に分かりやすく安堵した。来訪者への対応に備えて軽く咳払いをすると、軍服の襟を正して椅子から立ち上がる。

程なくして、司令室の扉が開け放たれた。

「失礼する。精霊術師のボーダーと相棒のウオダ。此度の招集に応じ、魔族を滅するためには馳せ参じた。短い期間ではあるがよろしく頼む」

両開きの扉から現れたのは細身の男。伸びきった髪と、数日前に剃ったであろう髭。汚れの染み付いたローブに、恐らく魔力操作作用であろう細い木の杖。

特級騎士ボーダー。各地を渡り歩く中で参加した戦において軍の勝利に大きく貢献し、正しく冒険者でありながら騎士号を与えられた秀才だ。

その挨拶を受け、城塞の指揮官は敬礼を返した。

「私が指揮官のネレイド・ティードマンだ。此度の作戦に参加してくれた事、心から感謝する」

「こちらこそ、この大要塞を作り上げたグラス・ティードマン氏のご令

孫と会えるとは光栄だ。この力、存分に震わせてもらおう」

「なんと、祖父の事を知っているか。よほどの勤勉家とお見受けするが？」

「この城塞を含め、私は彼の作品のファンでね。若い時には知識欲に任せて様々調べて回ったものだ。しかし、ここに来るにあたってもう一度資料を漁ってみたものの、あなたの祖母の事は結局知る事ができなかったがね」

「……」

精霊術師の言葉を受け、指揮官は感情が抜け落ちたように真顔になった。その視線には底知れぬ威圧感が含まれており分かりやすい場の空気が凍り付いたが、精霊術師はそれに気づかないかのように飄々と佇んだままだ。

指揮官は己を律するように目を閉じてから息を吐き、気を落ち着けてから話を続けた。

「……それで、精霊のウォ氏は何処に？」

「彼女は……遊びに出かけているようだ。最近は海から離れていたのですね。水の小精霊として、大量の水の気配に浮かれているのだろう」

問いを受けて振り返ったボーダーだったが、背後に相棒の姿はなかった。ぼつが悪そうに頭を掻いたものの、その表情に焦りはない。精霊が何より自然を優先するのは当然の事である。

精霊が従順に言う事を聞くとすれば、それは世界を掌に乗せる神くらいなものだろう。

「遊びにか……気まぐれな所は流石精霊と言ったところか。貴殿らの力は十分に聞いている。作戦当日に居てくれさえすれば、それまでは自由にしてくれて構わない」

「気遣いに感謝する。実は、着いたばかりで荷物の整理もできていないんだ、早速だが失礼しても？」

「ああ、何かあれば使いを出そう。時間がある内に設備の見学でも済ませておくといい」

「了解した」

話を終えたボーダーは軽く一礼すると、特に緊張した様子もなく廊

下へと歩き去って行った。

そんな彼を見送り、椅子に座り直した指揮官は部下に茶を入れさせて一息つく。

若干の疲労が滲む瞳で見つめるのは、壁に貼り出した作戦地図だ。「……これで進軍の準備は整った。まずは魔界の防衛線を突破しなければならぬが……この作戦、陛下は一体何を考えたのか……」

信頼できる一部の者のみとなった司令室。若くして前線の指揮官となった男は、作戦地図を見ながら疑問と溜息を漏らす。

魔界の破壊目標を記したその図には、魔王城——聖女が捕らわれていると予想される施設が主目標としてマーキングされていた。

同時刻。

「へえー！　そうやってお姉さんが魔力を補充して、地上でわるい魔族をやっつけるんだね！」

「うふふ、そうよ」

大城塞マーレ・カーネ——その地下深く。

四方を完全に埋め立てられた小さな密室に、二つの人影があった。「貴女は元気な妖精さんね。久々にお喋りをしたから言葉を忘れていないか不安だったけど、大丈夫そうじゃなかったわ」

一人は妙齢と称するにはやや若く見える女性。

寝台から上体を起こして話し相手へと微笑む表情は穏やかだが、瘦せた身体と色の抜けた黒髪は見る者に枯れた印象を与える。

天井から垂れ下がった幾つもの管が女性の身体に接続されている事に加え、この部屋自体が地下深くに埋められ外部との連絡が取れなくなっている事からも彼女の置かれた状況の異常性が見て取れる。

「へ？　なんでなんで!?　喋り方なんて忘れるわけないじゃない。変なお姉さん!」

「そう……そうね。ごめんなさい、おかしな事を言っちゃったわ」

無邪気に笑い、薄く光っているランプの上で脚を揺らしているのは別世界の住人である妖精。

土と壁を無視して光の中から現れた小さな訪問者を見て、寝台の女性は何れも精霊か何かだと思った。しかし古い経験から彼女が妖精である事を看破し、それを本人に問うと精霊の面影は消え去った。なぜ最初に彼女を精霊と見間違えたのかは分からない。まさか妖精が精霊のフリをして化けていたなんて事はないだろう。巫人は自然を、星を愛する種族なのだ。仮にそうなら、冗談にしても越えてはいけないうらいんを越えている。

「それにしてもこれ、お姉さん一人なのに凄い魔力量だね！　もしかして、お姉さんって勇者さまだったり!」

「……………いいえ。でも、そうなるかもしれない。けど……私はただの失敗作。でも……でもね？　こんな私にも一つだけ取り柄があったの。だから、今もここでこうしているのよ」

「んー！　何言ってるかわかんないけど、こんな所でじっとしてたら病気になるっちゃうよ！　お外には出ないの?」

「ええ、いいの。私はここで、愛し合った人と、その人の作品を守っているのよ。こう見えて、とっても充実してるんだから」

「ええー!?　一人でいるのに充実してるなんて……変なニンゲン!」

寝台の女性からの返答に、妖精は大声を出して仰け反った。遊びと悪戯を生業とする幻想界の住人にとって、一人で部屋に閉じこもって充実していると言われてもその思考はまるで理解できるものではないのだろう。

その後も妖精が問いかけ、寝台の女性が答えるといった流れで会話が続き、ある所で妖精は何かを感じ取ったようにぴくりと耳を震わせた。

「……あつ、私、そろそろ行かなくっちゃ!」

「あら、そうなの？　何か約束事かしら?」

「うんっ！ 『サクセン』なんだって！ みんなで一緒に出かけるの！」

「あらあら、妖精さんは兵隊さんだったのね。とっても頼もしいわ」
「うんっ！ そうだよ！ いっぱいイタズラしたら、いっぱい褒めてもらえるんだ！」

「うふふ、よろしくね。妖精さん達が手伝ってくれるおかげで、私達はとっても助かっているのよ。これからも、私たち人間の盟友でいてくれると嬉しいわ」

「……うん、任せて！ じゃあまたねーっ！」

妖精は大きく手を振った後に飛び跳ねると、光の粒子となって消えた。幻想界を経由し、地上へと戻るのだろう。

「明るい良い子だったわね……」

久々に他人と会話し、寝台の女性の心は満たされていた。人類の強力な味方である妖精は誰も彼もが子供のように無邪気であり、話をしている自分も若くなったような気分させられる。

「彼女が着ていた紫のワンピース、紫の髪とよく合っていたわ。少し丈が短い気もするけれど……今なら私でも着られるかも、なんて。うふふ」

女性は口元に手を当てて笑いながら、可愛らしい衣服で着飾った自分の姿を夢想する。

若かりし日の自分。肉付きの良い体にワンピースを纏ったその隣には、数十年前にこの世を去った一人の男性が立っていた。

【闇の眷属集合】 四天王で本土防衛＋城攻め実況スレ

1：どこかの闇の名無しさん

色々準備してたけど敵がうるさいからボチボチ始めるで

今の状況やが、敵の侵攻が始まってから十日くらい経ったとこや

城塞から投石機に対して一度砲撃があつたんやが、闇の四天王が防いでからは追撃無し

出てきた軍船は輸送船二十と砲艦三隻。動作テストも兼ねて投石機で撃沈して、浮かんできた人間は焼いたで

今もこつちに十隻くらい向かってきてとるわ

威力偵察か知らんけどチョコロチョコロ船団送り付けてくんのが鬱陶しいからもう陽動作戦始めるで

ちな完成した遠投投石機がこちら

【画像】

「海岸の一部を埋め立てたその上に、城ほどの大きさの大型投石機が設置されている様子」

お嬢様部から貰った設計図をサイズ以外ほぼ手を加えずに再現したったわ

材料に半分くらい土の精霊使つとるから、現状世界一頑丈な建造物や

土が一人で装填から発射まで行うから運用コストはほぼゼロやし、巨大化した土が直接投げつけるより遥かに命中率も高い

意外と期待できる完成度になったで

2：どこかの闇の名無しさん
きたわね。

3：どこかの闇の名無しさん
侵略の時間だああああああああ

4：どこかの闇の名無しさん
もう始まつてる！

5：どこかの闇の名無しさん
もう始まつてる！

- 6：どこかの闇の名無しさん
参謀様オツスオツス
- 7：どこかの闇の名無しさん
正しくもう始まってて草
- 8：どこかの闇の名無しさん
投石機草
- 9：どこかの闇の名無しさん
顔合わせ終わっとるやん
- 10：どこかの闇の名無しさん
いつもスレ立てんの遅いんだよなあ
- 11：どこかの闇の名無しさん
戦局進んでて草
- 12：どこかの闇の名無しさん
事後報告やめろ
- 13：どこかの闇の名無しさん
投石機がデカすぎる
- 14：どこかの闇の名無しさん
コラ画像やめろ
- 15：どこかの闇の名無しさん
明らかに合成っぽい投石機で草
- 16：どこかの闇の名無しさん
巨大化した土の精霊うp
- 17：どこかの闇の名無しさん
投石機ちゃんと活躍してて草
- 18：どこかの闇の名無しさん
まるで旧時代の戦場みたいだあ……（直喩）
- 19：どこかの闇の名無しさん
原始的すぎて草
- 20：どこかの闇の名無しさん
最新の魔術砲台に対して投石するのマジで草
- 21：どこかの闇の名無しさん

ウホ、ウホホウホ（投石）

22：どこかの闇の名無しさん

もちろん俺らは抵抗すんで？ 投石で

23：どこかの闇の名無しさん

【悲報】 魔族、石を投げて本土を守る

24：どこかの闇の名無しさん

【朗報】 魔族、道具を使う知能があつた

25：どこかの闇の名無しさん

これは高度知能生命体ですね間違いない

26：どこかの闇の名無しさん

I Q 8 3 8 3

27：どこかの闇の名無しさん

光の眷属に滅茶苦茶バカにされてそう

28：どこかの闇の名無しさん

かしこすぎる

29：どこかの闇の名無しさん

やっぱ魔族ってインテリだわ

30：どこかの闇の名無しさん

土の精霊って巨大化できるん？

31：どこかの闇の名無しさん

>>>30

精霊は不定形だし最大個体なら可能なんじゃね

32：どこかの闇の名無しさん

デカくなってる時の服ってどうなってるの

33：どこかの闇の名無しさん

そらもうアレよ

34：どこかの闇の名無しさん

精霊が服着るわけないよなあ？

そうだろ！ 松ツ!!

35：どこかの闇の名無しさん

閃いた

36：どこかの闇の名無しさん
土の四天王うp

37：どこかの闇の名無しさん
土の精霊うp

38：どこかの闇の名無しさん
思考が単純過ぎる

39：どこかの闇の名無しさん
マジレスすると服も本人から出来てるだろ

40：どこかの闇の名無しさん
俺は投げるの下手な方が気になるわ

安定感のない奴はウチの球団にはいらん

41：どこかの闇の名無しさん

土の精霊はノーコン（新情報）

42：どこかの闇の名無しさん

草野球レベルやんけ

43：どこかの闇の名無しさん

スカウトマン、無能

44：どこかの闇の名無しさん

土の精霊、お前この船降りろ

45：どこかの闇の名無しさん

【土の四天王】 土の四天王、土の四天王

46：どこかの闇の名無しさん

大 精 霊 劇 場

47：どこかの闇の名無しさん

パワーはあるんだから打者に転向させろ

48：どこかの闇の名無しさん

精霊が野球監督の目線で文句言われてんの草

49：どこかの闇の名無しさん

防御率8・383

50：どこかの闇の名無しさん

土の精霊と遠投投石機、どうして差がついたのか……慢心、環境の

違い

51: >>1

炎の四天王に指示出したわ

作戦開始や

もうこつからは止まらんで

【画像】

「海上に作られた広い足場に十数人の魔族が立っており、その上空に火球が浮かんでいる様子」

土の精霊に頼んで海の真ん中に足場を作ったで

魔力の増幅度に応じてわざと火球を大きくして行って視覚的にも敵の危機感を煽っていく

実質的に余命宣告されとるようなモンやし流石に総力戦仕掛けてくると思うわ

一緒に写ってるのはアイツの部下や

敵の反応があるまで暇やから城塞に投石して遊ぶで

子供の頃を思い出すわ

52: どころかの闇の名無しさん

ようやく始まったか

53: どころかの闇の名無しさん

どう転ぶか楽しみや

54: どころかの闇の名無しさん

攻城兵器で遊ぶな

55: どころかの闇の名無しさん

童心に帰ってて草

56: どころかの闇の名無しさん

ご武運をお祈り申し上げますわ

57: どころかの闇の名無しさん

止まらないわよ！GOGO！（神）

58: どころかの闇の名無しさん

止まるんじやねえぞ……

59: どころかの闇の名無しさん

戦況は止まんねえからよ……

60：どこかの闇の名無しさん

動きあるとしたら五日後くらいかな

61：どこかの闇の名無しさん

十日くらいかかると予想

62：どこかの闇の名無しさん

炎の四天王がんばえ〜

63：どこかの闇の名無しさん

五日後に俺生きてつか

64：どこかの闇の名無しさん

ワイも今前線やから危ないわ

生き残る理由ができてしまった

65：どこかの闇の名無しさん

今回画像多くてうれしい

66：どこかの闇の名無しさん

俺、イツチの戦いを見届けるまで死なないって決めてるんだよね

(フラグ)

67：どこかの闇の名無しさん

わたくしもお風呂に行つてきますわゾ〜

68：どこかの闇の名無しさん

画像の炎の四天王どれ？

69：どこかの闇の名無しさん

小さくて分からん

70：どこかの闇の名無しさん

中央にいる赤髪のネーチャンじゃね

71：どこかの闇の名無しさん

もつと寄りで頼むよ〜 (指摘)

72：どこかの闇の名無しさん

髪の色的に1スレ目の画像でケーキ食ってた奴だな

73：どこかの闇の名無しさん

この調子で残りの四天王も特定しろ

74：どこかの闇の名無しさん

イツチ遊んでるけど勇者の警戒は大丈夫なのか

75：どこかの闇の名無しさん

やたらと新情報が出てくるからwikiの編集が大変で困る

76：どこかの闇の名無しさん

悪い事言わんから陰キヤの警戒しとけ

77：どこかの闇の名無しさん

イツチ随分と余裕そうやけど配置につかんでええんか？

78：どこかの闇の名無しさん

それはそう

79：どこかの闇の名無しさん

イツチ敵地行つてなくて草

80：どこかの闇の名無しさん

▽・全体指揮、戦況監視 ↓ ワイ

あれ〜？

81：どこかの闇の名無しさん

仕事してないのイツチだけやん

82：どこかの闇の名無しさん

石投げて遊んでる場合じゃなくて草

83：どこかの闇の名無しさん

あのさあ……

やめたら？この仕事

84：>>1

指示出すために一時的に前線におっただけやで

丁度今から移動しようと思つてた所や

中央大陸に上陸したらそのまま潜伏するから、何も起きなければ数

日は実況も休みやな

85：どこかの闇の名無しさん

言い訳が苦しくて草

86：どこかの闇の名無しさん

無理筋の論法なんだよなあ……

87：どこかの闇の名無しさん

はやくサボってるように見えてちゃんとしたお考えがあったんスねえ（棒読み）

88：どこかの闇の名無しさん

遊びで投石しようとしたの無かった事にしてて草

89：どこかの闇の名無しさん

【悲報】魔王軍参謀、数分前の書き込みを忘れる

90：どこかの闇の名無しさん

掲示板でケツ叩かれて仕事し始める参謀がいるらしい

91：どこかの闇の名無しさん

これ半分無能だろ

92：どこかの闇の名無しさん

またイツチの蔑称が増えちやうやばいやばい……

93：どこかの闇の名無しさん

作戦開始しちやっただけど今から上陸できるのか？

94：どこかの闇の名無しさん

飛んでけばすぐじゃね

イツチが飛べる種族かは知らんけど

95：どこかの闇の名無しさん

砲台あるやん

96：どこかの闇の名無しさん

撃ち落とされそう

97：どこかの闇の名無しさん

もう炎の四天王が動き出したからスルーされるでしょ

98：どこかの闇の名無しさん

イツチって翼あったっけ？

99：どこかの闇の名無しさん

幹部なんだし翼なくても魔術で飛べるんじゃない

100：どこかの闇の名無しさん

まだイツチの種族が何かっていう情報は出てなかったと思う

101：どこかの闇の名無しさん

そうだっけ？

102：どこかの闇の名無しさん

わからん

103：どこかの闇の名無しさん

なんでもええやろ

104：どこかの闇の名無しさん

四天王に比べてイツチに対するスレ民の関心薄すぎて草

.....

4442：>>1

ビンゴや

数日間大陸の平原に潜伏してたんやけど、案の定援軍来た
目視はできんけど遠くになんかおるわ

情報に正確性を求めるならもう少し待機した方がええやろうけど、
先制取りたいから逆探知喰らう前に突っ込むで

4443：どこかの闇の名無しさん

>>4439

マンドラゴラに火い通すような味障は黙ってる

4444：どこかの闇の名無しさん

は？

一生土齧ってる蛮族が

4445：どこかの闇の名無しさん

貧乏舌同士が争ってて草

マンドラゴラは花を食うんやで

4446：どこかの闇の名無しさん

通はアク抜きしてから干すんだよなあ……

素材の味を活かせない奴は他に何やっても駄目

4447：どこかの闇の名無しさん
お前らイツチ来てるぞ

4448：どこかの闇の名無しさん
雑談盛り上がりつつある時に実況始めるのやめてもらえろ？

4449：どこかの闇の名無しさん
援軍ってマジ？

まだ一週間も経ってないぞ

4450：どこかの闇の名無しさん
もう始まつてる！

4451：どこかの闇の名無しさん
勇者か？

4452：どこかの闇の名無しさん
補給部隊かも

4453：どこかの闇の名無しさん
援軍来るの早すぎじゃね

4454：どこかの闇の名無しさん
まだ前哨戦だろ？

大した被害も出てないのに援軍ってなんやねん
4455：どこかの闇の名無しさん

イツチが実況してないだけで前線が動いてる可能性はある
4456：どこかの闇の名無しさん

>>4455
これだろ

前科あるし
4457：どこかの闇の名無しさん

いつも実況始めるの遅いんだよな
4458：どこかの闇の名無しさん

援軍じゃなくて別勢力だったりして
4459：>>1

あかん勇者や
この攻撃じゃ殺しきれん

初手ミスったな

4460 : どころかの闇の名無しさん

駄目やんけ

4461 : どころかの闇の名無しさん

勇者草

4462 : どころかの闇の名無しさん

フアーwwww

4463 : どころかの闇の名無しさん

重要な局面で失敗するのやめろ

4464 : どころかの闇の名無しさん

いや、たった数日で勇者が来るなんて予想できんやろ

4465 : どころかの闇の名無しさん

こいついつも出鼻くじかれてんな

4466 : どころかの闇の名無しさん

情報伝達早すぎん？

4467 : どころかの闇の名無しさん

なんでこんなに勇者来るの早いんだ

4468 : どころかの闇の名無しさん

スパイ説に信憑性出てきてるやん

4469 : どころかの闇の名無しさん

クソ女神がチクってんじゃね

4470 : どころかの闇の名無しさん

人神の天啓(笑)でしよ

チート死ね

4471 : どころかの闇の名無しさん

どの勇者が来てるかでかなり状況変わってくるな

4472 : どころかの闇の名無しさん

生存説あるし陰キヤかな

4473 : どころかの闇の名無しさん

陰キヤならヤベーだろ

前回三人がかりで相手してるのに

4474：どこかの闇の名無しさん
イツチ死ぬんじやね

4475：どこかの闇の名無しさん
>>4467

今回は光の眷属の方から準備して攻めてきてるんだから勇者が情報持つてるのは当たり前

4476：どこかの闇の名無しさん

むしろ最初から勇者いなかったのがおかしくね？

作戦の重要度からすれば四人全員いてもおかしくなかっただろ

4477：どこかの闇の名無しさん

それな

なんで勇者は全員一緒に攻めてこないん？

4478：どこかの闇の名無しさん

ヒトカスにも派閥があるから

4479：どこかの闇の名無しさん

国ごとに勇者持っていたりするんじやね

戦争の駒としても使えるからパワーバランス保つためとか言っ

4480：どこかの闇の名無しさん

しよーもない理由で総力戦できないのは魔族もヒトカスも同じな模様

4481：どこかの闇の名無しさん

同時運用して万が一全滅したらどうすんだ

リスクマネジメントは基本だぞ

イツチは劣勢だからタブーに踏み込んで幹部使いまくってるだけ

危ない橋渡ってるのはこっちなんだよ

4482：どこかの闇の名無しさん

実況中なんだからイツチ死ぬなよ

4483：どこかの闇の名無しさん

無理したらアカンで

イツチが死んだら部下達も危ないんや

4484：どこかの闇の名無しさん

このスレ無くなつたらどこで雑談すればいいんだ……

4485：どこかの闇の名無しさん

雑談スレ行け

マーレ・カーネと大陸北部にある大都市を結ぶ広大な平原。過去数々の戦いにより荒地となつているそこでの邂逅は、魔王軍参謀の先制攻撃から始まつた。

「ガツ、ハ……グぼつ、ゴホッ！ うぐ………つ、あちやー、キミが来たかあ。これまたキツツイね」

「チツ、最悪だ……」

遠方から既に敵の気配を感じ取つていた大柄な男は、大地を強く蹴り一足で距離を詰め、相手に防御姿勢をとる間を与えないまま魔力を帯びた拳を容赦なくその体に打ち付けた。しかし、地上に住む殆どの生物が破裂・消滅するであろうその一撃を受けてなお相手は形を留めた。

直前まで上機嫌に鼻歌を歌つていた光の眷属は、地面を抉り突き刺さるように吹き飛んだ後、血を吐き、体を震わせながらも立ち上がる。枯色の髪を土で汚し、痛みに耐えながらも薄く笑っている彼女は、幾度となく魔王軍と対峙してきた古参の勇者だ。初めて発見された時から容姿が変わつていない人物でもあつた。

「ふう……ま、どつちでもいいか。それじゃあ気を取り直して——『やあやあ、我こそは神厳なる勇者！ この世界の穢れを滅ぼす剣なり！』……久しぶりだねえ、剛の四天王くん？ そろそろ出世した？ お腹空いてないかい？ なにか食べる？」

「……」

形式ばつた名乗りを上げた勇者が気安く魔族に語りかけるも、男はそれを完全に無視して地面を殴りつけた。魔力を無理矢理叩き込ま

れた土は忽ち破裂し、全方位に土砂を撒き散らしながら巨大なクレ―ターを作る。

視界を奪われた勇者は即座に魔術で全身を強化したが、予想していたタイミングで衝撃は襲ってこない。不思議に思い腕で顔を庇いながら前方を見ようとしたが、その瞬間に上から叩きつけるように頭部を掴まれ、真下の岩片へと全力で打ち据えられる。

飛びそうになる意識を必死に保ちながら、続く胴体への踏みつけを回避するために勇者は一時的に世界から消失した。法則や常識を一切無視したその動きは、これまで無数の窮地で死を回避してきた彼女の十八番だ。

一呼吸ほど置いてからやや後方に出現した勇者は、額から血を流しながらも飄々とした態度を崩さずに髪をかき上げる。

「いたた……ほんと相性悪いなあ。菓子折り持ってきたから今日はそれで勘弁してくれないかな？ 何度も言うけどボクはキミ達とは仲良くやりたいんだ。——そうだ、友達になろうよ！ 今までは遠回しにキミの邪魔をしてる事があつたかもしれないけど、今後は改めるからさ」

「下らん戯言はいい。今お前を始末すれば済む話だ」

「そう？ 難しいと思うけどね、お互いに」

勇者は停戦を提案するも、それは短い返事で却下される。今の間答は決してふざけていた訳ではない。嫌悪感を隠そうともせず顔をしかめる彼——剛の四天王とは本当に相性が悪いのだ。

拳を構えて静かに殺気を放つ大男は一見してただの肉体派だが、彼の本領は魔道具を使つての索敵と情報伝達にある。

従来、個々が非常に強い力を持つ上級魔族は同士討ちや仲間割れのリスクから戦闘区域ごとに分けて運用されていた。勇者とその仲間が格上であるはずの魔王軍幹部を撃破できていたのもそれが理由であり、敵が単独である事に対して数の攻めが通っていたからこそその優位であった。そこが、剛の四天王の登場によって崩された。

彼は常に他の幹部と共に戦場に現れた。地上を焼き尽くす業火に拳で合わせ、空間を圧壊させる黒渦と共に駆け、生命を掃り潰す黄金

の風で宙に舞って戦った。一言も発さず、互いに邪魔する事も無く大技を繰り出し続ける魔王軍幹部のコンビネーションは異質なものであり、すぐに人類は新たな四天王の調査に取り掛かった。

結果、その方法こそ魔道具を使ったものと分かったものの、模倣する事は不可能とされた。指揮を専任するのなら兎も角、自身も戦いながら同時に複数の指示を出すには種を卓越した高い処理能力が必要であり、人間の思考力では大きく不足していたのだ。

最悪、魔王軍の幹部全員を一箇所に集めて運用する事もでき得るその力を恐れた人類は、一時は彼の魔道具を破壊する事だけに焦点を当てた大規模な作戦まで練り上げたが、長い時を経た今もその目的は果たされていない。

「……ッ、つとおっ!?」

拳を前に構えて静止していた男は、そのままの姿勢で指を弾いて握り込んでいた石片を発射した。空気を振動させながら飛来する弾丸が眼球に突き刺さる直前で、勇者は一步分横に離れた場所へと座標を移し回避する。

「危ないなあ、もう。ボクも強くはなったけどさ、流石に目や内臓はそこまで硬くなってるやないんだよね」

「転移の魔道具……相変わらず厄介だな。それさえ渡すのなら友人にでも何でもなってるやろう」

「いや、そんな事した瞬間に頭叩き割ってくるでしょキミ。私だって不死じゃない。残念だけどその提案は飲めないよ」

勇者は服の土を払いながら、目の前の男と初めてまともな会話が成立した事を内心で喜んだ。とはいえ、その条件は飲めないものだ。

長年勇者として従順に働き、その信用と人脈を使ってようやく手に入れた特級の魔道具である。どんな条件であれ手渡す気は無いし、そもそも絶対失わないように体内に埋め込んであるのだから譲渡自体が不可能だ。

そうして得た転移能力によって戦場でほぼ確実に生存できるようになり、唯一の懸念点であった奇襲による即死も肉体の成長につれて不可能に近づいた。

自身の長命に加えて死の恐怖が薄れた事により、人類領での生活が色褪せてしまうという副作用もあったが……全ては若気の至りである。勇者は自分の変化に満足していた。

「それ以外のものなら何だっただけであげられるけどね。例えばボクの――」

「不死、不死ではない……当然だ。しかし、なら何故お前は今も生きている？ 何故昔から容姿が変わらない？」

「……秘密だよ。というか、ボクとしてはその質問が今飛んできた事にビックリだね。何度も会ってて不思議に思わなかったの？ もう魔界では解釈されてるものだと思ってたよ」

『問い質せ』という命令を受けていなかったからな」

「ああ、そういう感じ……」

当然だとばかりに即答した男に、勇者は呆れたように息を吐く。

命令に忠実で、上からの指示以外の事は一切行わない仕事人。どこの世界でも、組織に一人はこのようなタイプの者がいるものだ。勇者は昔の人脈を思い出すとしたが、長過ぎる時間の壁に阻まれて臙げな風景すら思い出す事ができなかった。

「《存在の昇華》」

少しの沈黙を挟み、勇者は片足に体重を預けてリラックスした姿勢のまま魔術を行使した。

変化は一瞬。煌めく光が体を駆け巡り、全身が燃えるような高い熱を持つ。心臓が胸を強く穿ち、体の中心だけでなく四肢隅々までもが魔力を表面へと浮かび上がらせる。

これは膨大かつ継続的な魔力消費を代償に、自身の望む力を得る強化術だ。この瞬間、勇者はこの世界でも有数の耐久力を誇る存在へと昇華した。体内の魔力を一気に燃やし尽くすこの自己強化法は等しく禁術であり、たとえ勇者であろうと立っていられる時間はそう長くはないが――これでいい。不意打ちで一瞬でも意識が飛ばされれば間違ひなく殺される対面である。多少過剰であろうとも防御を優先するのは安全思考の彼女としては自然な判断だった。

これにより敵幹部の打倒は絶望的な状況となってしまうが、元よ

り彼女の目的はそこにはない。多くの時間は必要ないし、何ならもう一つの目的は既に達成済みなのだ。

「……反撃の一手が来ると見て構えていたが……まさか更に防御を固めてくるとはな。お前、仮にも勇者だろう？　こういった時にこそ勇敢に闘うべきではないのか」

「別に？　ボクの目的は戦う事じゃないからね。これで合ってるよ。というか、人類側を手伝うのも今回でやめようかと思っっているくらいさ。お偉いさんの目がいやらしいんだよね。見てみるかい？　結構いい身体をしている自信はあるよ」

「冗談に付き合っている暇はない。その術を使った以上もう長くはないだろう、さっさと失せろ。二度と姿を見せるな」

「全部本心だつて！　ボクってこんな体だろう？　寿命とか超越しちゃうとき、人間と仲良くなっても虚しくなるだけなんだよ。ほらほら、何か聞きたい事とかないのかな？　貴重な情報源だよ？　魔力が無くなったら転移して帰っちゃうよ？　楽しく話をしようじゃないか」

「……」

魔力を失い過ぎたか、勇者は冷や汗を流し、顔を青白くしながらも芝居じみた態度で笑みを浮かべる。一体何がそんなに楽しいのかは不明だが、参謀の男はそれを胡散臭いものを見るような目で睨みながらも一考した。

この古参の勇者が無意味に腹立たしいのはいつもの事だが、禁術により命を燃やしている状態の彼女を単独で沈めるのは至難である。相手が未強化だった奇襲時ですら失敗したのだから、強化後の今仕留めきれぬ道理はない。

このまま放っておいても敵は自動的に撤退していくが、上司の指示無しでこの勇者と接触するのは今回が初めてだ。今は矛を収め、目下魔界を揺るがしている問題について尋ねてみるのが柔軟な思考というものだろう。嘘を教えられる可能性も十二分にあるが、そもそも光の眷属側からの情報を鵜？みにする魔族など一人としていない。

「……お前は自らを不死ではないと言ったが、他の勇者に不死性を持

つ者はいないのか？ 先日、それに近い性質を持つ者を見た。黒髪の無口な女だ。知っているなら答えろ」

「うーん、そこでボクについての質問じゃないってのが減点ポイントだね。キミって仕事ばかりで女心とか微塵も理解してなさそうだよね。そんなんじや、もしかすると他の四天王から煙たがられてたりするかもよ？ なんてね。あはは」

「《その繋がりを分つ》」

「えっ」

「《この拳に混沌を宿す》」

「わ、分かった！ 少し落ち着こうか！」

軽く冗談を挟んだだけのつもり勇者だったが、何が気に障ったか、男は今日一番の殺意を発して魔術を行使した。

勇者が重ねがけしていた基礎強化術が浮ついたように剥離する。生半可なデバフは受け付けられない筈の体を貫通して術が作用した事から、相手がこの魔術に込めた魔力量——本気度が伺える。

驚いている間にも男は続けて魔術を行使した。握り込んだ拳が瘴気を纏い、星を割る力がその身に宿る。

今にも敵を殴り殺さんと踏み込んだ男から距離を離しつつ、勇者は焦った様子で声を張った。

「黒髪ッ！ 知っているッ！ その特徴はあの娘だろう！ 彼女は最近やってきた勇者だ！ 基本的に一人で行動していて、ギルドに入り浸って小さな依頼ばかりこなしている。同じ魔物ばかりを狩り続けてた時期もあった。奇行が目立つけど実力は確かだ。……彼女が前線に出たつてのは驚きだけど、不死だなんて聞いたことがないよ。そもそも、死は誰しも平等に訪れるものだ。不死身だなんて常識的に考えられない。違うかい？」

「ふん。無から生まれ、親すら持たない勇者が生物としての常識を語るか。滑稽だな」

「ええ……脅しておいてそれ？ デリカシーって言葉知ってる……？」

複数の情報をバラ撒いたのが功を制したか、男は不快そうに鼻を鳴

らしながらも、バネのように踏み込んでいた脚を元に戻す。

勇者はその辛辣なコメントにツツコミはしたものの、内心では会話を繋げられた事にほっと一息ついていた。

「他に何か情報があるなら聞いてやる。別の勇者の事でも構わん」

「すつごい上から目線なのが気になるけど、黒髪の子についてはこれ以上知らないよ。最近は同じ勇者でも興味が持てなくなってきたちやってね。あつ、でもまだシユウ君については詳しい方かも。キミも知ってるでしょ？ 水の都が落ちた時に負傷した男の子。うーん、これ言っちゃっていいのかな？ 彼さ、聖女ちゃんを助けるためにマーレ・カーネに向かつてる最中なんだよね」

「……ほう」

急に出てきたまともな情報に、魔族の男は額の青筋を治めて素直に食いついた。その様子に気を良くした勇者は更に内容を上乘せしようと張り切って口を開く。

「シユウ君、仲間の幼馴染が死んじゃってすつごい落ち込んでたんだよ。暫くは家で療養してたんだけど、聖女ちゃんが生きてる可能性が高いつて報せが出るとすぐに王城に出入りするようになってね。ボクからすると考えられないけど、どうやら今回の作戦に編成してもらえるよう直談判していたみたいだよ。で、何度も交渉した結果、一定量まで魔力が回復したら前線に行っても良いって許可が下りたんだってさ。いやあ、若いつてのはいいね」

「……詳しいな。勇者同士で情報を交換し合っているのか？」

全く役に立たないものも混ざってはいたが、今の話だけでも個人の動向としては結構な情報量である。本人に直接聞いたと見て間違いないそのポリウムに、男は嫌な予感を覚えた。

勇者同士が横の繋がりを持っているとなれば、今後の作戦の立て方も変わってくる。複数の勇者を同時に相手する可能性を今まで以上に高く見積もらなければならなくなり、その対策には多くの保険が必要になるだろう。手駒の数が足りない事から、侵攻のペースは落とさざるを得ない。

「まさか。勇者だからってわざわざ顔合わせする訳じゃないさ。実

際、ボクでさえもう一人の子とは合った事すらないんだよ。シユウ君とはさつきまで一緒だったから、道すがら色々話を聞いてただけだよ。お偉いさんから共闘するよう言われてたからね。彼、今頃はマーレ・カーネに着いてるんじゃないかな？」

「はっ？」

「ふふ。その反応は気づかなかったみたいだね。シユウ君に遠回りしてもらった甲斐があったよ。そう、ボクはシユウ君を前線に送り込むための囷だったってワケさ！」

「はっ？」

「シユウ君ってば凄かったよ。目が本気^{マジ}だったからね。多分聖女ちゃんを助けたいのと、死に場所を探してるのと半々くらいなんだと思う。亡くなった仲間^{仲間}に恋仲の女の子がいたみたいだね。バカバカしいから止めるようにアドバイスしてみたけど駄目だったよ。ちなみに、ボクがここにいる理由も彼さ。仮にも同じ勇者だし、最期くらいは見届けようかと思ってたんだけど……ま、ボクとしてはこっちにきて正解だったかな。キミとこうして話せて、なんだか新しい扉を開いたような気分さ。自分と同じ時を生きてくれる知り合いというのは素晴らしいものだね。……ああ、そろそろ立ってるのも辛くなってきたよ。もしシユウ君に会ったらよろしく言っておいてくれると嬉しいな。じゃあ、ボクはそろそろ引き上げるね」

「待て。こちらからも話がある」

「え、ほんと？ 一体なに—— ツツ」

男からの親しげな発言を受け、勇者が顔を青白くしながらも花咲くように笑ったその瞬間——彼女の顔面に瘴気を帯びた拳が突き刺さり、圧縮されていた魔力が爆発した。

鼻が折れ、血を吐き、錐揉み回転をしながら何度も地面にバウンドする勇者を見て、男はなお不機嫌そうに鼻を鳴らす。

やられた。なんて事は無い、あのふざけた勇者は、天真爛漫に振る舞いながらもしっかりと仕事をこなしていたのだ。魔王軍参謀の注意を逸らし、勇者という大駒を前線に送り込むサポートをしていたのだ。

人類に与する気の無いような振る舞いを見せながらも最高に面倒な結果を招いてくれた当の本人は、殴られた勢いを殺せないまま遠方に転がり続け、地平線と同化する寸前で姿を消した。最後の力を振り絞り、本拠地に転移したのだろうか。

「部下に前線を任せておいてこのザマか……クソツ……！」

少なくとも前線に一人、勇者が合流した。部下からの定時報告に未だその影は無いが、勇者の言葉が無視できる訳もない。絶対に阻止したかった状況が現実のものになってしまった可能性に男は歯噛みした。

勇者が戦場に現れた時の対策として、単純にこちらも戦力を増やすという考え方があつた。参謀自身が戻る選択肢が最も簡単だろうが、そうすると大陸側の監視が不在になってしまう。合流してしまつたと思われる泉の勇者に加え、もしこれ以上勇者が増えようものならその時こそ本当に前線は崩壊する。敵に上陸を許し、多くの民に被害が及ぶ。本当の最悪はまだ先だ。

今は勇者の中でも面倒な一人を追い返せた事を良しとして、更なる援軍に備えて監視を続けるべきだろう。なにも敵の増援は勇者だけではない。一軍隊が増えるだけでも単純に戦闘時間が伸び、前線の負担が大きく増えてしまうのだから。

「部下をただ信じて待つ、か。……やはり性に合わんな」

次は自分が前線に張り付ける作戦を立てよう。

男はそう心に誓いつつ、次なる援軍に備えてクレーターに身を潜めた。

【闇の眷属集合】 四天王で本土防衛十城攻め実況スレ

(2)

5662 : どこかの闇の名無しさん

イツチの葬式いつやる？

5663 : どこかの闇の名無しさん

今からでええやん

5664 : どこかの闇の名無しさん

今からはペットの散歩あるから無理

5665 : どこかの闇の名無しさん

夜は？

5666 : どこかの闇の名無しさん

今夜は知り合いと飯食いに行くからなあ

5667 : どこかの闇の名無しさん

明日は予定あるからやめてほしい

5668 : どこかの闇の名無しさん

もう死んだ事にされてて草

5669 : どこかの闇の名無しさん

判断早すぎやろ

5670 : どこかの闇の名無しさん

魔族はせっかち

5671 : どこかの闇の名無しさん

葬式の優先度低すぎるの草

5672 : >>1

勝手に殺すな

勇者追い払ったで

5673 : どこかの闇の名無しさん

お、イツチウー！

5674 : どこかの闇の名無しさん

おるやんけ！

5675 : どころかの闇の名無しさん

【朗報】スレ、続く

5676 : どころかの闇の名無しさん

流石にしぶといな

5677 : どころかの闇の名無しさん

追い払っただけかよ

5678 : どころかの闇の名無しさん

勇者逃がしてね？

5679 : どころかの闇の名無しさん

駄目じゃん

5680 : どころかの闇の名無しさん

炎の四天王と同じ結果とかさあ……

5681 : どころかの闇の名無しさん

この上司あつてあの部下ありやね(呆れ)

5682 : どころかの闇の名無しさん

勇者つて一対一でやれるもんなのか？

5683 : どころかの闇の名無しさん

誰が来たん？陰キヤ？

5684 : どころかの闇の名無しさん

陰キヤならもつと時間かかってるやろ

5685 : どころかの闇の名無しさん

泉にいた勇者だったりして

5686 : >>1

陰キヤじゃなかった

もしそうなら結構ヤバかったと思う

来たのはやる気無い勇者

現状最古参の勇者なんやけど全然好戦的じゃないんや

座標転移できるようになる魔道具を持つとる厄介な奴で、不意打ち

で即死させんとまず逃げられる

今回も散々煽った後に消えてったわ

5687 : どころかの闇の名無しさん

別の勇者か

5688：どこかの闇の名無しさん
また変なのが出てきた

5689：どこかの闇の名無しさん
やっぱ陰キヤって死んでるんじゃないやね

5690：どこかの闇の名無しさん

最古参の勇者でも陰キヤよりマシという事実

5691：どこかの闇の名無しさん

人間ごときに煽られる参謀がいるらしい

5692：どこかの闇の名無しさん

登場人物全員変人

5693：どこかの闇の名無しさん

勇者ばつかじやんお前ん家イ！

5694：どこかの闇の名無しさん

勇者大家族やめろ

5695：どこかの闇の名無しさん

勇者、勇者、勇者！

人神としてはずかしくないのか！

5696：どこかの闇の名無しさん

転移と勇者ってヤバイ組み合わせだな

5697：どこかの闇の名無しさん

掲示板ではチラホラ見るけどワイの世界には転移とか無いんだよ
なあ

5698：どこかの闇の名無しさん

転移ってなんだよ（当然の疑問）

5699：どこかの闇の名無しさん

魔術だろ

5700：どこかの闇の名無しさん

>>5698

普通に魔術の範囲なんだよなあ

これだから低学歴は困る

お嬢様部か？

5701：どこかの闇の名無しさん

>>5700

暴言やめろ

5702：どこかの闇の名無しさん

言葉が過ぎるぞ

5703：どこかの闇の名無しさん

言つて良い事と悪い事がある

5704：どこかの闇の名無しさん

お嬢様部が蔑称として機能してるの草

5705：どこかの闇の名無しさん

陰キヤは？ 死んだ？

5706：どこかの闇の名無しさん

好戦的じゃない勇者とかいるんだな

5707：どこかの闇の名無しさん

ただのサンドバッグやん

5708：どこかの闇の名無しさん

転移して逃げるサンドバッグとかいらんわ

5709：どこかの闇の名無しさん

転移の魔道具とかあるんだ

めっちゃ欲しい

5710：どこかの闇の名無しさん

俺持つてたら絶対食い逃げするわ

5711：どこかの闇の名無しさん

勇者さんサイドのやる気が無いなら相手しなくてよくね？

5712：どこかの闇の名無しさん

>>5711

なんで勇者を生かす必要なんかあるんですか（正論）

5713：どこかの闇の名無しさん

そうだよ（便乗）

勇者！殺さずにはいられないッ！

5714 : どころかの闇の名無しさん

勇者は生きてるだけで罪だからね、仕方ないね

5715 : どころかの闇の名無しさん

やる気無い奴がなんで前線に合流しようとしてんだ

5716 : どころかの闇の名無しさん

やる気無し(やる気有り)

5717 : どころかの闇の名無しさん

改名しろ

5718 : >>1

やる気無しは陽動やったんや

アホな事言ってるのはいつも通りやったけど、相手してる内に他の
勇者が一人別ルートで城塞に合流してしもうた

イラついてぶん殴ったから魔力も消費したし散々や

ちなみに城塞に合流した勇者は水の都戦で泉に来てた奴らしい

あつちは手負いやしまあ大丈夫やろ

5719 : どころかの闇の名無しさん

草

5720 : どころかの闇の名無しさん

してやられてて草

5721 : どころかの闇の名無しさん

無能

5722 : どころかの闇の名無しさん

うーんこの

5723 : どころかの闇の名無しさん

イッチの反応が軽すぎる

5724 : どころかの闇の名無しさん

こつちが陽動に引つかかるのは流石に草

5725 : どころかの闇の名無しさん

作戦負けしてるの草生える

5726 : どころかの闇の名無しさん

これは無能

5727：どこかの闇の名無しさん
陽動してる側が逆に釣られるのか（呆れ）

5728：どこかの闇の名無しさん

言っても勇者一人撤退させたんなら十分な活躍じゃね

5729：どこかの闇の名無しさん

前線に合流したのが弱い方ならセーフだろ

5730：どこかの闇の名無しさん

（前線への負担増加は）誤差だよ誤差！

5731：どこかの闇の名無しさん

何もしなかったら強い方も合流してた訳だしな

5732：どこかの闇の名無しさん

泉の勇者つて炎の四天王にやられてた雑魚？

5733：どこかの闇の名無しさん

泉ってあいつか

もう動けるのすぐくね？

5734：どこかの闇の名無しさん

拾った命をわざわざ捨てに来る勇者の鑑

5735：どこかの闇の名無しさん

戦線復帰早すぎだろ

低コスト高回転ユニットかよ

5736：どこかの闇の名無しさん

おーはえ、はえーもう来ましたどっかに隠れてたみたいに！

5737：どこかの闇の名無しさん

めっちゃ早く早いですわ！

5738：どこかの闇の名無しさん

助けてー！集団勇者に襲われてまーす！

5739：どこかの闇の名無しさん

>>5738

これが事実なの草

5740：どこかの闇の名無しさん

話には聞いてたけどやっぱイッチの世界勇者多いよなあ

5741：どこかの闇の名無しさん

四人も勇者いると大規模作戦の度に勇者出てくるのか
ヤバすぎでしょ

5742：どこかの闇の名無しさん

よく今まで魔界存続できてたよな

5743：どこかの闇の名無しさん

勇者多い分イツチ達も鍛えられてる説

5744：どこかの闇の名無しさん

四天王のパワープレイで対抗してるだけだろ

実際劣勢だし

5745：どこかの闇の名無しさん

仮にこっち側が大陸侵略できても人員不足で維持できなさそう

5746：どこかの闇の名無しさん

イツチ「戦況は五分五分」

5747：どこかの闇の名無しさん

落ちたな（魔界）

5748：どこかの闇の名無しさん

楽観視してるのイツチだけなの草

5749：どこかの闇の名無しさん

イツチは前線に応援行かんでええんか

5750：どこかの闇の名無しさん

せっかく来たのに参謀からスルーされる泉の勇者くんかわいそう

5751：どこかの闇の名無しさん

今の状態で監視止めたらもつとヤバいだろ

イツチが撤退させられず大陸でアンテナ張れてるのはデカイ

5752：どこかの闇の名無しさん

逆に監視増やすべきじゃね

泉の勇者に素通りされたのはイツチのカバー範囲が足りてない証
拠だろ

5753：どこかの闇の名無しさん

泉くんは何しに来たん？

5754：どこかの闇の名無しさん

どうせ聖女狙いだろ

渡しちまえ渡しちまえ

5755：どこかの闇の名無しさん

まだ爆弾仕込んでないから渡しちや駄目

5756：>>1

言われてる通り、合流されたのがやる気無しじゃなかったただけマシな展開や

(次に) 切り替えていく

前線の様子やけど、城塞の砲撃がかなりキツイみたいやな

敵の輸送船は魔界本土じゃなくて炎の四天王の居る足場に全部向かってきとるみたいや

海岸の指揮は妖精王の部下で十分っぽいから妖精王には炎と闇のカバーに入ってもらおうように頼んだで

敵の主力も一斉に出航してるみたいやし、いよいよ山場って感じやな

5757：どこかの闇の名無しさん

切り替えだけは早いのすき

5758：どこかの闇の名無しさん

当事者のイツチが一番前向きなの笑う

5759：どこかの闇の名無しさん

見習いたい、このポジティブさ

5760：どこかの闇の名無しさん

反省の色無し

5761：どこかの闇の名無しさん

軍船うp

5762：どこかの闇の名無しさん

全軍が炎の方に行ってるのか

5763：どこかの闇の名無しさん

光に集まる虫かよ

5764：どこかの闇の名無しさん

囿としてはバツチリ仕事してるな

5765 : どころかの闇の名無しさん

はえく人間には正の走光性があるんすねえく

5766 : どころかの闇の名無しさん

集まった敵を捌く要員がいないと結局物量に押しつぶされるん
じゃ

5767 : どころかの闇の名無しさん

>>5766

そのための投石機、あとそのための妖精王？

5768 : どころかの闇の名無しさん

妖精王がいよいよ最前線に差し向けられてるの笑える

5769 : どころかの闇の名無しさん

イツチって絶対妖精王のこと魔王様と同等って思ってたないよね

5770 : どころかの闇の名無しさん

>>5769

当たり前やん

5771 : どころかの闇の名無しさん

羽虫の王は所詮羽虫でしかないから

5772 : どころかの闇の名無しさん

妖精王の部下ってただの妖精やろ？

そんな奴に海岸任せて大丈夫なんか

5773 : どころかの闇の名無しさん

これ水の精霊生きてたらヤバかったな

5774 : どころかの闇の名無しさん

>>5773

最大個体なら海ごとひっくり返すくらいしてくるからな

戦いにすらならない

5775 : どころかの闇の名無しさん

城塞壊されたくないから魔界上陸より炎の妨害を優先してるのか

な

5776 : どころかの闇の名無しさん

魔界上陸より城塞の維持の方が優先なのか

5777：どこかの闇の名無しさん

大局より自分達の命を優先する司令部の屑

5778：どこかの闇の名無しさん

それは魔王軍も同じなんだよなあ……

5779：どこかの闇の名無しさん

つつても城塞落ちたら魔界抑え込む拠点が無くなるんだから炎の妨害が優先度高くて当然じゃね

5780：どこかの闇の名無しさん

聖女いないからもう二度と建設できないだろうしな

5781：どこかの闇の名無しさん

人類側が聖女回収する線無くなってるじゃないか？

とにかく捨て身で上陸して聖女を助けに行くもんだと思ってたんだが

5782：どこかの闇の名無しさん

少なくとも今のところ魔界上陸する気配ないよな

5783：どこかの闇の名無しさん

思ってたより陽動って効果あんのね

5784：どこかの闇の名無しさん

聖女助かる見込み無くね？

5785：どこかの闇の名無しさん

まだわからん

5786：どこかの闇の名無しさん

炎の四天王が突破されたらそのまま魔界に大軍が流れて来るしなあ

5787：どこかの闇の名無しさん

炎の四天王は魔力練ってて動けない

闇の四天王と妖精王は砲撃の防衛

追加の勇者は誰が対応すんだよ

5788：どこかの闇の名無しさん

>>5787

炎の部下がいるじゃん

5789：どこかの闇の名無しさん

そこ手抜いていい所か？

相手勇者だぞ

5790：どこかの闇の名無しさん

四天王の部下って強いん？

5791：どこかの闇の名無しさん

当たり前だろ

5792：どこかの闇の名無しさん

四天王のお抱え部下なんて木っ端魔族が束になっても勝てねーよ

5793：どこかの闇の名無しさん

ウチの四天王の部下は案外大したことないで

内政担当や

5794：どこかの闇の名無しさん

でも勇者に勝てるかって言われたら無理やろ

5795：どこかの闇の名無しさん

魔王側近のイッチでさえ勇者は取り逃がしてるしな

5796：どこかの闇の名無しさん

相手が手負いならワンチャンあるやろ

5797：どこかの闇の名無しさん

やっぱ前線に聖カスカドラゴン突っ込むべきでは？

5798：どこかの闇の名無しさん

そういえば海岸にドラゴン置いとくって言ってたよな

5799：どこかの闇の名無しさん

ドラゴンでいい

やられたら聖女爆弾で

5800：どこかの闇の名無しさん

近隣の貴族に兵出させたら？

何のための税金だよ

5801：>>1

敵側に水の精霊は一応おるらしい

小さい個体やから直接攻撃してきたりはせんけど、船の進行をサポートしとるみたいや

前哨戦で小精霊の力を使わずに船がゆっくり来てたのは本来の移動速度をこつちに誤認させるためやったみたいやな

腹立つから一段落したら直接潰しに行くわ

海岸線の指揮は作戦当初から妖精王の部下がやってたから、妖精王が前線に行っても全く影響ないで

その部下とは開戦前に顔合わせしたけど海戦に慣れてるみたいで中々優秀そうやったわ

引き抜かなきゃ（使命感）

5802：どこかの闇の名無しさん

水の精霊たそく

5803：どこかの闇の名無しさん

水の精霊おるやんけ

5804：どこかの闇の名無しさん

【悲報】妖精王、まだ働いていなかった

5805：どこかの闇の名無しさん

うーんこの羽虫キング

5806：どこかの闇の名無しさん

やっぱり妖精はカスだな

5807：どこかの闇の名無しさん

なんでも部下にやらせるな

5808：どこかの闇の名無しさん

イツチと一緒やん

5809：どこかの闇の名無しさん

>>5808

それは言い過ぎ

5810：どこかの闇の名無しさん

言って良い事と悪い事がある（再掲）

5811：どこかの闇の名無しさん

上司は部下に仕事を振り分けるのが仕事だから……

5812 : どこかの闇の名無しさん
水の精霊いんのかよ
5813 : どこかの闇の名無しさん
大精霊は前回殺したはず
5814 : どこかの闇の名無しさん
イツチが妖精王よりその部下に興味持ってるの草
5815 : どこかの闇の名無しさん
後任者見つかったやん
5816 : どこかの闇の名無しさん
妖精王お役御免やね
5817 : どこかの闇の名無しさん
グッバイ妖精王
フォーエバー妖精王
5818 : どこかの闇の名無しさん
水の精霊……？ 死んだはずじゃ!?
5819 : どこかの闇の名無しさん
>>5818
残念だったなあ、トリックだよ（ピュンポツ！
5820 : どこかの闇の名無しさん
精霊つつつてもその辺における有象無象やろ？
プランクトンみたいやつ
5821 : どこかの闇の名無しさん
最大個体じゃないなら大した事はできんやろ
5822 : どこかの闇の名無しさん
小個体の精霊は戦略的に考慮に値しない（通説）
5823 : どこかの闇の名無しさん
その小精霊に一杯食わされてる参謀がいるんだが？
5824 : どこかの闇の名無しさん
でも結局は実害ないやん
5825 : どこかの闇の名無しさん
接敵までの時間が読みにくくなってるだけでも邪魔やろ

5826：どこかの闇の名無しさん

水の精霊で運ぶ前提のデカイ船とかあるんじゃないね

5827：どこかの闇の名無しさん

殺しちまえ殺しちまえ

5828：どこかの闇の名無しさん

精霊殺す事に全く躊躇無いイツチの姿勢すき

5829：どこかの闇の名無しさん

またエルフに怒られそう

5830：どこかの闇の名無しさん

精霊殺しとか自然破壊の最たるものだしなあ

亜人族が黙ってないぞ

5831：どこかの闇の名無しさん

前回水の精霊殺した時に何て言って説明したんだろ

5832：どこかの闇の名無しさん

まだ報告してないんじゃないかね

5833：どこかの闇の名無しさん

隠蔽体質とはたまげたなあ

5834：どこかの闇の名無しさん

隠蔽隠匿は魔族の基本だから……

5835：どこかの闇の名無しさん

そこは人間も同じゾ

5836：どこかの闇の名無しさん

水の大精霊殺したのは不可抗力やったしなあ

エルフも許してくれるやろ

5867：>>1

エルフ族には水の都を襲撃した後に一応報告しに行ったで

最初情報部隊の奴に行かせたらクレーム入れてきたから後日ワイ
が菓子折り持って行ったら許してくれたわ

お墨付きも貰ったしこれから魔王軍に協力しない精霊はバンバン
消していくで

なんかまた索敵に引つかかっているから行ってくるわ

これでまた勇者やったら流石にもう逃げるで

今の体力やったらイキリでも辛勝、陰キヤなら良くて相打ちやから

な

ほな……

5868 : どこかの闇の名無しさん

ほな……

5869 : どこかの闇の名無しさん

ほなすき

5870 : どこかの闇の名無しさん

ほな……

5871 : どこかの闇の名無しさん

辞世の句やめろ

5872 : どこかの闇の名無しさん

また増援？

光カス側にスピード感ありすぎだろ

5873 : どこかの闇の名無しさん

エルフ寛容で草

5874 : どこかの闇の名無しさん

イツチ死亡率爆上がりしてて草

5875 : どこかの闇の名無しさん

流石にこれ以上勇者は無いやろ

5876 : どこかの闇の名無しさん

エルフがクレーマーなのは解釈一致

5877 : どこかの闇の名無しさん

上司が出てくると大人しくなるクレーマーきらい

5878 : どこかの闇の名無しさん

イツチが暴力で脅したんやろなあ……

5879 : どこかの闇の名無しさん

権力ちらつかせてそう

5880 : どこかの闇の名無しさん

裏で結構エゲつない交渉してそうだよなイツチ

5881：どこかの闇の名無しさん
魔王軍参謀が亜人族に対等な交渉する訳ないやん
一方的に搾取してるに決まっとる
5882：どこかの闇の名無しさん
魔族の鑑やね
5883：どこかの闇の名無しさん
これには邪神様もニツコリ
5884：どこかの闇の名無しさん
そんな鬼畜イッチも連戦は厳しいやろ
5885：どこかの闇の名無しさん
勇者だったら逃げるみたいだし少なくとも死ぬ事はないんじやね
5886：どこかの闇の名無しさん
勇者って遭遇してから逃げられるもんなのか？
こつち一人だぞ
5887：どこかの闇の名無しさん
陰キヤは消耗してる筈だから大丈夫でしょ
5888：どこかの闇の名無しさん
陰キヤが生きてる前提で話進んでるのどうなん
5889：どこかの闇の名無しさん
死亡確認できてないのが痛いわ
ちやんと首取ってこないからこうなる
5890：どこかの闇の名無しさん
安全重視で頼むぞイッチ

「お姉さーん！　お姉さーん？　いるー？」

少し前から壁の奥で小さく聞こえていた声は、徐々にその音を大きくしていき、ついに地下の一室に木霊した。

今も怒号が飛び交う侵略拠点——大城塞マーレ・カーネの地下深くの一室に現れたのは、紫のワンピースに身を包んだ小さな友人。

「つ、っ……ここに……いるわ。妖精さん。丁度……よかったっ」

「……あれ、どうしたの？ どこか怪我でもしたの？」

寝台の上で体を丸めていた女性が、来訪者の姿を見て息も絶え絶えに手を伸ばす。

以前の様子とは大きく異なる弱々しい姿を見た妖精は、手にしていた刃物を光の中に隠し、自然と上がっていく口角を制して白髪の女性へと寄り添った。

「はあ、はあ……ごほっ……お願い、この城塞の今の指揮官に、伝えて欲しい事があるの」

「伝えてほしいこと？」

「ユリ・リカを……砲撃を一旦止めて欲しいの。激しい戦いが起こっている事は分かっているわ。でも、もう私が……魔力槽が持たない。このままだと二度とこの城塞が機能しなくなってしまうの。だから……」

「へえ？ ひひひ……でも私、その人とキチンとお話した事ないよー？ 取り次いでもらえるかなあ？」

「そう……よね。だったら……」

女性は震える手をサイドテーブルに伸ばして一冊の本を手にとったが、引き寄せる途中で握力が追いつかずそれを床に落としてしまう。

乱雑に開きながら落下した本のページは小さな文字で最大限埋められており、先頭から末尾まで相当な情報量を持っている事が伺える。

「ごめんなさい、それを……取ってもらえる、かしら」

「いいよー！ えっと、『ユリア・ティードマンの日記』……？ これ、お姉さんの？」

「ええ、そうよ。今の指揮官が誰かは分からないけれど、これを読み

ば、きつと聞き入れてくれるわ」

「ふうん？　じゃあこれを持って指揮官さんの所に行けばいいのね！」

「お願い。地上も厳しい状況だとは思うけど、これ以上はもう……はあ、はア……っ……結界を維持するだけなら少しずつ魔力を戻していけるから。あの人の生きた証を……どうか、……お願い——ッ、うッ……」

地響きが起こり、軋んだ地層に圧迫された地下室が悲鳴を上げる。恐らく地上で砲撃が行われたのだろう、女性は苦し気に声を上げ、紡いでいた言葉を中断して嗚咽した。

身を襲う急激な負担を受けて、心臓が破裂するように痛み、視界が歪み、意識は希薄になる。胸を必死に抑えながら背中を丸めるようにして頭を下げた女性は、何度か荒い呼吸を繰り返した後に意識を失って床に伏した。

その様子を興味深げに観察していた妖精は、相手が体温を失って不規則に呼吸しているのを確認すると心底愉快そうに目と口を弓なりに曲げる。

「……うん、分かった。この状況を伝えてくるね………プッ！　アハハハハハ!!」

妖精は真剣な声色で応えたあと暫く沈黙を守っていたが、やがて堪え切れなかったように吹き出し、空中を笑い転げた。

自分に対して無様に懇願してみせた相手を心から愉快に思っただけで女は笑う。上等な舞台装置と化した光の眷属を横目に、妖精は小躍りしながら部屋の中を漁り始めた。

「ぐ……ぐううううううううううう！　ぬおおおおお！！　嗚呼ああああああああああああああああああ！！！」

「うっせエ」

耳を劈く大きな音と圧力が爆散し、衝撃破となって周囲を薙ぐ。強い空気の流れに抗うことが出来ず、魔王軍幹部——闇の四天王は海上に作られた足場で仰向けに倒れた。

その様子を見下ろしてわざとらしく耳を塞ぐのは炎の四天王。頭上に城一つ分以上の大きさを持つ火球を浮かべ、今も深い集中状態にいる。

「ふう、ふう……はあー、しんど。聖女を相手した次の仕事が砲撃の相殺とは、奴も相当なスパルタじゃの……っっていうかイザリアよ、『うっせエ』じゃないわ！　誰が守ってやっつとると思っつとるんじゃ。文句があるならおぬしが防いでみい！　万全の状態でも無理じゃろうが！」
「俺はあの方の命に従っただけだ。与えられた役割もこなせねえならさっさと幹部から降りちまえ」

長時間寝ずに魔力を練り上げ続けているからか、どこか疲れた様子の炎の四天王は普段の荒れた言葉遣いをする余力も無いようで、淡々と言葉を発した。

噛み付きはしたものの正論で返された闇の四天王は、暫く歯を食いしばって唸った後に拳を握って立ち上がる。

「ぐぬぬ………で、できらあっ！」

「大丈夫!?　もう無理よね?　お疲れ様、私が交代してあげるわっ！」
「なんじゃお前!？」

虚勢を張った闇の四天王の背後に突如現れたのは妖精王。部下の妖精を適所に配置して手腕と信望を示してみせた異世界の王はしかし、自分自身——妖精ネネイとしての功績を欲していた。わざわざ友の声に応え、世界を跨いで戦線に加わっているのだ、その活躍は目覚ましいものでなければならぬ。

下に仕事を回すのが王の仕事だと言われればその通りなのだが、それで褒められるのは幻想界という大きな枠であって個人ではないのだ。

「……って、タイタニア様妖精王ではないですか。どうされました？」

「手柄が必要な。その仕事、譲ってもらおうわね」

「は？ ちよつ、待つて頂きたい！」

妖精の王が笑顔で肩に手を置くと、闇の四天王は一瞬呆けた顔をした後、後に声を上げて抗議する。しかし、王に引く気は全く無かった。

自分が配置された先で大きな被害が出たとなれば、それを指示した相手に示しがつかない。自分だけでなく相手の部下を守るのも戦友として当然の事である。功績が、功績が必要なのだ！

これはあくまで王の威厳と現界への友好を示すための政治的な行いであって、決して特定個人に褒められたいなどという俗な理由から来る行動ではない。頭を撫でて貰った友人が羨ましい訳では断じてない。

「わしも仕事を途中で投げ出したとあっては沽券に関わる！ もう少し！ もう少し持たせますので！」

「お願いよ、これは必要な事なの！ ナトトにだけは負けられないの！ ヤヤタ、フミミ！ この者を医務室へ連れて行きなさい！ 安心して？ あなたの活躍は後であの方に伝えておくわ！」

「はーい」

「タイタニア様!! 困ります!! あーっ!!! タイタニア様!! 困ります!! あーっ!!! 困ります!! あーっ!!!」

「うっせエ」
虚空から現れた二体の妖精を輪に加えて、やいのやいのと騒ぎ出した小集団を視界の外にやり、炎の四天王はうんざりとした表情で言葉を吐き捨てた。その視線の先には、今もこちらに砲身を向けている巨大な城塞と、大小様々な軍船に埋め尽くされた海がある。

終わりの見えない戦いに身を投じていてなお、場の空気に絶望はない。あるのは忠誠と信頼だけだ。

その時、戦場に風が吹いた。もう何度目になるだろうか、僅かに放物線を描きながら、塔のように巨大な質量弾が後方の投石機から高速で打ち出される。地表に存在するどの物質よりも硬い素材で作られたそれは、海上の船団から嵐のように飛んでくる迎撃魔術を受けなが

らも発射時の勢いを保って城塞の結界へと突き刺さった。

眩い閃光を撒き散らしながら拮抗していた二つの力だったが、やがて運動エネルギーを失った質量弾が重力に引かれる事によって決着する。地響きを鳴らしながら城塞の手前に落下した塔は、既に寝そべっていた同じ形の物体に積み重なるようにして体を落ち着かせた。

規模の大きな攻防が行われ、静寂が場を支配する。が、それも一瞬。海は再び蠢いて船団を前に押しやり、魔術砲台はどこからか力を吸い上げて振動と発光を始め、炎の四天王は太陽をも思わせる巨大な火球に力を込める。

睨み合っているようにも見える両勢力だが、この奇妙な空白も今だけのものだ。軍船が中央の小島に到達さえすれば、炎の四天王が火球を発射さえすれば、もう互いの喉笛を喰いちぎるまで両軍が止まる事はないだろう。

戦況を左右する大きな衝突が起こるのも秒読み。そういった頃合いになって、一際強い神聖を纏う者——勇者が城塞の屋上に姿を現した。

魔界上陸作戦：司令室

「では、いつてきます」

「ああ……武運を」

大城塞マーレ・カーネの司令室で、指揮官のネレイド・ティードマンは足早に去っていった勇者を見送った姿勢のまま大きく息を吐いた。

遠方に浮かぶ巨大な火球が城塞の大きさと並んだのが先刻。結界で防ぐ事ができるのかを魔術師に計算させようとしたところで、勇者シユウが司令室に現れた。決戦に間に合うか分からないと聞いていた強力な援軍が早期に到着した事にネレイドは手を叩いて喜び、急いで現状を報告した。

切り札の投入は慎重に行う必要がある。勇者には一旦休養を兼ねて待機してもらおうつもりだったのだが、彼はもう一人の勇者が合流しているかを指揮官に問い、それがまだである事を伝えられるとすぐに飛び出して行った。

王都の式典で見た時とは全く異なった形相と余裕の無い言葉遣いはまるで別人。じつと窓越しに戦場を見ていたその瞳からは強い覚悟が窺えた。

「シユウ殿は怪鳥を駆る。今からだと彼の接敵は輸送船団とほぼ同時になるだろう。城塞全体の魔力残量はどうか？」

司令室の後方に設置されている操作盤。そこに並んでいる二人の魔術師のうち、計測を担当している男性へと指揮官が問いかける。魔術師は台の上に置かれた球体の魔道具に魔力を通すと、そこから情報を読み取って頷いた。

「はっ。魔力残量は……総量の六割以上です。十分に余裕があるかと」

「なんと……そんなにも余裕があるか。流石は——。……よし、次は最大威力での砲撃を行う。リミッターを一部外せ。シユウ殿の突入に合わせて、速やかに周囲の魔族を排除できるよう援護するんだ」

「はっ！ 砲台の第一リミッター解除。魔力弁を全開。砲台への魔力

装填を開始します！」

もう一人、設備操作を担当している女魔術師が声を張り、操作盤に触れる。城塞に張り巡らされた配管を通じて大量の魔力が地下から上部へと吸い上げられ、建物全体が鈍く振動し、壁と床が仄かに熱を持つ。

もう何度目になるだろうか、砲台に魔力を充填する一連の動作。リミッターを解除したため最大までチャージするには多少の時間が必要になるだろうが、それでも勇者の突入には間に合うだろう。最も重要なのは発射のタイミングだ。ここからは一つのミスが作戦の成否に影響し兼ねない。

指揮官が集中のため深呼吸を行った所で、ふと、天井の魔力灯が消灯した。

「……何だ？ どうした？」

「は……魔力弁を全開にした事で、一時的に砲台以外の施設への魔力供給が不安定になっているようです。でも、どうして……？」

設備操作担当の女魔術師が不安な表情で答える。計算上ありえない想定外の動きに、震える手で棒状の魔道具を撫でも状況は変わらない。

「そんな事があるのか……？ 魔力量には本当に余裕があるんだろうな！」

「はっ。現在で五割強です。全く問題ありません」

疑問に思った指揮官の問いに、計測担当の男魔術師は至って冷静に答える。自身の眼を絶対的に信用しているような力強いその言葉を受け、軽い混乱状態にあった司令室はやや落ち着きを取り戻した。

今の状況が全て予定調和であるかのように振る舞う男魔術師は、上官に向けて更に言葉を続ける。

「ですが、このままでは勇者様の突入に間に合わない可能性があります。魔力量には十分に余裕がありますので、追加で予備の搬出ポンプを動作させ、更に強く魔力を吸い上げるべきだと具申します」

「うむ……勇者殿の突入には確実に間に合わせたい。分かった、予備のポンプを動作させてくれ。ただし、魔力残量が二割を切った時はす

ぐに報告しろ。絶対にマーレ・カーネの魔力を枯渇させてはならん」
「はっ！ 魔力槽より強制的に魔力を搬出します……第五、第六ポンプ動作！」

歯車が回るような動作音が鳴り響き、再び各施設へと魔力の供給が開始される。配管が通っている壁越しに伝わる熱が更に高まり、砲台の魔力充足度を示す表示板が徐々に光で満ちていく。正常な動きを見せ始めた設備に、指揮官は安堵して短く息を吐いた。

この正念場でトラブルなど笑えない。いくら天才と謳われた祖父の作品でも、半世紀という長い年月を稼働させれば各部のメンテナンスが必要になるのだろう。今から少しの時間、数刻だけ持ってくれればいい。作戦の終了次第、大規模な点検を実施しよう。

祖父や父には止められていたが、祖母と実際に会って話してみたという気持ちは幼少期から強く持っている。今回の点検でそれが叶えば――。

ネレイドは額の汗を拭いながら、自らを落ち着かせるように作戦後の事を考えていた。

――しかし、その思考はすぐに現実へと引き戻される事となる。

再び司令室の照明が落ちる。

それだけではない。開戦してから常に振動を続けていた建物全体がぴたりと停止し、強固に要塞を守っていた半透明の結界までもが徐々にその力を失い消滅する。

まるで魔力が枯渇したかのような動き。だが、その残量には十分に気を配っていた筈である。魔力槽の状態を観測する専門の魔術師さえ配置していたのだ、こんな状況は有り得ない。

設備の操作をしていた魔術師が各設備を停止させたという可能性もあるが、彼女は魔術学院トップの娘である。操作ミスはおろか、国への離叛なども考え辛い。

「どうした！ 何があった!？」

「は……はっ！ それが、何故か全設備の動作が停止しまして、操作盤も消灯して反応せず……再起動の操作も受け付けない状態で……！」

「くそっ！ 一体何が……魔力量はどうなっている！」

「……………」

「……？ マーク上等魔術兵!! どうした、報告しろ！」

考え込むような素振りを見せる男魔術師と、食ってかかる指揮官。そんな中、二人の間に割って入るようにして小さな人影が空間を歪ませて現れた。

「じゃーん！ とうちやーく！」

黒い靄から出てきたのは一体の妖精。人類を裏切り魔族と手を組んだ幻想の住人。エルフと同様に、魔界が縮小した現在では滅多に見る事のできない種族である。

ネレイドも、この場では最年長である彼の秘書でさえも、実際に目にしたのは初めてだった。

「フェアリー、なのか……？ て、敵襲！ 敵襲ーッ！」

「うわわっ！ なになに!? やめてよ！ 攻撃しないでっ!? わたし仲間だよ！ このお城の地下にいたお婆さんと今まで一緒にいたの！」

「何を……はあ?！」

一斉に投射される魔術をギリギリで回避しつつ、妖精は叫ぶように声を発する。その内容に眉を顰めたネレイドは、腕を真横に上げて部下達の攻撃を制止した。本来侵入者を前に容赦する性分ではないが、妖精自身から殺気が感じられなかったのが大きい。

仮に彼女が友好的な妖精だった場合、一方的に殺めてしまうのはあまりにも非道であるし、もし急に暴れられたとしてもこの場にいる軍人が一斉にかかればすぐに無力化できるだろうと思った。話を聞く価値は十分にある。

「……………どういう、事だ?！」

「ええっと、あなたが指揮官さん？ あのね、この地下深くに、あなたのお婆さんがいるのは知ってる?！」

「……………何故だ。そこにフェアリーがいるなんて聞いていない！」

全員が息を呑み、静寂に包まれる室内に妖精の言葉が響く。その突拍子もない内容に、誰もが戸惑った様子で指揮官に目を向けた。

一瞬驚いたように目を見開いた指揮官は、すぐに眉を顰めて妖精を睨みつける。しかし、その発言は疑いようもなく肯定を示していた。「知ってるのね！ わたし、その人からこれを預かってきたの。緊急事態なんだって！」

「これは……」

妖精の小さな手で差し出された物品。それを見た瞬間、ネレイド・ティードマンの思考は一時空白になった。

手渡されたのは日記と写真。日記の表紙には歴史から抹消された筈の祖母ユリア・ティードマンの名が。写真には奇才と謳われた祖父グラス・ティードマンと共に美しい女性の姿が写っている。

手渡された写真の中で笑う祖父は間違いなく本物、かつ自分が見た事の無い表情だった。実家にすら存在しなかった祖父の遺品を手にして、ネレイドは言葉を紡ぐ事ができない。

祖母と共に長年地下に居たのが事実であれば、このフェアリーは人類と亜人が敵対する以前の個体という事になる。ユリアから貴重品を預かり、直接伝言を頼まれている事からも信頼性は高く見えた。

「それでね？ あなたの老婆さんから伝言があるの！」

「……続けてくれ」

『これ以上は持たない。今すぐに砲撃を止めて欲しい』だってさ！」「……ッ!? 何故だっ……! 魔力の残量には常に注意を……:……く

そ、砲撃は中止だ！ 魔力弁を閉じろ！ 急げッ!!」

フェアリーの言葉を受け、ネレイドが声を荒げて指示を出す。

大城塞マーレ・カーネは根本の魔力槽——ユリア・ティードマンを失えば終わりだ。この作品は外部からの魔力供給を想定されておらず、一度停止してしまえば再稼働は不可能に近い。

仮に今回の進軍に成功して人類が魔界に上陸できたとして、後方から強力に支援できる拠点が無ければその地点を維持する事はできない。船団による一斉攻勢も元を辿れば城塞を破壊させないための手段であり、この城塞を失えば勢いを取り戻しつつある闇の眷属は今度こそ大陸へと侵略を開始するだろう。絶対に阻止しなければならぬい絶望の歴史が繰り返されてしまう。

そんな最悪の想定に指揮官が歯噛みした所で、今まで無垢な表情をしていたフェアリーが急に口元を隠して震え始めた。

「……………ププツ！ ひ、ひひ……………も、もうだめ……………ひひひっ、アハハハハハハッ！！ もう無理！ 我慢の限界っ！！」

「無駄っ！ 無駄だよ指揮官さん！ 意味がない！ ついでに幻術の耐性もないっ！」

「無駄……………おい、どういう意味だ！ 祖母は今どうなっている！」

「プクク……………いひひひひひひっ！！ 聞きたい？ 聞きたい？ お婆さんはね？ お婆さんはねえ——、」

だらしなく笑いながら語るフェアリーはここで一息つき、目元と口を限界まで歪ませて口を開いた。

「——死んだよ？ さつき指揮官さんの指示で。あははっ！ 馬鹿な孫に力を奪い尽くされて、惨めに丸まったまま動かなくなっちゃった！ 自分の子孫に殺されるってどんな気持ちなんだろうねえ！ きひひひひっ！ かわいそう！ かわいそう！ あははははははははははっ！！」

「……………はっ!? な、なっ……………そ、そんな訳がない！ 黙れえっ！」

「ヒヒヒ！ 同族殺し……………いや、先祖殺しかな？ 私と友達になれるかも！ 気分はどう？ もちろん最高だよねえ！ キヤハハ！ 殺した殺した！ 殺したんだ！」

「やめろツ！！ 黙れと言っている！」

フェアリーの煽るような物言いを受け、ネレイドは怒りに任せて腰の長剣を振り抜いた。鋭い金属音と共に衝撃波が発生し、魔力を伴った斬撃が少女へと高速で迫る。

彼女は自身に向けて飛来するそれを、光の中から取り出した短剣で弾いた。

「うわっど！ うひひひひ！」

人類と敵対していないというフェアリーは、味方であるはずのネレイドから攻撃を受けたにも拘わらず全く動揺しなかった。彼女はただ淡々と武器を取り出し、振るい、再び仕舞っただけだ。

その落ち着いた反応が、大きく歪められた口元が、狂気を含んだ瞳が、徐々に指揮官の疑心を強めていく。

このフェアリーは祖母から伝言を聞き、日記と写真を預かり受け、攻撃しても反撃してくるどころか文句も言っていない。しかし、そのどれもが直接的に味方であるという確証にはなっていない。信用できない。

祖母が死んだと悪質な嘘をつき、こちらの動揺を誘っている可能性だって十分にある。

「フェアリー、貴様の話は……有り得ない。魔力量は確かに余裕があった。マーク上等魔術兵、今の魔力残量を報告しろ！」

「……さあ、よく分かりません」

「……は？ 何をふざけて……いや、待て。まず前提がおかしい。砲台にチャージした時には十分な魔力量があったんだ。……そうだ、チャージ……！ 今、途中まで砲台に充填した魔力を逆流させるんだ！ そうすれば仮にフェアリーの言っている事が本当だとしても、まだ取返しがつく……！」

「失礼する！ 何があった?！」

指揮官が混乱しつつも思考していると、司令室の扉が勢いよく開かれた。

異常を察知して飛び込んできたのは線の細い男。長物のローブに杖を持ち、肩で息をしている精霊術師のボーダーだ。

「……くっ、フェアリーの襲撃か！ 《水が生を分かっヴァダ・ディライン》……！」

精霊術師は妖精の姿を確認すると、即座に杖に水の刃を付与し、その背中に向けて斬りかかった。しかし、水飛沫を上げながら迫る刃は相手を切断する寸前で、横から差し込まれた剣によって受け止められる。

驚愕するボーダーが剣の主へと視線を向けると、フェアリーのすぐ側には計測を担当していた男魔術師が立っていた。その手に持っているのは漆黒の長剣。両手持ちした杖に体重をかけて押し込んでいるにも拘わらず微動だにしない驚くべき力に、ボーダーは歯を食いしばって対抗した。

「なっ……誰だ！ こいつも侵入者か!？」

「……体が勝手に動くんだ。この剣が、急に僕の手の中に現れて……」
「元の意識があるのか……チツ、殺す訳にもいかん！ 誰か、この男を取り押さえて——ッ?」

一瞬だった。様子のおかしい魔術師の男と罅迫り合いをしている精霊術師の胸に、目にも止まらぬ速度で紫の妖精がぶつかつた。ニタニタと品無く笑うその手には短剣の柄が握られており、既に刃の殆どが体内に刺し込まれている。毒でも塗られていたか、傷口からは緑の液体が滲んでいた。

「ボーダー殿っ!」

「グ……クソッ、侮つた！ 相棒さえいれば……、ここは引かせてもらう!」

「ひひ? ひひひ? 引く? そんなの許すわけ……つて、うわ! あぶなっ!」

傷を負い、部屋から出ようとするボーダーに追撃するべく妖精は光の中から小剣を取り出したが、そこに多数の軍人による攻撃が飛んでくる。指揮官の指示もあり各々が手を止めて混乱していた軍人達だったが、味方であるボーダーが直接攻撃を受けたのを見てフェアリーを敵だと断定し、我に返って動き始めた。

妖精が空中でたたらを踏んでいる隙を突き、精霊術師が入ってきた扉から逃走する。今も城塞の外で潮の流れを操っている水の精霊と合流しに向かったのだろう。

状況を飲み込んだネレイドは、苦い顔で男魔術師に剣の切っ先を向けて周囲の部下に指示を出した。

「総員。あの妖精と……マーク上等魔術兵を攻撃しろ」

「し、指揮官!? マーク先輩は操られているだけで……! ……っ、了解、しました……」

上司からの非情な指示を受け、操作盤の前にいた女魔術師は咄嗟に反発したが、少しの葛藤の後に短杖を構えた。

いつの間にか現れた漆黒の剣により、隣で計測を担当していた男魔術師——マークは体の自由を奪われている。見るのも悍わぞましい邪悪な

色を放つ長剣は空間を歪ませる程に大きな魔力を溜め込んでいるが、その剣を持たされてる彼の自我は未だ残っているらしく、剣を持っている右手を左手で抑え抵抗している様子が窺える。が、その拮抗が崩れた瞬間に大きな被害が出るのは明らかだ。

仲間を手にかけるのは気が進まないが、甘い選択ができる状況でもない。

「ごめんなさい、マーク先輩。私……」

「……なぜこちらを見る？ こいつはまだ正気だぞ？ 仲間の手を掛けるのか？」

「待ってくれ！ 君は城塞の設備を操作して砲台残っている魔力を逆流させてもらいたい！ フェアリーとマーク上等魔術兵はこちらで何とかするから、頼む！」

「！ わ、わかりましたっ！」

悲痛な表情で覚悟を決めた女魔術師に、指揮官から声がかかる。彼女がはっとして背後を見ると、そこには再び光が灯っている操作盤があった。先程は光を失って操作を受け付けない様子だったが、この状態なら砲台側にある魔力を城塞の魔力槽へと逆流させる事も可能だろう。

室内の各場所から弾幕のように飛来する魔術が妖精を追い回し、漆黒の剣はマーク本人が抑えている。今がチャンスだ。

仲間を殺めるといふ苦しい選択から逃げるように後ろを向いた彼女は、操作盤へと近づいて手を伸ばす。

細い指が一つのボタンに触れた瞬間——視点が斜めにずれた。

「馬鹿か、貴様等」

落下しながら回転していく視界。剣を持つ男、首を失った女の体、天井にまで届く血飛沫、力の入らない体、遠くで自分の名を呼ぶ声。それらが意味するものは何か。

思考する彼女に、理解よりも先に終わりがやってきた。

出来上がった遺体を見下ろし、血の滴る剣を構える男に焦りや怯えは無い。その瞳にあるのは蔑みと嘲笑だけだ。

「幻術で思考に介入しているとはいえ、判断の悉くがお粗末に過ぎる。

こんな奴らに圧されているのか？ 私達は」

「幻術のゲの字も知らないの。ふしぎふしぎ！ にやは」

「まあ、私の正体が見抜かれなかった時点で分かり切っていた事だな」

仲間の首を跳ねた男魔術師は、さも当然のように妖精と会話を始める。

つい先程まで確かに自分の部下であった筈の男の変化に啞然としながらも、ネレイドは目の前で殺された部下の名を叫んだ。

「シャーレ！ シャーレッツ！ ……クソツ！ マーク上等魔術兵、お前、何をしたか分かっているのか!？」

「マーク？ ……ああ、この男の名か。無論、本人はどうに死んでいく。私は私だ」

「な……っ!? 変装……いや、変身、か？ この精度、こんな事が………クツ、全員、こいつらを殺せ!」

「アハハ！ 無駄無駄！ あー面白かった！ もういいよね？ みんなに夢を見せてあげる!」

「いや、待て。ここは私がやる。少しでも報告書の文章量を増やして参謀様にアピールを——」

「えい、っと」

男魔術師が——男魔術師の姿をした者が制止の言葉をかけるのを無視して、妖精は一本の笛を取り出した。それを吹くでもなく先端をふらふらと踊らせると、室内は一瞬にして幻想に包まれる。

そこは豊かな自然に囲まれた街道。天まで届く巨大な樹木に守られた美しい世界。

鉄は石に、武器は花に、緊張は童心へと形を変え、室内が混乱で満ちる。軍人達は明後日の方向に攻撃を繰り返し、流れ弾が設備と人体を破壊する。

長きに渡り、妖精は光の眷属として人間と手を組んできた。完全に人類と敵対したのは何十年も前の事であり、今となっては幻惑への耐性を持つ人間は極端に少ない。

室内で妖精と対峙した際、初手で部屋ごと焼き払わなかったのが経

験不足の証であった。一度でも妖精と命のやり取りをした事のある者は、その際の犠牲を躊躇わない。最早勝負は決したと言っている。ろ。

様々な魔術が入り乱れる室内を見て笛を下ろした妖精は、男魔術師の姿をしている仲間に振り向いてニタニタと下衆た笑みを零した。

「司令室の制圧をしたのは私、と。ひひひ、お手柄お手柄！ 大して役に立ってないエリゼさんは残念だねえ？ 悔しいねえ!」

「チイツ……!」

妖精の勝ち誇るような仕草を見た男魔術師——エリゼフィーナは咄嗟に剣を持つ手に力を入れたが、流石にそれを振るう事は自制した。感情に任せて同士討ちを行っては功績どころの話ではない。

「何か、何か手柄になりそうな事は……っ！ そうだ!」

何やらメモを取り始めた妖精を尻目に、焦る彼女は操作盤へと駆け寄った。僅かに光る操作部に手を触れ、そこから情報を読み取って口を大きく歪める。

「……ククク、これだ！ ハア——ッハッハ!」

「え？ なに、気でも狂った？ 狂ったね？ 報告書に書いておいてあげる!」

「違う。大きな功績を挙げる方法を思いついたのだ。お前は精々その小さな戦果で満足し、参謀様に鼻で笑われるがいい」

「エリゼの気が狂った、と。メモメモ」

「抜かせ。……魔力リンク良し、砲塔動作良し、視界良し。全リミッターを解除!」

エリゼフィーナが操作盤に魔力を通すと、甲高い動作音が建物内に鳴り響き、城塞上部が大きく振動しながら砲撃動作を開始する。最大火力には及ばないが、通常の砲撃よりは高い威力となるであろう十分な量の魔力が残っている。

あとは操作一つ行えば、人工の雷が着弾地点とその周囲を消し去るだろう。

「目標——崖際で余計な事をしている水の小精霊。マーレ・カーネの全魔力を投げ、ユリ・リカを発射する!」

誰が聞いている訳でもないが、彼女はここ数日で覚えてしまった砲撃プロセスを几帳面になぞってみせる。

目前に迫った華々しい未来を幻視して笑みを零すその狂った瞳は、邪教の狂信者を思わせた。

「手柄は、私のものだあああああああああああああつ!!」

ありったけの力を込められた狂信者の拳が操作盤に叩きつけられ

——瞬間、世界が白に塗り潰された。

限界角度まで下げられた砲身から溢れた光は見る者の目を焼きながら斜め下へと投射され、息も絶え絶えに相方と合流した精霊術師と水の精霊を蒸発させながら大陸北端の崖へと着弾した。

魔界上陸作戦：前線

竜系の魔族が吐き出す炎が、氷が、雷が、海に浮かぶ僅かな陸地に這い上がろうとする人間を焼き尽くす。

後方の船に控える無数の魔術師によつて幾重にも展開された結界が竜の息吹とぶつかり合い、その多数を破壊されながらも正面を無理矢理にこじ開ける。船体を衝突させて陸に取り付いた軍船から群がるように人間が上陸し、数えるのも面倒な程の光の眷属が盾を構え中央に向けて突進する。

妖精の王が笛を吹きながら踊ると、走っていた重戦士はふらりと立ち止まった後に反転し、盾を突き出して味方を足場から弾き出しはじめた。それによつて暫くの間は稼げたが、ブレスの切れ目に船団から飛来した雷に打たれて重戦士の集団は動かなくなる。海に引き摺り落とされた彼らの後からは、再び重装備の一団が中央へとなだれ込んだ。

物量に次ぐ物量。圧倒的な数の差を前に、圧倒的な力で対抗する闇の眷属達。このまま互いの消耗戦が続くと思われる戦況だったが――そんな戦場に風が吹いた。

ふわりと肌を撫でた熱気は瞬く間に強さを増し、荒れ狂う暴風となる。重装備の兵がたたらを踏む程に強くなった風と共に、巨大な影が陸地を覆い隠した。

「……………勇者かつ！」

中央に控えていた竜族の男が上空を見て叫ぶ。

空を覆い隠しながら降下してきたのはルフと呼ばれる怪鳥。宙に浮かぶ火球を避けながら高速で迫る巨鳥の鉤爪が炎の四天王に届く寸前で、怪鳥はその全身を細切れにされて後方の足場へと崩れ落ちる。

火竜の前には先程の男が割り入り、刀を振り切っていた。男は刀の血を払い、鞆に納め、髪を掻き上げて嘲笑する。

「フンッ……所詮はただの鳥か、今日のメインディッシュは決まりだな。愚かなる光の眷属達よ、俺の美しい戦姿に恐れ戦くがいい。さ

そう独り言ちると、勇者は一度目を閉じた。それは祈りのためか、覚悟のためか。短く息を吐いた後、一人の男は剣を抜く。

剣身煌めく長剣を縦に構え、何重にも加護を付与された肉体は魔道具の鎧によって更に固められている。国が用意した最上級の装備に人々の希望を乗せ、今まで精鋭の仲間達と共に数多くの敵を屠ってきた人類の切り札——この戦いを終わらせるべくやってきた筈の勇者はしかし、どこか苦悶の表情を浮かべていた。

「人間風情がその名を気安く呼ぶなアアアアアアッ!!!」

「——ッ! ぐあッ……………」

少年が主人の名を呼んだ事に激昂した竜は、翼で空を掻き弾丸のよきな速度で彼に斬りかかった。

体格の優位を全面に押し出した力任せの振り下ろし。その速度に反応できず刀を正面から受けさせられた勇者は、続いて側面から叩きつけられた尾によって体を折りながら吹き飛び地を転がる。

「うッ、ぐッ……………カハッ……………」

「フン、やはり手負いか。何故そんな状態で前線に出てきたのかは知らんが、自殺というなら付き合ってやる。いくら勇者といえど、今の貴様であれば俺でも始末できる」

「…………自殺、か。確かに最初はそうしようと思っていたけど、最期に友達——アルラの顔を見たくなくなってここまで来たんだ。けど、その炎の四天王を見て気が変わった。この戦いに僕の命を賭ける。そいつを殺して、死んでいった仲間達の無念を晴らす。きつと、サーシャはこんな事望んでないだろうけど…………もう決めたんだ」

「貴様…………それは竜姫様への侮辱か? 死に損ないが大それた事をほざくなッ! ——《成れ、コンフル・ジョーネ大河の源流》」

「《雷脚》ッ!」

再び吠えた竜が短く術を唱えると、何も無いはずの空間が熱を持ち、次々に収縮して破裂する。

勇者を挟み込むように八方から爆熱が迫り、中心でそれぞれが混ざり合い灼熱の火柱が上がった。視界を覆い隠す程に大きな火炎柱は、空に浮かぶ火球を突き抜けて天を焼く。

自身が炎に卷かれる直前で、勇者はその脚に雷を宿して後方へと跳ねて距離を取った。傷んだ体で無理矢理魔力を消費した事により着地時にふらついたものの、敵の詠唱から事象の顕現までの僅かな時間で回避行動をとる事ができたのは僥倖だった。とても万全とは言えない今の状態でも、やりようによっては戦えると自信が持てた。

冷や汗をかきながらも内心で落ち着きを取り戻した勇者は、側面に違和感を覚えて宙へと跳び上がる。

直後、交戦中の竜とはまた別の、近くで待機していた竜族によるブレスが足元を浚った。勇者の着地点を狙って吐き出された猛毒の息吹は、空気を汚染しながら吹き荒んで地面を腐敗させる。

空中に出る事で不意打ちを回避した勇者は、自身の次なる着地点を探して視線を動かした。目標である炎の四天王との距離を詰められ、かつ汚染していない地点を一目で発見し、そこを目掛けて雷を纏った足で宙を蹴る。

勇者が星の力により推進力を得た次の瞬間、先程の火柱の中から身を焼きながら飛び出してきた竜がその腕を掴み、城塞に向けて追い返すように地面へと叩き伏せた。

「ぐあッ……っ！」

「搦手は好かんが、貴様ら人間は卑怯な手が得意だからな。万が一も無いようここで押さえておく。その体で前線に出てきたのだ、まさか無策ではあるまい？ 自爆まがいの手段があるのなら俺に対して使ってみせろ！ 勇者ッ!!」

「そんなんっ!? モデウス様、いけません！」

勇者の腕を砕きながら踏みつけた竜は、今にも噛み殺さんとする勢いで顔を近づけて凄む。

その内容を聞き、先程ブレスを吐いたばかりの魔族——モデウスの部下は悲痛な声を上げた。尊敬する上司を失ってはならないと一歩踏み出した彼女に、竜は手を差し向けて制する。

「ナツちゃん……分かってくれ。これは俺が、俺自身がやらなければならぬ事なんだ。この身、この命、全てがイザリア様に捧ぐ忠義の証。ここで散って喜びこそすれ、悲しむ事など有り得ない。だが、も

し俺がこの戦いを生き残れたら……一つだけ、頼みを聞いてくれないか……?」

「気色悪い。さっさとやれ。それか死ね」

「はい」

安い歌劇のような台詞を語っていた男は、上司に釘を刺されると大きく翼を二回羽ばたかせた。これは合図だ。

怒号飛び交う戦場に、独特の風切り音が二度響く。最前線で光の眷属を抑えていた魔族達が一齐に反応し、強い攻勢をかけて一時的に光の眷属を押し返す。彼らは次々に空へと飛び上がり、高々度へと移動した。

それを不思議そうに眺めた妖精王は、戦場の空気が変わった事に慌てて幻想界へと身を隠す。

『——聴け。これが福音だ』

竜が顎を開き、息を吸う。戦場の音が、振動していた空気の一部が取り込まれ、先程まで捨てて身で魔族に迫っていた人間の誰もがその違和感に身を縮める。

音を失った戦場に、再び訪れたのも音だった。キンと甲高い音が耳鳴りのように鼓膜を震わせたかと思えば、次の瞬間には肌を震わせ、大地を震わせ、最後には超振動が全ての命と物質を内部から揺さぶり破壊した。

竜技——《調停者の声》クリアドーフォルト。万物を破壊し、原点へと還す王者の一手だ。

指向性を持った衝撃波が前線を押し流したその時、城塞から強烈な光が放たれた。魔術砲台による砲撃である。砲撃自体は開戦してから何度も行われてきたが、結果から言えば今回のそれは輪をかけて強い力を持っていた。

膨大な内包魔力によって砲身だけでなく砲塔そのものを破壊しながら発射された光の帯。何故か斜め下に着弾した魔弾によって天地の全てが白く塗り潰され、生まれた眩い光は直視した者の眼球を焼く。

「なっ……!?! グオオオオオッ!!」

「イ、イザリア様……イザリア様……！」

「黙れ。いいから、さっさと、これを抜け……！」

炎の四天王の腹部には今も長剣が刺さっており、剣から発せられる光により内部から体が蝕まれている。

モデウスが慌ててそれを引き抜くと、彼女は怒るでもなく（余裕があれば間違い無くそうしただろうが）、苦痛を押し込めた表情で更に高く舞い上がり、火球へと取りついた。

最早集中して魔力を練る事ができる状態ではない。周囲を歪める程に凝縮された魔力が空中に霧散してしまうその前に、彼女は宙に浮かぶ火球にその全てを叩き込む。

「ッ……来い、精霊——！」

傷を押さえ、口の端から血を吹き出しながら想いと魔力を込めて叫ぶ。傷ついた体に、急な魔力の喪失。翼を羽ばたかせるのも精一杯といった状態になった炎の四天王を護るようにして、呼ばれるままに炎の精霊——星の意味が顕現した。

『』

それは光の眷属、闇の眷属、そのどちらとも一線を画す存在。全身が燃え盛る炎で構成された人型の体を持ち、大量の魔力を受け取って活発に宙で踊る炎神。はしゃぐようにその場で回転した後に炎の四天王にサムズアップした精霊は、ステップを踏みながら火球へと入っていく。

見せかけだった二つ目の太陽に、本物の火が灯る。

「……こんくらい、か。これじゃ結果、破れるか……分かん、ねエな」
真に顕現した火球が持つ力を見て、炎の四天王は腹部を押さえながら眉を下げる。らしくない表情ではあったが、深い傷を負い、想定よりかなり早いタイミングで準備を切り上げざるを得なかった事でもや弱気になっているのだろう。

城塞の結界は強力だ。砲台が自壊した理由は不明だが、その分全ての力が防御に回されるとすればその強度はまさに未知数。炎の四天王は、この攻撃の効果が敬愛する上司の期待を下回る事を恐れていた。

『……』

その気持ちを知ってか知らずか、炎の精霊は火球の中で舞った。陽気に舞った。星が持つ核熱を身に宿し、火球を更に熱く、更に大きく。それこそ太陽と形容できる程にまで。

球の中心部が白から黒へと変化する。鉄黒が溶け出るように全体へと波及し、巨大な火球は禍々しい闇の力で満たされた。闇の眷属に伝える熱量を抑える性質を持ったそれは、存在するだけで莫大な熱を運んで周囲の人間を焼き殺す地獄の象徴だ。

戦況を決定づけるには十分な一撃を用意し、炎の精霊はもう一度炎の四天王へと親指(?)を立てた。

「……へッ。そんじゃ、一発、派手にいくかア……!」

その陽気な姿を見て短く息を吐いた炎の四天王は、傷口から手を離して火球へと添えた。そのまま前方に投げつけるように腕を振り、太陽に意思を乗せる。

一拍置いてゆっくりと動き出した火球は徐々に加速し、小鳥が飛ぶ程の速さになるとその速度を維持したままスライドするように城塞との距離を詰め始めた。

遠目に対峙するだけで人を焼き、鎧を溶かし、船を燃やす大災害の行進。しかし光の眷属もただ燃えていくだけではない。後ろから津波に襲われ、死の劫火が天を覆い尽くしていてもなお、結界により生き長らえながらありつた力の力を火球に叩き込む。

星の数ほどの魔術が海面から立ち昇り、天変地異さえ思わせる激しい攻撃が火球を少しずつ減衰させていくが——消滅には程遠い。海上で必死の抵抗を見せる人間達は、近辺の結界が破れ、船が発火炎上する度に数を減らしていく。

十分な戦果が得られる事を確信し、炎の四天王はゆっくりと高度を下げて不安定な足場に着地した。

駆け寄ってきた魔族達により簡易的な治療が施される中、彼女は平伏する副官の巨体を蹴り飛ばしてから指差した。

「勇者の死体を集めとけ。参謀様に献上する」

「……はっ。少し燃えてしまいましたですが、部下に確保させてあります。」

ナーガルド！」

「はい、モデウス様！ あちらに……あれ？」

上司に名を呼ばれ、背筋を伸ばして答えるナツちゃんもと元いナーガルド。しかし彼女は、普段の真面目な様子からは想像できない素っ頓狂な声を上げる。

その違和感に周囲の魔族の視線が集中した先には、つい先程まで無かった筈の棺桶が一つ転がっていた。

「これは……死んだか？」

周囲の敵の始末を終え、城塞の司令室から外を見ていた女性——人の四天王エリゼフィーナは、真っ直ぐ自分の元へと迫りくる火球を見て呆れたような声を出した。

沖合では船から投げ出された人間達が水蒸気によって蒸し焼きにされており、その熱源である大火球から全方位に発せられている致命的な熱は、光の眷属である彼女にも確かに伝えられている。このままでは城塞内部はかなり早い段階で人間が生存できない温度となり、自身も巻き込まれて死に至る事は明白だ。

「まだ合図は出していないぞ。あの雌竜め、最初からこれが目的だったのか？ 幹部の中で最もあの方と親しい私を妬んで……？」

「うーん、その自惚れはともかく、あの火球に関してはうっかりだと思っただけだね。大方何かイレギュラーがあって、対応してる内にこっちの事なんて忘れてたんでしょ！ これだから他のヤツらは脳筋で困る！ ま、私はもう闇の眷属だし？ 飛べるし？ 死なないんだけど！ プププツ、笑える〜」

「全く笑えん！」

大きな戦いの中でどうしても発生してしまう想定外と自己判断。普段なら指揮により回避できているような同士不慮の事故討ちも、今回はその指

揮官が大陸の中央寄りで哨戒に当たっており、戦闘中なのか連絡すら取れない状態になっているのが痛かった。本来は考慮にも値しないような低確率な出来事の積み重ねが、相乗効果によって致命的な失敗を引き起こしているのが現状だ。

幹部クラスの強力な魔族を、同じ戦場で運用する。その難しさと管理の必要性が浮き彫りになった状況と言える。過去の戦法において上級魔族を地域ごとと離して運用していたのは、まさにこれを嫌ったの事だった。

「走って逃げても時間稼ぎにしかならん。どうにかならんか？」

「無理無理イ！ 私じゃ重くいエリゼを持って飛べないし！ それに、アレを正面から防ぐ手段があるなら今頃私は四天王最強になっているって！ 諦めて死のう？」

「死ぬるか！ 私は何も自分可愛さに言っているのではない！ 参謀様の手腕によって魔王軍がようやく反撃の狼煙を上げた所だというのに、あのお方の手駒が減ってはこれからの作戦に影響するだろうが！」

「うーん？ それは確かに問題だけど、無理なものは無理だし………あれ？ 何かこっちに飛んできて………？ ひひひひ！ もっと早いお迎えが来たかもね！」

「何？」

妖精が笑いながら指差す先——火球の向こうに浮かぶのは小さな黒点。

遠目では分かりにくいながらも高速で飛来するそれは、火球を突き抜けるように追い越し、徐々に見え方を大きくしながら城塞へと急接近する。

驚くほど正確に打ち出され、迷いない軌道を描く硬質な塊。それは境界を失った司令室の壁を破壊して勢いを弱めると、二人の近くに転がって落ち着いた。

「投石……？ まさかあの精霊までもが私の命を狙って……？ いや、これは………土の精霊本人か」

『……』

城塞に穴を空け、石材と土煙を撒き散らしながら突入してきた鉄紺の塊。亀裂が入り、割れたその中から現れたのは一人の少女だった。茶色の髪で片目を隠し、白い装束に身を包んでいる姿はいつか見た格好と全く同じ。

無表情に周囲を確認する様子からは彼女の意思を読み取る事ができないが、精霊とはいえ彼女も同じ四天王だ。ここに来た目的を推察するのは容易かった。

「残念だったな、土の精霊よ。城塞の内部は私が制圧し、城塞そのものはあの火球が破壊する。つまり、もうここに貴様の手柄になるようなものは残っていないなななななな」

「わわっ！… なになに!?!」

人の四天王の言葉にやや口を尖らせた土の精霊が、足の先で司令室の床を軽く叩いた瞬間——世界が悲鳴を上げた。

地割れと激震。大地と大地を擦り合わせた爆音と共に上下が逆転するような強い揺れが大陸北部を襲い、人の四天王が舌を噛む。城塞の足元が引き裂かれるように割れ、地中深くに光が通っていく。境界を失ってなお頑強に構えていた城塞が、足元からゆっくりと地に沈み、星に飲まれていく。

城塞は重圧に耐えながらも暫く形を保っていたが、ある地点でついに損壊し、中にいる者達を放り出しながら星の下層に吸い込まれていった。

【闇の眷属集合】 四天王で本土防衛十城攻め実況スレ

(3)

7032: >>1

やっと一段落したわ

チカレタ…… (小声)

【画像】

「平原に多数の黒煙が立ち上り、見渡す限りの死体の山が地上を埋めている様子」

7033: どのかの闇の名無しさん

弦楽器の無い世界とかあるのか

7034: どのかの闇の名無しさん

音楽はあるのにな

弦を避けて魔楽器にまで発展できたのは凄いと思う

7035: どのかの闇の名無しさん

お

7036: どのかの闇の名無しさん

魔楽器の仕組み何回聞いても理解できないんだけど俺だけ？

7037: どのかの闇の名無しさん

もう終わってる！

7038: どのかの闇の名無しさん

イツチ生きとるやん

7039: どのかの闇の名無しさん

しぶとくて草

7040: どのかの闇の名無しさん

死体多すぎて草

7041: どのかの闇の名無しさん

これは魔王側近

7042: どのかの闇の名無しさん

不沈艦イツチ

7043 : どころの闇の名無しさん
あれは……北の侍!?
7044 : どころの闇の名無しさん
やっぱ幹部つえーな
7045 : どころの闇の名無しさん
万人規模やん
7046 : どころの闇の名無しさん
これ敵さんは決戦のつもりだったんじゃねーの
7047 : どころの闇の名無しさん
勇者はいなかったか
7048 : どころの闇の名無しさん
決戦なら最初から合流して総攻撃仕掛ければ良かったやん
わざわざ後から援軍として向かわせる意味がわからん
7049 : どころの闇の名無しさん
合流を待つ予定だったけど陽動で引きずり出されたんじゃね
7050 : どころの闇の名無しさん
でも先にちよつかいかけてきたのは向こうなんだよなあ
それに応じてイツチが開戦させた訳だし
7051 : どころの闇の名無しさん
近所の別国なんじゃ?
漁夫の利を得ようとしたとか
7052 : どころの闇の名無しさん
まあ有り得る話だよな
7053 : どころの闇の名無しさん
ほんとお?
7054 : どころの闇の名無しさん
やっぱ統制取れてないよな人間って
7055 : どころの闇の名無しさん
光カスなんて所詮そんなモン
7056 : どころの闇の名無しさん
いい事思いついた。そこを突けば簡単に勝てるんじゃね?

7057：どこかの闇の名無しさん

>>7056

お前頭いいな

7058：どこかの闇の名無しさん

天才おるやん

7059：どこかの闇の名無しさん

ええ事聞いたわ！さっそく光カスブチ殺してくるで！

7060：どこかの闇の名無しさん

ここまでテンプレ

7061：どこかの闇の名無しさん

百万回と見た光景

7062：>>1

勇者はおらんかったけど敵の指揮官が手練やったわ

ワイの姿見るなり持久戦の構えで消耗戦にしてきたのは相手の作

戦勝ちやな

勇者おつたら死んでたかも

前線も滅茶苦茶になつとるみたいやし、今後は単独行動は控えよう

と思うわ（反省）

全体の戦況についても少しずつ情報入ってきとるけど、まずは城塞に移動開始するで

7063：どこかの闇の名無しさん

絶対反省してないわ

7064：どこかの闇の名無しさん

単独行動するならせめて指揮官から降りて、どうぞ

7065：どこかの闇の名無しさん

流石に勇者はいなかったか

7066：どこかの闇の名無しさん

これ以上勇者出てくるとか考えたくもない

7067：どこかの闇の名無しさん

陰キヤ出てこなかったのが救いやな

7068：どこかの闇の名無しさん

やっぱ陰キヤ死んでるよね

7069：どこかの闇の名無しさん

常識的に考えて死んだ勇者が復活するワケないしな

7070：どこかの闇の名無しさん

死んだんじやないの？

7071：どこかの闇の名無しさん

>>7069

常識的に考えるなら勇者は棺桶になって消えたりしないんですけ

どね、初見さん

7072：どこかの闇の名無しさん

イツチが単独行動した挙げ句に死にかけてるの笑っちゃうんすよ

ね

7073：どこかの闇の名無しさん

流石のイツチもガス欠か

7074：どこかの闇の名無しさん

これに懲りたら護衛くらい連れとけよ

7075：どこかの闇の名無しさん

シフト作る時に自分を酷使しちゃう管理職いるよな

7076：どこかの闇の名無しさん

あるある

死なれて困るのは部下なんだよなあ

7077：どこかの闇の名無しさん

城塞行つてどうすんの

城攻めに加わるのか？

7078：どこかの闇の名無しさん

これ以上連戦したら死にそう

7079：どこかの闇の名無しさん

もう終わったんじやね

7080：どこかの闇の名無しさん

一段落ついたって言ってたし城塞は部下が攻め潰したんじやない

の

7081：どこかの闇の名無しさん
残党狩りじやね

7082：どこかの闇の名無しさん
どうやって城落としたんだろ

7083：どこかの闇の名無しさん
投石機に決まっていますわよ

7084：どこかの闇の名無しさん

せっかく安価で決めただし投石機であって欲しいという気持ちはある

7085：どこかの闇の名無しさん

ねーわ

精々サポートだろ

7086：どこかの闇の名無しさん

そういえば投石機とかあったな

完全に忘れてたわ

7087：>>1

城塞着いたで

もう無かったわ

【画像】

「地域一体を溶かした巨大なマグマ溜まりと、その先一面に広がる大地の裂け目」

状況を説明すると、地割れの下に城塞があって、溶岩溜まりは火球が着弾してできたやつや

地割れ起こした土の精霊と、そのおかげで焼けずに済んだらしい人の四天王と合流したから今度は海の真ん中にいる炎の四天王の所に向かうで

妖精もおったけど元気やったから先に行かせたわ

ちなみに水の精霊は始末できたみたいや

人の四天王が仕留めたらしい

7088：どこかの闇の名無しさん

なんこれ

- 7089：どこかの闇の名無しさん
状況掴めなくて草
- 7090：どこかの闇の名無しさん
画像間違えてますよ
- 7091：どこかの闇の名無しさん
城塞なくて草
- 7092：どこかの闇の名無しさん
もう無かったわ草
- 7093：どこかの闇の名無しさん
案外冷静なのじわる
- 7094：どこかの闇の名無しさん
知らない所で水の小精霊が死んでるの草
- 7095：どこかの闇の名無しさん
水の精霊は文末で消される運命なのか
- 7096：どこかの闇の名無しさん
城塞の四天王三人はどこから湧いてきたんだ
- 7097：どこかの闇の名無しさん
立てた作戦と内容が全く異なってもう気が狂う！
- 7098：どこかの闇の名無しさん
滅茶苦茶やんけ
- ちやんと指揮しないからこうなる
- 7099：どこかの闇の名無しさん
人間と妖精は城塞の調査に出してるって言ってただろ
- 7100：どこかの闇の名無しさん
勇者でもない人間が精霊殺せるもんなのか
- 7101：どこかの闇の名無しさん
人間とフェアリーの事すっかり忘れとったわ
- 7102：どこかの闇の名無しさん
>>7100
- 大精霊じゃないならやれるんじゃない？
っていうかそれくらいできんと幹部になれんやろ

7103：どこかの闇の名無しさん
持つてる装備が特殊なのかも
7104：どこかの闇の名無しさん
投石機はどうした
7105：どこかの闇の名無しさん
土の精霊が投石機放棄してるの笑う
7106：どこかの闇の名無しさん
わざわざイッチが土の精霊を前線から遠ざけたのに結局城塞に
いるの草

7107：どこかの闇の名無しさん
精霊ツプさあ……

7108：どこかの闇の名無しさん

精霊「作戦も反省する所があると思う」

7109：どこかの闇の名無しさん

>>7108

お嬢様部完全論破されてて草

7110：どこかの闇の名無しさん

>>7108

これはエース

7111：どこかの闇の名無しさん

そうわよ（血涙）

7112：どこかの闇の名無しさん

なにかの間違いですわ……

7113：>>1

炎がおる中央の足場についで

泉の勇者はここに来て暴れてたみたいや

炎の四天王が戦えんからその部下が相手してたんやが、結局勇者の

最後っ屁で炎が刺されたらしい

勇者はそのまま死んだみたいや

闇は決戦直前まで砲撃を相殺し続けて魔力切れ

全体的に痛み分けて感じてやな

前線の半数は重傷やし、ワイ含めて幹部連中の消耗が激しいわ
無いと思うが、ここから更に連戦になったら幹部も何人かは死ぬや
ろな

流石にそうなると今後の展開が厳しくなり過ぎるからスツパリ諦
めて魔王様に無心するで

ちなみに肝心の妖精王は無傷やった

幻想界との関係は良好に保ちたかったからラッキーや

冷静に考えたら世界主を前線に突っ込んだのは少々軽率やった気
がするわ

でもそのお陰で被害が抑えられてるから前線に突っ込んで良かつ
た気もするわ

まあどつちでもええか

結果オーライやね

7114：どこかの闇の名無しさん
よくないぞ

7115：どこかの闇の名無しさん
思考停止やめろ

7116：どこかの闇の名無しさん
世界主の扱いが適当過ぎる

7117：どこかの闇の名無しさん
泉の勇者死んだか

7118：どこかの闇の名無しさん
勇者討伐やったぜ。

7119：どこかの闇の名無しさん
また魔王様使おうとしてる……

7120：どこかの闇の名無しさん
勇者ざっこ

7121：どこかの闇の名無しさん
一行で報告を済まされる闇とかいう四天王

7122：どこかの闇の名無しさん
闇の扱いが一貫して雑なのすき

7123 : どこかの闇の名無しさん
活躍してるはずなんだけどなあ

7124 : どこかの闇の名無しさん

イッチの書き込みでは闇の活躍がいつもボケてるんだよな

7125 : どこかの闇の名無しさん

刺された炎の四天王の傷うp

7126 : どこかの闇の名無しさん

投石機の扱いに意義申し立てますわ！

7127 : どこかの闇の名無しさん

手負いの勇者に幹部がやられてて草

7128 : どこかの闇の名無しさん

ざっこ

魔王軍抜けますね

7129 : どこかの闇の名無しさん

抜けても行くトコないって行ってるだろ

7130 : どこかの闇の名無しさん

未知なる大陸への冒険やめろ

7131 : どこかの闇の名無しさん

陽動は間違いなく効果あったし火球も発射できてるし炎の四天王
は仕事しただろ

7132 : どこかの闇の名無しさん

やっぱ四天王の部下レベルじゃ勇者は止められないのか

7133 : どこかの闇の名無しさん

勇者の死体うp

7134 : どこかの闇の名無しさん

正直余裕かと思ってたけど光の眷属も善戦してたんだな

7135 : どこかの闇の名無しさん

>>>7134

ここで楽に勝てるならそもそも劣勢になってないんだよなあ……

7136 : どこかの闇の名無しさん

数が違い過ぎる

勇者抜きの集団を相手しただけで疲労困憊のイツチを見てみるよ
7137：どこかの闇の名無しさん
イツチはもう若くないからな
7138：どこかの闇の名無しさん
まず単独で軍を相手してるのが間違ってる定期
7139：どこかの闇の名無しさん
スレ住人の感覚破壊されてて草
7140：どこかの闇の名無しさん
リアルの形勢判断に支障を来してそう
7141：どこかの闇の名無しさん
それでも一国二国落とせた訳じゃないんやろ？
敵の戦力変わってないやん
7142：どこかの闇の名無しさん
こっただけ消耗して負けるパターンに入ってるないか
7143：どこかの闇の名無しさん
ここまでボコボコにしたら当分攻めてこんやろ
いくら人間でも無限に増える訳じゃないし
7144：どこかの闇の名無しさん
ちよつと放っておいたらすぐ増えるけどな
この前戦闘後に仮眠とってたら子孫が現れて草生えたわw
7145：どこかの闇の名無しさん
>>7144
ドラゴンのレス
7146：どこかの闇の名無しさん
大きく凹ませた今こそ無理してでも攻めに転じるべき
7147：どこかの闇の名無しさん
早めに来るとしたら遠方の国からだろ
偵察しっかりしてればへーキヘーキ
7148：どこかの闇の名無しさん
勇者の死体見せて？
7149：どこかの闇の名無しさん

ついに勇者討伐の瞬間に居合わせられたか
なんか嬉しいわ

7150：どこかの闇の名無しさん
わかる

実績解除した気分

7151：どこかの闇の名無しさん
なんだかんだイッチが生き残ってホツとしとるで

7152：どこかの闇の名無しさん
見たーい、見たーい、無様な勇者の死体が見たーい

7153：どこかの闇の名無しさん
勇者の画像自体レアなのに死体とか激レアだぞ

7154：どこかの闇の名無しさん
勇者討伐祝勝会やろうや

7155：どこかの闇の名無しさん
とつくに酒飲んでる

7156：どこかの闇の名無しさん
まだ飲んでないとか情弱か？

もう二本目だぞ
7157：>>1

勇者確認した
なにこれ？

【画像】

「棺桶。一面が黒く、枠が金色。上面の蓋に白い十字架が描かれて
いる」

陰キヤの棺桶と同じデザインや
何かの呪いか？誰か助けてくれや

7158：どこかの闇の名無しさん
はい祝勝会中止

7159：どこかの闇の名無しさん
は？

7160：どこかの闇の名無しさん

草

7161:どこかの闇の名無しさん
アカンこれじゃ常識が死ぬう!

7162:どこかの闇の名無しさん

???

7163:どこかの闇の名無しさん

草

7164:どこかの闇の名無しさん
もう終わりだあ!

7165:どこかの闇の名無しさん
いかん、危ない危ない危ない……

7166:どこかの闇の名無しさん

イツチ発狂で草

7167:どこかの闇の名無しさん

B級ホラーで草

7168:どこかの闇の名無しさん

普通に怖い

7169:どこかの闇の名無しさん

鳥肌立ったわ

陰キヤの固有能力じゃなかったのかよ

7170:どこかの闇の名無しさん

呪いにしても地味すぎる

7171:どこかの闇の名無しさん

人神の仕業っぽいけどなあ

7172:どこかの闇の名無しさん

案外埋葬するのが楽になるだけの能力だったりして

7173:どこかの闇の名無しさん

人神が原因かどうかは聖女に聞いてみたら分かるんじゃないね

7174:>>1

とか言ったら消えたわ

消えたわ棺桶が

陰キヤの時と同じや

その時は結構すぐ消えたけど

陰キヤの時と同じや

これで復活とかしてたら笑うけどな

陰キヤと泉の勇者がまた出てきたら笑えるわ

笑える戦況でありがとうやわ

死ね

なんかドつと疲れた

炎一味と海岸の部隊を回収して魔王城に帰るで

7175：どこかの闇の名無しさん

不安定になつてて草

7176：どこかの闇の名無しさん

魔界語ラップやめろ

7177：どこかの闇の名無しさん

急に作詞するな

7178：どこかの闇の名無しさん

歌詞つぼくて草

7179：どこかの闇の名無しさん

感謝ラップ草

7180：どこかの闇の名無しさん

陰キヤの時と同じや（Bメロ）

7181：どこかの闇の名無しさん

これはシンガーソングライターイチ

7182：どこかの闇の名無しさん

消える前に棺桶は開けたのか？

7183：どこかの闇の名無しさん

なんで消えるんだ

棺桶が自動的に転移したって事？

7184：どこかの闇の名無しさん

生き物は体内に魔力があるから転移できる訳であって、死体が入つて
るだけの棺桶がひとりでに転移する道理がない

7185：どこかの闇の名無しさん

時限式の術式でも仕込んであるんじゃないの

7186：どこかの闇の名無しさん

そういう魔道具なのかも

前線に行く勇者に持たせて使い回してるとか

7187：どこかの闇の名無しさん

>>7186

辻褄は合うけど、仮にそうなら陰キヤも泉も生きてる事になるぞ

7188：どこかの闇の名無しさん

今後無限に勇者が出てくるって事？

7189：どこかの闇の名無しさん

ええ……

7190：どこかの闇の名無しさん

あつ、ふーん……（察し）

7191：どこかの闇の名無しさん

敗戦確定

7192：どこかの闇の名無しさん

ヤバくて草

7193：どこかの闇の名無しさん

未だかつて無い状況になっておハーブ生えますわよ

7194：どこかの闇の名無しさん

まだ魔道具かは分らないだろ

人神の仕業かもしれない

7195：どこかの闇の名無しさん

>>7194

原因はどつちでもよくな？

あくまで問題は勇者の生死

7196：どこかの闇の名無しさん

勇者が二人なのと四人いるのとじゃ今後の作戦の立て方がまるっ

きり変わってくるからな

ある程度情報が揃うまでは受け身に回るしかない気がする

7197：どこかの闇の名無しさん

お、待てい！（江戸っ子）

勇者が復活してる前提で話進めてるけど、単に死体を回収してるだけかも知れないゾ

7198：どこかの闇の名無しさん

>>7197

棺桶に意味があるとすればまず死体の保護

大きく外れた考察じゃないと思う

7199：どこかの闇の名無しさん

死体回収して死霊術に使うんじゃないか

7200：どこかの闇の名無しさん

死んでいい駒で勇者が復活してるかどうか強行偵察すれば？

7201：どこかの闇の名無しさん

まあ偵察は必要だろうな

7202：どこかの闇の名無しさん

>>7199

あーネクロマンシーね

有り得ない話じゃないな

7203：どこかの闇の名無しさん

英雄を死霊術に使うとか人間の倫理感どうなってんだ

7204：どこかの闇の名無しさん

掲示板の話だけど前例あった気がする

7205：どこかの闇の名無しさん

光の眷属は死霊術の類は平気で使うぞ

7206：どこかの闇の名無しさん

数だけが多いからな

同族で実験し放題やしズルいわ

7207：どこかの闇の名無しさん

文明レベル次第だけだな

成功しても劣化した状態で出てくるのが関の山でしょ

7208：どこかの闇の名無しさん

強行偵察するにしても駒が足りないだろ

今回の作戦で少くない負傷者出てるみたいだし

7209：どこかの闇の名無しさん

魔界周辺の偵察を密にした方がよっぽど安全だと思う

7210：どこかの闇の名無しさん

こつちも休憩しないと身が持たないぞ

7211：どこかの闇の名無しさん

停戦しようや

あいつら馬鹿やから通るやろ

7212：どこかの闇の名無しさん

>>7211

逆の立場だったとしてお前は停戦に応じるんか？

7213：どこかの闇の名無しさん

>>7212

んなワケないやん

協定結ぶ姿勢だけ見せてノコノコ出てきた王殺すわ

7214：どこかの闇の名無しさん

鏡見た事ないんかこいつ

7215：どこかの闇の名無しさん

自分を論破するのやめろ

7216：どこかの闇の名無しさん

草

7217：どこかの闇の名無しさん

模範的魔族

+8383315点

7218：>>1

>>7182

棺桶の中身は確認できてない

近づいたら目の前で消えたんや

棺桶がワイの前から消えたんや

海岸で投石機回収したら土の精霊は元気になったわ

海岸防衛隊も暇そうにしとるから、小規模の敵くらいなら今からでも十分やり合えそうや

少し気を持ち直した所でそろそろ魔王城に帰るで

7 2 1 9 : どころかの闇の名無しさん

お疲れ様ですわよ

7 2 2 0 : どころかの闇の名無しさん

おつ〜

7 2 2 1 : どころかの闇の名無しさん

また歌詞つぽくなつててワロタ

7 2 2 2 : どころかの闇の名無しさん

今回は長かったなあ

7 2 2 3 : どころかの闇の名無しさん

作詞芸やめろ

7 2 2 4 : どころかの闇の名無しさん

味を占めてるの草

7 2 2 5 : どころかの闇の名無しさん

芸風を取り入れるな

7 2 2 6 : どころかの闇の名無しさん

もつと味を占めろ

7 2 2 7 : どころかの闇の名無しさん

イツチの書き込みに絶望感が全くないのなんか草

7 2 2 8 : どころかの闇の名無しさん

棺桶の中は見れてないのか

7 2 2 9 : どころかの闇の名無しさん

棺桶の蓋開けたら呪われそう

7 2 3 0 : どころかの闇の名無しさん

死体の有無だけでも確かめたかったな

7 2 3 1 : どころかの闇の名無しさん

消える条件も不明だし確認するのも難しい

7 2 3 2 : どころかの闇の名無しさん

確認するためにはまた勇者殺さないといけないな

7 2 3 3 : どころかの闇の名無しさん
検証のハードル高過ぎて笑う
7 2 3 4 : どころかの闇の名無しさん
勇者討伐がただの通過点とはたまげたなあ
7 2 3 5 : どころかの闇の名無しさん
土の精霊う p
7 2 3 6 : どころかの闇の名無しさん
一旦勇者の事は忘れようや
戦に勝ったんやぞ
7 2 3 7 : どころかの闇の名無しさん
ほんとお？
7 2 3 8 : どころかの闇の名無しさん
おっそうだな
7 2 3 9 : どころかの闇の名無しさん
いつそ葬式ムードなんだが
今後の展開が不安過ぎる
7 2 4 0 : どころかの闇の名無しさん
理由つけて酒飲みたいだけだろ
7 2 4 1 : どころかの闇の名無しさん
少数精鋭だと撤収早くていいな
7 2 4 2 : どころかの闇の名無しさん
問題山積みなんだよなあ……
7 2 4 3 : どころかの闇の名無しさん
>> 7 2 4 1
部下拾って帰るだけだもんな
こっちの防衛ラインが突破されてないのが大きい
7 2 4 4 : どころかの闇の名無しさん
傷ついたのは肉壁だけだしな
7 2 4 5 : どころかの闇の名無しさん
本隊が無傷なのはお得感あるわ
7 2 4 6 : どころかの闇の名無しさん

陽動作戦いけるやん！

7247：どこかの闇の名無しさん

妖精王が海岸防衛の後任として相応しいかのテストは全くできてないけどな

7248：どこかの闇の名無しさん

妖精王は不合格でええやろ

7249：どこかの闇の名無しさん

前線に突っ込ませたのはイッチなんだよなあ

7250：どこかの闇の名無しさん

そもそも防衛のついでにテストしようとした参謀さんサイドに問題がある

7251：どこかの闇の名無しさん

二兎を追う者は一兎をも得ないんやなって

7252：どこかの闇の名無しさん

魔王様うp

7253：どこかの闇の名無しさん

今回の総評は？

7254：どこかの闇の名無しさん

>>7253

勝ち勝ち

7255：どこかの闇の名無しさん

>>7253

勇者の生死次第

7256：どこかの闇の名無しさん

こっちの建造物が破壊されてないから勝ち

中央の足場は精霊に作らせたからノーカンだし

7257：どこかの闇の名無しさん

土の精霊で場を整えられるのが強すぎる

7258：どこかの闇の名無しさん

土は投石機がイマイチ活躍してなかったからお仕置きだぞ

7259：どこかの闇の名無しさん

>>7258

前哨戦で戦力温存できたのは投石機の功績やん

7260:どこかの闇の名無しさん

炎も刺されたから折檻しよう

7261:どこかの闇の名無しさん

こっち側に水の精霊もいれば楽勝だっただろうに残念だわ

7262:どこかの闇の名無しさん

殺しちやつたからな

まさに覆水盆に返らず

7263:どこかの闇の名無しさん

光カスが使ってた魔道具があれば水の精霊も無理矢理連れて帰れたのかな

7264:どこかの闇の名無しさん

水の精霊は譲歩してやったのにナマ言ったから死んで当然

立場が分かってなかった

7265:どこかの闇の名無しさん

>>7264

上から目線すぎて草

7266:どこかの闇の名無しさん

何もしてないクセに高圧的な態度なのすき

7267:どこかの闇の名無しさん

他の大精霊もどうせ捕まっとるやろうしブン捕りに行こうや

7268:どこかの闇の名無しさん

精霊捕獲作戦ええな

7269:どこかの闇の名無しさん

次の作戦決まったな

7270:どこかの闇の名無しさん

いや勇者の調査が先だろ

7271:どこかの闇の名無しさん

聖女の研究だろ(正論)

7272:どこかの闇の名無しさん

やる気ない勇者うp

7273：どこかの闇の名無しさん
で？エルフは？

7274：どこかの闇の名無しさん
次の安価の前に今回の戦勝報告だぞ

7275：どこかの闇の名無しさん

イツチが次も作戦を決める立場にいるか分からんからな

7276：どこかの闇の名無しさん

それな

今回で参謀から落とされても不思議じゃない

7277：どこかの闇の名無しさん

降格かぁ

7278：どこかの闇の名無しさん

残念でもないし当然

7279：どこかの闇の名無しさん

今回イツチかなり活躍したと思うけど

7280：どこかの闇の名無しさん

泉の勇者取り逃してる件がどう響くかやな

指揮もあんまり出来てなかったし

7281：どこかの闇の名無しさん

ゆーて他に参謀できるがおらんやろ

聞いている感じ他の四天王は脳筋やし

7282：どこかの闇の名無しさん

イツチの発言内容からして候補は炎と闇くらいか

性格とか全く知らんけど

7283：どこかの闇の名無しさん

さつさと帰って魔王様に報告しようや

7284：どこかの闇の名無しさん

魔王城ついたら起こして

7285：どこかの闇の名無しさん

謁見時は絶対に実況スレ立てろ

7286：どこかの闇の名無しさん

イツチの事だから喜々として魔王様自慢してきそうなんだよなあ

(先読み半ギレ)

7287：どこかの闇の名無しさん

魔王様の匂いかぐのはルールで禁止スよね

7288：どこかの闇の名無しさん

>>7287

闇の眷属はルール遵守だろ

7289：どこかの闇の名無しさん

ああ〜もう気が狂う！（嫉妬）

7290：どこかの闇の名無しさん

魔王様の情報を得たい気持ちとイツチへの嫉妬心がせめぎ合って

て草

7291：どこかの闇の名無しさん

俺が謁見するからイツチはまっすぐ家に帰って、どうぞ

7292：どこかの闇の名無しさん

イツチは今日から数日間徹夜だぞ

7293：どこかの闇の名無しさん

参謀が戦後すぐ家に帰れる訳ないんだよなあ

7294：どこかの闇の名無しさん

下っ端は上司の仕事内容なんて知らないから仕方ないね

7295：どこかの闇の名無しさん

想像力が 足りないよ

7296：どこかの闇の名無しさん

お、待てい！（江戸っ子）

エルフラp忘れてるゾ（リマインド）

7297：どこかの闇の名無しさん

エルフしつこくて草

7298：どこかの闇の名無しさん

エルフェルフルるせーぞ豚野郎が

7299：どこかの闇の名無しさん

このしつこきはオークやろなあ……（決めつけ）

7300：どこかの闇の名無しさん

>>7298

いきなり差別かよ？

ゴブリツパリらしいな

7301：どこかの闇の名無しさん

>>7300

この魔族すごいこと言うな……それはヘイトスピーチだぜ

7302：どこかの闇の名無しさん

じゃあ魔王様うp

7303：どこかの闇の名無しさん

>>7302

はい不敬

7304：どこかの闇の名無しさん

じゃあって何だよ

7305：どこかの闇の名無しさん

>>7302

これはいけない。

7306：どこかの闇の名無しさん

>>7302

殺すぞ

7307：どこかの闇の名無しさん

じゃあ勇者うp

7308：どこかの闇の名無しさん

>>7307

駄目です

7309：どこかの闇の名無しさん

勇者の顔を邪神様ネットワークに流すなんて不謹慎だぞ

7310：どこかの闇の名無しさん

勇者に家族を殺された奴なんてごまんというんだから配慮しろよ

7311：どこかの闇の名無しさん

八方塞がり草

7312 : どころかの闇の名無しさん

言論統制はもつとやれ

7313 : どころかの闇の名無しさん

お前ら遊んでないで性癖について議論しろ

7314 : どころかの闇の名無しさん

そうだぞ

真面目に性癖談義しろ

7315 : どころかの闇の名無しさん

真面目に不真面目やめろ

…

7511 : >>1

魔王城着いたぞ

ゾロゾロと帰ってきたけど大半の奴が医務室送りになっててなんかワロタ

ワイは大した傷も無いしこのまま魔王様のところに向かうぞ

7512 : どころかの闇の名無しさん

勇者スレで聞いてきたけど勇者の棺って特別な意味があるらしいぞ

7513 : どころかの闇の名無しさん

なんで知ってるんだよ

7514 : どころかの闇の名無しさん

そいつ勇者だろ

7515 : どころかの闇の名無しさん

>>7508

そうそう

そこに毛が生えてる

7516 : どころかの闇の名無しさん

イツチ来てるぞ

7517：どこかの闇の名無しさん
イツキてる

7518：どこかの闇の名無しさん
魔王城着くの早くね？

7519：どこかの闇の名無しさん
はい（確信）

7520：どこかの闇の名無しさん
早すぎて雑談する暇がないんだが？

7521：どこかの闇の名無しさん
珍しく真面目に議論してたのに

7522：どこかの闇の名無しさん
雑談スレとしての自覚を持ってほしい

7523：どこかの闇の名無しさん
既に雑談してるんだよなあ……

7524：どこかの闇の名無しさん
実況スレなんだよなあ……

7525：どこかの闇の名無しさん
もしかして魔王城って前線から近い？

7526：どこかの闇の名無しさん
普通に中央にあるんじゃないかね

7527：どこかの闇の名無しさん
島の北側とか言ってた気がする

7528：どこかの闇の名無しさん
全軍飛んで移動したんちゃう？

7529：どこかの闇の名無しさん
イツチの軍って機動力重視っぽいし

7530：どこかの闇の名無しさん
はえ〜上澄みの兵は羨ましいっすね〜
（徒歩移動&前線キャンプ）

7531：どこかの闇の名無しさん
今回ドラゴンも余ってるしな
輸送手段はいくらでもあるだろ

いよいよ魔王様か

7532 : どこかの闇の名無しさん

魔王様うp

7533 : どこかの闇の名無しさん

さつき飯食いに行った奴ら帰ってきてなくて草

7534 : >>1

各部署に直近の指示も飛ばしたし謁見の間に移動するで

前作戦では褒美が実質無かったから今回はちゃんとおねだりする

わ

何を賜れるか楽しみや

さぞ良いものを賜れるんやろなあ

実は欲しい魔道具があるんだよなあ

7535 : どこかの闇の名無しさん

ウキウキで草

7536 : どこかの闇の名無しさん

切り替え早過ぎやろ

7537 : どこかの闇の名無しさん

勇者問題から逃げるな

7538 : どこかの闇の名無しさん

現実逃避やめろ

7539 : どこかの闇の名無しさん

つよつよメンタル過ぎる

7540 : どこかの闇の名無しさん

前回無給だったのか(驚愕)

7541 : どこかの闇の名無しさん

意外とがめつくて草

7542 : どこかの闇の名無しさん

やっぱり金銭目的で働いてたのかこいつ

7543 : どこかの闇の名無しさん

うーんこの俗物

7544 : どこかの闇の名無しさん

イツチの場合忠誠心が怪しいから金銭目的って言われた方がしつくりくる……しつくりこない？

7545：どこかの闇の名無しさん

忠誠心無くて側近になれるかよ

7546：どこかの闇の名無しさん

参謀の給料で買えない物とかあつていいの？

7547：どこかの闇の名無しさん

非売品の魔道具欲しがってそう

7548：どこかの闇の名無しさん

(魔王様におねだりするのはいかんでしょ。)

7549：どこかの闇の名無しさん

魔王様のお言葉だけで十分だルオ!?

7550：どこかの闇の名無しさん

魔王側近って給料ないのか

夢が無いな

7551：どこかの闇の名無しさん

出世意欲を失うなあ(できるとは言っていない)

7552：どこかの闇の名無しさん

給料は別であるだろ

作戦の報奨品が無かっただけで

7553：どこかの闇の名無しさん

イツチ前回も程よく活躍してたのにな

7554：どこかの闇の名無しさん

組織形態が気になるわ

7555：>>1

ついで

毎回この扉の前に立つと緊張するな

魔王様のご機嫌が分からんから実況は一旦ここまでとするで

じゃあの

7556：どこかの闇の名無しさん

は？

7557 : どころかの闇の名無しさん
は？

7558 : どころかの闇の名無しさん
なにが？

7559 : どころかの闇の名無しさん
は？

7560 : どころかの闇の名無しさん
草

7561 : どころかの闇の名無しさん
終わって草

7562 : どころかの闇の名無しさん
は？

7563 : どころかの闇の名無しさん
誰が実況止めていいつつたオラア！

7564 : どころかの闇の名無しさん
わかる？ 突っ込め。(実況続けたまま謁見の間に) 突っ込めって

言ってるの、ね？ 突っ込めって言うてんだよ！

7565 : どころかの闇の名無しさん
草

7566 : どころかの闇の名無しさん
唐突な実況終了は女の子の特権

7567 : どころかの闇の名無しさん
草ア！

7568 : どころかの闇の名無しさん
柄にもなく緊張してるの草

7569 : どころかの闇の名無しさん
イッチ女の子説は一連の流れを根底から覆しかねないでNG

7570 : どころかの闇の名無しさん
>>7569
イッチは自身の性別について言及してないから可能性はある

7571 : どころかの闇の名無しさん

女だとしたら魔王様に対する反応がおかしいだろ

7572 : どのかの闇の名無しさん

百合でしょ

7573 : どのかの闇の名無しさん

>>7572

あらゝ

7574 : どのかの闇の名無しさん

>>7572

あらゝ

7575 : どのかの闇の名無しさん

美人の部下を躊躇無く殴れたのは同性だったからなのか (納得)

7576 : どのかの闇の名無しさん

ペロ……これは百合!

7577 : どのかの闇の名無しさん

すべての謎を一本の線に繋げるのやめろ

7578 : どのかの闇の名無しさん

ちよつと百合豚湧いてんよ (指摘)

7579 : どのかの闇の名無しさん

百合豚は駆逐しなきゃ (使命感)

7580 : どのかの闇の名無しさん

普通に考えて男だろ

7581 : どのかの闇の名無しさん

変な所で鈍感なのと、スレ運用から見とれる全くマメではない様子から、イツチは男性と推測できるんだよなあ…… (メンタリストD

ORAGO)

7582 : どのかの闇の名無しさん

今まで誰もイツチについて質問しなかったのかよ

7583 : どのかの闇の名無しさん

イツチについての情報だけ圧倒的に不足してるのすき

7584 : どのかの闇の名無しさん

興味をなさすぎる

7585 : どこかの闇の名無しさん

次スレではその辺イッチに質問してみようぜ

7586 : どこかの闇の名無しさん

>>7585

なんで? (殺意)

7587 : どこかの闇の名無しさん

>>7585

あ、大丈夫っス……

7588 : どこかの闇の名無しさん

どうせ強いだけのオッサンなんだよなあ

7589 : どこかの闇の名無しさん

イッチにはこのままブラックボックスでいてほしい気もする

7590 : どこかの闇の名無しさん

うちの部隊にも強いだけのおじさま欲しい

7591 : どこかの闇の名無しさん

晩飯また麦粥だったわ

魔界貴族死ね

7592 : どこかの闇の名無しさん

水浴びの水冷たくてすっげーキツかったゾ〜これ

7593 : どこかの闇の名無しさん

ん?

7594 : どこかの闇の名無しさん

終わってる?

7595 : どこかの闇の名無しさん

草

7596 : どこかの闇の名無しさん

飯食ってたらスレ終わってて草

「休暇……ですか……」

「そうだ」

魔王城、謁見の間。

圧縮された闇の魔力が鈍く発光する薄暗い大部屋の中、側壁に灯る青い炎によって揺れる影が二つあった。

「前回の作戦から今日まで間がなさ過ぎた。お前、結局休めていないだろう？ 魔力も大きく失っているし、この際医務室にでも入ってしまえ。お前の部下も、お前が休む事に関して文句を言う奴はいないだろう」

「……有り難きお言葉、感謝申し上げます」

大柄な男が膝を突いた姿勢のまま首を垂れる。

そのどこか含みを持たせた間の取り方に、魔族の王は怪訝な表情で玉座を立つ。

「何か不満があるのか？ 申してみよ」

「いえ」

「二度も言わせるな。褒美が不足しているというのなら加えてやってもよい。何でも欲しいものを言うがよい」

「欲しいもの……ですか」

「そう、『なんでも』だ。なにが欲しいか、直感で答えてみる。んん？」

そう言いながら男の背後に取りついた王は、蕩ける双房を相手の背の上で滑らせ、首に腕を絡ませながら吐息を漏らした。回した指先で胸を撫で、唇は首筋を愛おしそうに食む。

男がまだ小さい頃は姉のように世話を焼き、親のように導いた彼女であるが、男が成長するにつれてこういった悪戯をするようになっていった。王の性分との事である。

「はっ。でしたら……実は欲しい魔道具が御座いました……」

「……魔道具？」

しかし、幼い子供を完全に魅了してしまうのも憚られたため徐々に

段階を踏んでいったのが仇となったか、普通の魔族であれば一発で精神を破壊されるような誘惑や快楽でさえ男はさして動じないよう成長してしまった。

魔の王も女である。目を掛けて育てた子が頑強な精神を持つに至った事は望ましいが、どこかつまらない気持ちになるのは美と淫を司る女の性さがと言えるだろう。

「……………ならん」

「…………？」

「わざわざお前が儂に言うような品だ、よほど希少な物なのだろう。それでも与えるのは構わんが、全くのただでは他の者に示しがつかん。追加で一つだけ仕事を与える」

「……………は」

魔王は拗ねたような声色で告げると、男から体を離す代わりに仕事を押し付けた。自分から言い出して後から条件を加える子供じみたやり口は普段の聡明な姿からは想像できないが、実はこのようなやり取りは過去に何度も発生している。悪戯を仕掛けてつまらない反応が返ってきた時の一連の流れであった。

背後に立つ上司には見えないよう困り顔になった男はしかし、久々のまとまった休日の予感に心を踊らせていた。

……

女神暦6500年。

それまでの守勢を一転させて大陸に攻め入った魔族は、一気呵成に水の都を攻め落とし、そのままの勢いで直近の脅威であった大城塞マーレ・カーネまでもを攻め潰した。

大きく指針を変えた魔王軍。指揮者が代わったのは明白であった

が、この時点はまだ詳細が掴めず、暫くの間人類は後手に回る対応を強いられる事となる。

北方二国の兵力も大きく削ぎ落とされ、いよいよ魔族による大陸侵攻が開始されるといった頃合い。暗い歴史が繰り返されようとしていたその時、人類は再び神の力によって大きな希望を授かったのだ。後世の歴史書より抜粋。

——以下、勇者復活の章へと続く。

幕間

妖精と妖精王

魔王城、最上客間。

戦が終わり、後処理も一段落といった頃合い。絢爛豪華な調度品で飾られた一室では、今後の方針を決める重要な対話が行われていた。「改めて、この度はお力添えいただきまして誠に有難うございました」「全く構わないわ」

テーブルの入り口側。あえて質素に作られた椅子に座って頭を下げるのは魔王軍参謀。一先ず形式的な挨拶から入り相手の様子を伺う彼の隣では、部下の妖精が真面目な表情で共に頭を下げている。

そんな友人の振る舞いに猛烈な違和感を覚えつつ、手振りでも頭を上げるよう促したのは妖精王。今日の予定はこの面会のみであるにも関わらず最上級の礼装で対話に臨むその姿は、妖精としての活発さを忘れてしまう程に美しく纏まっている。

「幻想界と現界は互い無くして存在できない。親しき友人には手を差し伸べるべき、違つかしら？」

「は。仰る通りです」

「今後の関係性を鑑みても、王自らが前線に出るのは当然の事よ！」

言って、妖精王は得意気に胸を張る。

さも見返りなど求めていないかのように振る舞う王を、紫髪の妖精は胡散臭い物を見るような目でじっと眺めた。

「活殺自在、快刀乱麻——まさに幻想の王たる戦いぶりだったと聞き及んでおります」

「ええ。自分で言うのも何だけど、十分に役割を果たせたと思うわ」

「はい。落星の百師と謳われたその絶技の数々。拝見した私の部下も強く感銘を受けた様子でした」

「えへへ、そうかしら。ま、まあ？ 私の力もあつたけれど？ 全体としては部下達がよくやってくれたから形になったのよ。うん、うん」

男の言葉を受け、身を振りながら両手で頬に触れて照れる妖精王。

上機嫌な彼女を冷たい目で見ていた紫髪の妖精だったが、王が照れ隠しで放った一言に反応し、しめたとばかりに大きく口を歪める。

男はそれに呼応するように頷き、口を開いた。

「ええ、彼女達の活躍も見事なものでした。それで、その部下について一つお話がありました……」

「はえ？ 部下？ ……ススイ達の事かしら」

「はい。そのススイ殿です。事前に仰られていた通り、海戦に長け、判断鋭く、部下からの信頼も厚い。防衛指揮官として非の打ち所の無い素晴らしい人材でした」

「え、ええ……そうね……？ 彼女はイ族の中でも特に戦勘が鋭いのよ」

「魔王様とも相談したのですが、彼女を客将としてお招きできれば、と考えておりました」

「え、ええと……？ それは構わないわ。本人に直接意志を確認してくれれば……」

想定していた流れにならない事を疑問に思いながらも、妖精王は男からの申し出に頷いた。

話が読めないが、現界に有能な仲間が増えるのは今後の動きからしても確実にプラスに働くだろう。今回の戦いを皮切りに、幻想界と現界の連合軍は大きく躍進するのだから。

「有難うございます。この件はススイ殿から打診があった事です。で、問題無く話が進むかと。そして、それによりタイタニア様には幻想界へと引き上げていただく事が可能になります」

「ん……はっ?!?!? ち、ちよつと待って、話が変な方向に向かってないかしら!?!?」

「……ププツ」

急激に雲行きが怪しくなっていくのを感じ取り、妖精王は声を張る。焦りを隠しながら斜め向いに目をやると、そこには同郷の友人が笑いを堪え切れず震えている姿。

射殺するような視線を送った後、意識を切り替えて正面へと向き直る。

「海岸防衛の指揮官って私になるって話だったわよね……？ 私、しっかり活躍してたわよね！」

「はい。ですが魔王様は、やはり世界主様を一将としてお招きするのは長期的に見て問題が多いのではないかとお考えのようです。そもそも、タイタニア様ご自身が顔合わせの時にも仰られておりましたが、今回の件には幻想樹も否定的だったのですよね？ あの時は緊急故にこちらも押し通すつもりでしたが、ススイ殿を客将としてお招きできるのであればその問題も解決します。タイタニア様の御手を煩わせる事も無くなり、双方に利のある落とし所になったかと」

「魔王殿がそう言ってたの!?! まさか、ススイもこのために……!?! や、やられた。これは裏切りよ！」

「……」

「どうして頭なんか下げて……え？ ゴリ押しするつもり……？ もう決定なの!?!」

焦る妖精王が大袈裟に噛み付くと、参謀は静かに平伏した。その有無を言わさぬ堂々とした振る舞いからは、魔王の指示をなんとしても遂行しようという鉄の意思を感じる。思えば、上司の指示には逆らわぬ男だった。

立場上、更に文句を言っつて詰め寄る事も可能だが、相手からの心象を悪くしたくない妖精王はここで強く踏み込む事ができない。

奥歯を噛み締めつつ、王は苦し紛れの一撃を放つ。

「……………けど、少なくともナトトと交代する余地はあるんじゃないかしら」

「ひひひ……………えっ?」

「ナトトは一族からはともかく幻想樹には既に認められているわ。私と入れ替わりで戻っても幻想界的には問題ない。寧ろ、力劣る妖精が代表面して現界にいる事の方が幻想樹からは問題視されるでしょうね。今一度力比べをして、両者の実力を再度確かめてみるのはいかがでしょうか？ それで、勝った方が残れば良い」

「ふむ……………成る程、一理ありますな」

「!?!」

無論、元の身分をほぼ失っているナトトが王として君臨するには多くの問題があり、これは決して現実的な提案ではない。妖精王としても本気で発言した訳ではなく、ニタニタと余裕そうに笑う友人にケチをつけたかっただけなのだが……意外にもこのラツキーパンチがヒットした。

友人をただ笑ってやるつもりで気楽に同伴していた紫髪の妖精は、まさかの飛び火に上司を仰ぎ見て目を見開く。

「お、お待ち下さい！ その女……タイタニア様とは既に格付けが済んでおります。日夜行われた連戦での結果ゆえ、何度試そうと結果は易易と覆るものではありません！」

「ほう、そこまで自信があるか。では尚更構わんだろう？ お前の実力に不満がある訳ではないが、それでタイタニア様をご納得されるのであればこの提案は受けるべきだ」

「ぐっ……し、しかない……」

馬鹿げた条件にも関わらず興味本位で王に肯定し始めた上司の表情を見て、妖精は押し黙る。これは確実に悪ノリしている時の顔だ。

真面目に仕事を熟^{こな}しながらも、好奇心には素直に従う。妖精よりもよほど妖精らしい行動選択。普段は堅物で実直な彼がこのように時折見せる子供のような振る舞いは、魔の王から引き継いだ性質の一つだ。その確かな童心は、いつだって幻想の住人を強く惹きつける。

「ふ、ふふ……！ やったわ、ついにナトトを出し抜いたわ！ あれから私も技に磨きをかけたのよ。久しぶりに昔を思い出しながら槍を合わせようじゃないの！」

「だから私に武術で勝つても意味無いって！ 幻術こそが私達に求められてる資質なんだから！ ですよねっ!？」

「当時はそうだった。だが、他も優れているに越した事はないだろう」「聞いたっ!? これは決まったかしら。悪いわね、ナトト。今後貴女がやりたかったこと、私が全部やっておいてあげるわ。でも安心して？ 最後にはちゃんと連れて帰るから！」

「ひ………っひ………ヒヒ………ヒヒヒヒイー!!」

参謀に同意を求めると半笑いで突き放された妖精は、暫くシヨック

を受けて固まっていたが、続く友人からの煽りには耐えきれず立ち上がって笑い出した。

その目に宿るのは等しく狂気。一切の敵を消し去り、幻想界で禁忌と言われた実験を成し遂げた異端者の面影だ。

「よく言ったツ！ お転婆女王がよく言った！ 突き落とすツ！ 絶対に後悔させてやる！ まずは尊厳ツ！ 幻術にかかったら裸踊り決定っ!!」

「な……な……っ!? ちょ、ちょっと待ちなさい!? 一旦落ち着きましよう！ ね？ 座って?」

「イヒヒ！ 恩人の前でここまで言われて今更引くなんてありえないッ！ 道連れ上等！ 無理心中上等！ むっつり王女め、一生嫁入り出来ない身体にしてやる！ アハハハハハッ!!!」

「いやーっ!?!」

「まあ……程々にな」

この日、闘技場を貸し切って行われた世にも珍しい妖精同士の力比べは、妖精王の強い要望もあって全く後世に語り継がれる事なく歴史から抹消された。

火竜と聖女

魔王城、治療棟。

大型でない上級魔族が集中的に治療を受けるこの区画は年々稼働率が上昇傾向にあつたが、ここ半月は特に盛況だった。

原因は先の総力戦。入り口を厳重に警備されている特級の個室に身を横たえる炎の四天王もまた、その戦いの功労者であつた。

「……」

静かに目を閉じるのは余計な消費を抑えるため。手負いの勇者から傷を受けた事で煮えたぎっているであろう激情をコントロールし、一刻も早く病床を脱して力を発揮しようと静かに堪えるその姿勢を部下や家臣は涙を流して讃えた。

しかし、実際のところ彼女の頭の中は、上司から与えられるであろう褒美の事で一杯であつた。

「……」

眉を顰め、厳しい表情で考えるのは身を捧げた相手の事だ。仮に今回の負傷で評価を落として褒美を賜れなかったとしても、以前保留になつた甘味処の件を引き合いに出せば会食……もとい会議には漕ぎ着けるかもしれない。

少し卑し過ぎるだろうか。それとも気にし過ぎなのだろうか。花占いをするかのように答えの出ない問題に挑んでいた炎の四天王だったが、部屋の入口が騒がしくなつた事で我に返り、上体を起こす。

「おい、なに騒いでやがるッ！ いいトコで邪魔してんじやねエー！」
「っ!？」

火竜が苛立ちに任せて近場にあつた椅子を投げると、丁度開いた扉から入ってきた人物の頭部に直撃した。

のけ反るように姿勢を崩し、入口でしゃがみ込んだのは女性。切り揃えられた長髪の上から頭を押さえ、同情を誘うように目尻に涙を溜めるその姿は炎の四天王の神経を逆撫でする。

即座に追加で机が投げつけられたが、今度は女性を護るように現れた光の壁に防がれた。

「っ!? ツ……テメエ……聖女かッ!」

その光を通し、炎の四天王は相手の内に秘められた強い神聖を見た。身の毛のよだつ嫌悪感と共に緊張が内面をを支配し、神の傀儡を消し去るために魔力が体内を駆け巡る。

半ば反射的に放った爆炎が壁を揺らしながら入り口の女へと吹き荒ぶ。猛火は室内の調度品を残さず焼き尽くしたが、それでも光の壁は破壊する事ができずに周囲へと反射した。

熱量だけで幾多の命を奪うであろう攻撃を目の前にして、聖女に動じる様は見られない。彼女は自分の頭を撫でるようにしつつ、横目で炎の四天王を見ながら口を開く。

「……これは等しく神の力です。生半可な攻撃では破れません」

「は……? 喧嘩売ってんのかテメエ。いい度胸だ、バラバラに引き裂いて城門に飾ってやるよ」

「飾るな。俺が連れてきたんだ」

傷を負い、消耗している状態で聖女に勝てる道理は無い。炎の四天王が決死の覚悟で立ち上がった所で、入り口から声がした。

聖女を雑に押し退けながら入ってきたのは大柄な男。先程まで火竜の妄想の中にいた男が、ラフな姿で現実世界に姿を現した。

「……いや、正確には『連れてこさせられた』、だな」

「参謀様……!? し、失礼いたしました!」

予想だにしない展開に、炎の四天王は即座に臨戦態勢を解いて膝を突く。荒れた室内を注意されるかと首を竦めたが、男はどこか疲れた表情で顔を上げるよう手振りしただけだった。

「気にするな。急に目の前に聖女が出てきたら俺だってこうする。良い反応だった」

「はっ、ありがとうございます……! それで、本日はどのような要件で……?」

上司の言葉を受けて気を取り直した炎の四天王は、期待と不安が混ざったような表情でゆらゆらと尻尾を揺らす。

参謀はその様子を見てやや複雑な気持ちになりつつも、部屋の隅で小さくなっている聖女を顎で指した。

「研究所絡みの命令だ。こいつの力を使い、お前の傷の治療を行う」

「はっ。……?」

「アルザルの阿呆が、俺が冗談で言った事を鵜呑みにしたんだ。前に、聖女の扱いについてあんまり絡んでくるから面倒になって適当に答えた。それをよりによってあいつ、俺の名前を出して魔王様に許可を取りに行きやがった。その結果がこれだ」

「アイツ、参謀様にまでご迷惑を……行動許可が出たら俺が始末しておきます」

「奴がこれ以上馬鹿な事を言い出したら頼む。話を戻すが……おい、聖女」

「はい」

好奇心を擬人化したような研究所長の姿を思い出して苦い顔になった参謀は、普段なら止める部下の過激な言葉を肯定しつつ聖女へと声をかけた。

聖女は椅子が激突して痛む頭から名残惜しそうに手を離しつつ、参謀の隣に寄り添うように移動する。決して扱いが良いとは言えない魔界での生活にも強靱な精神力で慣れてしまったのか、最近は暗い表情でありながらも若干の余裕を感じさせる受け答えをするようになっていた。

回収された当初は「気弱な子供」とさえ報告されていた聖女の気性だったが、参謀と面会した直後に長時間の瞑想を行い、それを終える頃には人が変わったかのように落ち着き、従順になったという。

「彼女が対象の負傷者だ。打ち合わせ通りにやれ。余計な動きを見せたら殺す」

「はい」

「え……? お、おいつ、寄るな! ……あの、本気なのでしょいか……!」

とはいえ、聖女と初対面に近い炎の四天王はこの状況をすぐに呑み込む事ができない。彼女としても上司の指示には有無を言わず従いたい所だったが、聖女の持つ強烈な神聖には本能が拒否反応を示してしまう。実験のためか、少女の腕から魔力を制御する魔道具が外さ

れている事も大きく不安を煽る要素だ。

聖女は命令されたから仕方なく、といった風を装いながらもどこか
楽しげに炎の四天王へと歩を進めるが、その相手は後退り距離を離そ
うとする。

「イザリア、諦めろ。魔王様の命だ」

「は、はっ！ しかし、体が勝手に……！ ちよ、来るな……来んなっ
つってんだろクソアマ!!」

「ふむ……これでは治療ができません。困りましたね……」

腕を振り払って拒絶する火竜に、全く困っていないなさそうな聖女が迫
る。火を吐こうとして止めるのを繰り返している火竜に、全く困って
いなさそうな聖女が迫る！

目の前で繰り広げられるどうしようもない展開に天を仰いだ参謀
は、そつと部下の背後に回り首元を掴んで捕縛した。

「ひっ!? さ、参謀様……?」

「安心しろ、効果は既に俺が試している。仕組みは分からんが、神託を
阻害している状況でも力を引き出せていた」

「あつ、ひ……ふあ」

「……では、始めますね」

男が緩やかに首を締め付けると、炎の四天王は小さく体を跳ねさせ
て座り込んだ。

そこにすかさずしゃがみ込んだ聖女は、火竜の手を取って静かに祈
りを捧げる。

変化はすぐに訪れた。

負傷により形を崩した肉体は、理から干渉され元在った状態へと帰
結する。時を戻すかのように体が修復され、光によって蝕まれていた
内臓までもが闇の器を取り戻す。濃い闇の力が再びその身に宿る。

人神の聖なる力を受けて損壊していた闇の眷属の体が、聖女の力に
よって光を取り去り、闇の力を取り戻したのだ!

「う……、……ん? ……はあ?」

「光が無くなつて……闇が深まった……? おい、何をした?」

先程、男が事前に自分の体で実験した際は単純に砕けた拳が治癒し

たのみだった。炎の四天王に対しても同じ事が起こるものだと予想していたが、まさか肉体の治癒だけでなく光によって汚染された状態までもが消えてしまうとは思えない。

人神の恩恵は光を元にして齎もたらされる。光を追加で付与するのなら、まだしもそれを取り除いたというのであれば、何らかの原因によって神の力が性質を捻じ曲げられたという事になる。

例えば、女神の意思に反発できるような強い精神力を持った存在によつて――

「私は、元あつたように……傷付く前の状態に戻るように祈つただけです。人神ではなく、私を正しい色を持つ世界へと導いて下さった方に感謝し、祈つたのです」

「抽象的な物言いはやめろ。治療時に手に触れた理由は何だ？ 人間相手では触れていなかった筈だ」

「昔、私が村の教会にいた頃の方法です。あの時はまだ聞こえてくる神の言葉が曖昧で、力の使い方が分からず直接触れて治療していません。そして今、私は神の言葉を聞く事ができませんから、昔の……私のやり方で力を使ったのです」

『私のやり方で力を使った』。

如何にも「魔界に囚われて落ち込んでいますよ」という雰囲気を目の角度で表現しながらも、引き起こした結果に得意気に胸を張る聖女は確かにそう言った。

自分の意思と自由な信仰を持つようになった一人の少女。神に祈らなくなった彼女は、神の意思を無視しながらも神の力を一方的に取り出し、その方向性を変えて振るつてみせた。

まるで神か、それに近い何かであるかのような聖女の振る舞い。そして、それを可能にしている彼女の規格外の精神力。もはや上位存在と言って等しい聖女の力を目の前にして、参謀と炎の四天王は眉を顰めて顔を見合わせるしかない。

「……つまり、この女は……現人神……」

「よせ。言うな。一旦考えよう」

炎の四天王が一つの仮説に行き着いた所を、男は首を振って制止す

る。

これは一つの事件だ。星を巻き込んだ大問題に発展しかねない、世界の根底を覆し得る不発弾だ。

とんでもない怪物が産まれてしまった可能性に頭を抱えた男は、その頭に治療術をかけてくる聖女を投げ飛ばして壁に突き刺すと、この状況をどうやって処理するかを考え始めた。

次なる混沌と土の精霊

後日。全てを諦めて逆に気が晴れた参謀は、魔王城の一室で酒を飲み、問題を先送りになっていた。

男の現実逃避に付き添っているのは闇の四天王。起こった問題を楽観視する傾向がある彼女もまた性根は似通っており、いつものように小話を披露しつつ酒気によって頬を染めている。

普段わざわざ落ち合って宴を開く事こそ無いものの、大きな戦などで招集があった際にはこういった飲み会を開くのが慣習と化していた。今回も、執務室で研究所からの資料に目を通していた参謀の元に闇の四天王が酒瓶を持って現れた事が発端だ。

「という訳で、その日もワイ子が先鋒になったのじゃ」

「あの娘か……確かまだ幼かった筈だが」

「……」

「ワイ子はあれでも翼竜じゃ、そうそう死なんよ。わしの方がよっぽどか弱いわ！ なっはっは！」

「面白い冗談だ」

「……」

闇の四天王が語り、参謀が茶々を入れる。

宴は普段通りの流れで進んでいたが、今日は同室にもう一つの影があった。

それは茶髪で片目を隠した少女。神が何よりも先ず産み落とした世界の一部。星の器。

葡萄酒の入ったグラスを見て固まっているのは、魔王軍の構成員の中でも特級の扱いが必要とされる土の精霊だ。組織の進退をも左右し兼ねない強大な力とその特性から、万が一にも離反されないよう細心の取り扱いをするように、と魔王から直々に各方面へ通達されている。

その最重要幹部はふらりと食堂に現れた。外に控えていた使用人による制止の声を無視して堂々と扉を開き、目を見開く参謀の元へと歩を進め、その肩に手を触れて何かを伝えようとした所でようやく闇

の四天王の存在に気づき、何も言わずに黙って着席した。

何の用事か問われても全く答えようとしない土の精霊に目を丸くしていた二人だったが、暫く考えた後にとある事を思いつく――

『……そういえば、精霊って酒に酔うのか?』

『知らん。ここまでハッキリと人型をとっている精霊も珍しいからな。おそらく本人も試した事がないんじゃないか』

『なあ……ちよつと飲ませてみんか? なあに、これは親睦会じゃ。これからの戦いのためにも、幹部同士で交友を深めなければならん。親睦会なら酒も飲む。それに、おぬしも興味があるじゃろ? 面白そうじゃろうが、んん?』

『………グラスを一つ持つて来い』

――アルハラである。

この日、魔王軍参謀と闇の四天王は精霊に酒を飲ませた世界初の不埒者となった。

「飲んでくれると嬉しい」などと本人の自主性に行動決定を委ねた風を装いつつ、言外に上司としての権力をちらつかせた巧妙な手口は組織内で横行している。精霊である彼女がそれを正しく読み取ったかは兎も角として、土の精霊はグラスに口を付けたのだった。

その後、考え込むように固まった彼女の様子を見ながらも宴は通常通り進行し、一旦話が終わる頃になって二人の不埒者は再び精霊へと意識を向けた。

「……うーむ、暫く経つが反応がないのう。想像はしとつたが、どうやら精霊はザルみたいじゃな」

「変化が無さすぎるのも気になるが……大丈夫か? 体調に影響があるようなら、無理して飲まなくても良いんだぞ」

『……私は星の運命たる母体。全ての物質は既知であり、それには例外が無い』

精霊はそもそも物理的な肉体を必要としない存在である。有り得ないと思うが、万が一にでも体調不良を起こしてしまうと世界のど

ここに異常が発生するか分からない。参謀が心配して顔を覗き込むと、土の精霊はついに男の手を取って意思を返した。

その様子を見た闇の四天王は、グラスを置いて興味深そうに顔を近づける。

「お？ 何か言つとるのか？」

「ああ。何かは言っているが……ちよつと内容が分からん。すまんが、もう一回伝えてもらってもいいか？」

『褒美、報酬。その何れもが今や世界を生かす源みなもととして成っている。即ちこの大地も。その身、その魂、星の意思として貰い受ける、或いは、預かり受ける必要がある。要求する。貴方にはそれを受ける義務がある。世界として意思を後世に残す義務が』

手を握りながら男と目を合わせる土の精霊は、一方的に伝えたい事を流し込み終わると立ち上がった。

何だ何だと参謀と闇の四天王が顔を上げたのも束の間、土の精霊は体の比率はそのままに天井ギリギリの高さへとサイズを大きくし、参謀の男を持ち上げて胸に抱えた。

少女然とした肉体のまま椅子とテーブルを押しつける様は非現実的で、見る者にまるで世界が縮んだような錯覚を与える。

「はっ……!!? お、おい？ 何しておる!!? こやつは何を言っておつたのじゃ!!?」

「いや……それが抽象的でよく分からん。普段は最後の方に分かりやすい言葉が並ぶんだが……酒を飲ませるのはまだ早かったのかもしれんな……」

「なあに悠長な事をいつておるのじゃ！ おぬしも少しは抵抗せんか！」

「星と押し合つて勝てる訳が無いだろう……実力行使は悪手だ。まずは対話を試す」

参謀が拘束からまがくように顔を見上げると、目が合った土の精霊は不思議そうに首を傾げる。

何をしようとしているのかは不明だが、早急に止める必要がある。何故ならここは魔王城の一室であり、巨大化して質量と体積を増やす

事は施設を破壊し兼ねない危険な行為だから——ではなく、単に精霊に酒を飲ませた事が王に知られると怒られてしまうからである。

互いに折り合いがついている参謀と闇の四天王のような関係は稀で、軍組織の上下関係は本来絶対的なものだ。上官の言いつけを破り反感を買うなど私刑は免れない大罪であり、いかに彼らの上司が温厚な人柄だったとしても、その内容と理由によっては重い罰が下されるだろう。

「あー、すまんが一旦降ろしてもらえるか？」

『我ら星々の礎に事足りぬ事象無し。知識は書物にて得た。闇の子よ、心配は無用』

「こいつ聞いとらん。聞いとらんじゃろ？」

「まだ分からん。対話は難しそうだが、この部屋にいる限り猶予はある。次策を練るぞ」

『怠惰は秩序崩壊の序となる。僅少なる時でさえ浪費する事は永遠の罪となり身を苛む。いざ行かん、我らが大地の核壁へと』

「歩き出したんじゃが？」

「これはもう駄目かも分からん」

ゆつくりと一歩踏み出した精霊に、参謀は達観して匙を投げ、闇の四天王は酒を呷ってから腕を組んで唸る。

土の精霊は、水の精霊をも抑えて最も力の強い精霊とされている。ここにいる魔族二人も常識外の力を持ち合わせてはいるものの、彼女を力づくで止めようとする就先に城の方が崩れてしまう。

八方塞がりかと思われる現状で、闇の四天王の思考は別の方向へと逸れていく。

「これはもしや……』お持ち帰り』というヤツか？ こやつが奥手ゆえに見る機会はないと思っていたが、まさか逆にされている姿を見る事になるとはのう。……どれ、われも混ぜてもらおうとするか。ホテル行く？」

「悪ノりは止める。お前、今の精霊があの手から出られると思うのか？ 破壊した壁や扉を魔王様にどう報告するつもりだ」

「うーむ？ ……いっそありのまま正直に言ってみるのはどう

じゃ？　そうすれば、魔王様もわれらの誠実さを汲み取って下さるか
もしれぬ」

「ありのまま正直に？」

腕を組みながら首を捻る闇の四天王に、子供のように抱かれたまま
の参謀は呆れたように目を細めた。

親愛する王に対して虚偽の報告をするのは論外だが、参謀にとつて
は部下を守るのも重要な仕事である。せめて命までは取られないよ
う、なんとかして衝撃を和らげる必要があった。

『興味本位で精霊に酒を飲ませました』と報告しろと？　あくまで発
案者はお前だ。俺の立場では守りきれんぞ」

「う……や、やっぱり嫌じゃあ！　お仕置きされるのは嫌じゃあー！
魔王様、同性相手でも容赦無いんじゃないもん！　今度こそわれの大事
な初モノが奪われてしまうー！」

「なら真面目に考えろ。俺だって一月ひとつきの内にそう何度も治療室送りに
はなりたくない」

絶叫し、体を抱きながら身をよじる闇の四天王と、過去の惨事を思
い出して顔を顰める参謀。

ただ一人楽しそうにしている精霊は、そんな二人の様子にも疑問を
持つ事無く千鳥足で入口へと歩を進める。大自然による運命のカウ
ントダウン。ゆつくりと、しかし着実に終わりの時は近づいている。

「ま、待て待てえ！　っ……そうじゃ！　土の精霊よ、そやつを開放す
るのは後にするとしても、せめて元の大きさには戻らんか？　城を破
壊してしまえば魔王様に即刻見つかってしまふぞ。あのお方のそや
つへの執着は半端ではない。おぬしの望みも叶わなくなる。どう
じゃ？」

『……』

闇の四天王が引き留めようと声を張る。既に交渉は出来ないもの
と判断された後ではあるが、この窮地をなんとか脱しようと咄嗟に声
が出た。

それも再び無視されるものと思われたが、同僚からの言葉を受けて
精霊は何かに気づいたように立ち止まり、暫く考えた後にゆつくりと

頷いた。風船が収縮するように比率を保ったまま体が小さくなっていき、抱えていた男が腕からすり抜けそうになると、その首根っこを掴んで後ろ向きに肩に担いで持ち直す。

人間でいえば十代半ばに見える物静かな少女が大柄な男性を担ぎ、左右に重心を傾けもしない光景からは頼もしい大地の息吹が感じられる。が、体を二つ折りにする参謀の心にあるのは母なる大地に身を任せる安心感ではなく心的疲労だった。

「……対話できたな。こちらの声が届くかどうかは運次第という訳か？」

『……』

「うーむ……都合の悪い声だけ無視しとるようにも見えるが……まあ、ともかくこれで時間は稼げた。目撃者を最小にしつつ、城から出てしまえば事実闇の中に消える。いけるぞ！」

『……』

「ああ。これは……勝ったな。後は外にいる者達さえ口止めできれば、魔王様のお耳にかかる事は無いだろう。俺も五体満足で明日を迎えられるという事だ」

『……』『……』『……』『……』『……』『……』

「……んん？」

「一時はどうなる事かと思っただが、間一髪で助かった。今後はお互いに気を付けるとしよう」

「いや、無理無理無理！ 無視できんって！ 増えとる！ 精霊が増えとる！」

参謀が現実から目を背けて勝利を確信していると、酒を飲んだ個体と全く同じ様子の子の土の精霊が床から生えるようにして室内のあちこちに出現した。

多くの個体は酩酊感を楽しむようにフラフラと身を揺らしているだけだが、入口付近に現れた二体は参謀を担いでいる個体を手伝うように男の手と足を持ち上げる。

「はあー……、小さくなったと思えば次は増殖か。トンチ勝負をしとる訳ではないんじゃがのう……」

「さつきより寧ろ厄介だな。城内で散り散りになると確実にバレる。一体だけでも止め切れんのに、こうなると指を啜えて見ているしかないくなるぞ」

余りに絶望的な状況で逆に感情を失いつつある参謀は、精霊の上で頬杖をつきながら溜息を吐いた。

最早悲劇を確実に回避する方法は存在しない。この日、魔族は後戻りできない境地へと足を踏み入れた。決して触れてはならない禁忌を犯し、自らの過ちを嘆きながら全てを失うのだ。

さらば行動許可。こんにちは病室。好奇心は幹部をも殺す。

「わしはおぬしの体力の方が心配になってきたがの。童の姿とはいえ、この数の相手となると大変じゃ。発情期のイザリアと良い勝負かもしれん」

「何の話かは聞かんが、本人の前では絶対に言うなよ。お前が丸焦げになったら聖女に治療させるからな」

「われ、混沌の一族ぞ？ 聖女の力など受けたら魂から浄化されてしまおうわ！」

人神の力を自由に振るう謎聖女と、邪神の直系。世の対極にあるような二つの要素を掛け合わせた時に一体何が起きるのかは全くの未知数だ。

男の発言に闇の四天王は再び戦慄し、大袈裟な手振りで抗議するようにテーブルを叩く。

その物音に反応したか、扉の向こうから慌ただしく声がかかった。

「ツ……」ご歓談中失礼します！ 何か問題がありましたでしょうか!?」

「む？ 熱が入り過ぎたかの」

「ああ、気にしなくて良い。別に何も——いや、待てよ……」

室内の異常を察知した使用人から扉越しに声がかかる。普段はこちらから指示をするまで全く介入してこない彼らだが、今は何やら緊張した様子で声を震わせている。

幹部二人はそんな違和感にすら気付く余裕を失っているようで、降って湧いたこの状況をどうやって調理するかだけに意識を向けて

いた。そして、一つの案を浮かべた男は宙ぶらりんの体制のまま威厳ある声でその者達に呼びかけた。

「代表の一人だけ中に入って来い。できるだけ口の堅い者が良い。重要な話がある」

外で待機している使用人のうち一人だけを呼びつけ、言い含め、丸め込む。その者が他の者に情報を共有し、それを繰り返して情報を拡散していく。一斉に知らせるよりも混乱が起き難く、静かに作戦を進める事が可能となるだろう。

味方^{犠牲者}は一人でも多い方が良い。とにかく多くの者を巻き込む事で問題を複雑化し、事実を霞がかった状態にするのだ。日常業務の中でも使う事のできる万能テクニクである。

危機的状況の中、少しでも状況を良くしようともがく二人の幹部。敗色濃厚でありながらも僅かな可能性に賭けて手を伸ばす彼らの生き様は戦士として美しいものだった。

——しかし、終わりは唐突に訪れる。

「そうか、口の堅い者か。では儂が行こう」

「……………え？」

声が出た。聞き覚えしかない、忘れる筈もない声。魂に刻まれた声。

勿体ぶるようにゆっくりと両開きの扉が開き、濃密な闇の気配が食堂内に流れ込む。心臓を鷲掴みにされたような息苦しさで圧迫感の中に居る者達を襲う。

理性では拒否しながらも、本能がその存在を求めて目を向けてしまう。湧き上がる感情に抗う事ができずに視線は前へと吸い込まれていき、眷属達はその先に王の姿を見た。

「で？… 話とは何だ。言ってみる馬鹿者共」

即座に跪いた闇の四天王の横で、土の精霊は足を止めて魔族の王へと向き直る——参謀を後ろ向きに担いだままの状態で。

この日、参謀は世界で初めて魔王に尻を向けて説教を受けた男になった。

叛逆者と参謀

「つまり、現状ラーダスタとフリークは戦力の大半を失っており、他国からの支援を受けて防波堤の役割を無理矢理機能させている状態と思われれます」

「まあ、妥当な対応だろうな」

魔王城、参謀執務室。

応接机を挟んでソファに腰掛けるのは、この部屋の主と人の四天王。

目下の脅威であったマール・カーネが土地ごと消え去った今、両勢力の均衡は大きく揺らいでいる。

魔族は躍進を、人類は打開を。次の一手で互いに大きな動きが予測される状況の中、情報収集の重要性は特に大きなものとなっており、参謀直属の情報部隊は偵察と哨戒で多忙を極めていた。

そんな中、異なる角度からアプローチをかけて情報の確度を上げるべく、参謀はより人類の情勢に詳しい者との席を設けた。今後の光の眷属の動きを人間の目線から予測し、次の動きを決定する材料とするためだ。

「これは先日マール・カーネに滞在していた時に耳にした話ですが、水の都が落ちてからフリークは人類連盟内での立場を急激に弱くしたようで、それを取り戻そうと聖女の回収に躍起になっていたとの事でした。此度の急な開戦もフリークの独断で行われたようです」

「認めるのは癪だが、聖女が間接的に機能しているな……」

参謀は最近妙に見る機会が多い聖女の顔を思い出して苦い顔になる。

持っているだけで敵の足並みを乱す駒。間違いなく有能ではあるのだが、度々仕事を増やす彼女の存在は痛し痒しだ。

「あんな女でもフリークにとっては自国の英雄。影響力は凄まじいものなのでしょう。私の実家でさえ聖女を信仰する者は多くいましたから」

「ほう。では、以前はお前もそうだったのか？」

「いえ、私は聖女に対して祈った事はありません。特段何か感情を抱く事すらありませんでしたが……水の都で奴の腹に剣を突き刺し込んだ瞬間は中々に愉快でしたね。気分が良かったです」

「良い経験が得られたようで何よりだ」

水の都での出来事を思い出しながら、目を細めて手を前後に動かす人の四天王。

そんな彼女の反応に満足そうに頷いた参謀は、膝に肘を置いた姿勢で指を組み、視線で話の続きを促す。

人の四天王はテーブルに広げられた中央大陸の地図——その北西を指で押さえた。

「一方で西側のラーダスタは元から立場が弱く中央の傀儡のようでしたから、他国から強力に支援されている今の状況で寧ろ潤っているようです。これは別口からの情報ですが、その増えた戦力を使い、何かと理由をつけて手付かずの密林と渓谷——国内にいる亜人と魔族の生き残りを掃討しようとしているとか」

「ふむ……ラーダスタの軍とは先日やり合ったが、あれが更に強力になっっているとなると少し面倒だな」

古参の勇者——最初はハツキと名乗ったか——との戦闘で消耗していたとはいえ、ラーダスタ軍との戦闘は容易には運ばなかった。その時の様子を思い出し、参謀は瞼を軽く閉じる。

西のラーダスタと東のフリーク。

それぞれ人類連盟内での立場は違えど、その立地から魔界との戦いでは前線の役割を担っている。

いざ魔王討伐という気運が高まっていた時代では戦争の利権から他国に妬まれる程の好立地だったが、今や滅亡が危ぶまれている有様であり、肉壁のような扱いを受けているようだ。

「どちらも近く攻め滅ぼさねばならん国だ。だが、優先順位はつける必要がある」

「はい」

「まずラーダスタには友軍が居る。そこで孤立している亜人や魔族を助け、戦力を増やすというのが一つ。生息している魔物も強力なもの

が多く、繁殖が本格化すれば土地が広いのもあって中央大陸での大きな拠点となるだろう」

最終目標が人類の滅亡であると考えた時、今の魔族と魔物の総数は明らかに不足している。

征服した土地で生命のサイクルを作り、自種族を繁殖させ、数が揃えば次の目標を攻める——そのプロセスをどれだけ繰り返せるか、相手に繰り返させないか。それが長期的な戦争の本質であり、堅実に事を進めるのであれば間違いない選択肢に見える。

しかし、それはあくまで個々の能力が大差ない勢力同士が争っている場合だ。

「フリークは……研究所関係になるが、聖女の試験運用に都合が良い。奴の力のルーツを調査できるし、聖女信仰が根強い国であれば動揺も誘えるだろう。平地が多く中央に切り込み易いのも好都合だ。勇者の調査を優先するならこっちになる」

この世界には群を遙かに超越する強力な個体が存在する。その中の一人が使えるか使えないか、敵の英雄が生きているのか死んでいるのか。それはリーダーダスタを放置し、同族を切り捨てても十二分に元が取れる程の価値がある情報だ。

（気は進まないが）幹部級の戦力を持つ聖女が実戦で使えるのであれば大きいし、勇者の生死調査は本当に急務だ。こちらも有力な選択肢であるのは間違いない。

「私は参謀様の意向に従います。何なりとご命令下さい」

「ああ。最終的には魔王様とも相談して決定する。どちらに舵を切ってもお前には苦勞をかけるが……ここ百年が正念場だ。力を貸して欲しい」

「は……はっ！ 私には勿体ないお言葉……っ！ 粉骨碎身の覚悟で任務に当たります！」

「砕けられると困るのだが……」

頬を染めて興奮する部下の勢いだけの発言に、男は冷静に突っ込みつつ脚を組んだ。

今後の指針に変更は無いが、敵内部の情報が得られた有意義な会合

だった。後日戻ってくるであろう情報部隊からの報せも合わせれば、より効果的な作戦を立てる事ができるだろう。

参謀はテーブルに広げていた地図を執務机へと移し、使用人に茶を淹れさせて部下と共に一服した。

今日の仕事は終わりだ。与えられた休暇の半分を医務室で過ごした分、こまめに力を抜いていかないと休んだ気にならない。

談笑の所々で手渡される土産物をテーブルの端に並べつつ、参謀はふと浮かんだ疑問を口にした。

「そういえば……お前はフリークの出身だと言っていたが、家族はまだ生きているのか？」

「死んでいますね。私はこちら側に付いたのは誰しもが知る所ですから、当然一族は皆殺しにされています」

「そうか、なら良い。攻め入った所で剣が鈍るといけないからな」

「ご安心下さい。ご命令頂ければ、あのような親の首など幾らでも取って参ります。……ああ、しかし一人だけ、仮に戦場で対面しましたなら、斬るよりも先に交渉を試みたい者がおります」

「……交渉？」

参謀が話を促すために聞き返すと、エリゼフィーナは穏やかに微笑み、昔を懐かしむような口調で答えた。

「はい。私の幼馴染で、同じ町に住んでいた同世代の貴族です。頭も良く、剣の腕も立つ奴だったのですが、国の過度な聖女信仰に疑問をもっている一人でもありました。妙に偏屈な女でしたから変な思想を持つていてもおかしくはありませんし、劣勢の国にしがみつくほど忠誠心があるようにも思えません。情報も大量に持っているでしょうから、一度こちら側に付くか尋ねてみても損はないかと。無論、断れば斬るだけです」

「ふむ……」

諜報の可能性と、味方魔族の士気の低下。

戦力が増えるのは単純に喜ばしいが、人間一人を味方に引き入れるためだけに背負うリスクが大きすぎるように思える。

エリゼフィーナと同様に血の契約を交わせば生きてままたま裏切られ

る事はなくなるが、裏を返せば名も知らぬ相手にその安い命をかけられて、一度だけ自由な行動を取られてしまうという事に他ならない。

逆に、洗脳や隷属であればその自爆は防げるものの、本来通りの能力が発揮できなくなってしまう。足手纏いの雑魚に食わせる飯は無いのだ。

「……まあ、それも良いだろう。好きにしろ」

「はっ」

とはいえ、何千何万の兵が入り乱れる戦場で知り合いと鉢合わせする事などまず有り得ない。ここで許可を出した所で実行に移される確率など微々たるものだろう。

そろそろ腹が減ってきた男は、話を切り上げるために適当に相槌を打ちつつ何を食べようか考えていた。